

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 本製品は、木造住宅の地上階設置用です。2階以上には設置しないでください。
- 本製品は躯体取付け専用のため、躯体から独立して設置しないでください。
- 屋根材へ接触する部品へシリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定のアルコール系シーリング材を現場で手配してください。

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコン(株)	SE960

<施工の前に>

⚠ 注意

- 母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損するおそれがあります。
- 屋根材は、弊社指定品を使用してください。指定品以外を使用した場合、強風による屋根材の飛散や強度低下の原因になります。

🔑ポイント

- 寒冷地では凍結破損を防ぐため、壁樋に排水路ヒーター等を取付けてください。
- 「柱固定用カイモノ」や「スペーサー」は必要に応じて現場で手配してください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工終了後は、パネルの開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

<基礎工事についてのご注意>

⚠ 注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

INDEX

1	梱包明細表	5
2	基本寸法と各部名称	16
	1. 基本寸法	16
	2. 各部名称	20
	3. 基礎伏図	21
3	断面納まり図	24
	1. 出幅断面納まり図	24
	2. 間口断面納まり図	26
4	代表的な施工例	28
	1. 標準柱の場合	28
5	施工前の重要確認事項	29
	1. 本製品の施工について	29
6	本体の施工	37
	1. 水盛遣方・水糸張り	37
	2. 垂木掛けの取付け	38
	3. 柱の取付け	44
	4. 桁の組立て	51
	5. 桁の取付け	57
	6. 垂木の取付け	60
	7. 中骨の取付け	65
	8. 妻垂木側面材の取付け	66
	9. 屋根材の取付け	67
	10. ベース材の取付け	71
	11. 方立の取付け	75
	12. 妻梁の取付け	78
	13. 垂木掛けキャップの取付け	81
	14. 妻梁上部フィックスパネルの取付け	82
	15. 垂木化粧材の取付け	83
	16. 垂木フタ、ミゾ塞ぎの取付け	87
	17. 雨樋の取付け	88
	18. 屋根幕板の取付け	91

7	レールの取付け	95
1.	柱の仮固定.....	95
2.	縦枠受けの取付け（折戸パネル箇所）.....	96
3.	レールの取付け（折戸パネル箇所）.....	97
4.	土間見切り材の取付け.....	101
5.	外デッキスペーサーの取付け.....	102
6.	室内側上レールの取付け.....	103
7.	ブロック受け材の取付け.....	104
8.	基礎の打設、コンクリートブロックの建込み.....	108
9.	F.L.まで土間を立ち上げる場合の基礎の打設.....	113
10.	腰壁の化粧処理.....	113
11.	腰壁仕上げ面カバーの取付け.....	114
12.	笠木の取付け.....	115
13.	縦枠受けの取付け（腰壁を施工する箇所）.....	122
14.	下レールの取付け（腰壁を施工する箇所）.....	123
8	パネルの取付け	126
1.	折戸パネルの建込み.....	126
2.	フィックスパネルの建込み.....	134
3.	パネルの位置決め.....	140

1 梱包明細表

■梱包明細表

【1】部品箱

名称	略図	員数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁キャップ 右		1	1	1	1
桁キャップ 左		1	1	1	1
垂木掛けキャップ 右		1	1	1	1
垂木掛けキャップ 左		1	1	1	1
垂木取付金具		8	10	12	14
垂木カバー先端キャップ		4	5	6	7
内部日除けレール エンドピース		6	8	10	12
アンカー棒		2	2	3	3
雨樋下部品A		2	2	2	2
92° エルボ		2	2	2	2
雨樋ジョイナー		2	2	2	2
雨樋部品用接着剤		1	1	1	1
シリコンスプレー		1	1	1	1
桁柱固定金具		2	2	3	3
穴隠しシール		10	10	10	10

【1】部品箱 (つづき)

名称	略図	員数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
暖蘭物語本体腰壁編 取付説明書<E318>	—	1	1	1	1
暖蘭物語本体編 取扱説明書<UE082>	—	1	1	1	1
エクシオール内部日除け 取付説明書<E269>	—	1	1	1	1
エクシオール内部日除け 取扱説明書<UE076>	—	1	1	1	1
MDペンダントライト 取付電気工事説明書<R011>	—	1	1	1	1
シーリング箇所一覧<E339>	—	1	1	1	1
【1-1】φ6×70 六角コーチスクリュー		9	11	14	16
【1-2】M6平座金		9	11	14	16
【1-3】φ4.1×40丸木ネジ		22	24	30	32
【1-4】φ4.5×63丸木ネジ		20	20	20	20
【1-5】φ4×10トラス タッピンネジ 3種 D=8		14	14	14	14
【1-6】φ4×10 特サラタッピンネジ 3種		7	7	9	9
【1-7】φ4×12 トラスタッピンネジ 1種		11	11	11	11
【1-8】φ4×12 トラスタッピンネジ 3種		17	17	17	17
【1-9】φ4×12 サラタッピンネジ 3種		18	22	27	31
【1-10】φ4×13 サラドリルネジ(※1)		32	35	40	42
【1-11】φ4×13 ナベドリルネジ		177	195	220	239
【1-12】φ4×14 トラスタッピンネジ2種 樹脂ワッシャー付き		85	105	126	147
【1-13】φ4×14 トラスタッピンネジ 3種		49	62	75	88
【1-14】φ4×19 ナベドリルネジ		23	24	31	33
【1-15】φ5×12 トラスタッピンネジ 3種		97	99	129	133
【1-16】S6フィッシャープラグ		22	24	30	32
【1-17】φ5×12サラ タッピンネジ 3種 D=8		—	—	5	5
【1-18】φ4×13 ナベドリルネジ(※1)		20	20	20	20

※1 シャイングレーの場合：生地色
 マイルドブラックの場合：ブロンズ色
 アイボリーホワイトの場合：白色

■ 梱包明細表 (つづき)

【2】 桁・垂木掛けセット

名称	略図	員数
桁		1
垂木掛け		1

【4】 連棟桁部材セット

名称	略図	員数
連棟桁		1
連結桁スリーブ		2
雨樋ジョイナー		1
【4-1】 φ5×12 サラタッピンネジ3種 D=8		4
【4-2】 φ4×13ナベドリルネジ		12

【3】 桁補強セット (積雪地用)

名称	略図	員数	
		1.5間	2.0間
桁補強材		1	1
【3-1】 φ5×12 トラスタッピンネジ 3種		12	14
【3-2】 φ4×13ナベドリルネジ		10	13
【3-3】 φ4×25ナベドリルネジ		10	13

【5】 主柱セット・ロング主柱セット

名称	略図	員数						
		H21,H23,H25	ロング主柱 右	ロング主柱 左	右入隅 H21,H23,H25	左入隅 H21,H23,H25	右入隅ロング	左入隅ロング
主柱 右		1	-	-	-	1	-	-
主柱 左		1	-	-	1	-	-	-
入隅柱 右		-	-	-	1	-	-	-
入隅柱 左		-	-	-	-	1	-	-
雨樋柱カバー		2	-	-	2	2	-	-
ロング主柱 右		-	1	-	-	-	-	-
ロング主柱 左		-	-	1	-	-	-	-
入隅柱 ロング右		-	-	-	-	-	1	-
入隅柱 ロング左		-	-	-	-	-	-	1

【5】 主柱セット・ロング主柱セット (つづき)

名称	略図	員数						
		H21,H23,H25	ロング主柱 右	ロング主柱 左	右入隅 H21,H23,H25	左入隅 H21,H23,H25	右入隅ロング	左入隅ロング
雨樋柱カバーロング		-	1	1	-	-	1	1
丸樋H21~H25		2	-	-	2	2	-	-
丸樋ロング (L=3900)		-	1	1	-	-	1	1
丸樋H08		2	1	1	2	2	1	1

【6】 固定ベースセット

名称	略図	員数		
		主柱		中間・連棟 ・入隅柱
		主柱 右	主柱 左	
主柱固定ベース 右		1	-	-
主柱固定ベース 左		-	1	-
中間・連棟・入隅柱 固定ベース		-	-	1
【6-1】 φ4×13 ナベドリルネジ		4	4	6
【6-2】 φ5×35 ナベセルフタッパンカー		5	5	6
【6-3】 φ4.5×63 丸木ネジ		5	5	6

【8】 連棟柱セット

名称	略図	員数	
		H21,H23,H25	ロング
連棟柱		1	-
連棟柱ロング		-	1
雨樋柱カバー		1	-
雨樋柱カバーロング		-	1
丸樋		1	-
丸樋ロング		-	1
丸樋H08		1	1

【7】 中間柱セット

名称	略図	員数	
		H21,H23,H25	ロング
中間柱		1	-
中間柱ロング		-	1
雨樋柱カバー		1	-
雨樋柱カバーロング		-	1

■ 梱包明細表 (つづき)

【9】 垂木・垂木化粧材セット

名称	略図	員数									
		一般地域						積雪地			
		2本入			3本入			2本入		3本入	
		6R	8R	10R	6R	8R	10R	6R	8R	6R	8R
垂木		2	2	2	3	3	3	2	2	3	3
垂木カバー		2	2	2	3	3	3	2	2	3	3
中骨		2	4	6	3	6	9	-	-	-	-
垂木化粧材溝カバー		4	4	4	6	6	6	8	8	12	12
垂木化粧材		2	2	2	3	3	3	2	2	3	3
垂木掛けフタ		2	2	2	3	3	3	-	-	-	-
垂木掛けフタ積雪用		-	-	-	-	-	-	2	2	3	3
垂木掛け後付けビート		2	2	2	3	3	3	2	2	3	3
サブ垂木		-	-	-	-	-	-	2	2	3	3
サブ垂木中骨		-	-	-	-	-	-	4	8	6	12
サブ垂木化粧材		-	-	-	-	-	-	2	2	3	3
サブ垂木取付金具		-	-	-	-	-	-	4	4	6	6
【9-1】 φ4×14トラスタッピンネジ3種		-	-	-	-	-	-	20	24	30	36
【9-2】 φ4×13ナベドリルネジ		-	-	-	-	-	-	16	24	24	36

【10】 妻垂木・妻垂木化粧材セット

名称	略図	員数				
		一般地域			積雪地	
		6R	8R	10R	6R	8R
垂木		2	2	2	2	2
垂木カバー		2	2	2	2	2

【10】 妻垂木・妻垂木化粧材セット (つづき)

名称	略図	員数				
		一般地域			積雪地	
		6R	8R	10R	6R	8R
中骨		1	2	3	-	-
垂木化粧材溝カバー		2	2	2	4	4

【10】妻垂木・妻垂木化粧材セット (つづき)

名称	略図	員数				
		一般地域			積雪地	
		6R	8R	10R	6R	8R
妻垂木化粧材 右		1	2	1	1	2
妻垂木化粧材 左		1	1	1	1	1
妻垂木側面材 左右共通		2	2	2	2	2
垂木掛けフタ		1	1	1	-	-
垂木掛けフタ積雪用		-	-	-	1	1
垂木掛け後付けビート		1	1	1	1	1
雪下ろし指示シール (600タイプ)		1	1	1	-	-

【10】妻垂木・妻垂木化粧材セット (つづき)

名称	略図	員数				
		一般地域			積雪地	
		6R	8R	10R	6R	8R
雪下ろし指示シール (1500タイプ)		-	-	-	1	1
サブ垂木		-	-	-	1	1
サブ垂木中骨		-	-	-	2	4
サブ垂木化粧材		-	-	-	1	1
サブ垂木取付金具		-	-	-	2	2
パネル緩衝材		4	5	6	4	5
【10-1】φ4×14 トラスタッピンネジ 3種		-	-	-	18	20
【10-2】φ4×13 ナベドリルネジ		-	-	-	8	12

【11】屋根材

名称	略図	員数			
		6R		8R	10R
		1枚入	2枚入		
屋根材クリア		1	2	1	1

【12】方立セット

名称	略図	員数		
		左右	右	左
方立A		2	1	1
方立B		左右各1	1	1
垂木掛け・方立取付金具		2	1	1

【13】妻梁・側面レールセット (つづき)

名称	略図	員数		
		左右	右	左
上レール水切 右		1	1	-
上レール水切 左		1	-	1
下レールベース 右		1	1	-
下レールベース 左		1	-	1
硬質グレチャン (方立用)		2	1	1
妻梁固定金具		4	2	2

【13】妻梁・側面レールセット

名称	略図	員数		
		左右	右	左
妻梁 右		1	1	-
妻梁 左		1	-	1

■ 梱包明細表 (つづき)

【13】 妻梁・側面レールセット (つづき)

名称	略図	員数		
		左右	右	左
妻梁・桁室内側カバー		2	1	1
室内側上レール 大 右		1	1	-
室内側上レール 大 左		1	-	1
室内側上レール 小 右		1	1	-
室内側上レール 小 左		1	-	1
上レールピース 共通		2	1	1
下レールカバー		2	1	1
下レール固定金具(柱側) 右		1	-	1
下レール固定金具(柱側) 左		1	1	-
下レール固定金具(躯体側)		2	1	1

【14】 妻梁上部フィックスパネル

名称	略図	員数		
		左右	右	左
妻梁上部フィックスパネル		左右各1	1	1

【15】 屋根幕板Aセット

名称	略図	員数						
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	6尺	8尺	10尺
屋根幕板A		1	1	1	1	1	1	1
幕板取付部材		-	-	-	-	1	1	1
溝カバー		1	1	1	1	1	1	1

【16】 屋根幕板Bセット

名称	略図	員数						
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	6尺	8尺	10尺
屋根幕板B		1	1	1	1	1	1	1
幕板取付部材		-	-	-	-	1	1	1
溝カバー		1	1	1	1	1	1	1

【17】 屋根幕板コーナー部品セット

名称	略図	員数			
		屋根幕板A用		屋根幕板B用	
		2個入	1個入	2個入	1個入
コーナー部品A		2	1	-	-
コーナー部品B		-	-	2	1

【18】 縦枠セット

名称	略図	員数					
		基本			腰壁		
		間口左右	側面右	側面左	間口左右	側面右	側面左
縦枠 右		1	-	1	1	-	1
縦枠 左		1	1	-	1	1	-

【18】 縦枠セット (つづき)

名称	略図	員数					
		基本			腰壁		
		間口左右	側面右	側面左	間口左右	側面右	側面左
縦枠受けA (間口用) 右		1	-	-	1	-	-
縦枠受けA (間口用) 左		1	-	-	1	-	-
縦枠受けB (側面用) 右		-	1	-	-	1	-
縦枠受けB (側面用) 左		-	-	1	-	-	1
縦枠受けカバー		2	1	1	2	1	1
腰壁用 縦枠受け台座 右		-	-	-	1	-	1
腰壁用 縦枠受け台座 左		-	-	-	1	1	-
縦枠スペーサー1		2	1	1	2	1	1
縦枠スペーサー3		2	1	1	2	1	1

【19】 前面ベース材セット

名称	略図	員数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
前面ベース材		1	1	2	2
柱・ベース材取付け部材		2	2	4	4
【19-1】 φ4×16ナベドリル		8	8	16	16

【20】 側面ベース材セット

名称	略図	員数		
		6R	8R	10R
側面ベース材		1	1	1
柱・ベース材取付け部材		2	2	2
【20-1】 φ4×16ナベドリル		8	8	8
【20-2】 フィッシャープラグ		2	2	2
【20-3】 φ4.1×40丸木ネジ		2	2	2

【21】 ベース材束柱セット

名称	略図	員数	
		1本入	3本入
ベース材束柱		1	3
束柱固定金具		2	6
【21-1】 φ5×35 ナベセルフタップアンカー		3	8
【21-2】 φ4×16 ナベドリルネジ		6	18

【22】 土間見切り材セット

名称	略図	員数						
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	6R	8R	10R
土間見切り材		1	1	1	1	1	1	1
【22-1】 φ4×16 ナベドリルネジ		8	10	12	14	6	7	9

■ 梱包明細表 (つづき)

【23】 外デッキスペーサーセット

名称	略図	員数				
		1.5間	2.0間	6尺	8尺	10尺
外デッキスペーサー		1	1	2	2	2
【23-1】 φ4×16 ナベドリルネジ		11	15	16	20	25

【24】 間口レールセット

名称	略図	員数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
室内側上レール 1.5間		1	-	-	2
室内側上レール 2.0間		-	1	-	-
室内側上レール 2.5間		-	-	2	-
上レール水切 1.5間		1	-	-	2
上レール水切 2.0間		-	1	-	-
上レール水切 2.5間		-	-	2	-
下レールベース 1.5間		1	-	-	2
下レールベース 2.0間		-	1	-	-
下レールベース 2.5間		-	-	2	-
妻梁・桁室内側カバー 1.5間		1	-	-	2
妻梁・桁室内側カバー 2.0間		-	1	-	-
妻梁・桁室内側カバー 2.5間		-	-	2	-
桁外レール 1.5間		1	-	-	2
桁外レール 2.0間		-	1	-	-

【24】 間口レールセット

名称	略図	員数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁外レール 2.5間		1	-	-	2
上レールピース		1	1	2	2
下レールカバー 1.5間		1	-	-	2
下レールカバー 2.0間		-	1	-	-
下レールカバー 2.5間		-	-	2	-
下レール固定金具(柱側) 右		1	1	2	2
下レール固定金具(柱側) 左		1	1	2	2

【25】 折戸パネルセット

名称	略図	員数
折戸パネル		1
吊元枠カバー		1


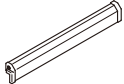
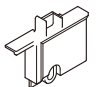

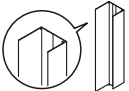

【26】 折戸パネルセット落とし棒付き

名称	略図	員数
折戸パネル落とし棒付き		1
吊元枠カバー		1
穴隠しプッシュボタン		1






【27】 ガラスフィックスパネルセット

名称	略図	員数
ガラスフィックスパネル		1
フィックス用下棧カバー		1









【28】調整フィックスパネルセット

名称	略図	員数	
		基本	腰壁
調整フィックス		1	1
調整フィックス用下棧カバー		1	1
フィックス上下カバーキャップ1		1	1
フィックス上下カバーキャップ2		1	1
調整フィックス受け		1	1
調整フィックス台座 腰壁用 右		-	1
調整フィックス台座 腰壁用 左		-	1

【29】折戸パネル部品

名称	略図	員数	
		2セット入	3セット入
蝶番		4	6
下ローラー右		2	3
下ローラー左		2	3
【29-1】φ4×10 サラタップピンネジ3種(※1)		16	24
【29-2】M4×8 サラ小ネジ D=7		16	24





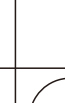

【30】ハンドルセット

名称	略図	員数			
		キー付き			キーなし
		1セット入	2セット入	3セット入	1セット入
化粧座内 キーなし用		-	-	-	1
化粧座外 キーなし用		-	-	-	1
化粧座内 キー付用		1	2	3	-
化粧座外 キー付用		1	2	3	-
キー		3	5	5	-
落とし棒下		1	2	3	1
【30-1】M4×28サラ小ネジ(※1)		2	4	6	2
【30-2】φ3.5×16ナベタップピンネジ D=6		1	2	3	1


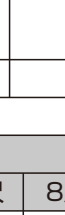

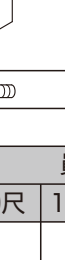
※1 シャイングレーの場合：生地色
 マイルドブラックの場合：ブロンズ色
 アイボリーホワイトの場合：白色

■ 梱包明細表 (つづき)

【31】 格子セット

名称	略図	員数		
		上段 2枚入	下段 2枚入	上段 1枚入
格子Assy 上段		2	-	-
格子Assy 下段		-	2	1
格子上キャップ		4	4	2
格子下キャップ		4	4	2
格子上下固定キャップ		-	4	-
【31-1】 φ4×12ナベタッピンネジ 3種		8	8	4

【32】 腰壁用笠木セット

名称	略図	員数						
		6尺	8尺	10尺	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
笠木ベース		1	1	1	1	1	2	2
笠木ベースパッキン L=2000		1	1	1	1	2	2	3
笠木ベースパッキン L=500		-	1	2	2	-	1	-
笠木レベル調整材		2	2	2	2	2	4	4

【32】腰壁用笠木セット (つづき)

名称	略図	員数						
		6R	8R	10R	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
外側笠木カバー		1	1	1	1	1	2	2
内側笠木カバー 上		1	1	1	1	1	2	2
内側笠木カバー 下		1	1	1	1	1	2	2
内側笠木キャップ 右		1	1	1	1	1	2	2
内側笠木キャップ 左		1	1	1	1	1	2	2
笠木ベース金具 右		1	1	1	1	1	2	2
笠木ベース金具 左		1	1	1	1	1	2	2
【32-1】φ4×10トラスタッピンネジ 3種		18	19	20	20	21	38	40
【32-2】φ4×13ナベドリルネジ		8	10	12	12	14	20	24
【32-3】φ5×60ナベセルフタップアンカー		6	7	9	8	12	15	17

【33】腰壁用納め枠セット

名称	略図	員数
ブロック受け材共通 内側用		2
ブロック受け材共通 外側用		2
腰壁仕上げ面カバー		4
【33-1】φ4×13ナベドリルネジ		26

【34】方立延長部材

名称	略図	員数
方立A		1
方立B		1
【34-1】φ4×13ナベドリルネジ		6
【34-2】φ4.5×63丸木ネジ		3

2 基本寸法と各部名称

1. 基本寸法

1-1 基本タイプ ※図はスタイルAを示します。

スタイルA : 80
スタイルB : 32

スタイルA : 80
スタイルB : 32

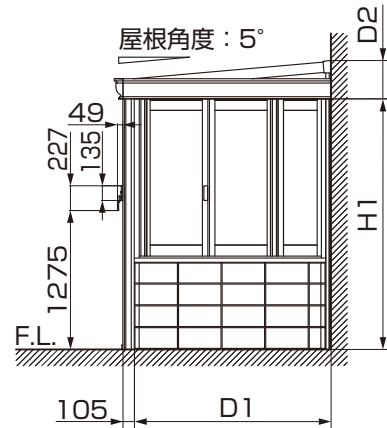
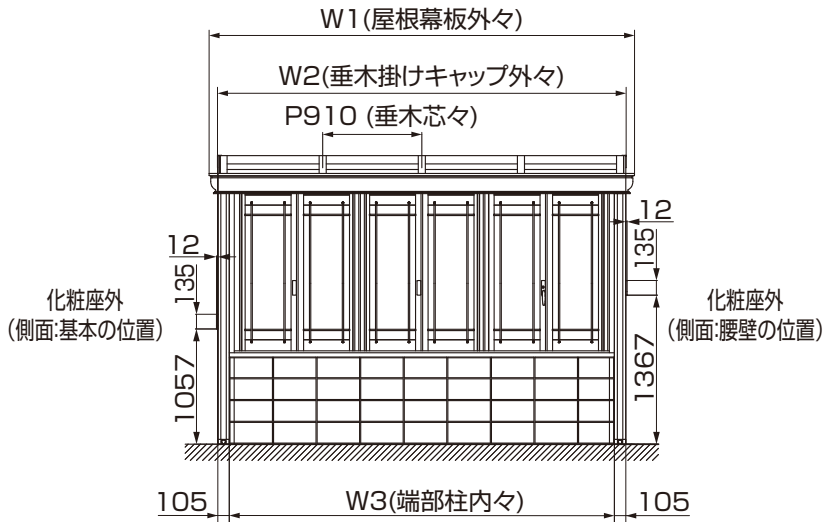
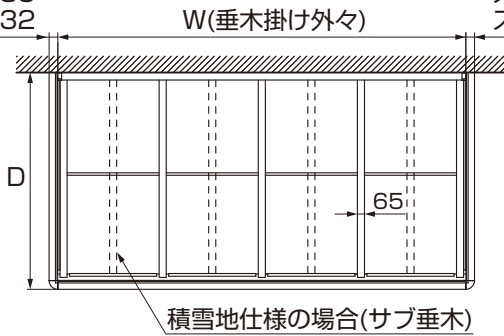


表1-1 間口寸法表

	W	W1	W2	W3
1.5間	2835	スタイルA : 2995 スタイルB : 2899	2841	2625
2.0間	3745	スタイルA : 3905 スタイルB : 3809	3751	3535
2.5間	4655	スタイルA : 4815 スタイルB : 4719	4661	4445
3.0間	5565	スタイルA : 5725 スタイルB : 5629	5571	5355

表1-2 出幅寸法表

	D	D1	D2
6R	スタイルA : 1990 スタイルB : 1942	1805	384
8R	スタイルA : 2590 スタイルB : 2542	2405	436
10R	スタイルA : 3190 スタイルB : 3142	3005	489

表1-3

高さ寸法表

	H1
H21	2100
H23	2300
H25	2500

1-2 入隅仕様 ※図はスタイルAを示します。

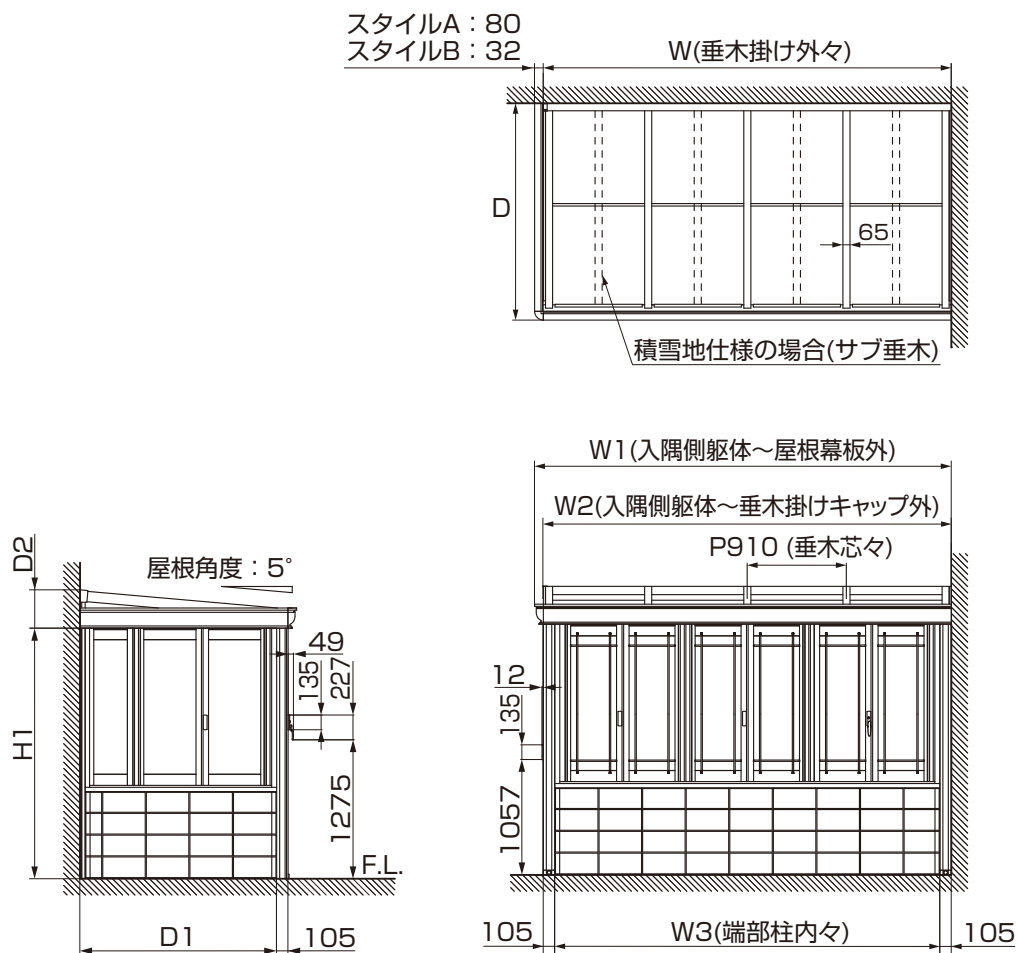


表1-4 間口寸法表

	W	W1	W2	W3
1.5間	2835	スタイルA : 2915 スタイルB : 2867	2838	2625
2.0間	3745	スタイルA : 3825 スタイルB : 3777	3748	3535
2.5間	4655	スタイルA : 4735 スタイルB : 4687	4658	4445
3.0間	5565	スタイルA : 5645 スタイルB : 5597	5568	5355

表1-5 出幅寸法表

	D	D1	D2
6尺	スタイルA : 1990 スタイルB : 1942	1805	384
8尺	スタイルA : 2590 スタイルB : 2542	2405	436
10尺	スタイルA : 3190 スタイルB : 3142	3005	489

表1-6
高さ寸法表

	H1
H21	2100
H23	2300
H25	2500

1. (つづき)

1-3 基本連棟仕様 ※図はスタイルAを示します。

スタイルA : 80
スタイルB : 32

スタイルA : 80
スタイルB : 32

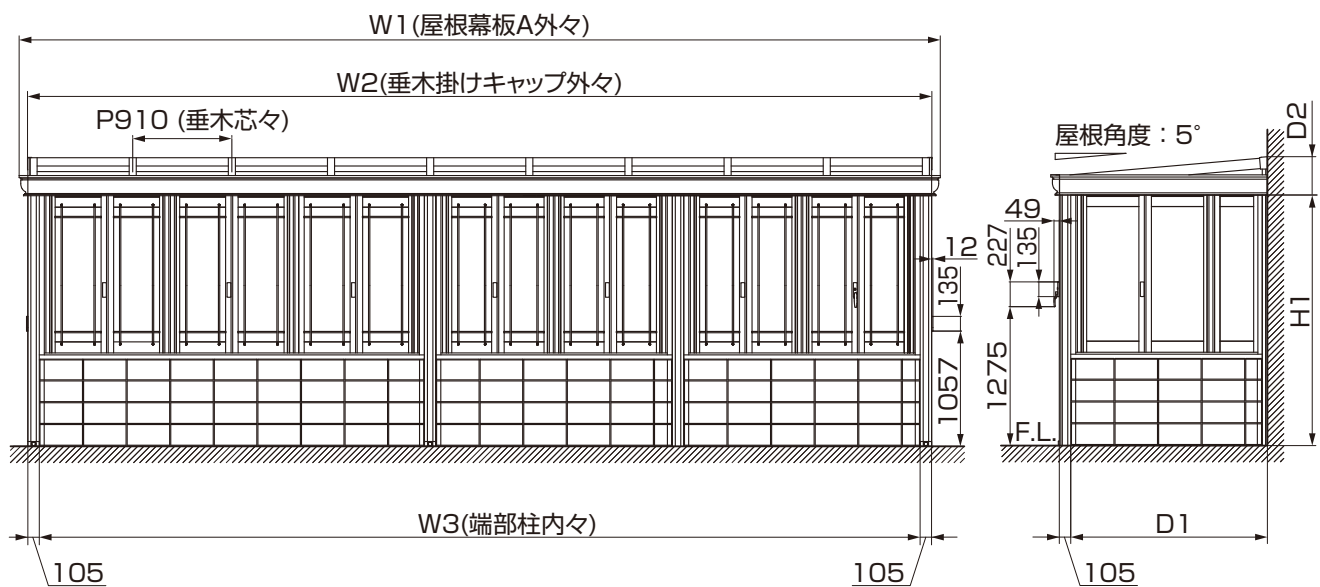
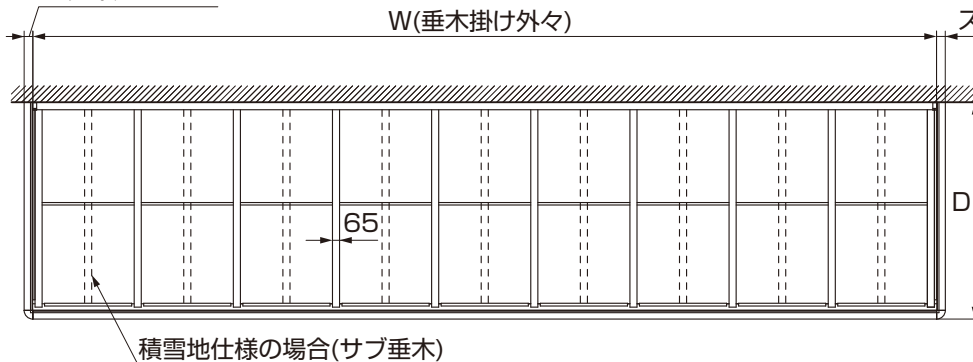


表1-7 間口寸法表

	W	W1	W2	W3
3.5間	6475	スタイルA : 6635 スタイルB : 6539	6481	6265
4.0間	7385	スタイルA : 7545 スタイルB : 7449	7391	7175
4.5間	8295	スタイルA : 8455 スタイルB : 8359	8301	8085
5.0間	9205	スタイルA : 9365 スタイルB : 9269	9211	8995
5.5間	10115	スタイルA : 10275 スタイルB : 10179	10121	9905
6.0間	11025	スタイルA : 11185 スタイルB : 11089	11031	10815

表1-8 出幅寸法表

	D	D1	D2
6R	スタイルA : 1990 スタイルB : 1942	1805	384
8R	スタイルA : 2590 スタイルB : 2542	2405	436
10R	スタイルA : 3190 スタイルB : 3142	3005	489

表1-9
高さ寸法表

	H1
H21	2100
H23	2300
H25	2500

1-4 入隅連棟仕様 ※図はスタイルAを示します。

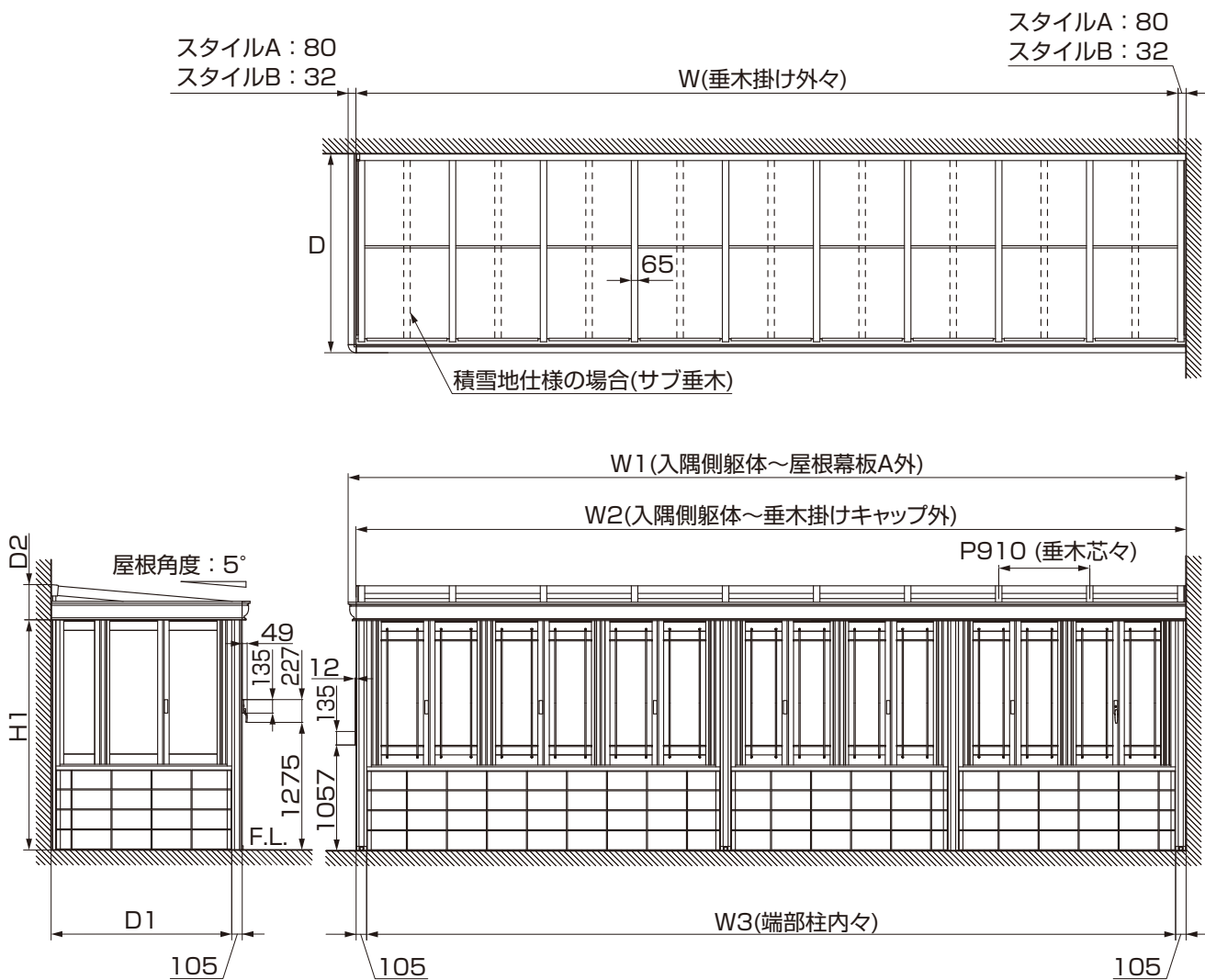


表1-10 間口寸法表

	W	W1	W2	W3
3.5間	6475	スタイルA : 6555 スタイルB : 6507	6478	6265
4.0間	7385	スタイルA : 7465 スタイルB : 7417	7388	7175
4.5間	8295	スタイルA : 8375 スタイルB : 8327	8298	8085
5.0間	9205	スタイルA : 9285 スタイルB : 9237	9208	8995
5.5間	10115	スタイルA : 10195 スタイルB : 10147	10118	9905
6.0間	11025	スタイルA : 11105 スタイルB : 11057	11028	10815

表1-11 出幅寸法表

	D	D1	D2
6尺	スタイルA : 1990 スタイルB : 1942	1805	384
8尺	スタイルA : 2590 スタイルB : 2542	2405	436
10尺	スタイルA : 3190 スタイルB : 3142	3005	489

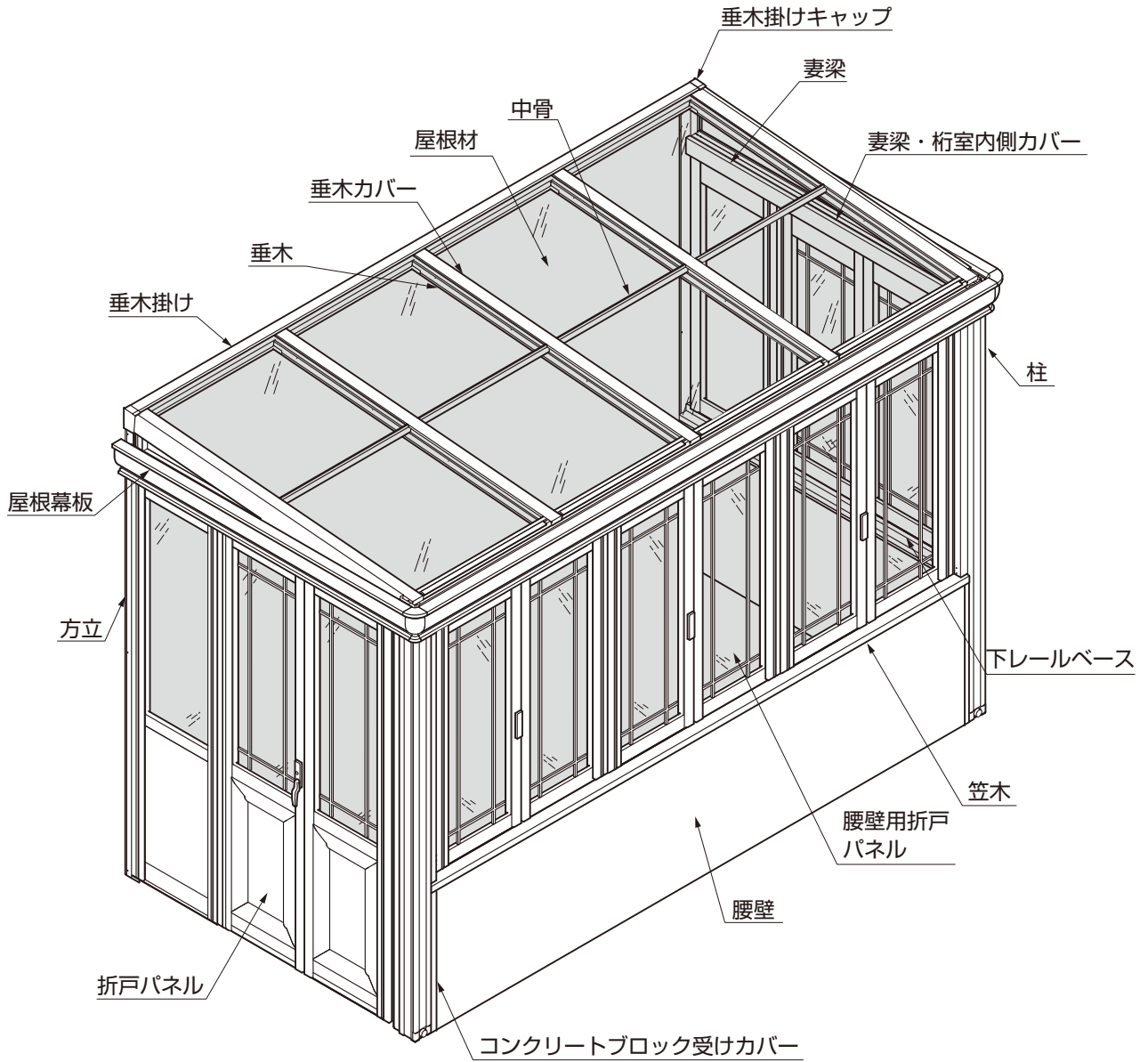
表1-12

高さ寸法表

	H1
H21	2100
H23	2300
H25	2500

2. 各部名称

※図はスタイルAの場合を示します。



2
基本寸法と
各部名称

3. 基礎伏図

3-1 基本仕様の場合

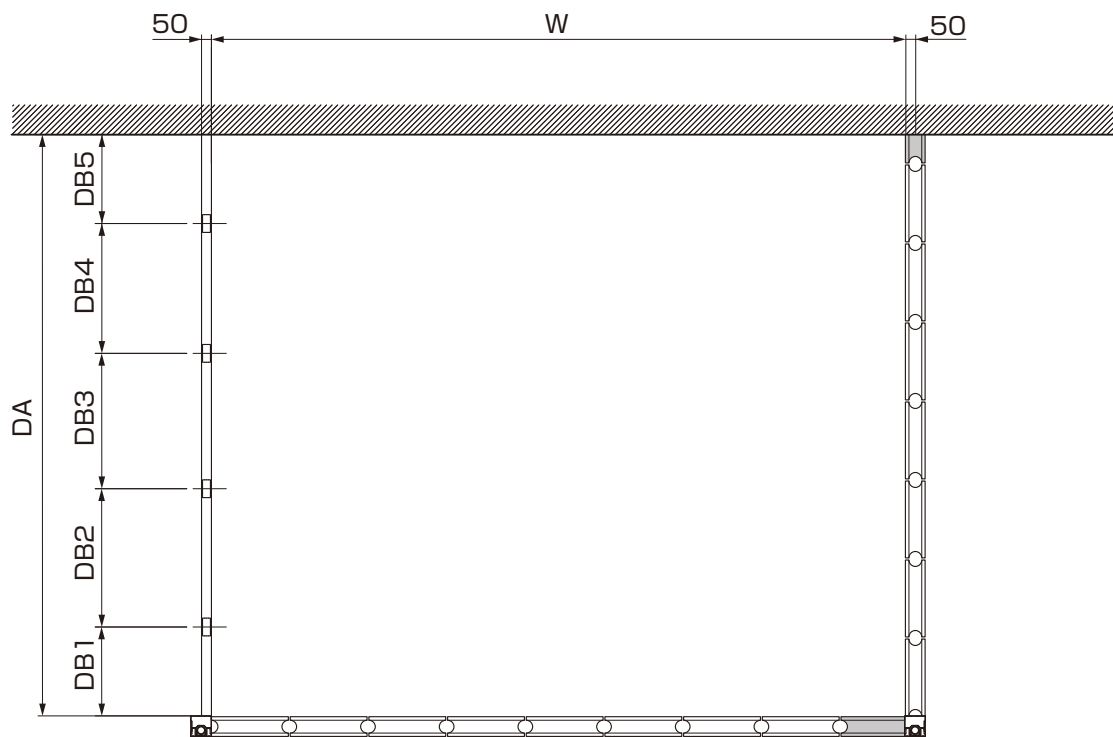


図3-1 基礎伏図

表3-1 間口寸法

	W
1.5間	2625
2.0間	3535
2.5間	4445
3.0間	5355

表3-2 出幅寸法

	DA	ベース材 束柱数	DB1	DB2	DB3	DB4	DB5
6尺	1805	2	450	905	450	—	—
8尺	2405	3	450	750	755	450	—
10尺	3005	4	450	700	700	705	450

3. (つづき)

3-2 入隅仕様の場合

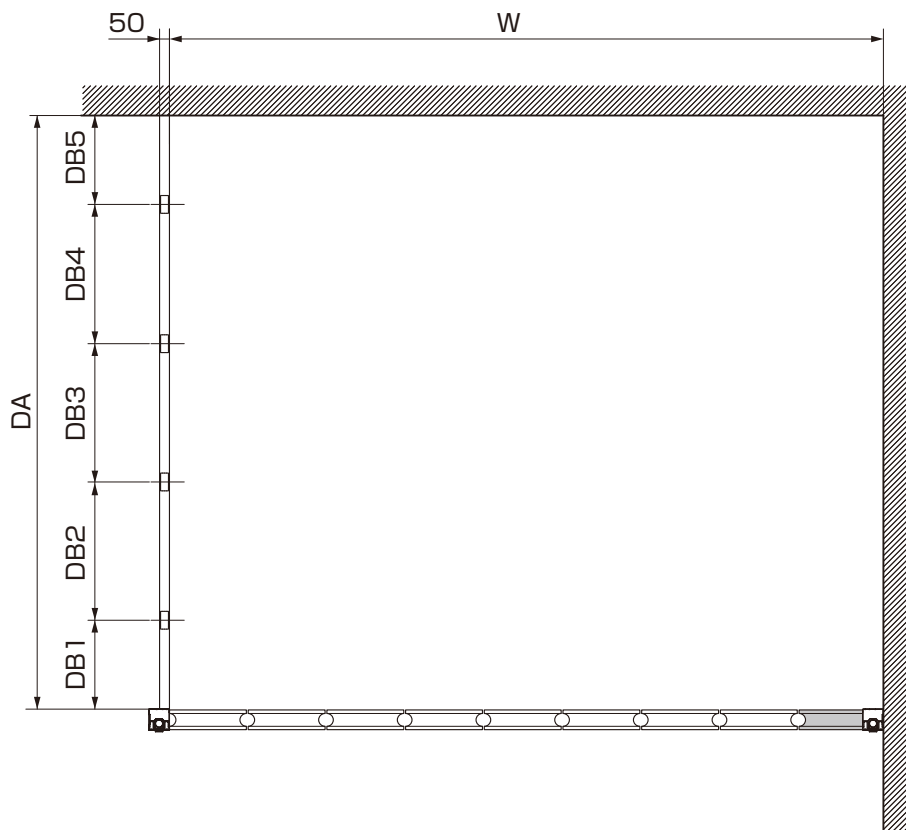


図3-2 基礎伏図

表3-3 間口寸法

	W
1.5間	2730
2.0間	3640
2.5間	4550
3.0間	5460

表3-4 出幅寸法

	DA	ベース材 束柱数	DB1	DB2	DB3	DB4	DB5
6尺	1805	2	450	905	450	—	—
8尺	2405	3	450	750	755	450	—
10尺	3005	4	450	700	700	705	450

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

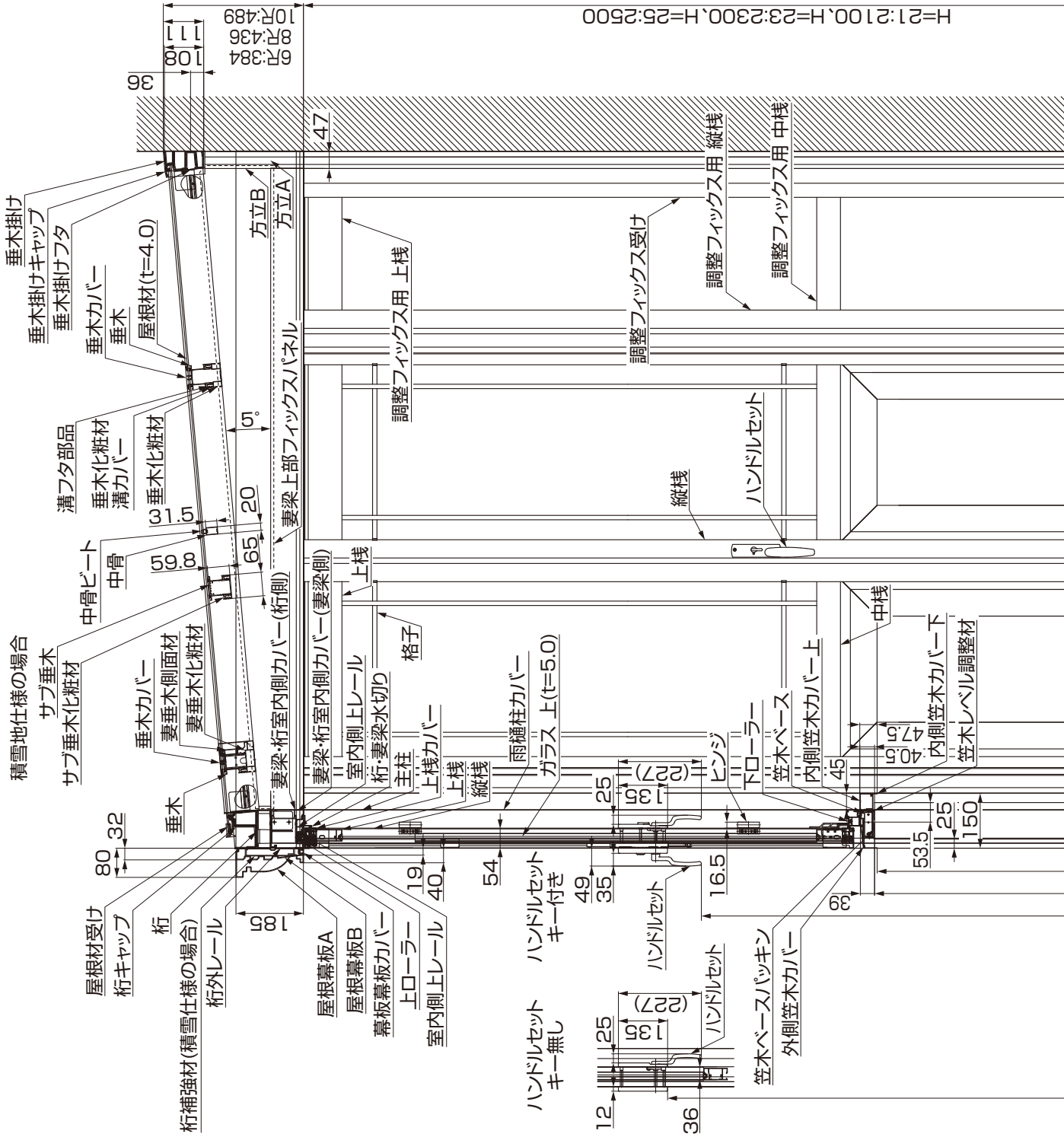
.....

.....

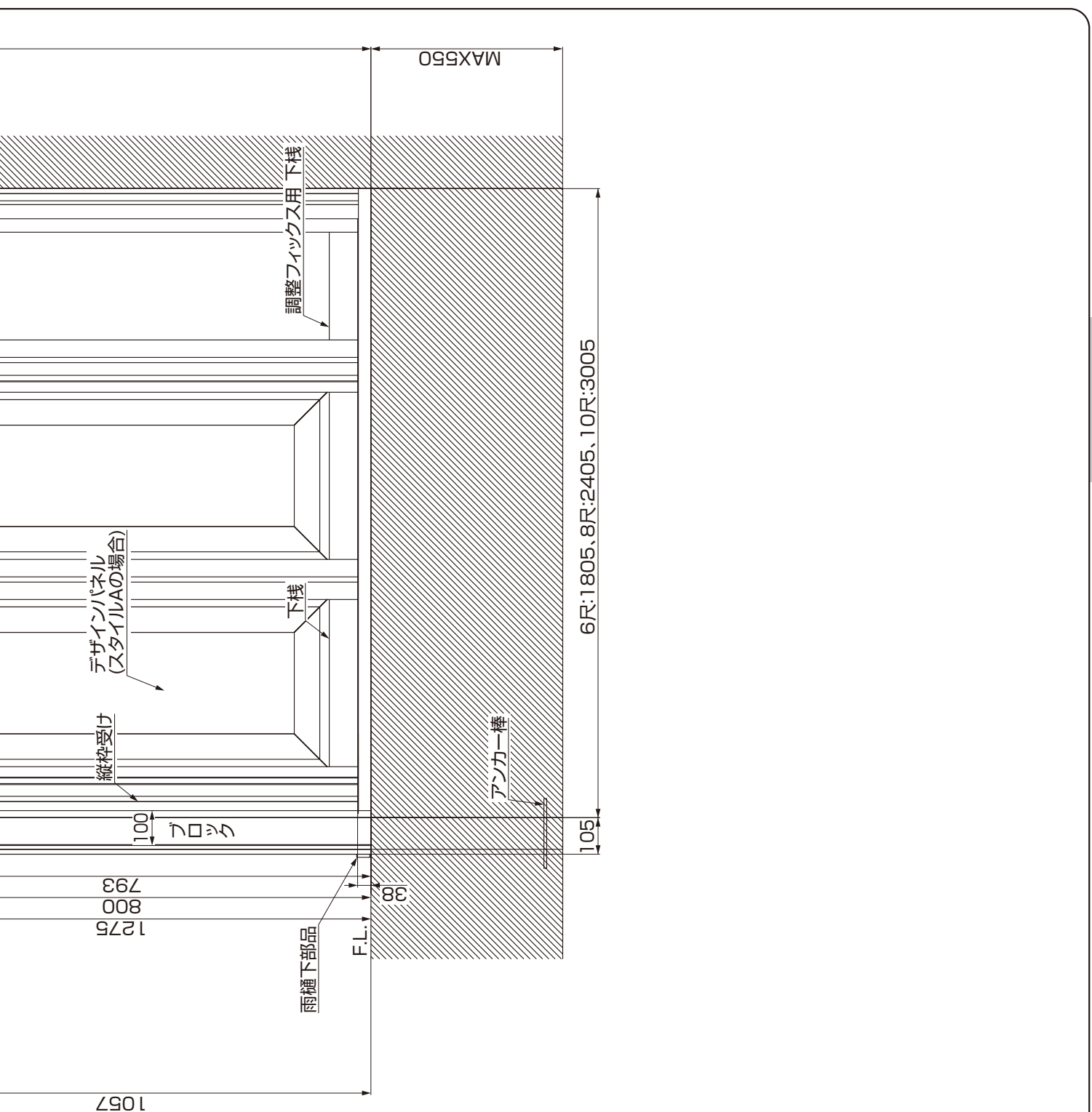
.....

3 断面納まり図

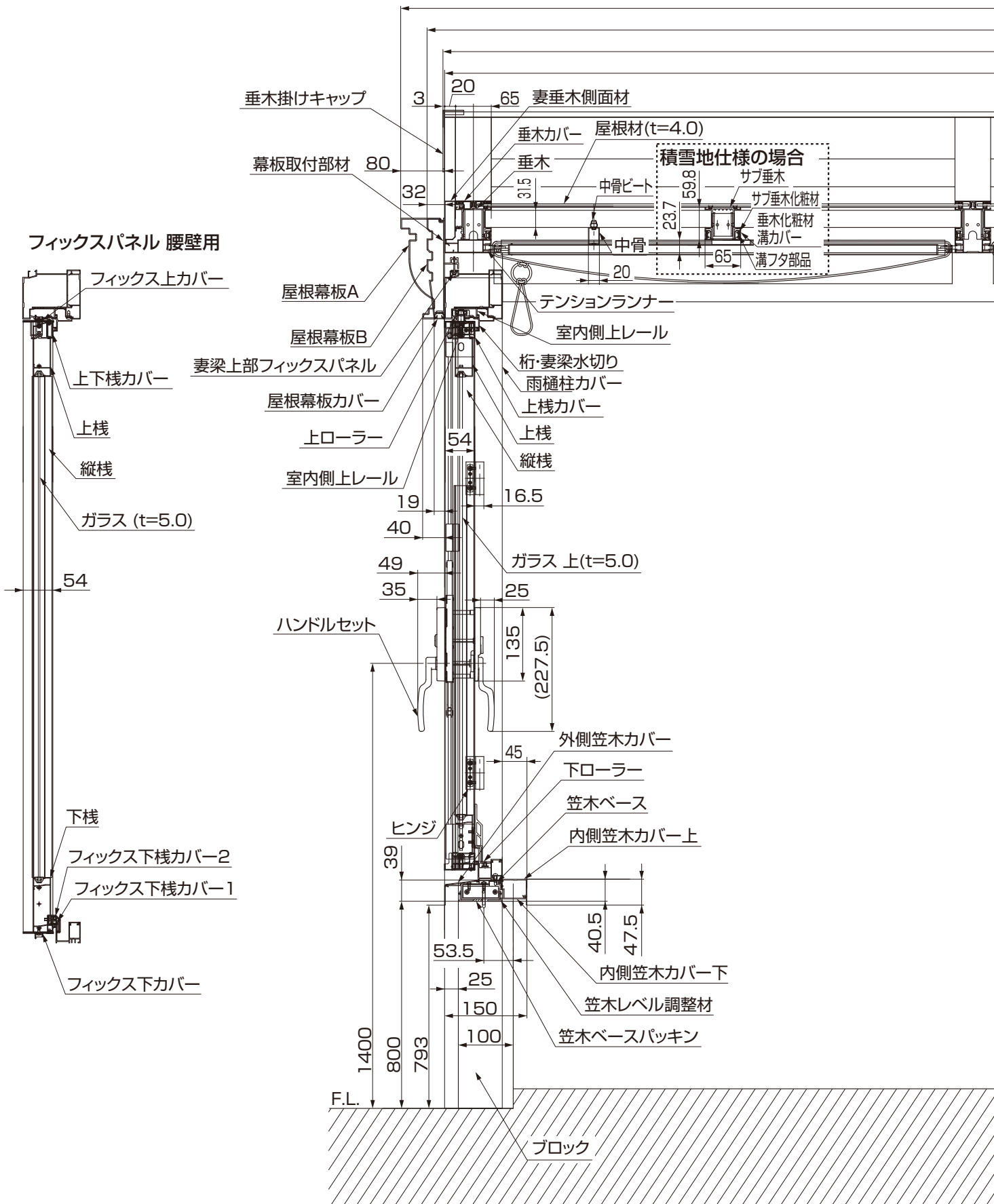
1. 出幅断面納まり図

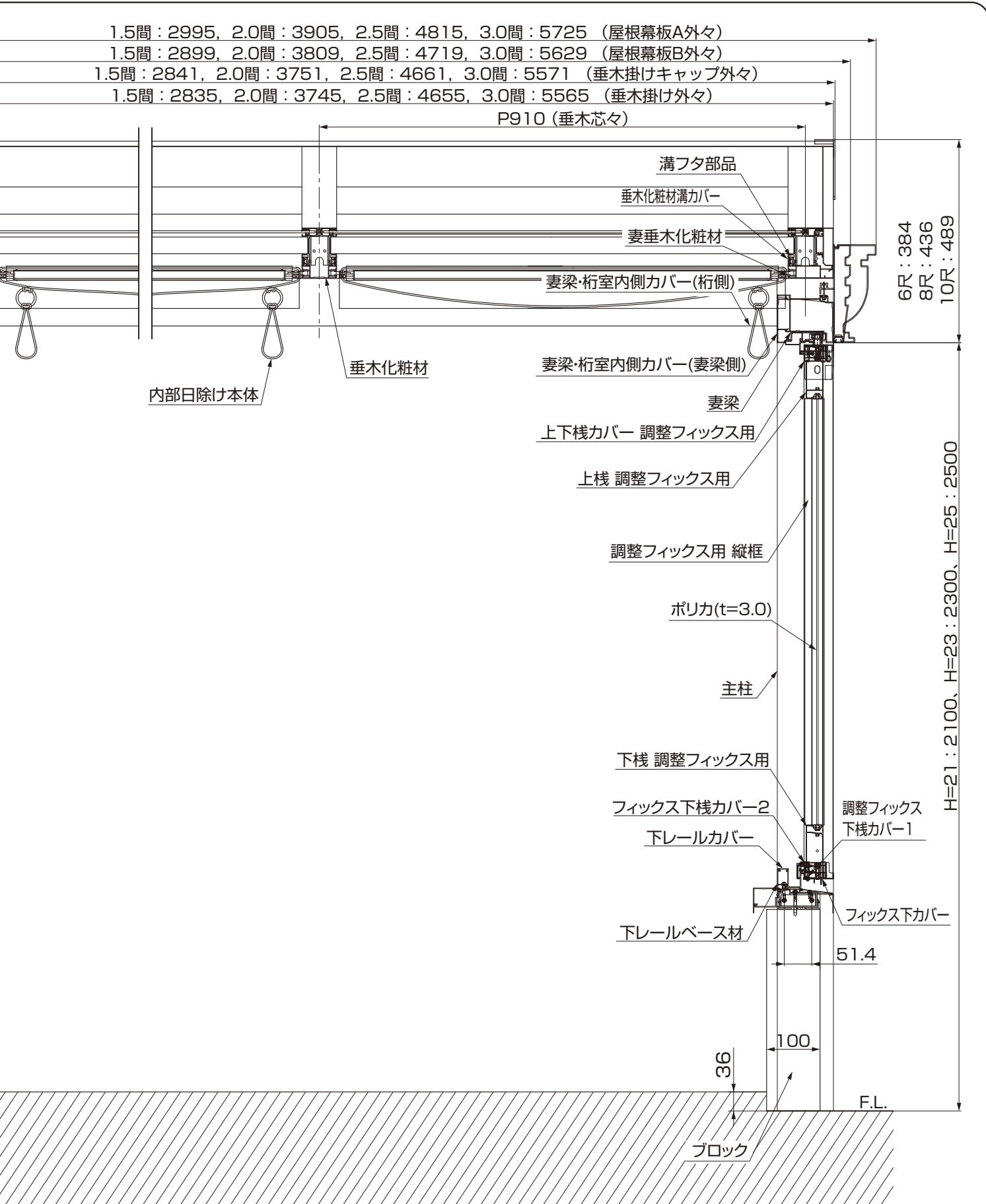


H=21:2100、H=23:2300、H=25:2500



2. 間口断面納まり図

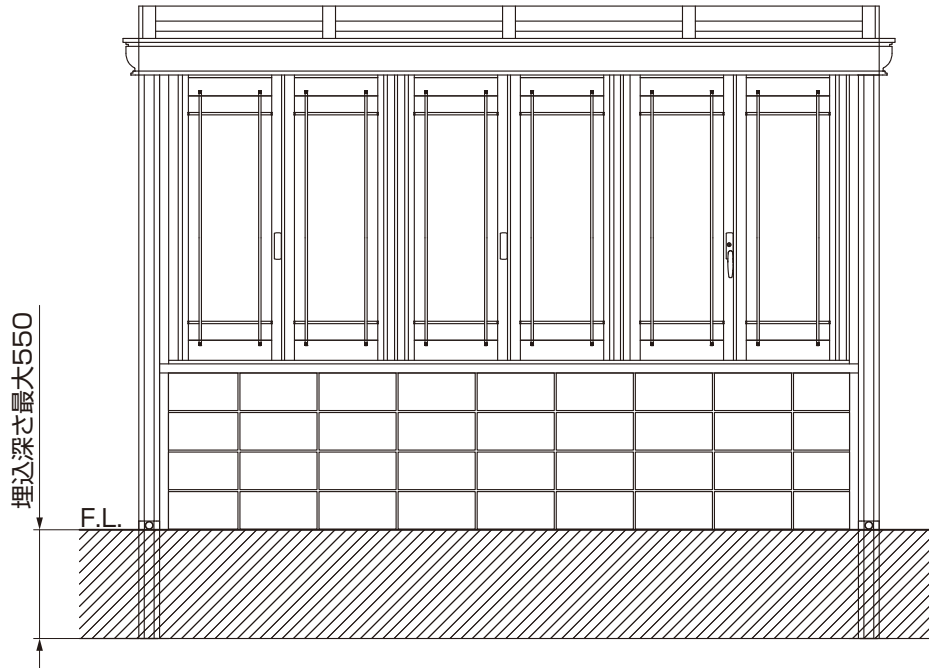




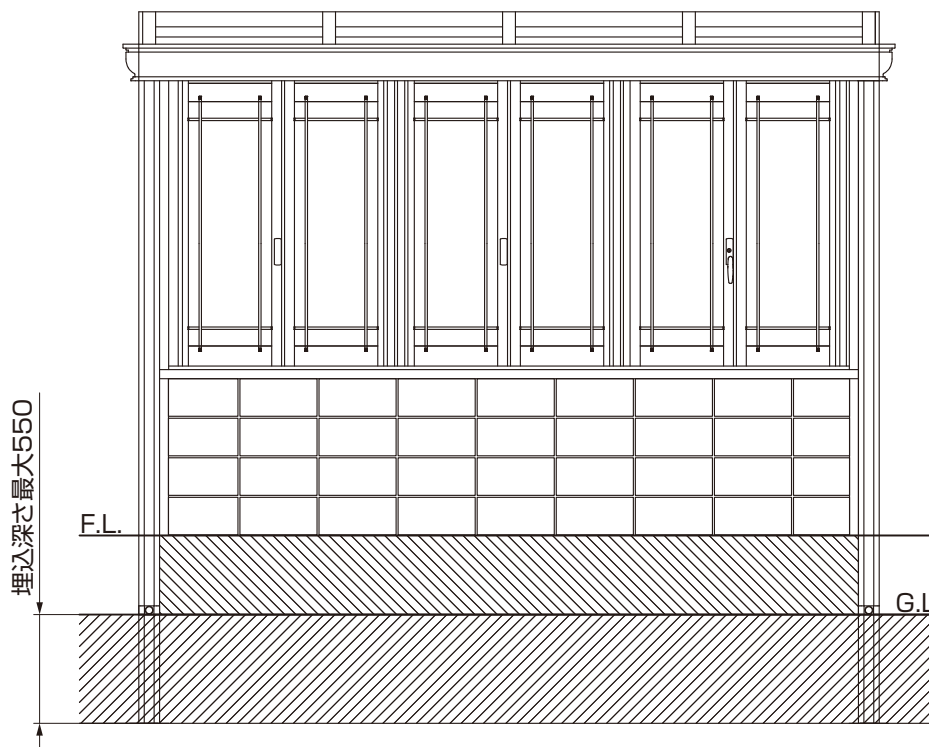
4 代表的な施工例

1. 標準柱の場合

1-1 土間施工 柱埋込仕様



1-2 土間施工 ロング柱埋込仕様



5 施工前の重要確認事項

1. 本製品の施工について

1-1 柱・垂木掛けの取付け ※本製品でG.L.は束石上のラインとします。

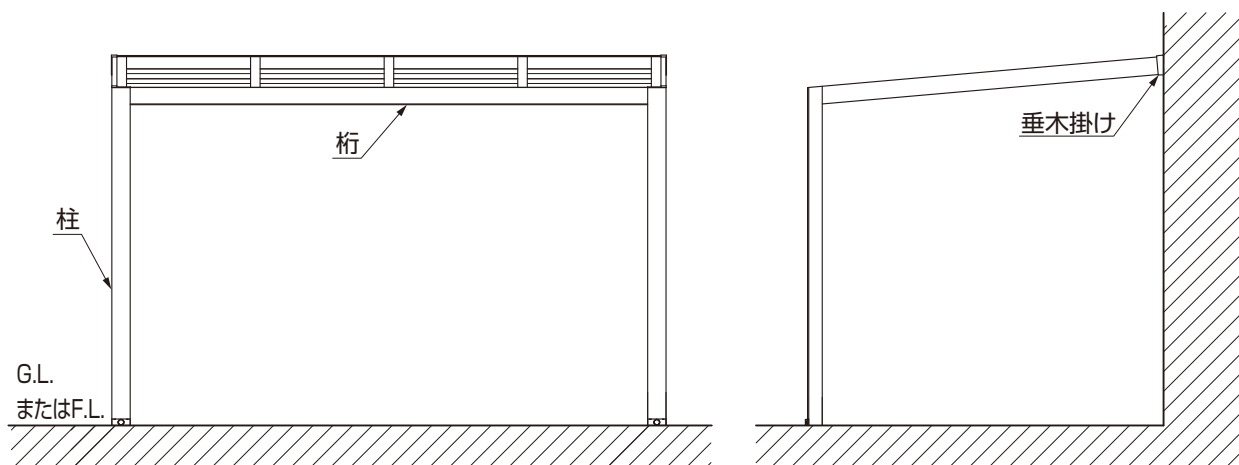


図1-1

ポイント

- 「2 基本寸法と各部名称 1.基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置出しを行なってください。
- 柱の垂直出しは確実に行ってください。躯体からの距離は基準にしないでください。
- 柱埋込みの深さは標準を550mmとしますが、最低450mm以上は確保してください。550mm未満にする場合、550mmとの差分を後述する指定切断寸法に加えてから必ず切詰めてください。
柱の埋込み寸法が550mmより浅くなる分、エクシオールおよびテラスの高さを高くできるものではありません。
例) 柱埋込み深さが500mmの場合：550mm-500mm=50mm→柱下端より50mm切断
- 柱固定ベース仕様の柱の切断寸法は、G.L.~F.L.の最大の553mm（うち3mmはベースプレート板厚）を基準としています。束石上での柱固定ベース仕様では、表3-4の切断寸法に550mm-（現場のG.L.~F.L.寸法）分を加えて柱を切詰めてください。

1-2 垂木掛け後付けビートの取付け

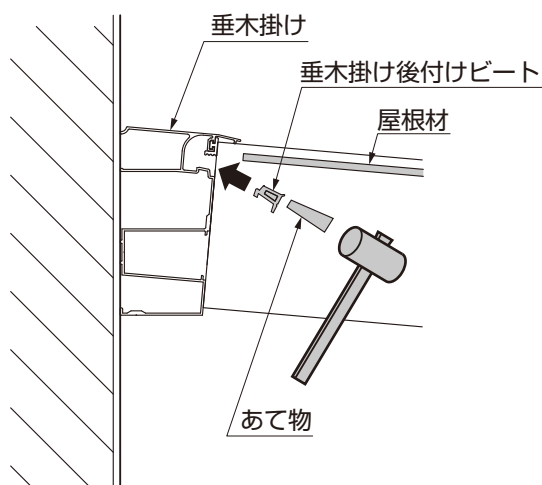


図1-2

ポイント

- 垂木掛け後付けビートをあて物をあてて、垂木掛けの奥まで叩き込んでください。垂木掛け後付けビートは奥まで入っていないと外れてしまう場合があります。

1. (つづき)

1-3 内面立ち上げ施工の内面仕上げについて

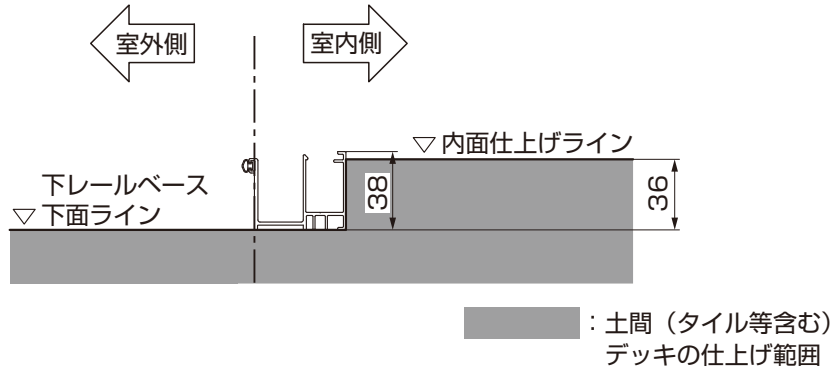


図1-3 仕上げ範囲について

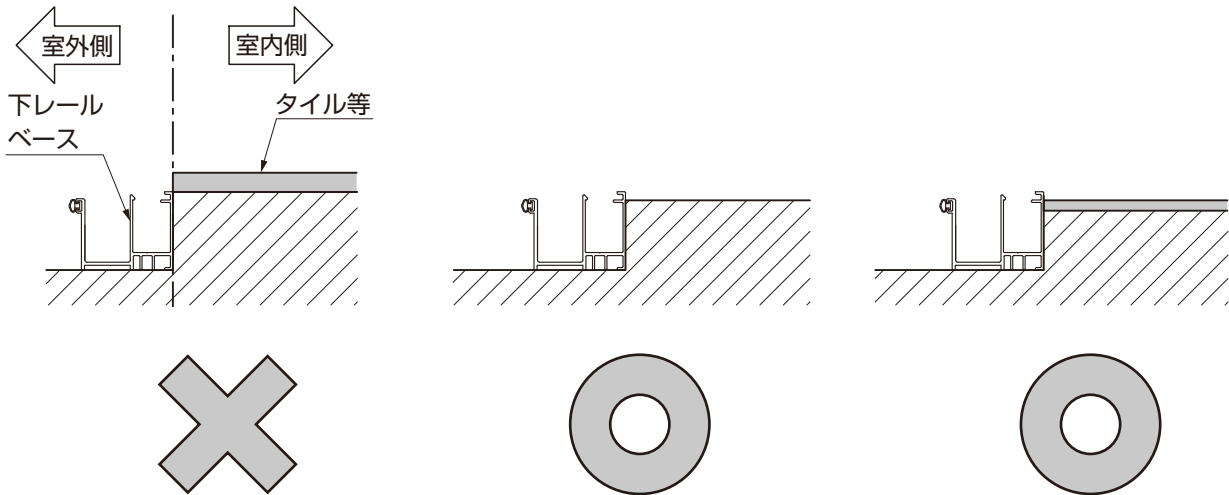


図1-4

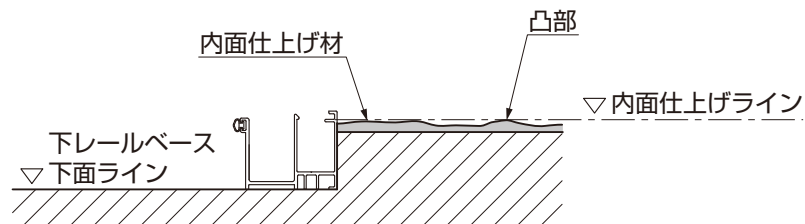



図1-5 凸凹の大きいタイル等の納まりについて

①室内側を内面仕上げラインと同じか低くなるように仕上げてください。

ポイント

- タイル等は  の範囲に必ず納めてください。
- 室内側の仕上げを下レールベース上面より高くしてしまうと、オプションの網戸レールを取付けた場合、網戸レールが折戸パネル下面にあたり、折戸パネルや網戸レールが破損するおそれがあります。
- 凸凹の大きなタイルなどで室内側を仕上げた場合、凹部ではなく、凸部が内面仕上げラインより高くないように仕上げてください。

1-4 方立の取付け、調整フィックスの固定について

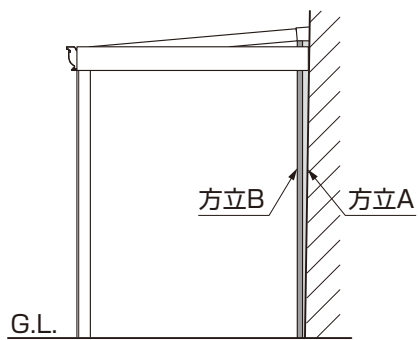


図1-6

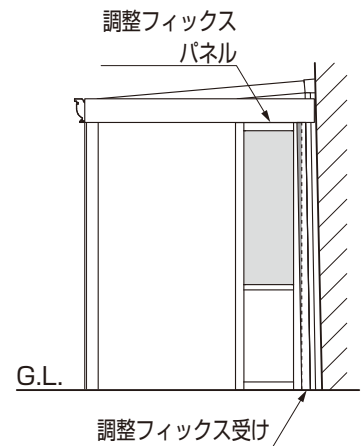
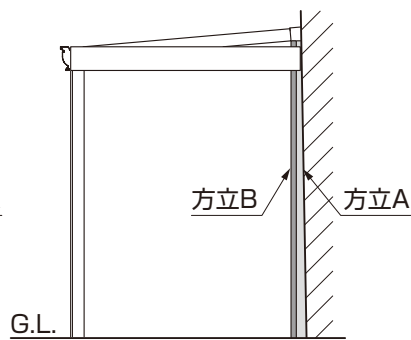


図1-7

- ① 躯体の状態によって方立A・Bを調整して位置出しを行なってください。(図1-6参照)
- ② 方立だけで躯体の状態を調整できない場合は、調整フィックスパネルと調整フィックス受けの飲み込みで調整してください。(図1-7参照)

1-5 垂木カバーの取付け

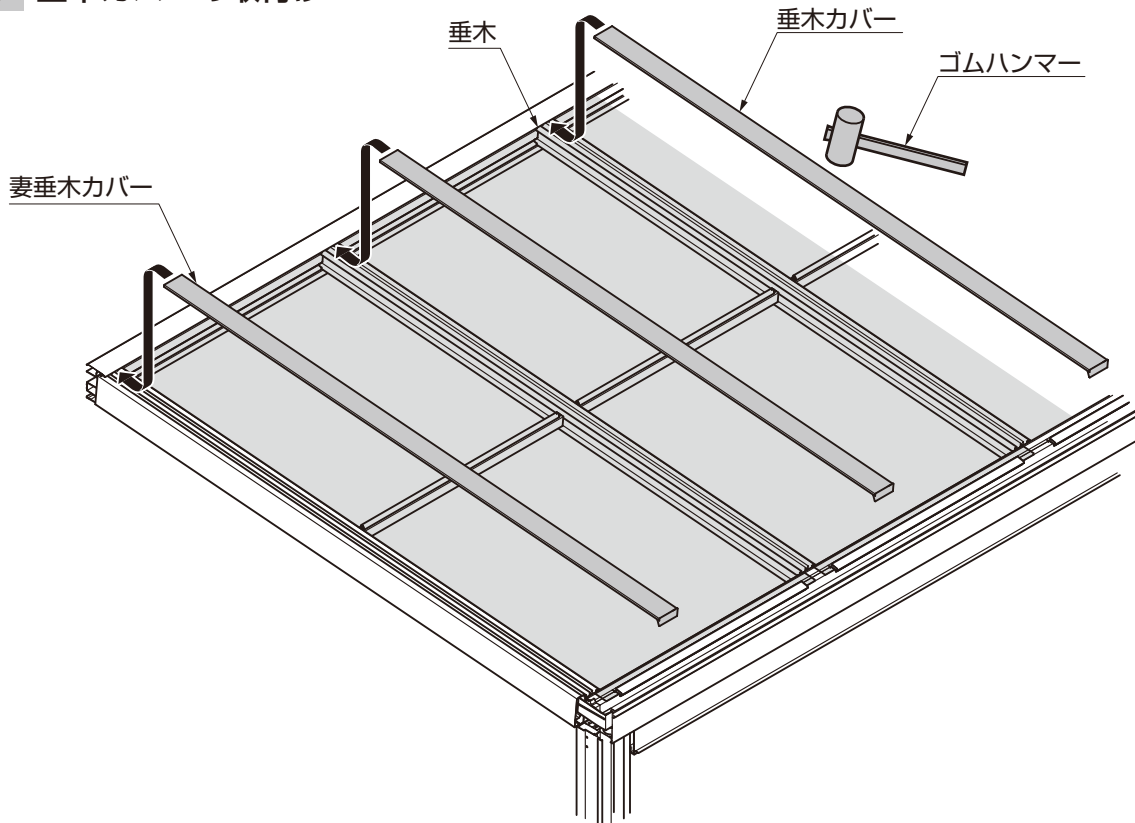


図1-8

ポイント

- 垂木カバー、妻垂木カバーは部材が凹まないように注意しながら、ゴムハンマー等で押込んでください。

1. (つづき)

1-6 シーリング処理

(1) 基本仕様

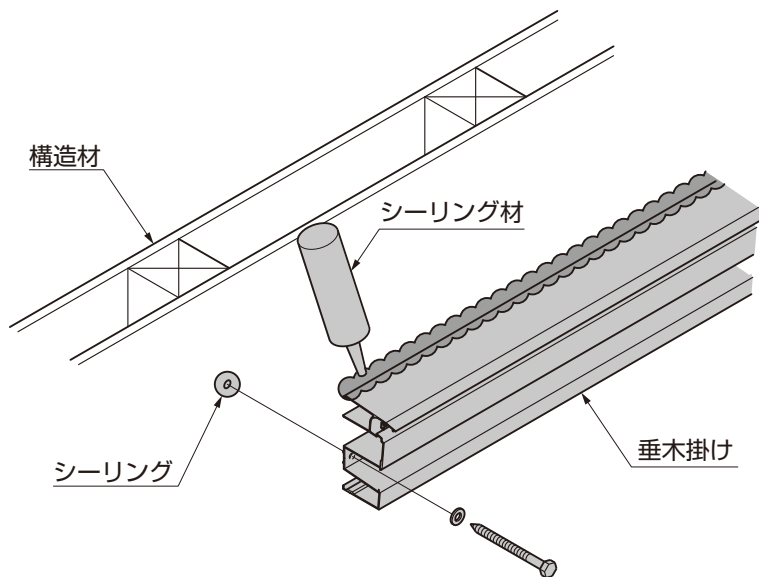


図1-9 垂木掛け、垂木掛け取付けネジ打ち込み部

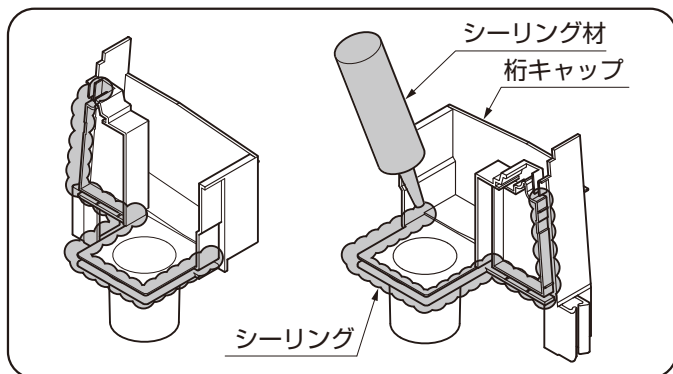


図1-10 榫キャップ

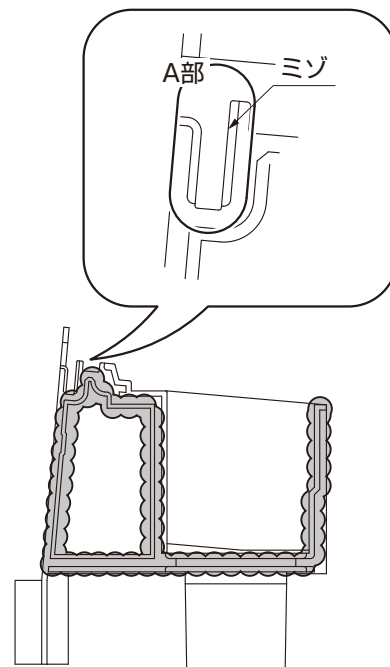


図1-11 ミゾ部シーリング詳細

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図1-11参照)

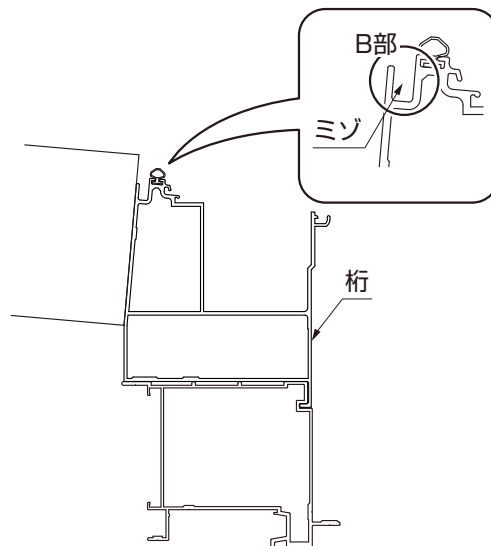
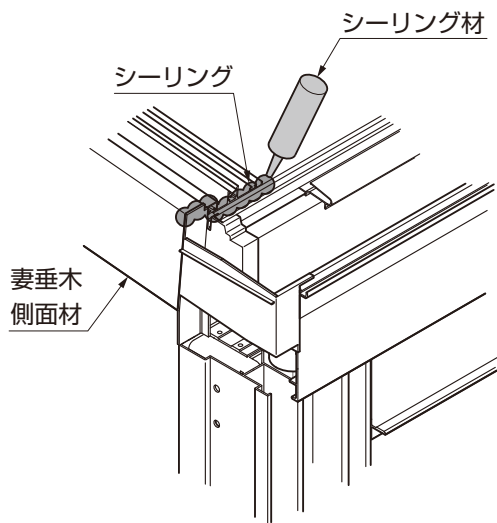


図1-12 柱キャップ、柱・妻垂木側面材

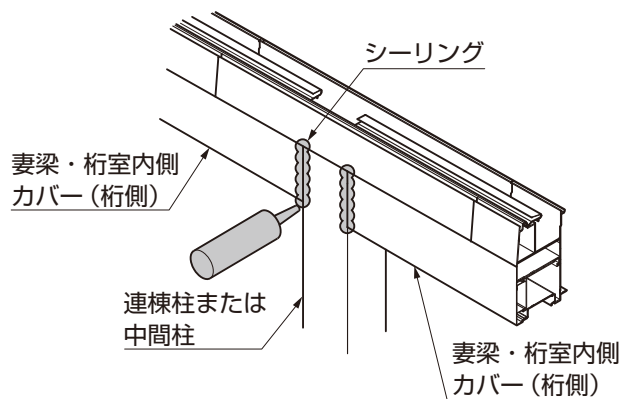
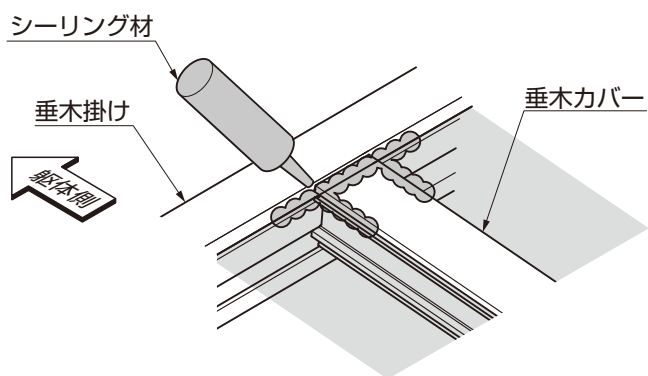


図1-13 垂木掛け・垂木カバー

図1-14 中間柱仕様・連棟仕様
柱と妻梁・桁室内側カバーの継ぎ目

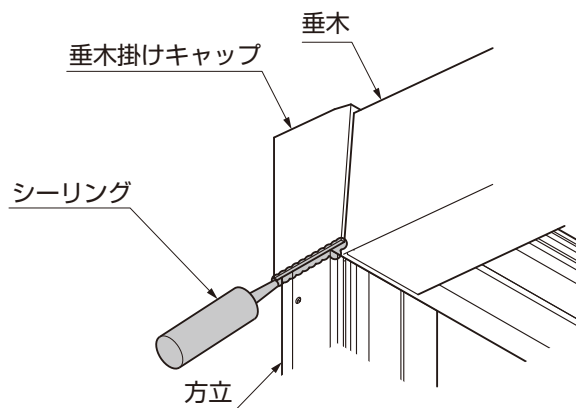
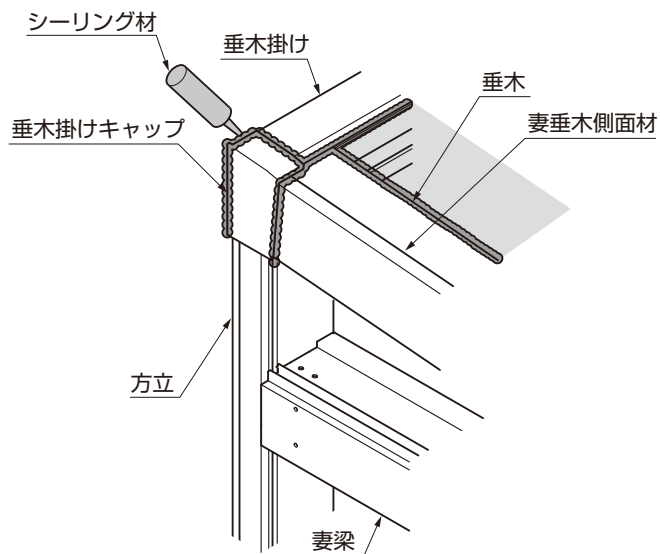


図1-15 垂木掛けキャップ・垂木・妻垂木側面材

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- B部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図1-12参照)

1. (つづき)

1-6 つづき

(1) つづき

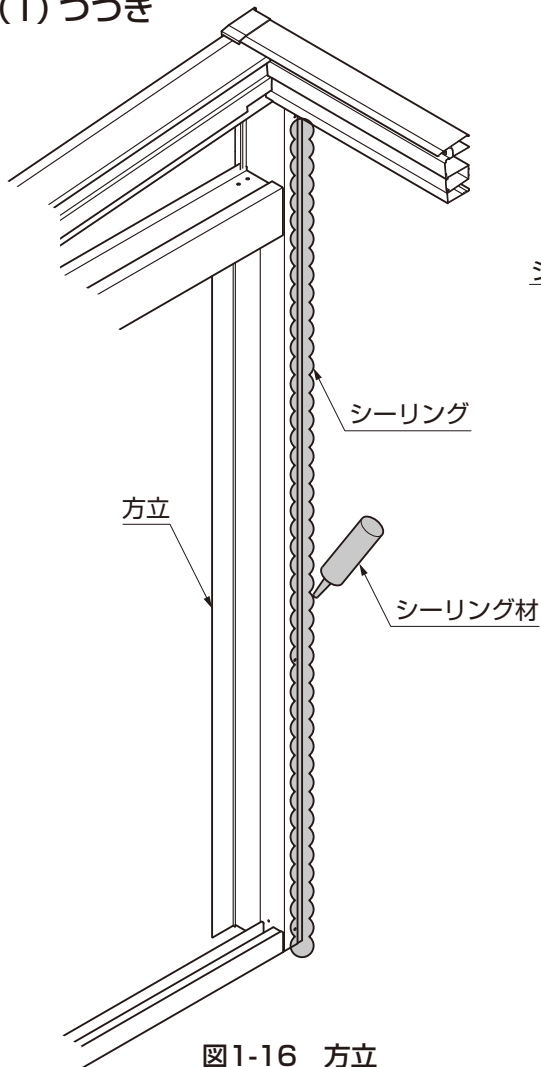


図1-16 方立

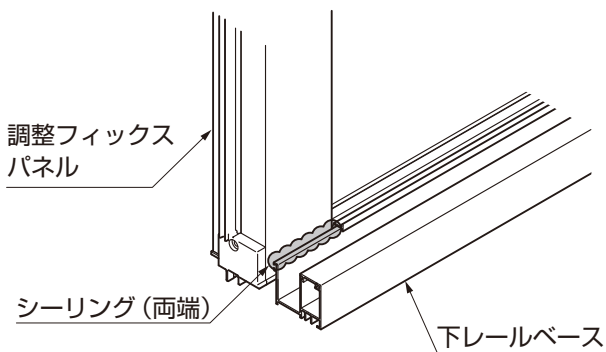


図1-17

下レールベースと調整フィックスパネル枠のすき間

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

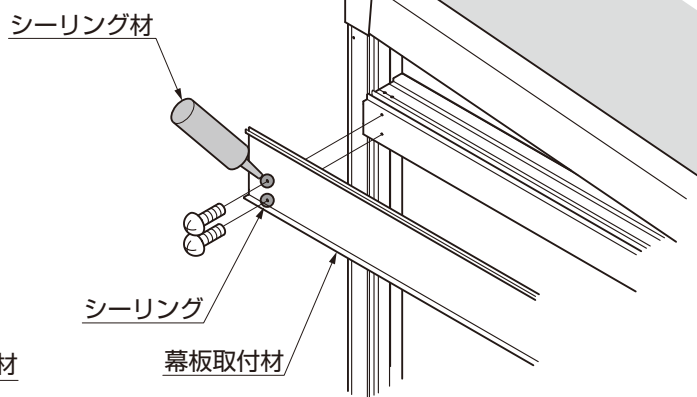


図1-18 幕板取付材ネジ打込み部

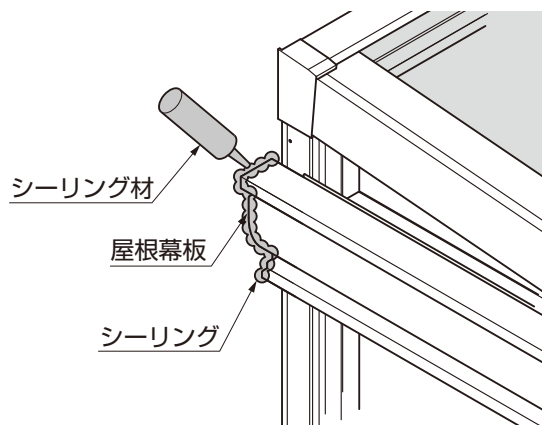


図1-19 屋根幕板

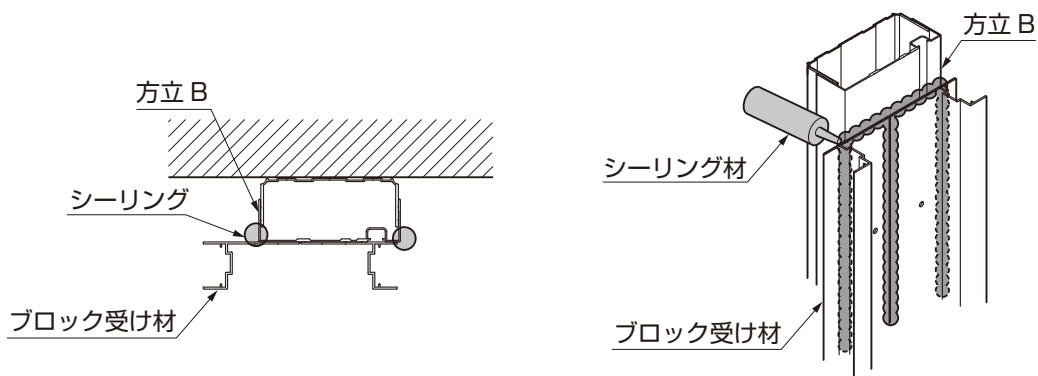


図1-20 ブロック受け材と方立Bの継ぎ目

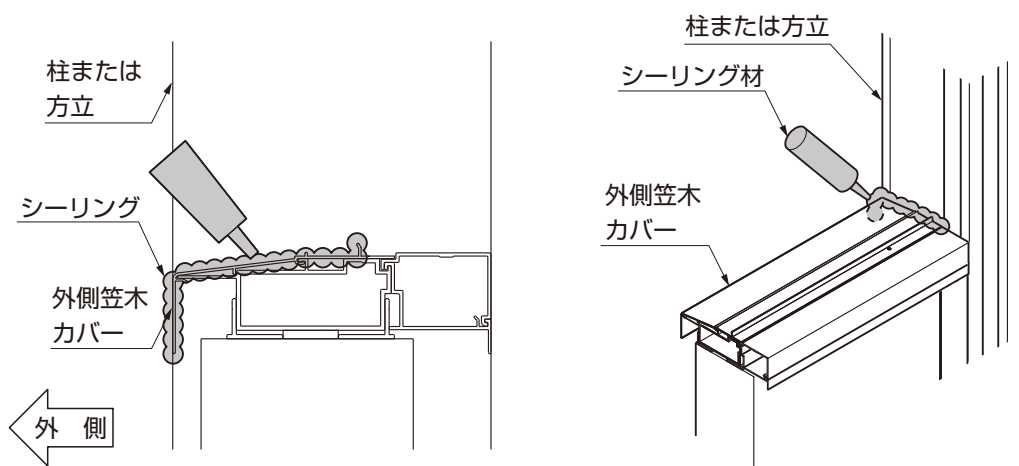


図1-21 外側笠木カバー

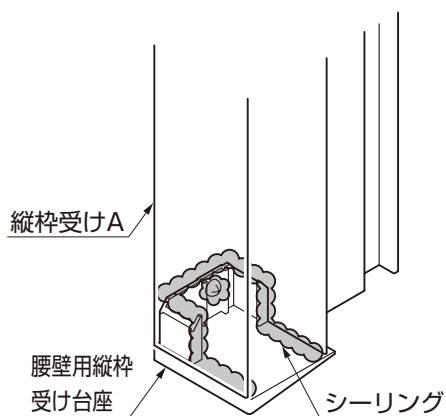


図1-22 腰壁用縦枠受け台座と縦枠受けAの継ぎ目

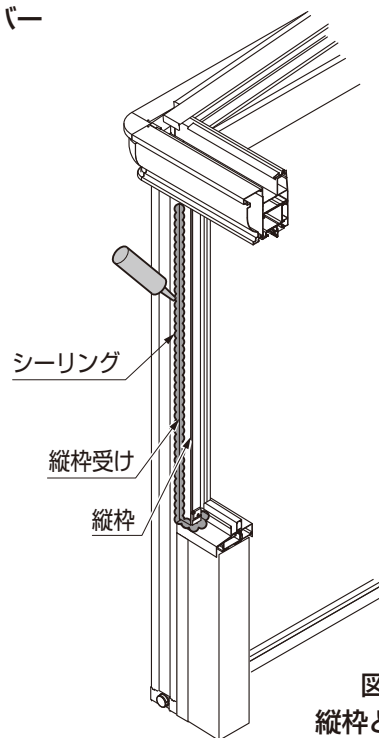


図1-23 縦枠と縦枠受け

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

1. (つづき)

1-6 つづき

(2) 連棟、入隅、出幅違い仕様 ※基本タイプのシーリングに加えて行ってください。

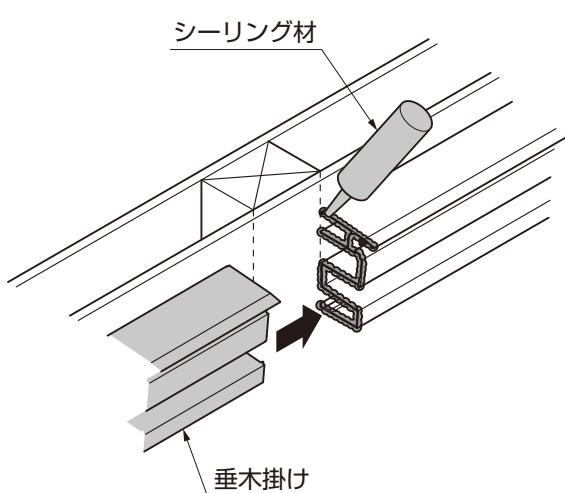


図1-24 連棟時 垂木掛け

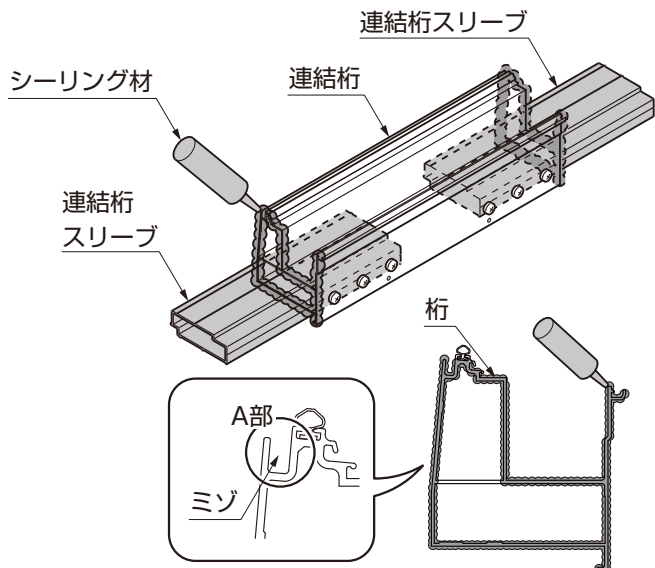


図1-25 連棟時 桁

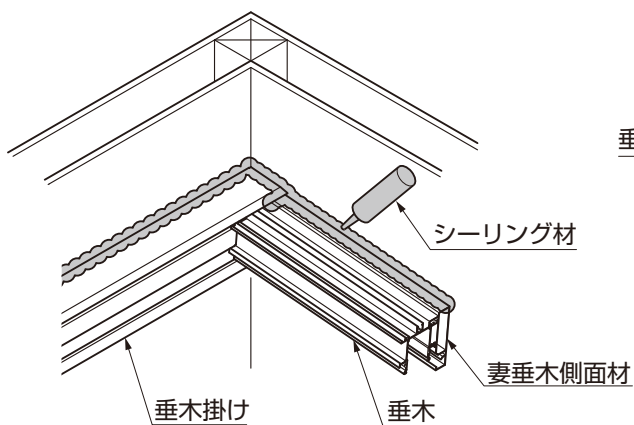


図1-26 入隅時 躯体側妻垂木側面材

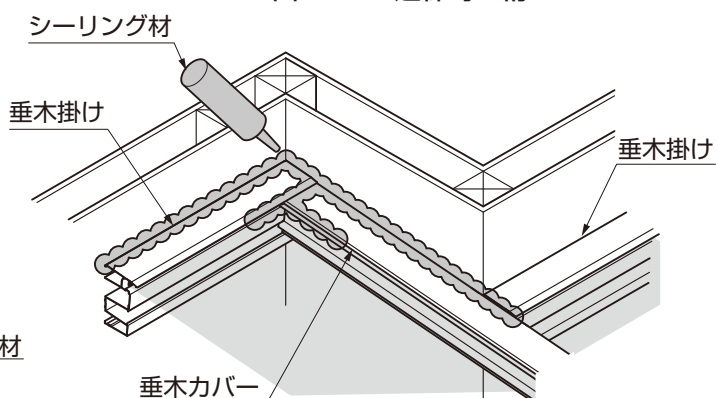


図1-27 出幅違い躯体側垂木部

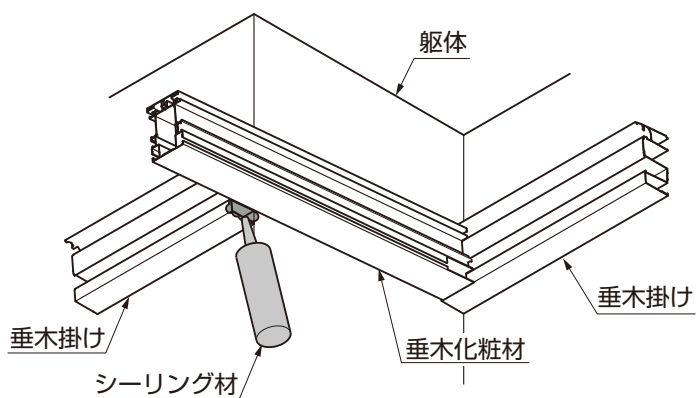


図1-28 出幅違い垂木掛け断面

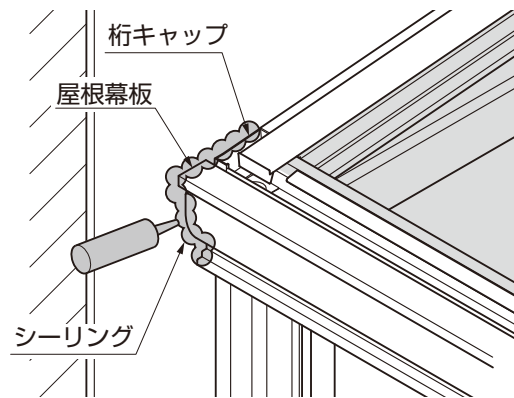


図1-29 入隅時
屋根幕板、桁キャップと躯体の継ぎ目

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図1-25参照)

6 本体の施工

1. 水盛遣方・水糸張り

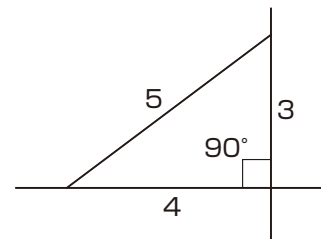
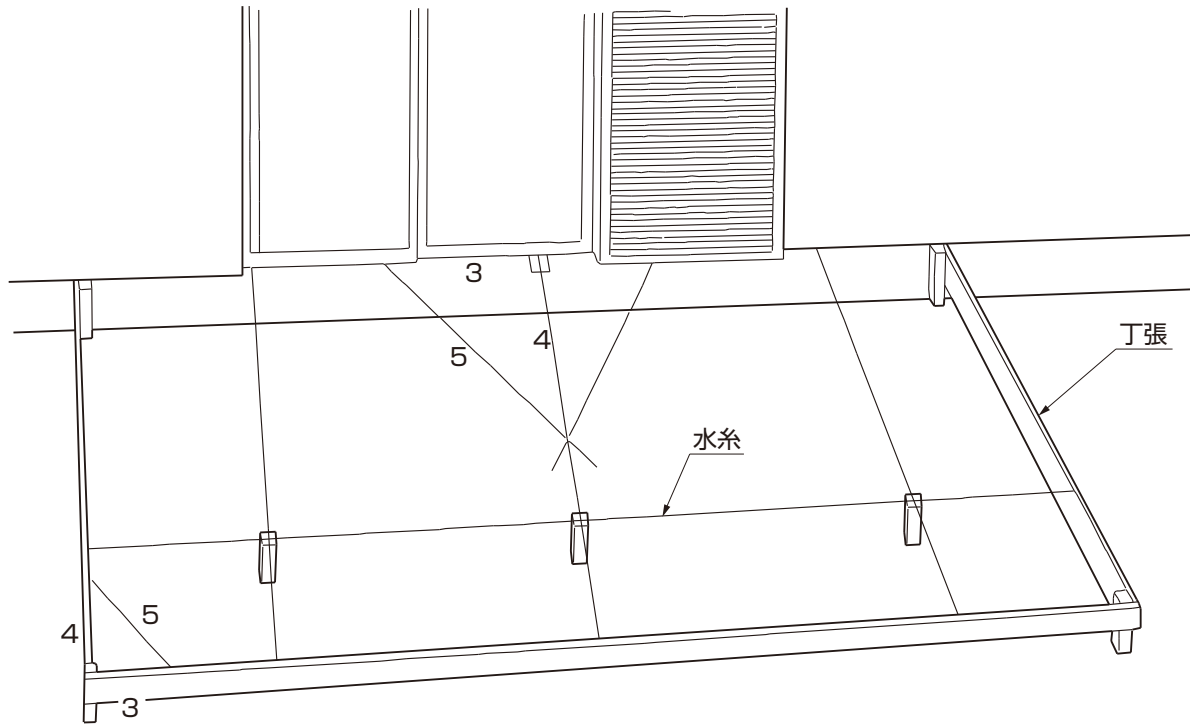


図1-1 直角出し寸法

- ① 「2 基本寸法と各部名称」を参照して本体の取付位置およびフロアの高さを決めてください。
- ② 前面・両側面に丁張を組んでください。
- ③ 躯体に柱寸法の印をつけ、図1-1の方法で直角をだし、束柱の位置を出してください。
- ④ 束柱の位置から、両側の柱位置を決めてください。

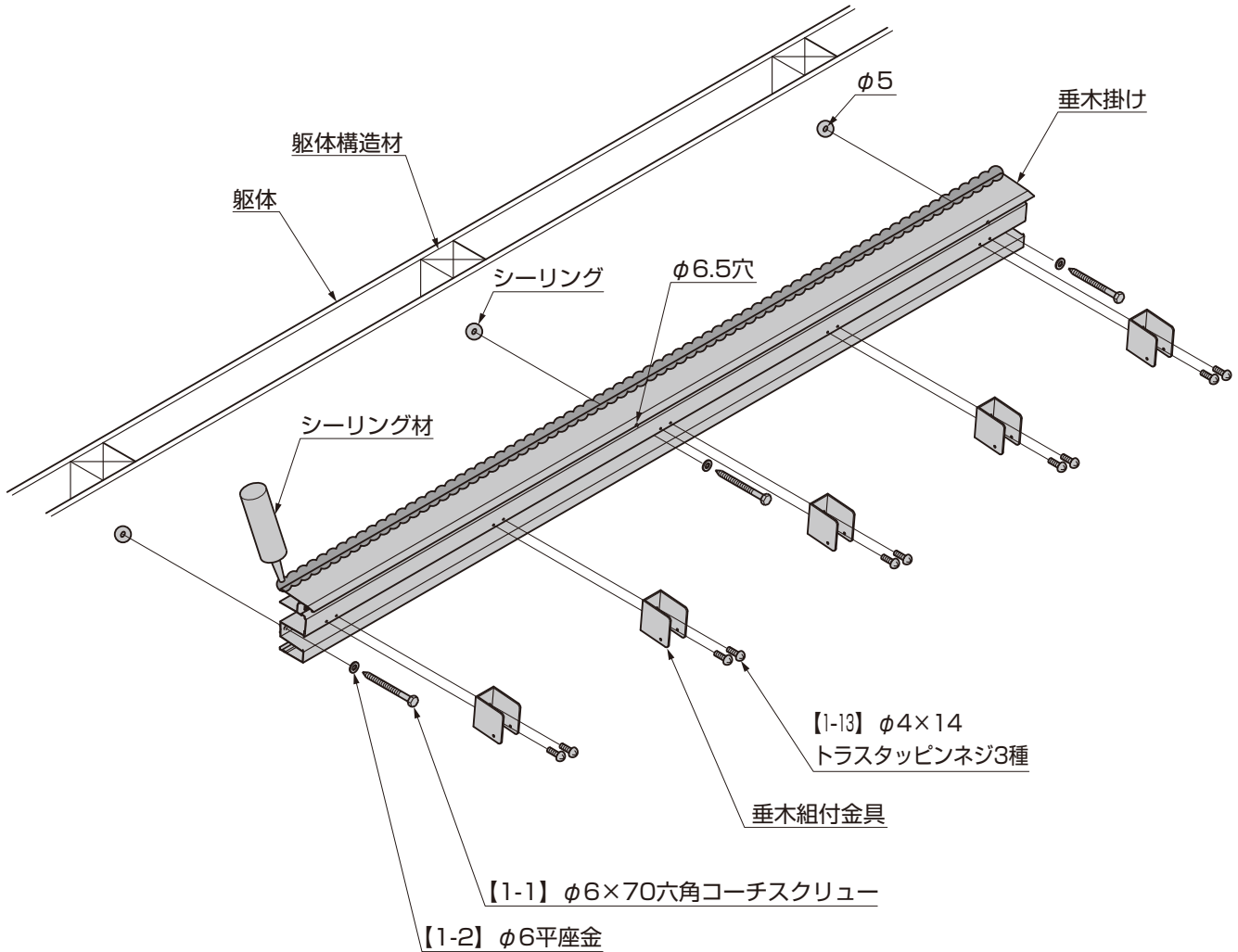
ポイント

- 丁張の位置は本体外寸より前面・両側面ともにやや大きめに決めてください。
- 丁張は水準器等で水平を取ってください。
- 各コーナーの直角を定規、図1-1の方法等で割り出してください。

2. 垂木掛けの取付け

※「積雪仕様」、「入隅仕様」、「出幅違い仕様」の場合は必ず次頁を確認の上、取付けを行なってください。

2-1 基本仕様の取付け



- ① 垂木掛けV溝部にφ6.5の穴をあけてください。
- ① 躯体にφ5の穴をあけてください。
- ② 垂木掛けを躯体に【1-1】、【1-2】で固定してください。
- ③ 垂木組付金具を切欠きがある方を下にして垂木掛けに【1-13】で取付けてください。

⚠ 注意

- 垂木掛けは強度確保のため、必ず躯体構造材に取付けてください。

🔑 ポイント

- 垂木掛けの取付け高さ、水平、垂直に注意してください。
- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- 垂木掛け下の高さは、方立を使って確認することもできます。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

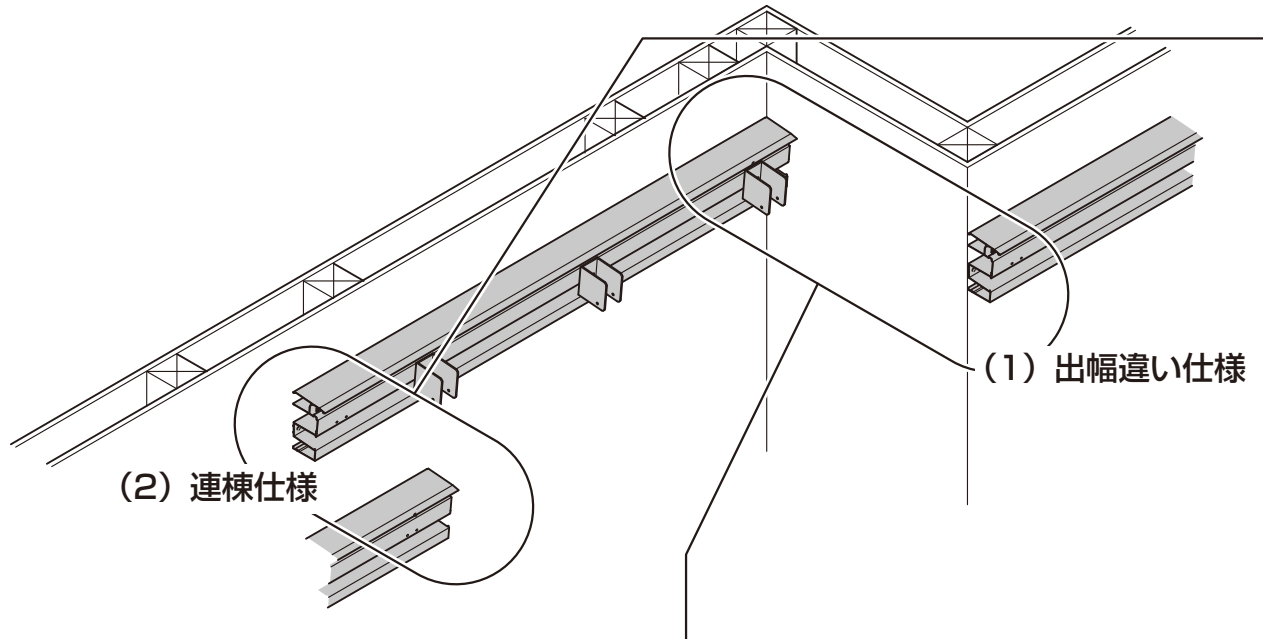
.....

.....

.....

2. (つづき)

2-2 「出幅違い仕様」、「連棟仕様」、「入隅仕様」、「積雪仕様」の場合



(1) 出幅違い仕様の場合

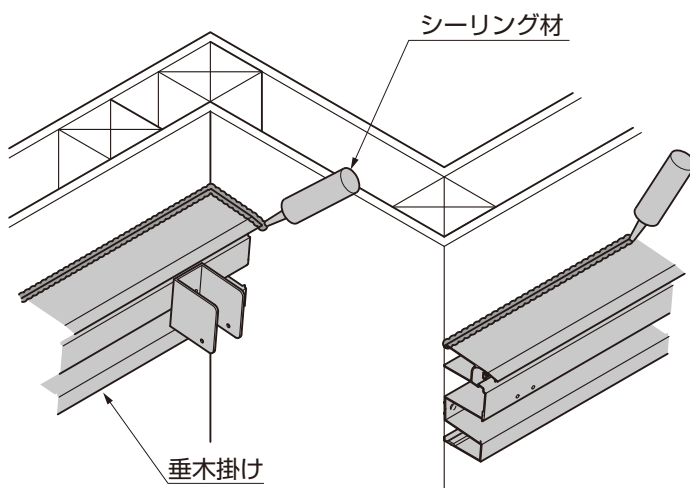


図2-2

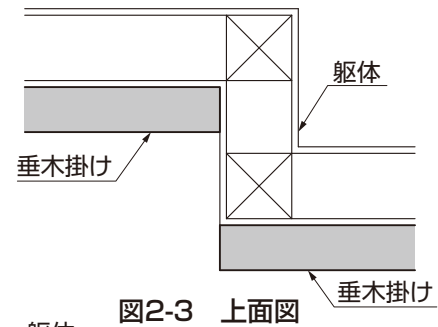


図2-3 上面図

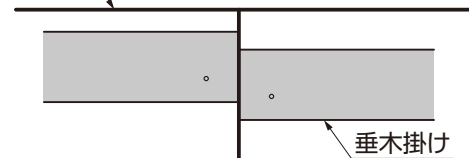


図2-4 正面図

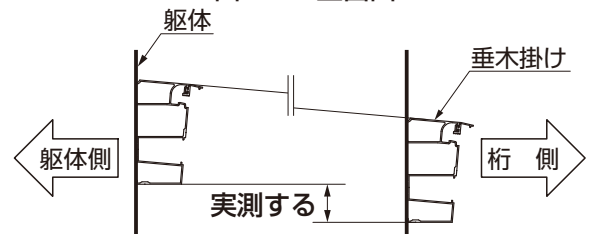


図2-5 側面図

- ①垂木掛け取付け位置を実測して、出幅違い部分の垂木掛けを取付けてください。(図 2-5 参照)
- ②垂木掛けにシーリングをしてください。(図 2-2 参照)

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

(2) 連棟仕様の場合

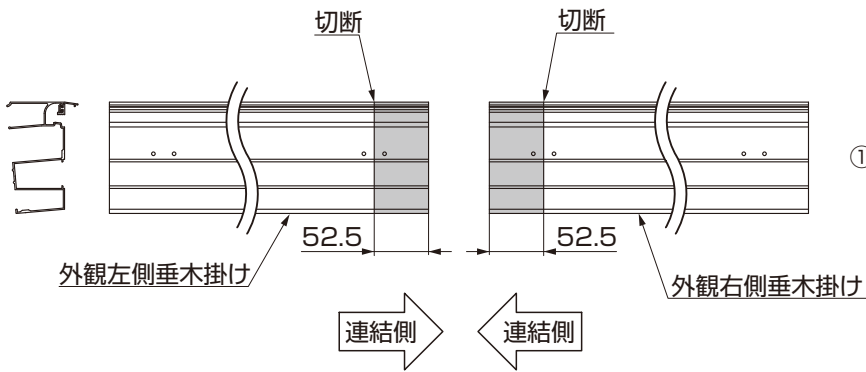


図2-6

①垂木掛けを加工してください。

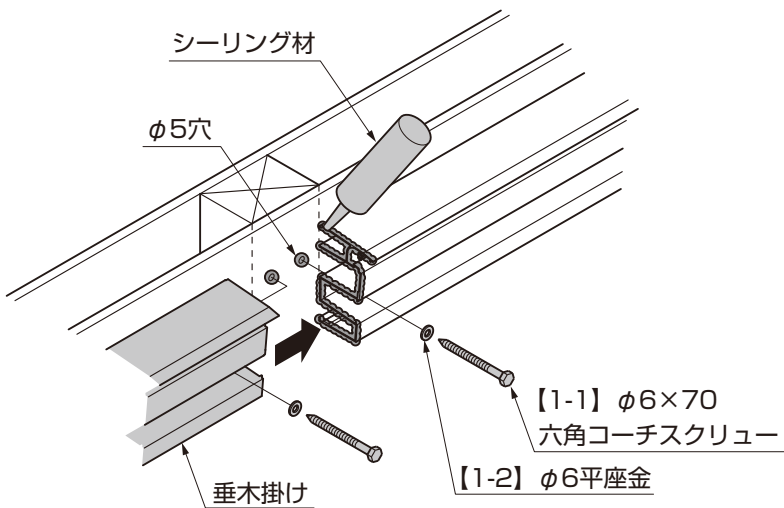


図2-7

②躯体にφ5の穴をあけてください。
(図2-7参照)

③垂木掛けの連結部にシーリングをして
躯体に【1-1】、【1-2】で固定してく
ださい。

ポイント

- 垂木掛けの取付け高さ、水平、垂
直に注意してください。
- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止の
ため、シーリングをしてください。

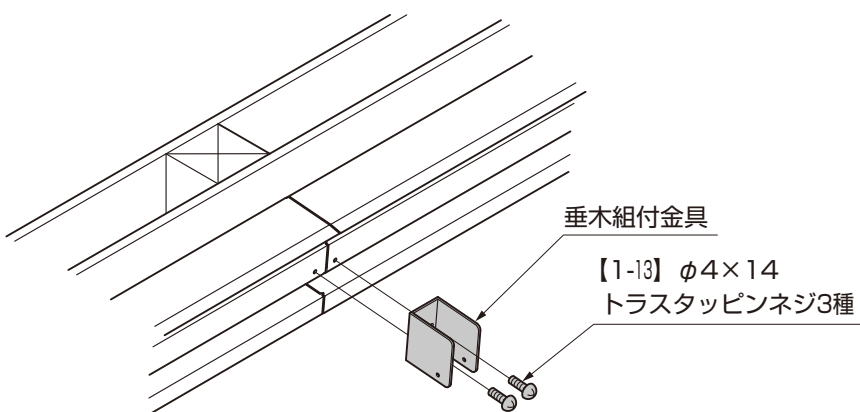
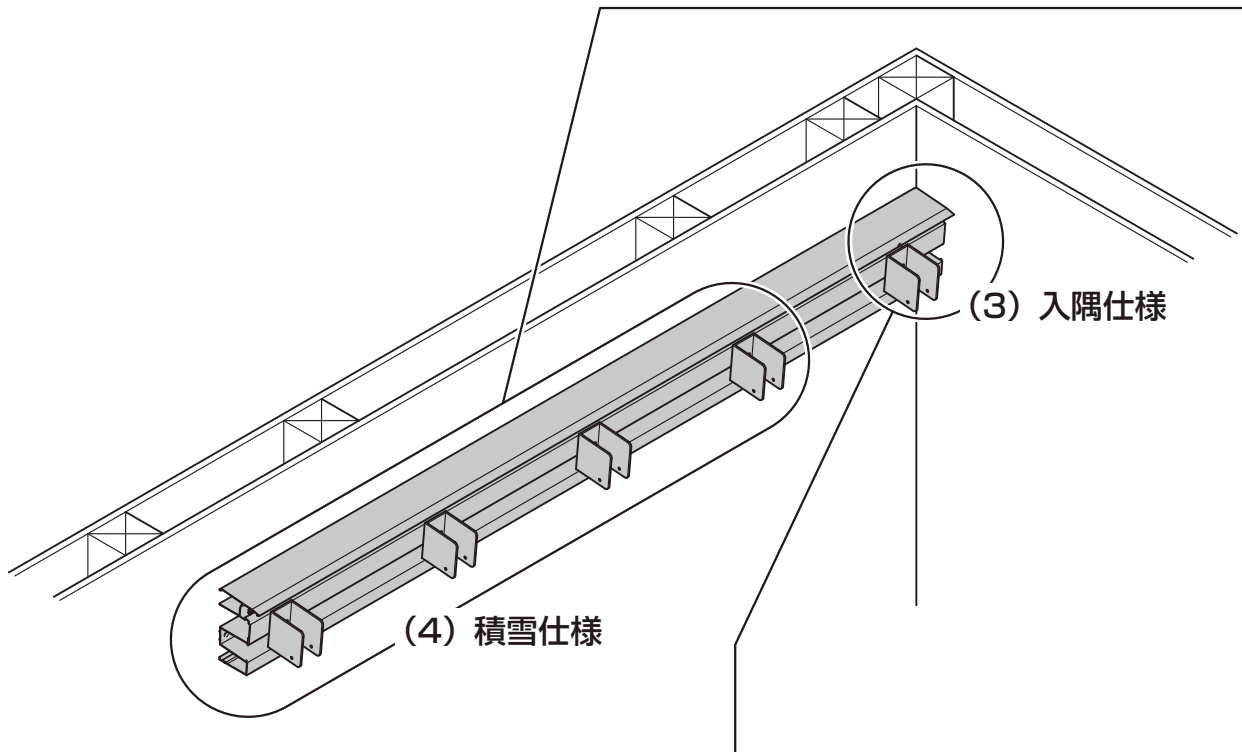


図2-8

④垂木組付金具を垂木掛けにまたがるよ
うに切欠きがある方を下にして【1-13】
で取付けてください。

2. (つづき)

2-2 つづき



(3) 入隅仕様の場合

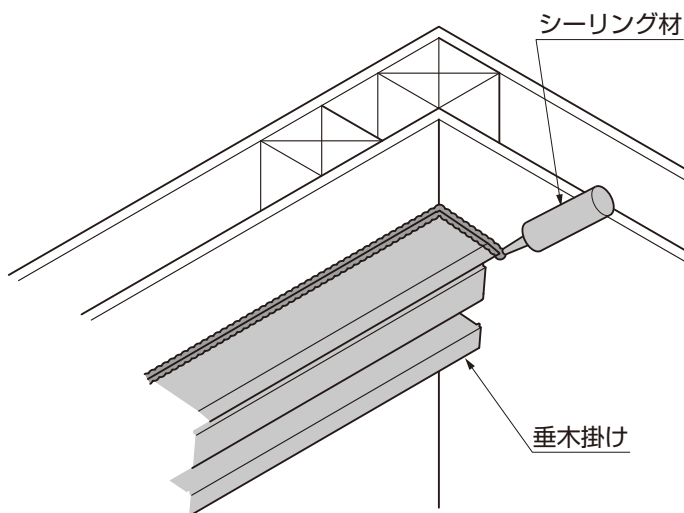


図2-9

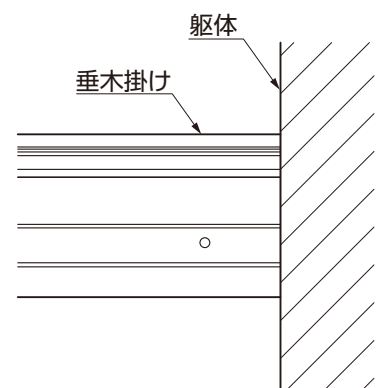


図2-10

- ①入隅側の垂木掛けを躯体に突き当てて取付けてください。
- ②垂木掛けにシーリングをしてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

(4) 積雪仕様の場合

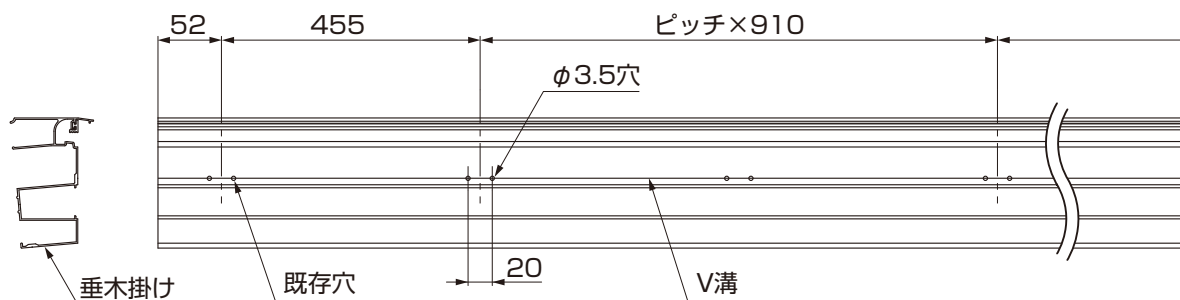


図2-11

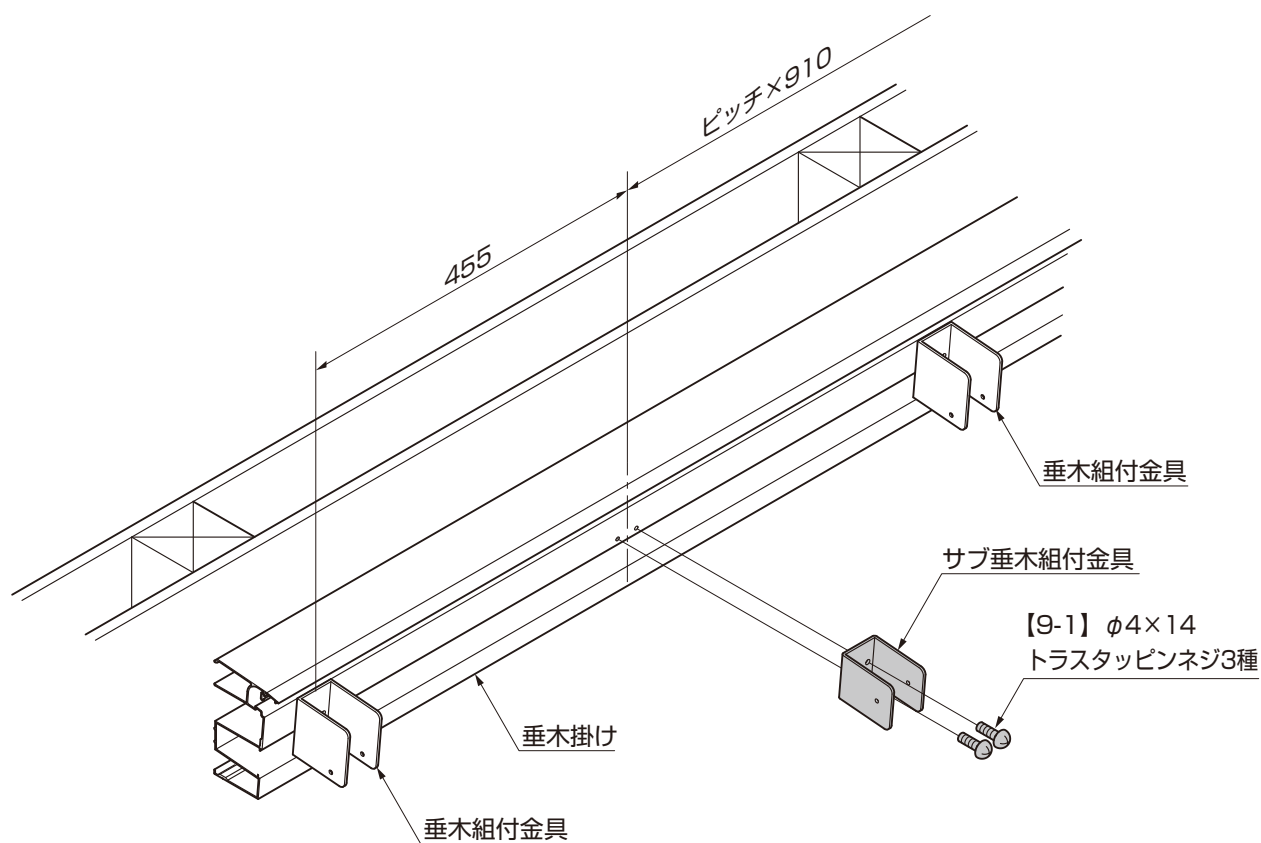


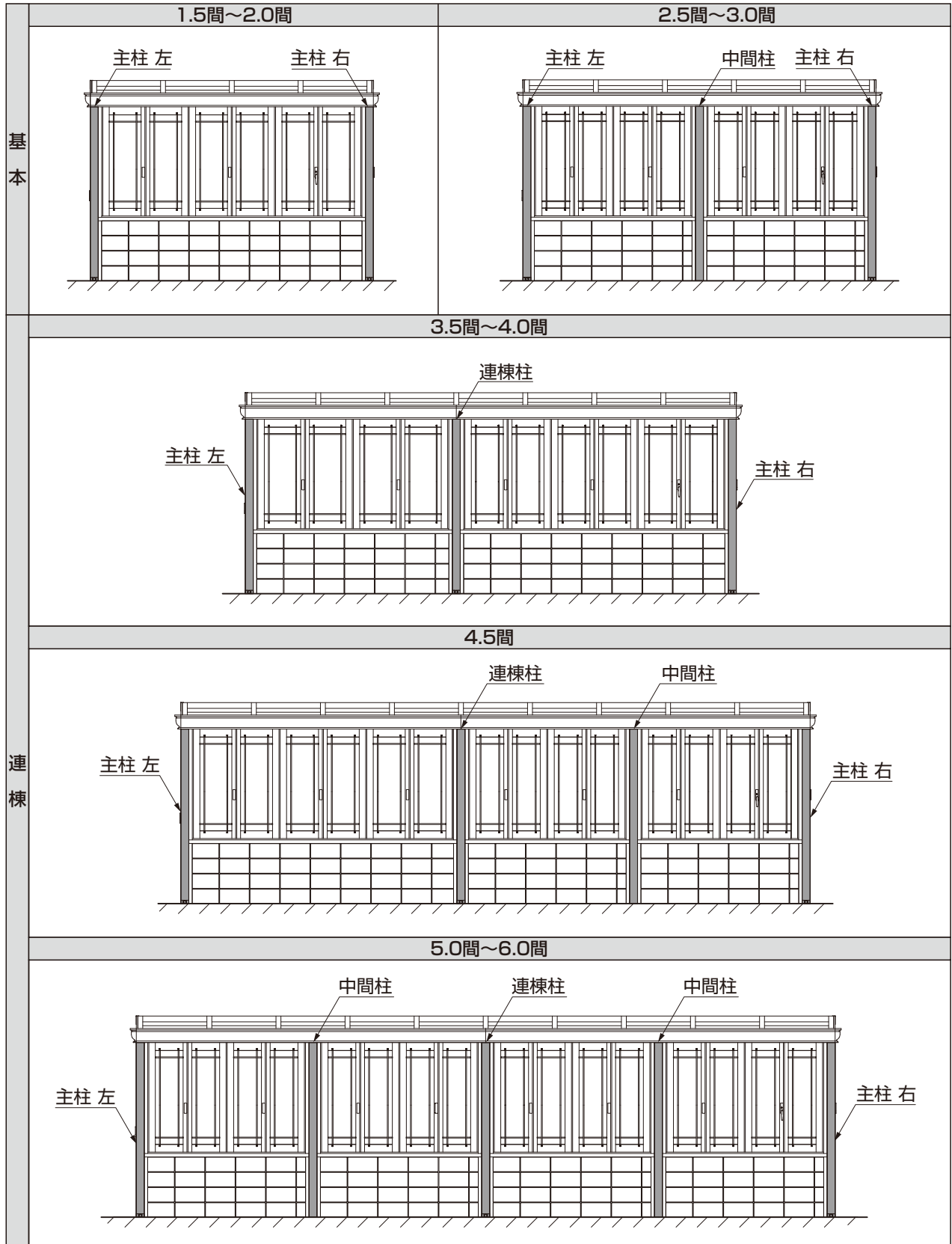
図2-12

- ①垂木掛けにφ3.5の穴加工をしてください。(図2-11参照)
- ②サブ垂木組付金具を垂木掛けに【9-1】で取付けてください。

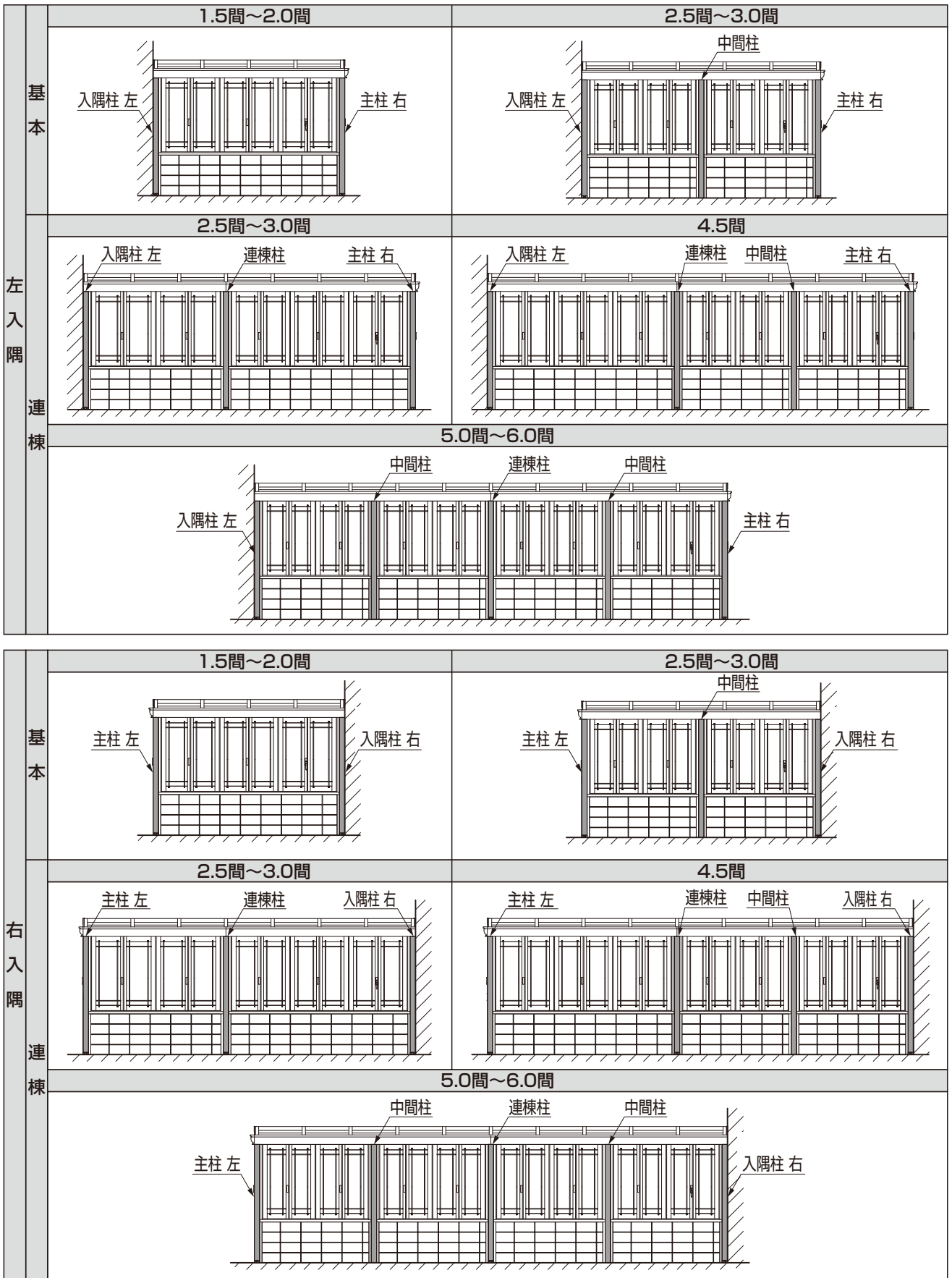
3. 柱の取付け

3-1 柱の建込み位置 ※図はスタイルAを示します。

(1) 標準納まり



(2) 入隅納まり



3. (つづき)

3-2 柱の加工 ※柱の図は右用です。左用は左右対象です。

(参考) F.L.から上部分のH寸法

呼称	柱	雨樋柱カバー(※)
H21	2190	2175
H23	2390	2375
H25	2590	2575

※雨樋下部品分を含んだ寸法です。

(1) 標準(入隅)柱の場合

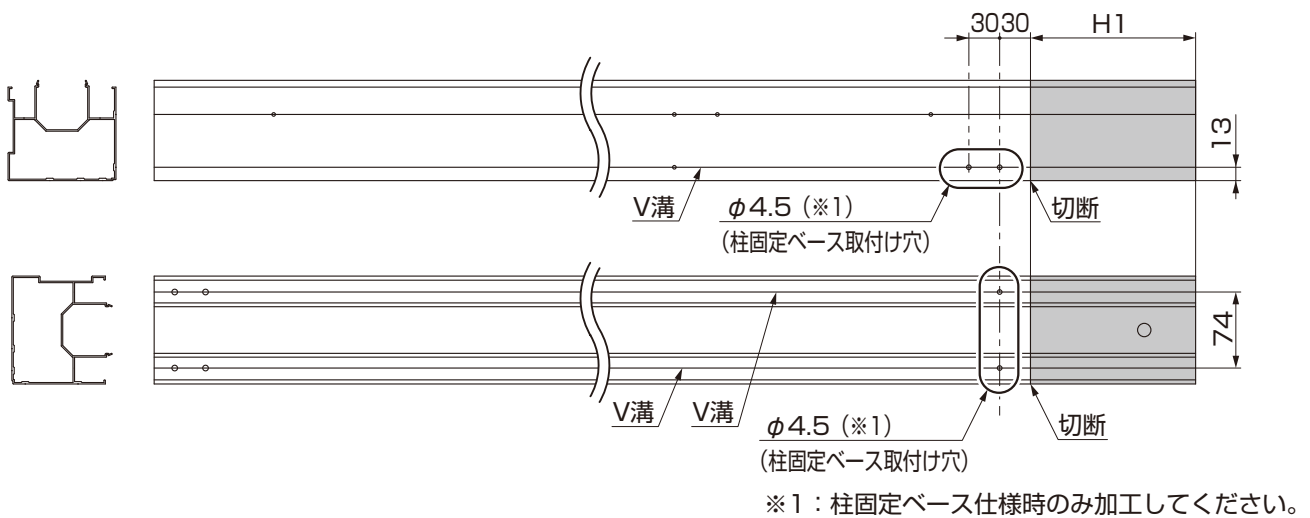


図3-1 主柱

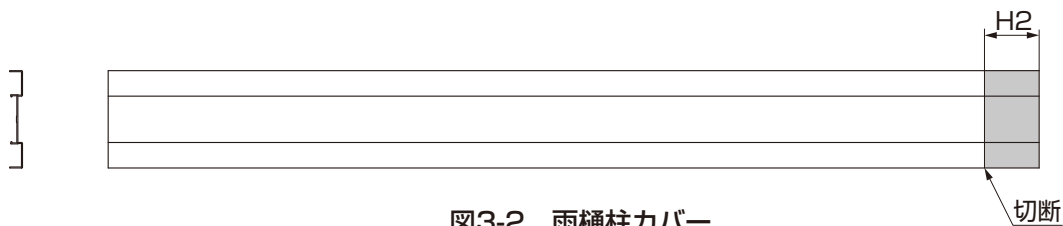


図3-2 雨樋柱カバー

表3-1 部材加工寸法

	H1		H2	
	埋込み仕様	柱固定ベース仕様	埋込み仕様	柱固定ベース仕様
H21	切断しない	553	95	98
H23				
H25				

①主柱、雨樋柱カバーを加工してください。

ポイント

●柱固定ベース仕様の柱の切断寸法は、G.L.~F.L.の最大の553mm (うち3mmはベースプレート板厚) を基準としています。束石上での柱固定ベース仕様では、表3-1の切断寸法に553mm- (現場のG.L.~F.L.寸法) 分を加えて柱を切詰めてください。

(2) ロング柱の場合 ※主柱の図は右用です。左用は左右対称です。

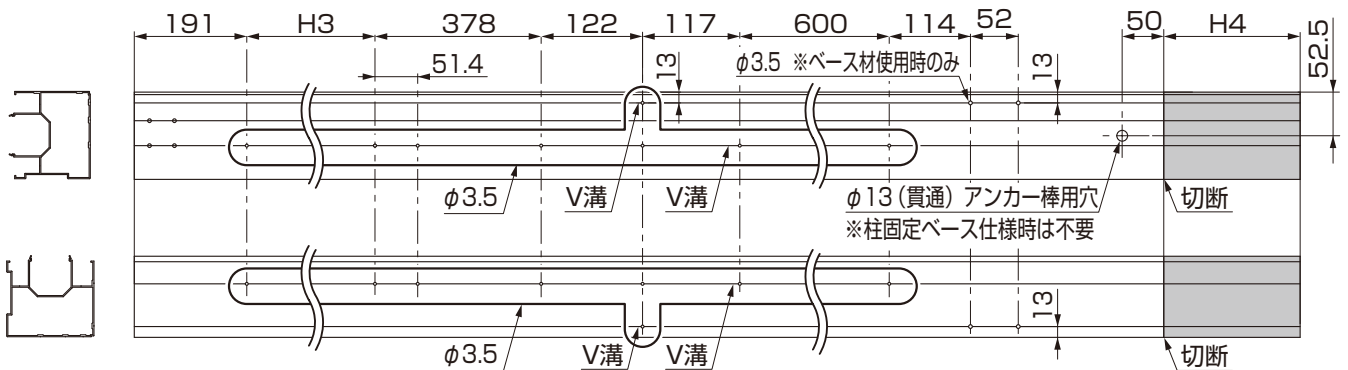


図3-3 主柱

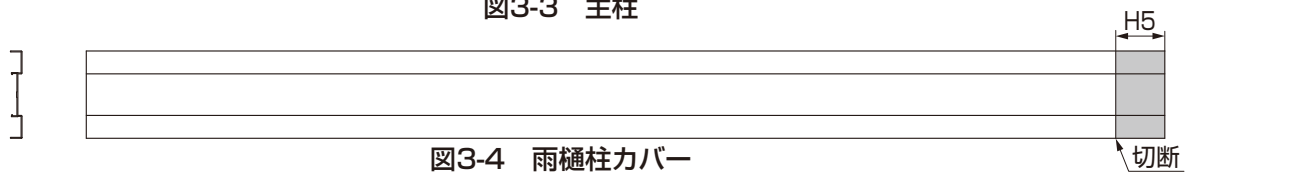


図3-4 雨樋柱カバー

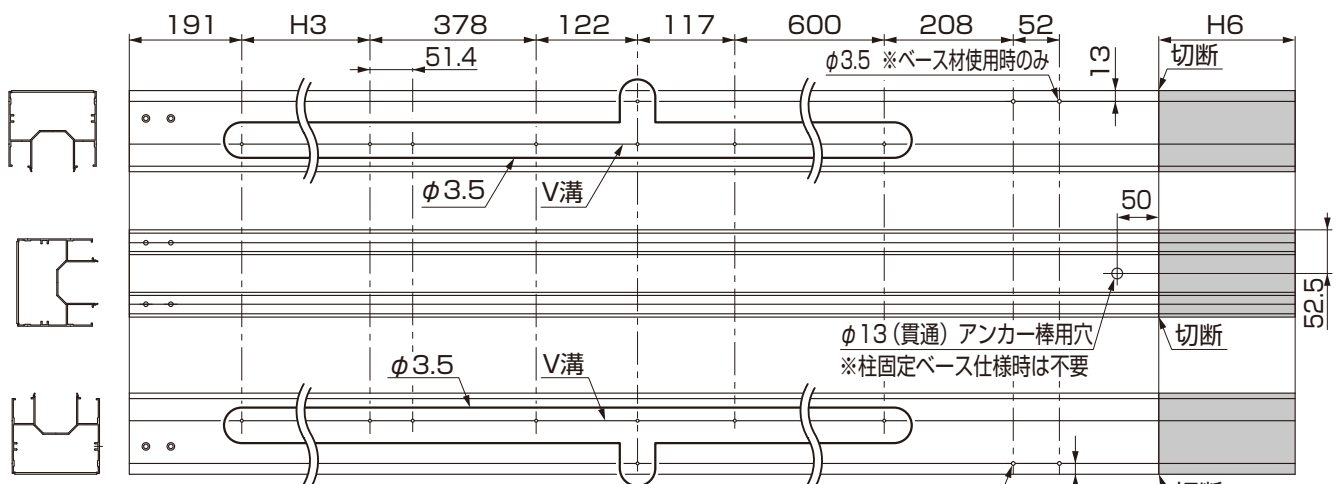


図3-5 中間柱・連棟柱 φ3.5 ※ベース材使用時のみ

表3-2

	H3
H21	682
H23	882
H25	1082

表3-3 部材加工寸法 ※ A=F.L.~G.L.寸法

	H4		H5		H6	
	埋込み仕様	柱固定ベース仕様	埋込み仕様	柱固定ベース仕様	埋込み仕様	柱固定ベース仕様
H21	$(550-A)+400$	$(550-A)+953$	$95+(550-A)+400$	$98+(550-A)+550$	$(550-A)+400$	$(550-A)+953$
H23	$(550-A)+200$	$(550-A)+753$	$95+(550-A)+200$	$98+(550-A)+550$	$(550-A)+200$	$(550-A)+753$
H25	$550-A$	$(550-A)+553$	$95+(550-A)$	$98+(550-A)+550$	$550-A$	$(550-A)+553$

①上図を参照して、各部材を加工してください。

ポイント

- 柱埋込みの深さは標準を550mmとしますが、最低450mm以上は確保してください。550mm未満にする場合、550mmとの差分を表3-3の切断長に加えて柱下端より必ず切詰めてください。(※1)
柱の埋込み寸法が550mmより浅くなる分、エクシオールの高さを高くできるものではありません。
例) 柱埋込み深さが500mmの場合：550mm-500mm=50mm→柱下端より50mm切断
- 柱固定ベース仕様の柱の切断寸法は、G.L.~F.L.の最大の553mm(うち3mmはベースプレート板厚)を基準としています。束石上での柱固定ベース仕様では、表3-3の切断寸法に550mm-(現場のG.L.~F.L.寸法)分を加えて柱を切詰めてください。
- ロング柱を埋込まずに束石上での柱固定ベース仕様では表3-3の切断寸法に550mm-(現場のG.L.~F.L.寸法)分を加えて柱を切詰めてください。
- 柱固定ベース仕様の場合、柱切断後に「6 本体の施工 3. 柱の取付け 3-2 柱の加工 (1) 標準柱の場合」の柱固定ベース取付け穴加工をしてください。

3. (つづき)

3-2 つづき

(3) 入隅ロング柱の場合 ※柱の図は右用です。左用は左右対称です。

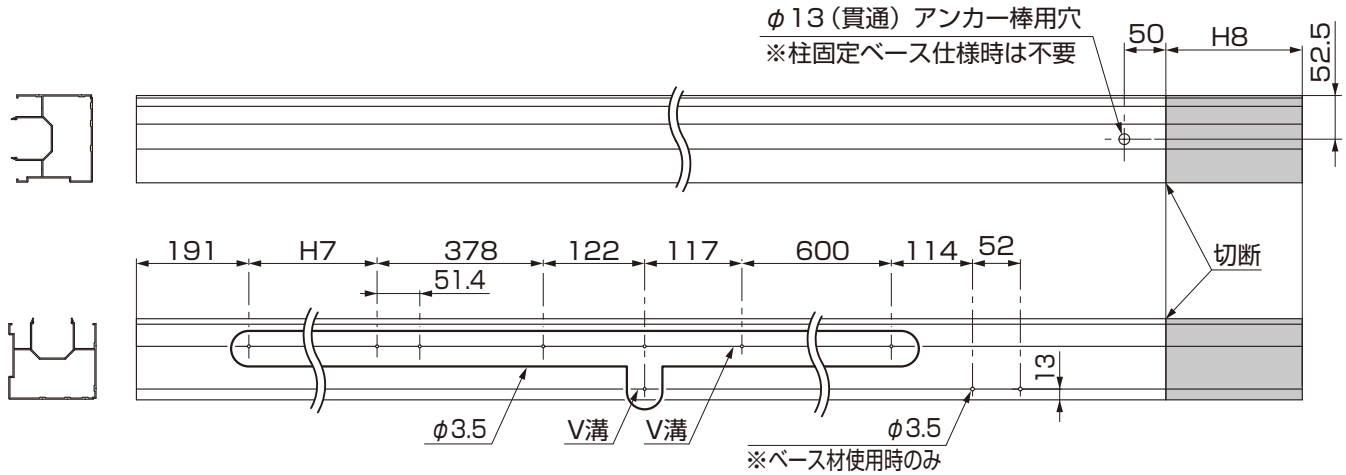


図3-6 主柱

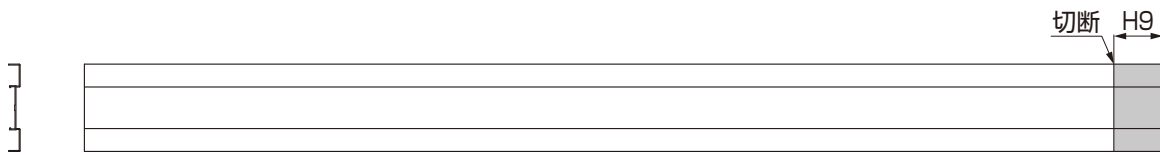


図3-7 雨樋柱カバー

表3-4

	H7
H21	682
H23	882
H25	1082

表3-5 部材加工寸法 ※ A=F.L.~G.L.寸法

	H8		H9	
	埋込み仕様	柱固定ベース仕様	埋込み仕様	柱固定ベース仕様
H21	$(550 - A) + 400$	$(550 - A) + 953$	$95 + (550 - A) + 400$	$98 + (550 - A) + 550$
H23	$(550 - A) + 200$	$(550 - A) + 753$	$95 + (550 - A) + 200$	$98 + (550 - A) + 550$
H25	$550 - A$	$(550 - A) + 553$	$95 + (550 - A)$	$98 + (550 - A) + 550$

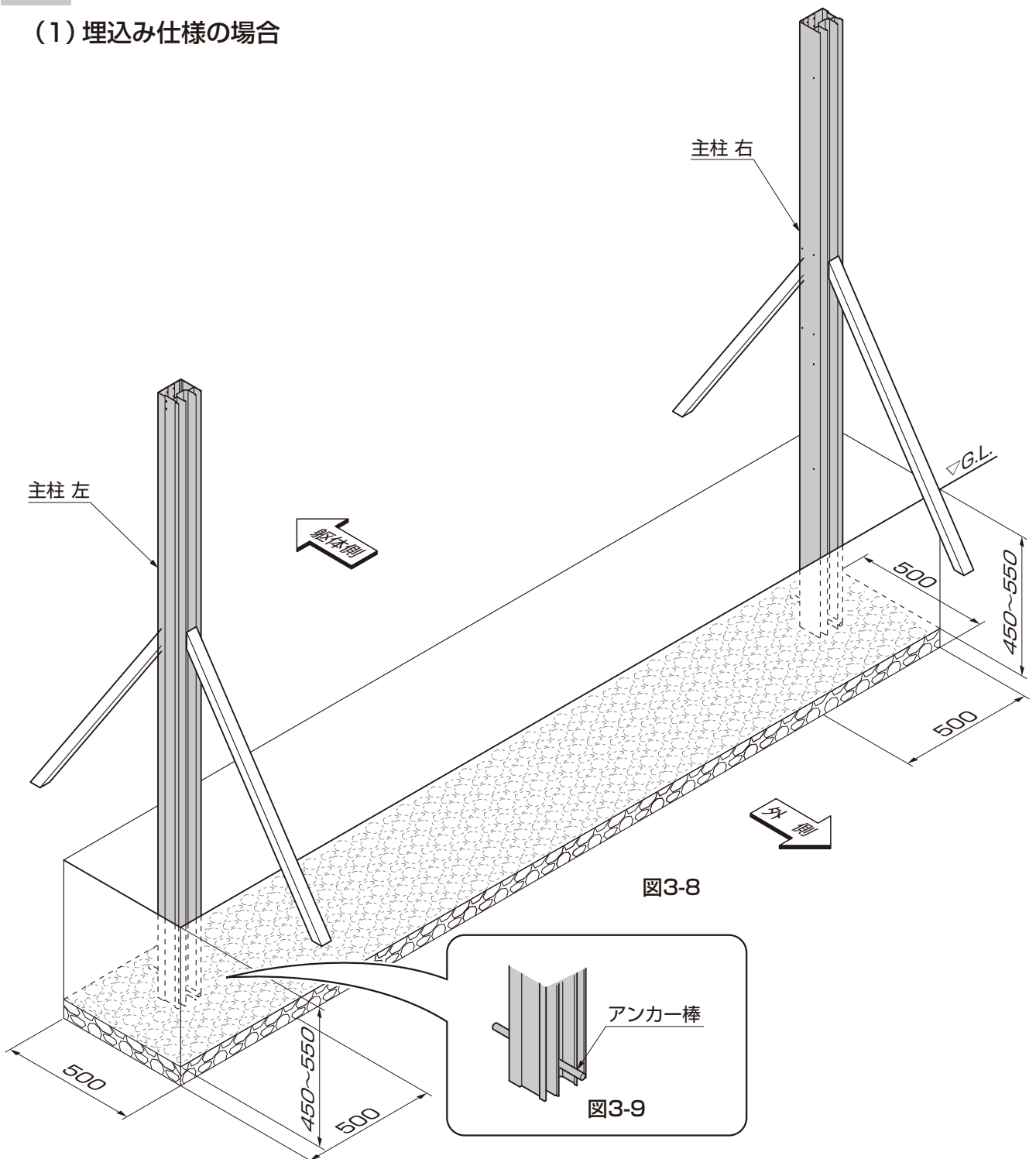
①上図を参照して、各部材を加工してください。

ポイント

- 柱埋込みの深さは標準を550mmとしますが、最低450mm以上は確保してください。550mm未満にする場合、550mmとの差分を表3-5の切断長に加えて柱下端より必ず切詰めてください。(※1)
柱の埋込み寸法が550mmより浅くなる分、エクシオールの高さを高くできるものではありません。
例) 柱埋込み深さが500mmの場合： $550\text{mm} - 500\text{mm} = 50\text{mm}$ →柱下端より50mm切詰
- 柱固定ベース仕様の柱の切断寸法は、G.L.~F.L.の最大の553mm(うち3mmはベースプレート板厚)を基準としています。束石上での柱固定ベース仕様では、表3-5の切断寸法に550mm-(現場のG.L.~F.L.寸法)分を加えて柱を切詰めてください。
- ロング柱を埋込まずに束石上での柱固定ベース仕様では表3-5の切断寸法に550mm-(現場のG.L.~F.L.寸法)分を加えて柱を切詰めてください。
- 柱固定ベース仕様の場合、柱切断後に「6 本体の施工 3. 柱の取付け 3-2 柱の加工 (1) 標準柱の場合」の柱固定ベース取付け穴加工をしてください。

3-3 柱の建込み

(1) 埋込み仕様の場合



- ①柱にアンカー棒を差込み「2 基本寸法と各部名称 1. 基本寸法」を参照して建込んでください。
- ②柱が倒れないように、カイモノ等で仮固定してください。

ポイント

- 柱を固定するカイモノ等は現場で調達してください。

3. (つづき)

3-3 つづき

(2) 柱固定ベース仕様の場合

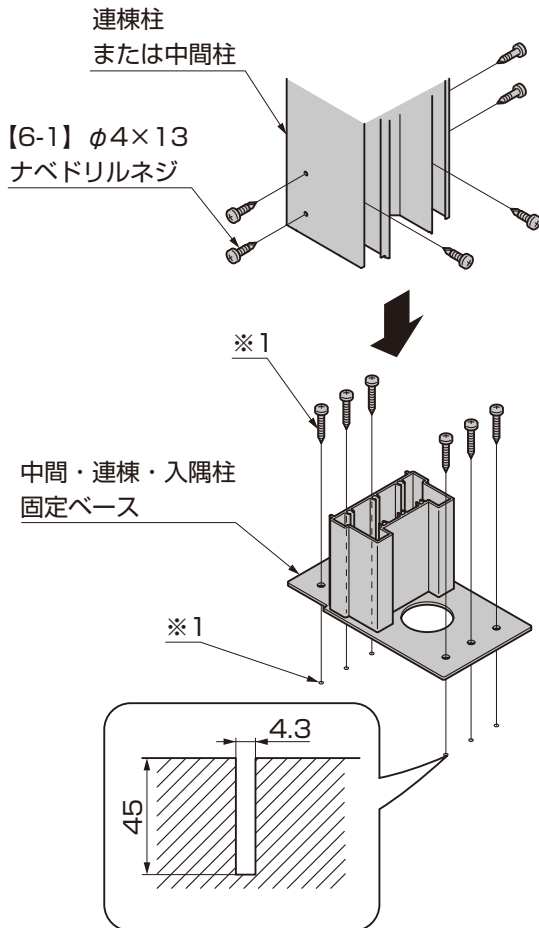


図3-10 連棟柱または中間柱または入隅時の主柱の固定

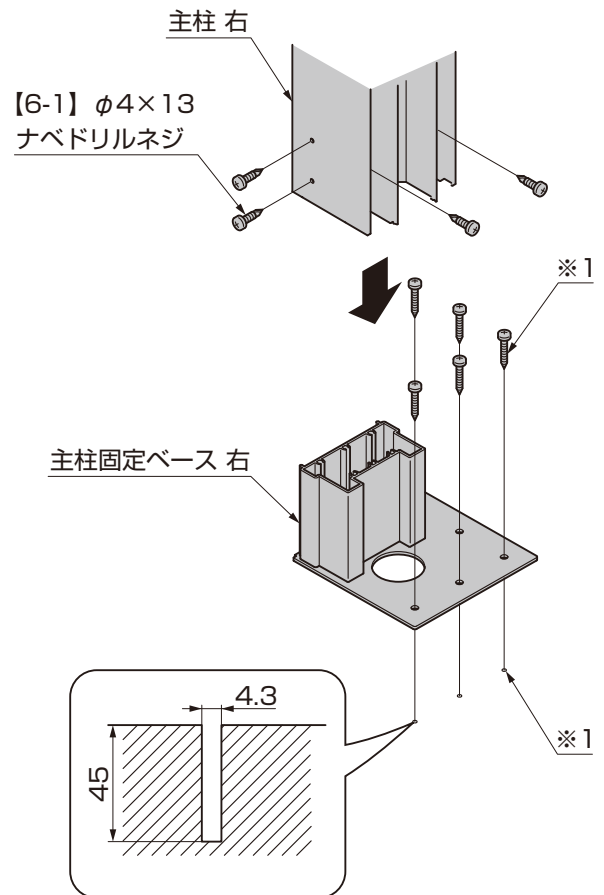


図3-11 主柱(右用)の固定

表 3-6 (※1) 柱固定ベース取付けネジ一覧

	取付けネジ	下穴・深さ
土間・ 束柱用	【6-2】φ5×35 ナベセルフタップアンカー	φ4.3・ 45mm
	【6-3】φ4.5×63 丸木ネジ	

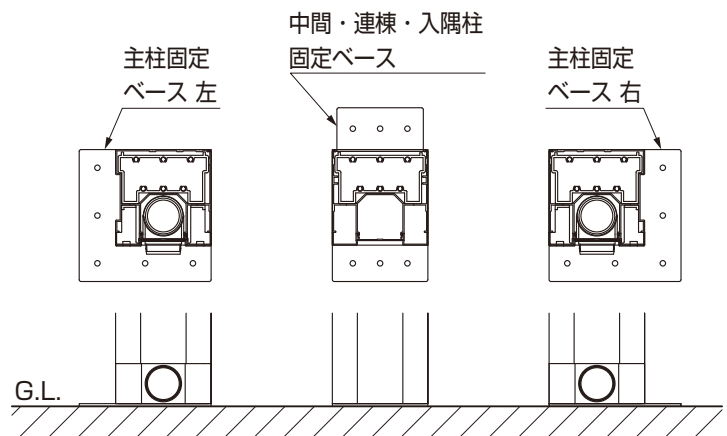


図3-12 柱固定ベース位置関係

- ①柱固定ベースを柱に【6-1】で取付けてください。
- ②柱固定ベースを仮止めしてください。

⚠ 注意

- 土間に固定する際は、土間の強度(必要な基礎厚、RC、鉄筋の入り)を確認してください。
- 柱固定ベースの左右を間違えないよう、注意してください。(図3-12参照)

4. 桁の組立て

4-1 桁の加工 ※基本仕様で施工する場合は加工が不要です。

(1) 連棟仕様の場合

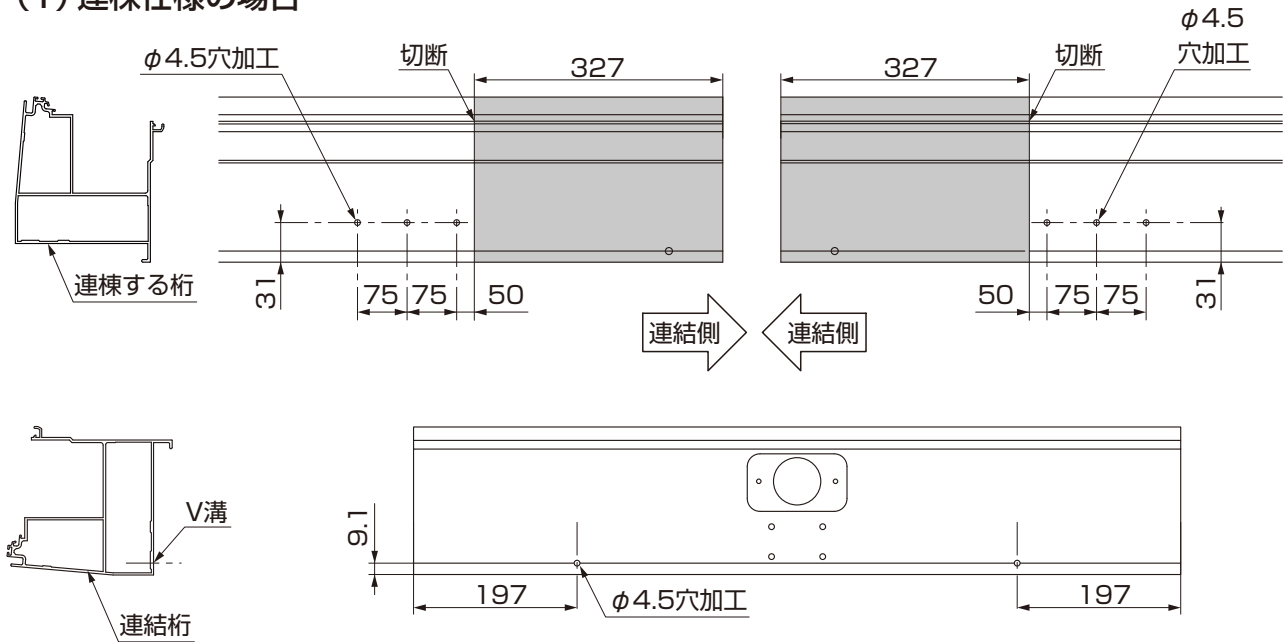


図4-1

①図4-1を参照して、桁、連結桁を加工してください。

ポイント

●屋根材受けを切断しないように注意してください。

(2) 積雪仕様の場合

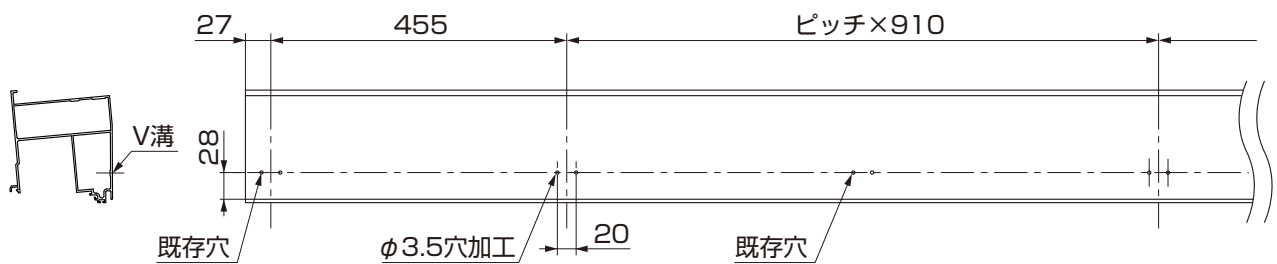


図4-2

①図4-2を参照して、桁にφ3.5の穴加工をしてください。

4. (つづき)

4-2 連棟仕様、中間柱仕様、積雪仕様の場合の桁の組立て

(1) 連棟仕様の場合

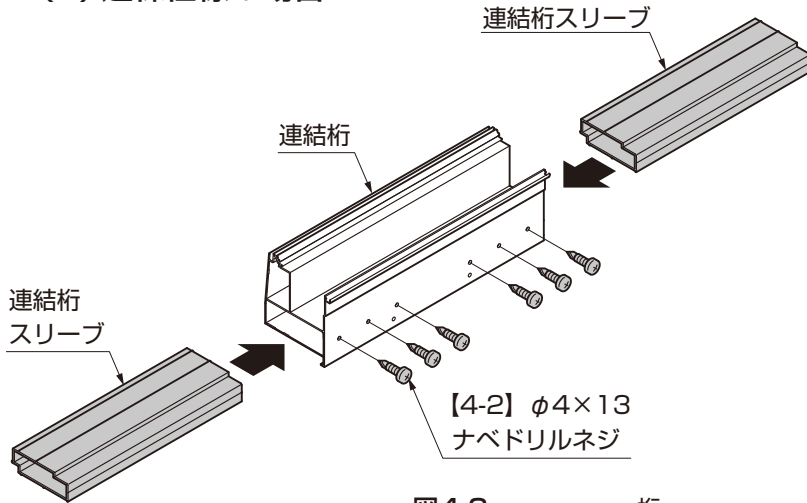


図4-3

① 連結桁スリーブを連結桁に【4-2】で取付けてください。

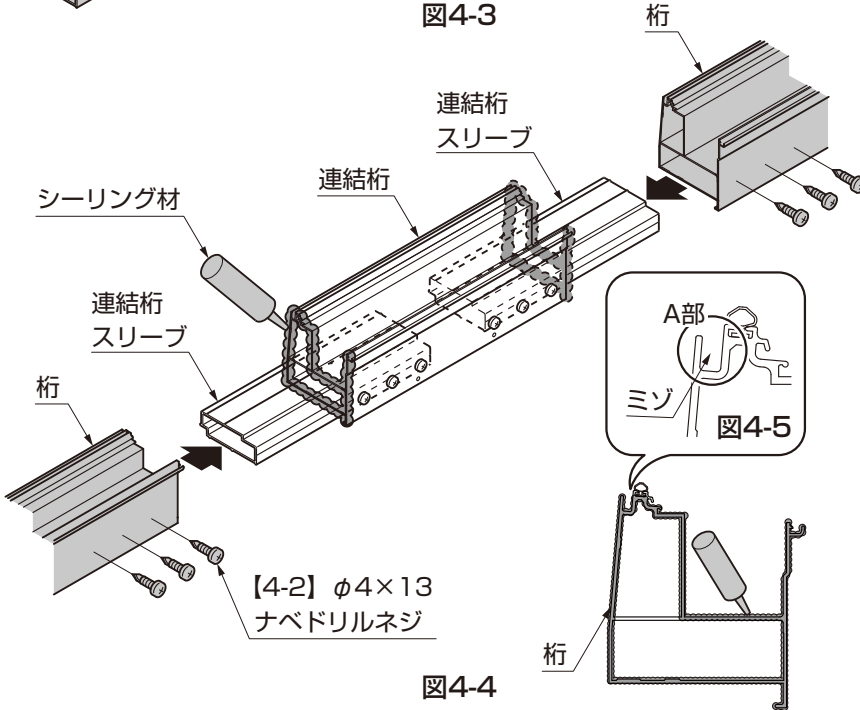


図4-4

② 連結桁の端部にシーリングしてください。

③ 加工した桁を連結桁スリーブに【4-2】で取付けてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図4-5参照)

【1-13】φ4×14
トラスタッピンネジ3種

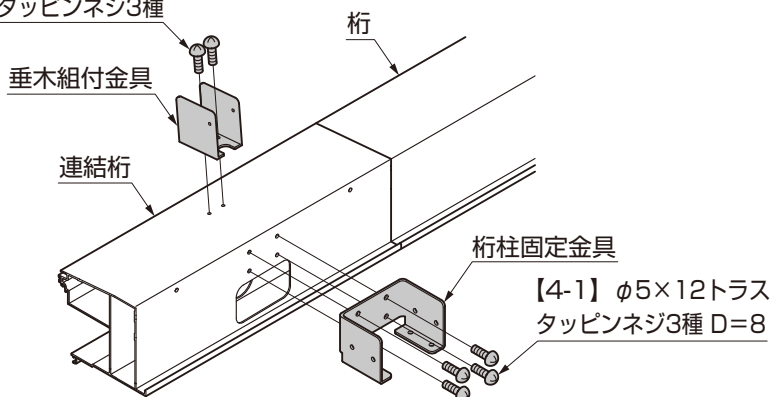


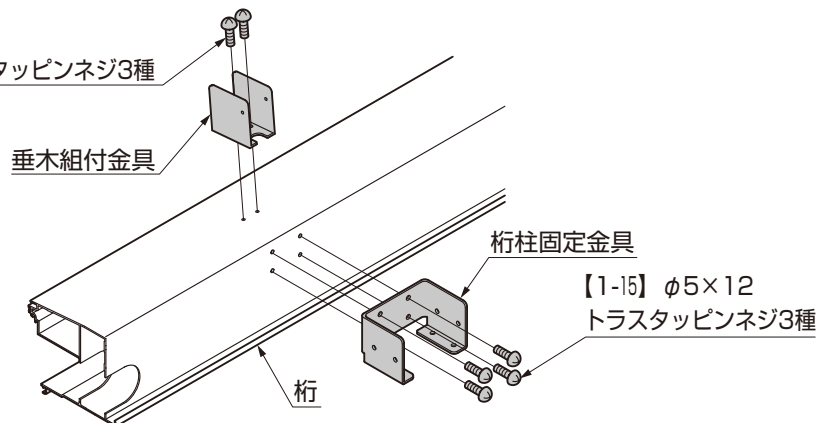
図4-6

④ 桁柱固定金具を連結桁に【4-1】で取付けてください。

⑤ 垂木組付金具を連結桁に【1-13】で取付けてください。

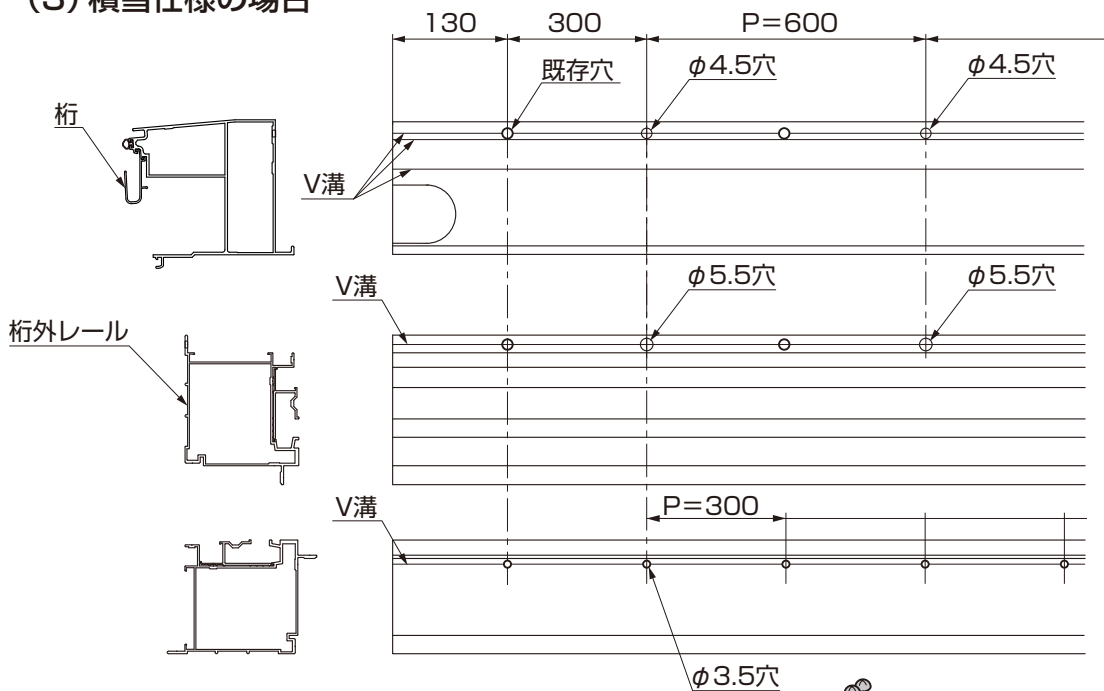
(2) 中間柱仕様の場合

【1-13】 $\phi 4 \times 14$ トラストッピンネジ3種

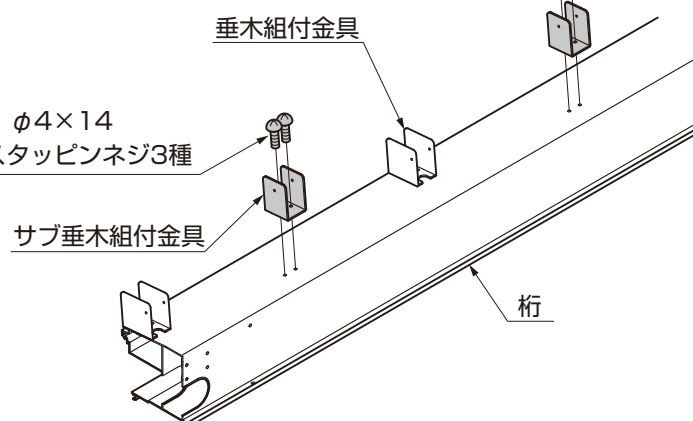


- ① 桁柱固定金具を桁に【1-15】で取付けてください。
- ② 垂木組付金具を切欠きがある側を下にして桁に【1-13】で取付けてください。

(3) 積雪仕様の場合



【9-1】 $\phi 4 \times 14$
トラストッピンネジ3種



- ① 桁に $\phi 4.5$ の下穴と桁外レールに $\phi 5.5$ と $\phi 3.5$ の下穴をあけてください。
- ② サブ垂木組付金具を桁に【9-1】で取付けてください。

4. (つづき)

4-3 桁の組立て

(1) 垂木組付金具の取付け

【1-13】 φ4×14
トラスタッピンネジ3種

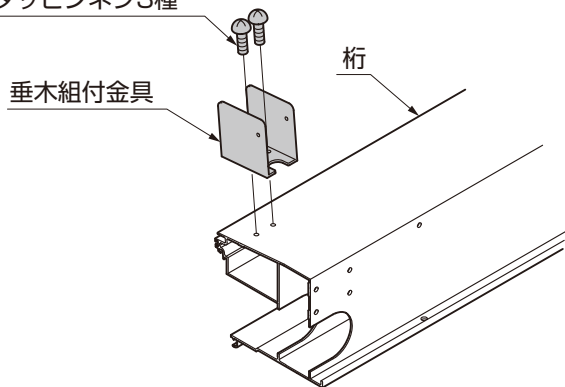
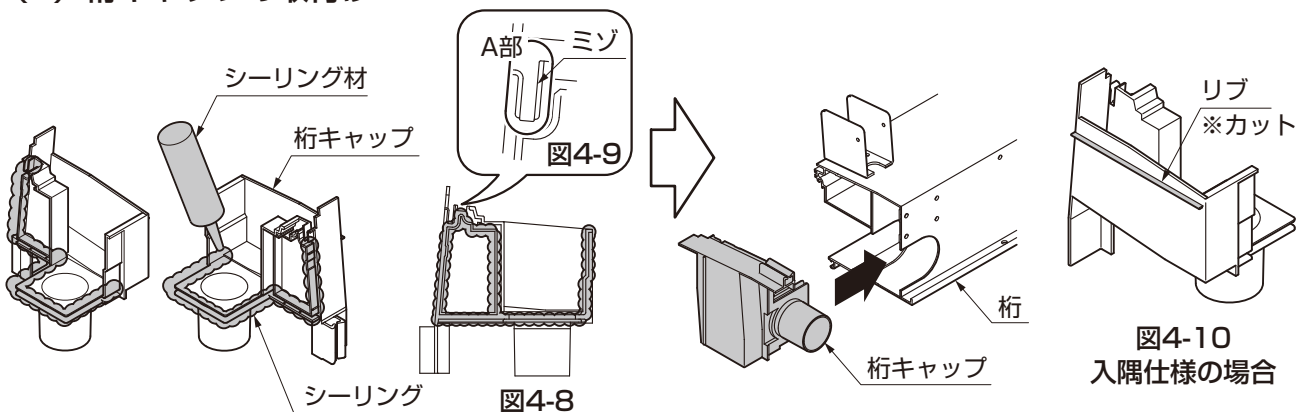


図4-7

①垂木組付金具を切欠きがある方を下にして桁に【1-13】で取付けてください。

(2) 桁キャップの取付け



- ①桁キャップにシーリングしてください。
- ②桁キャップを桁の切欠きに当るように奥まで差込んでください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図4-9参照)
- 入隅仕様の場合、入隅側に取付ける桁キャップのリブをカットしてください。(図4-10参照)

(3) 桁柱固定金具の取付け

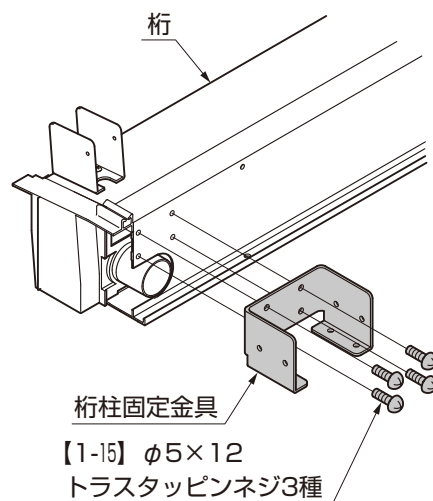


図4-11

①桁柱固定金具を桁に【1-15】で取付けてください。

(4) 桁外レールの取付け（基本仕様の場合）

ポイント

●中間-連棟柱を建てる場合は、この作業はまだ行なわないでください。

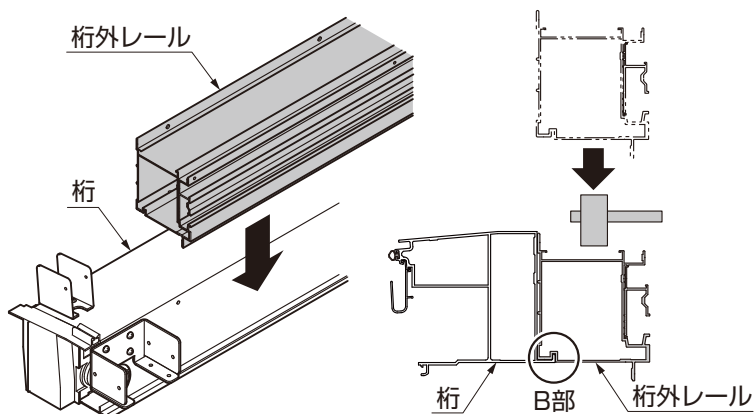


図4-12

①桁と桁外レールをB部のようにはめ合わせ、プラスチックハンマーなどでしっかりと組付けてください。

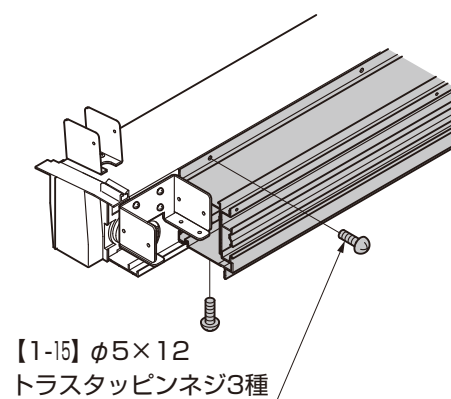


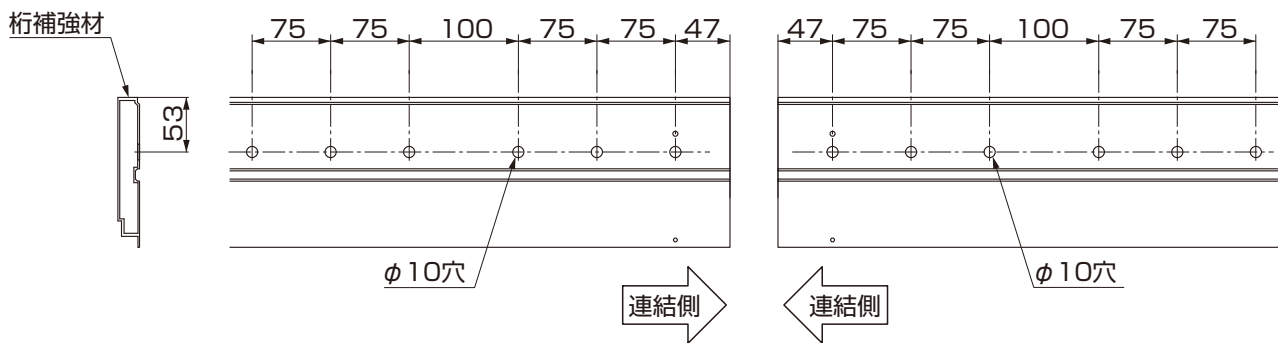
図4-13

②桁と桁外レールを【1-15】で固定してください。

4. (つづき)

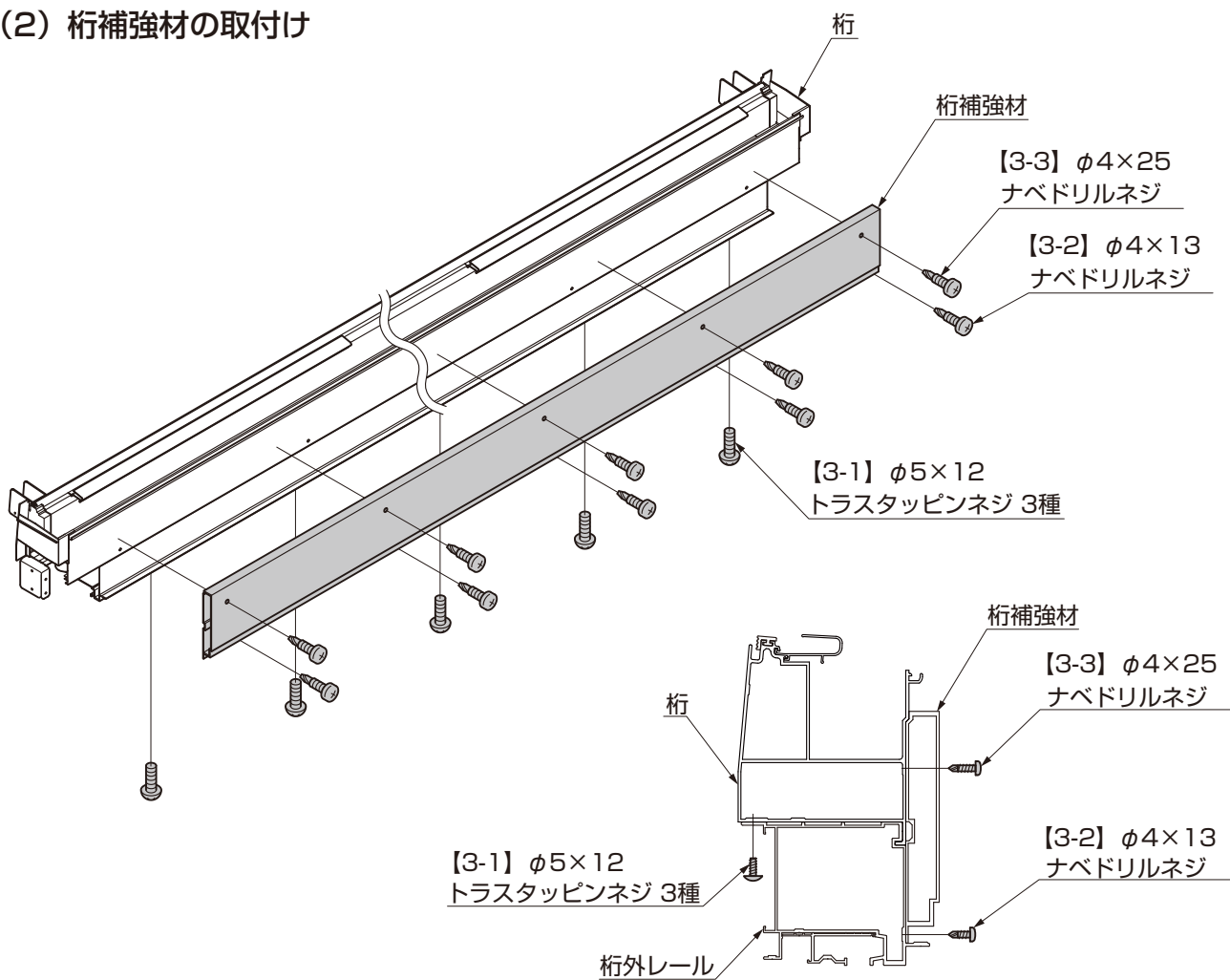
4-4 桁補強材の取付け ※積雪仕様の場合の作業です。

(1) 連棟仕様の場合



① 桁補強材にφ10の穴をあけてください。

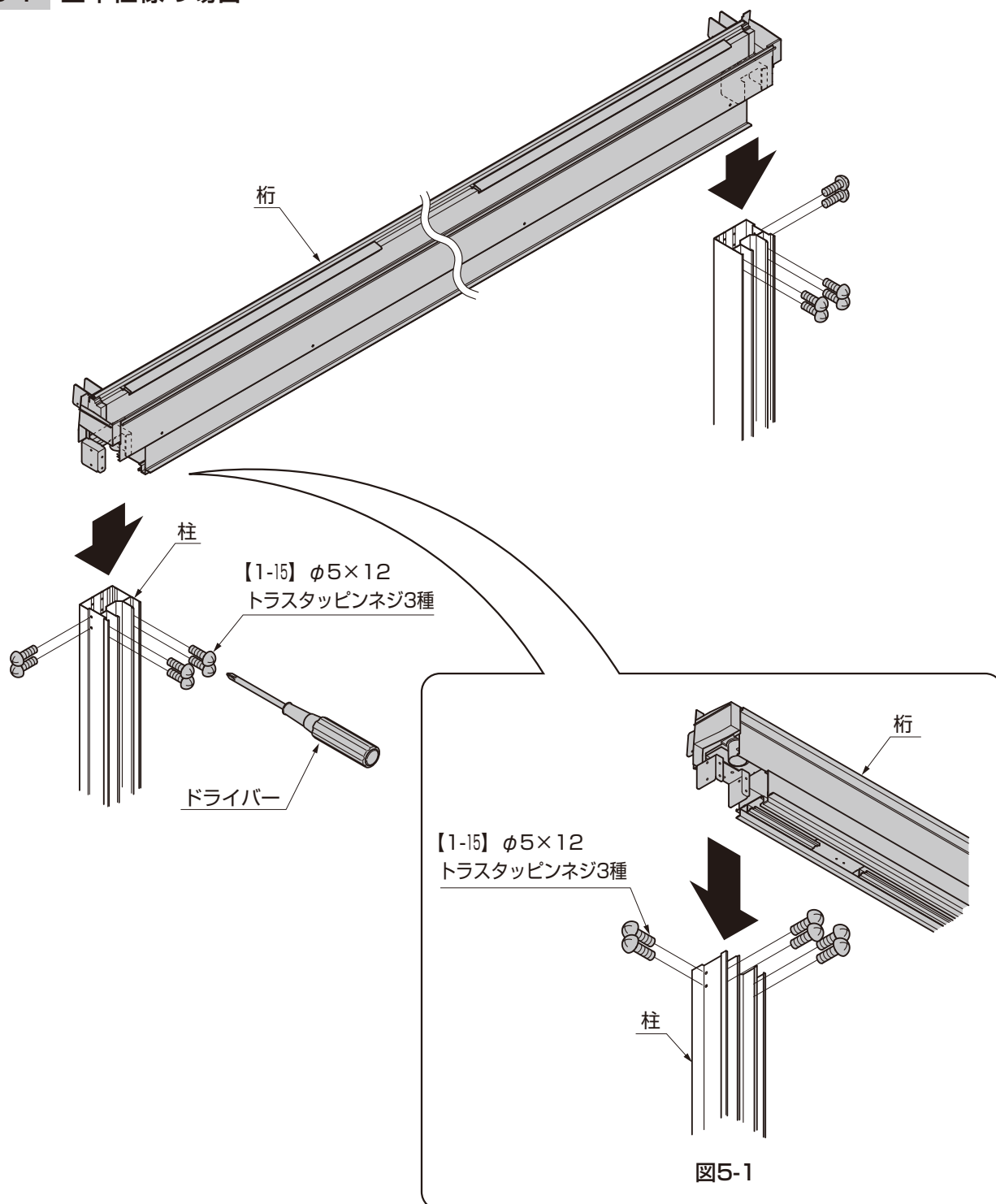
(2) 桁補強材の取付け



- ① 桁補強材を桁に【3-3】で取付けてください。
- ② 桁補強材を桁外レールに【3-2】で取付けてください。
- ③ 桁外レールと桁を【3-1】で再度固定してください。

5. 桁の取付け

5-1 基本仕様の場合



①桁を柱に【1-15】で取付けてください。

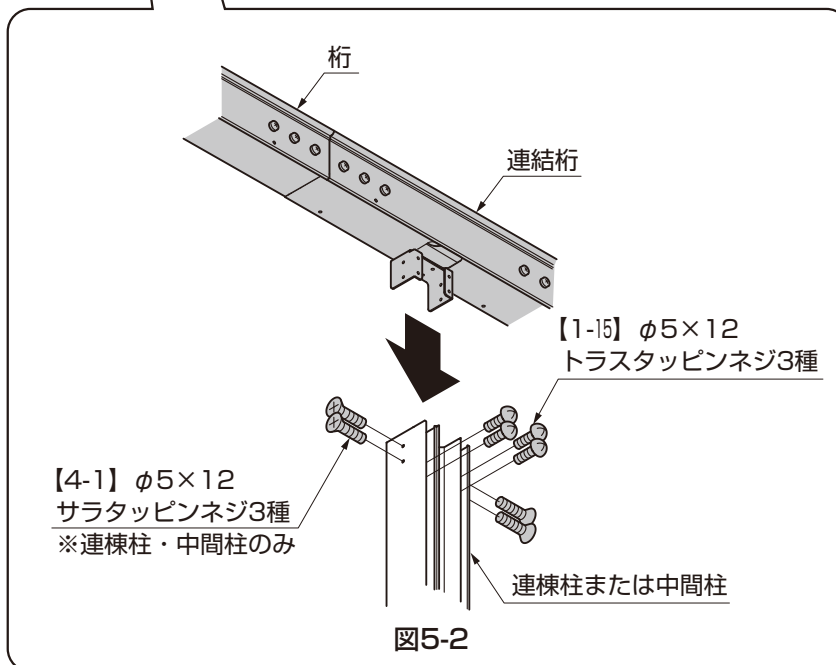
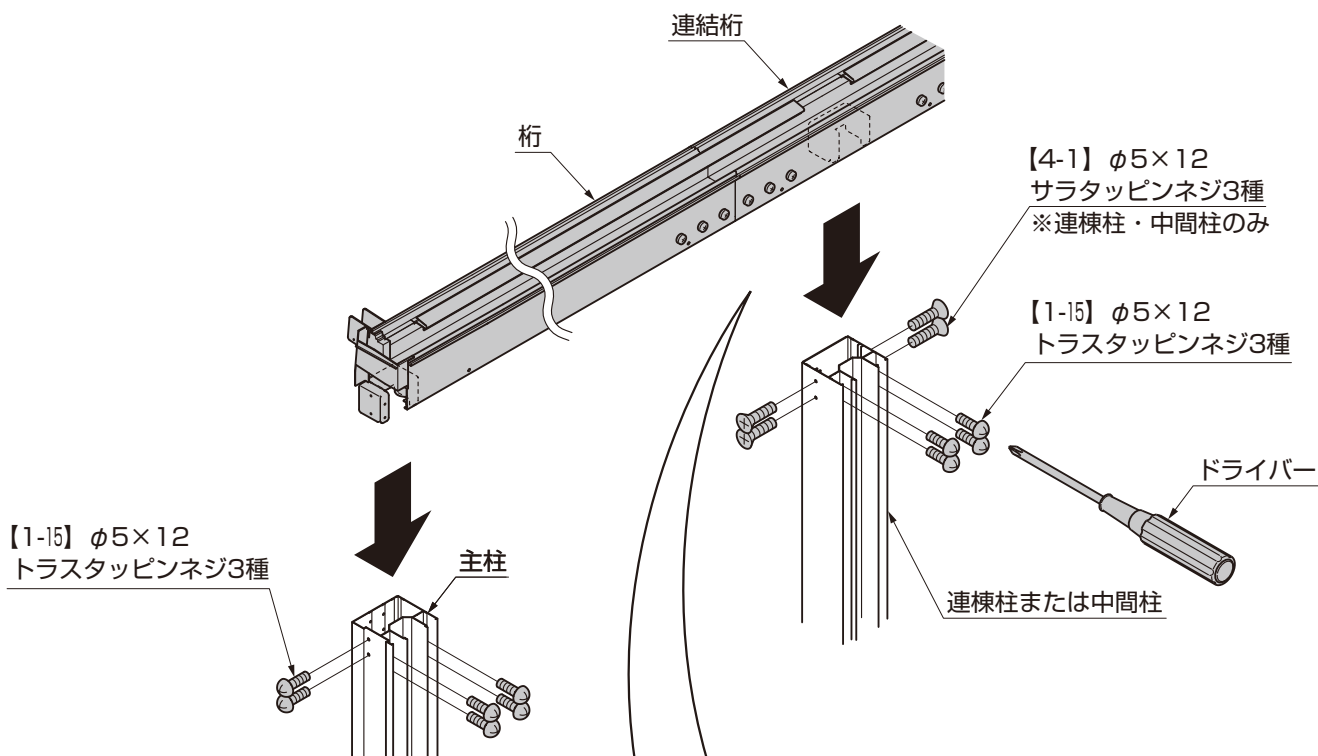
ポイント

●桁を柱に取付ける際は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

5. (つづき)

5-2 連棟仕様または、中間柱を使用する場合

(1) 桁の取付け



① 桁を柱、連棟柱または、中間柱に【4-1】、【1-15】で取付けてください。

ポイント

- 桁を連棟柱または、中間柱に取付ける際は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

(2) 桁外レールの取付け

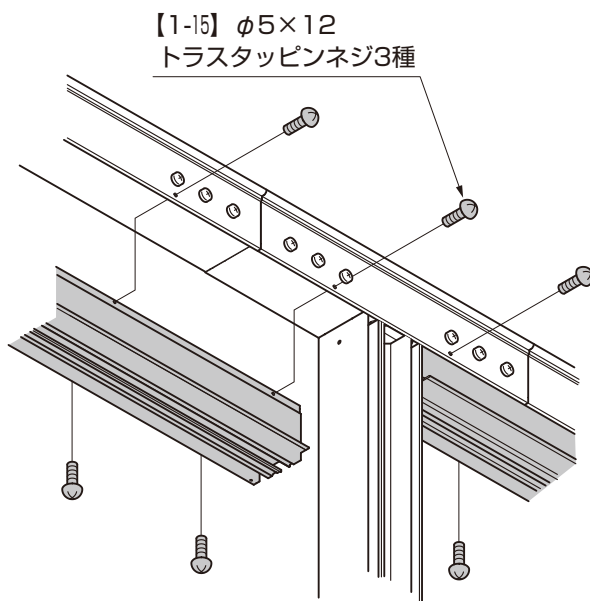
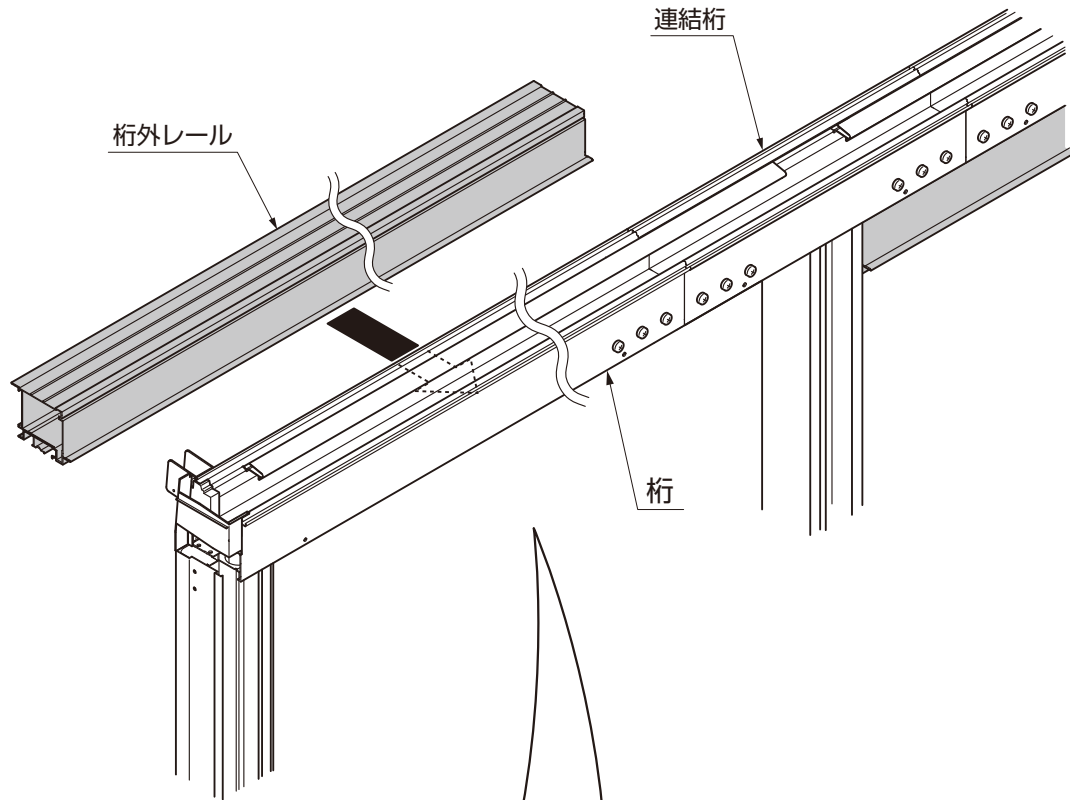


図5-3

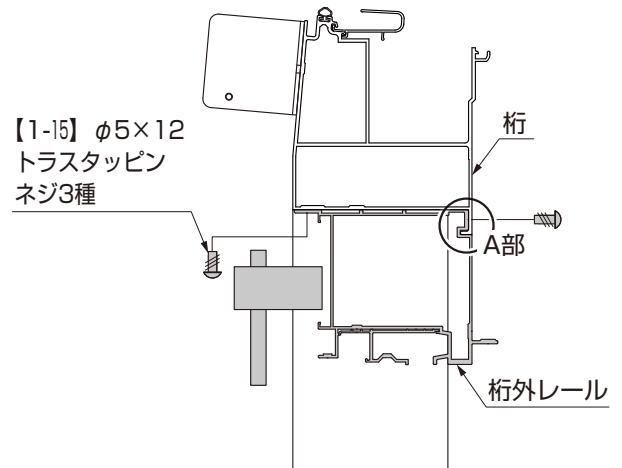


図5-4

- ① 桁と桁外レールをA部のようにはめ合わせ (A部)、プラスチックハンマーなどでしっかりと組付けてください。
- ② 桁と桁外レールを【1-15】で固定してください。

6. 垂木の取付け

6-1 出幅違い仕様の場合の加工

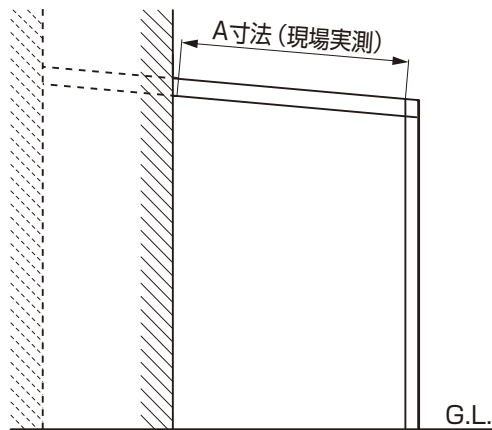


図6-1

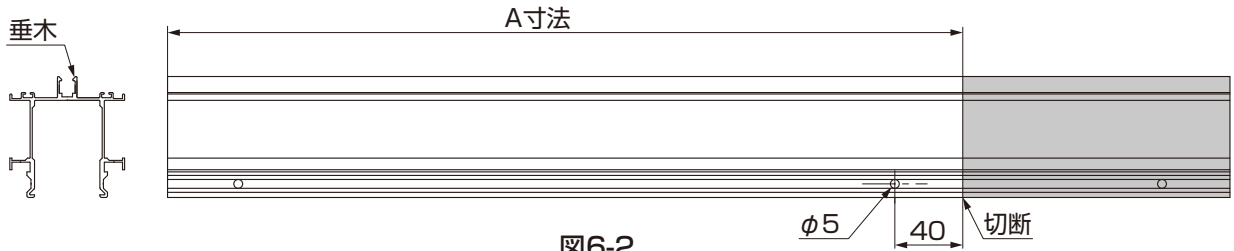


図6-2

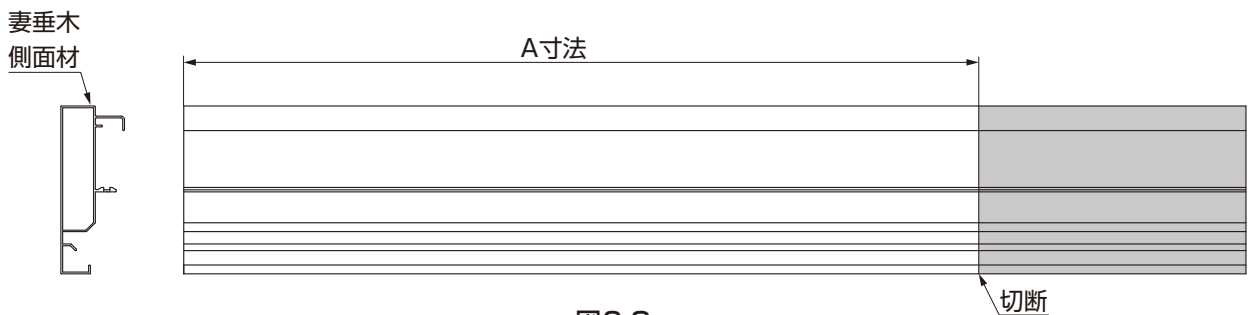


図6-3

- ① A寸法を実測してください。
- ② 垂木を加工してください。
- ③ 妻垂木側面材を加工してください。

6-2 パネル緩衝材の貼付け

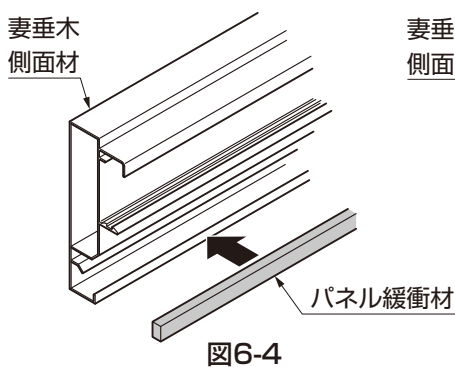


図6-4

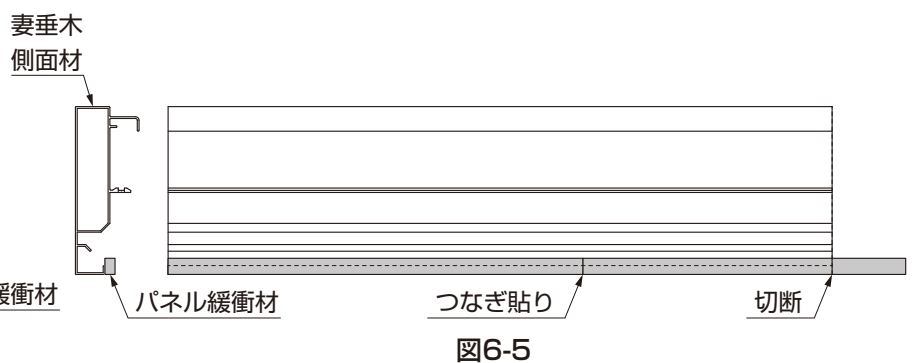


図6-5

- ① パネル緩衝材を妻垂木側面材の下面に合わせて貼付けてください。

6-3 基本仕様の場合の取付け

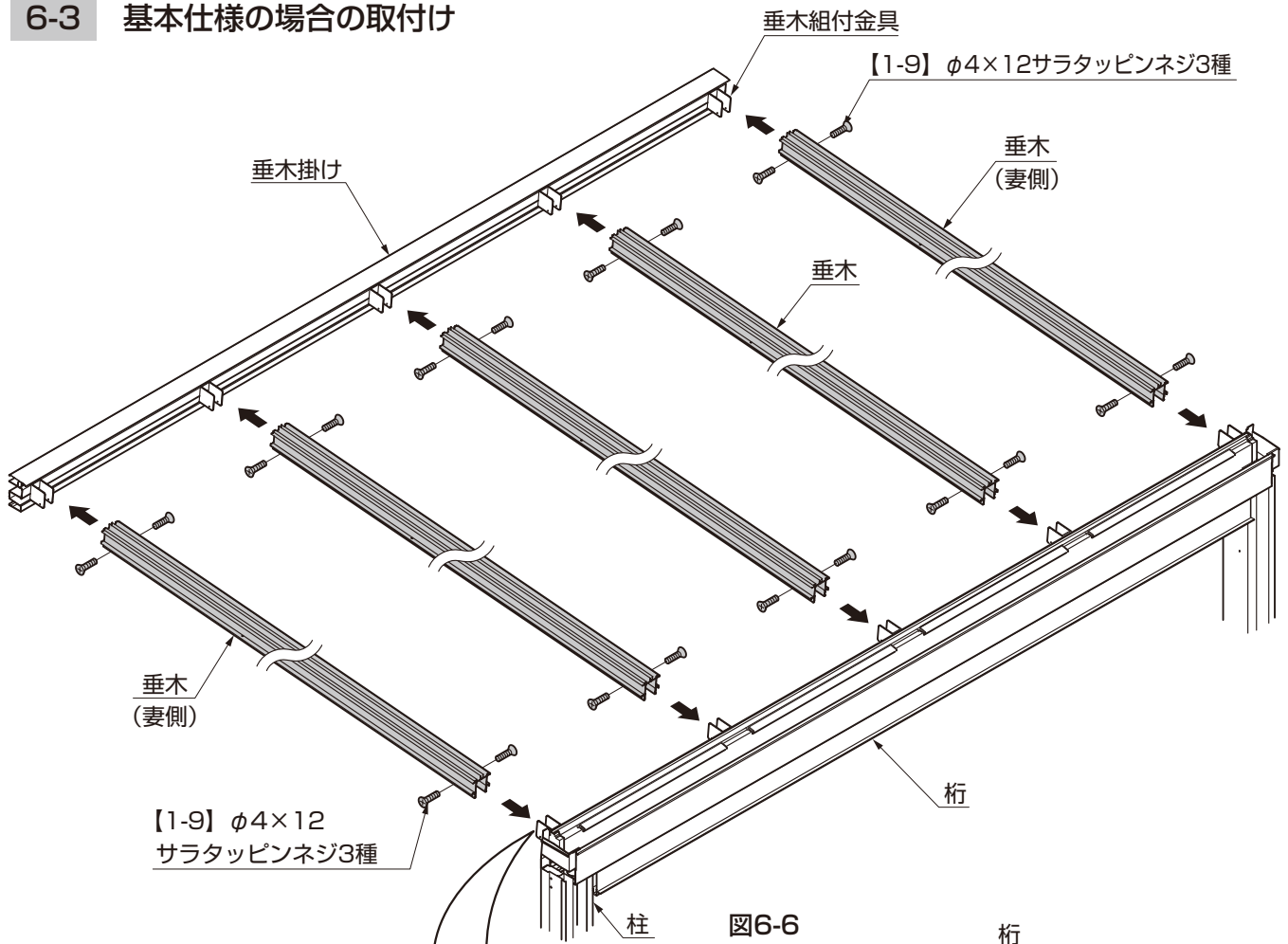


図6-6

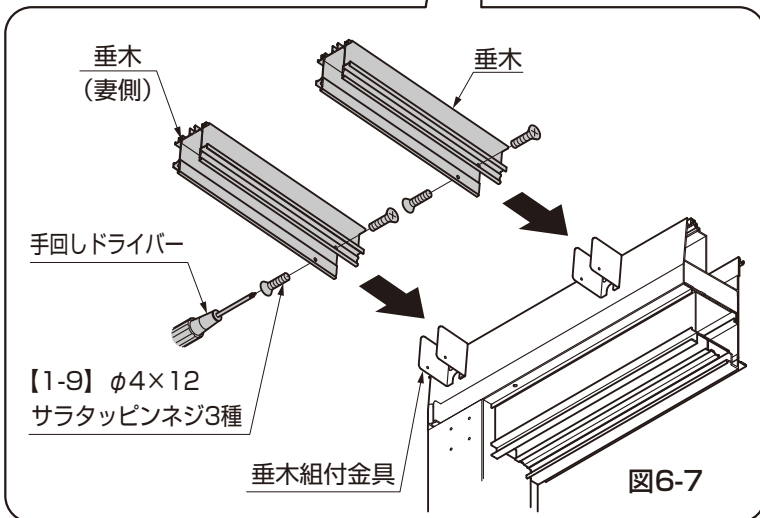


図6-7

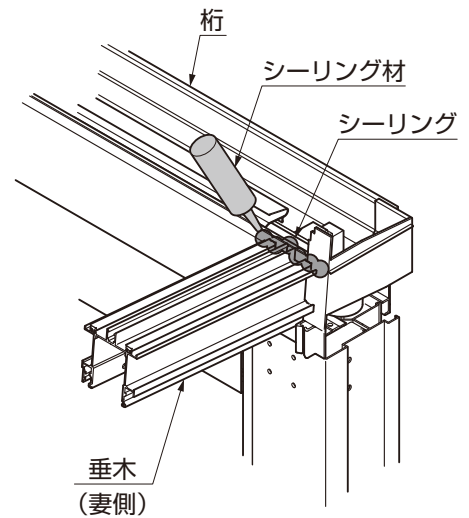


図6-8

- ①垂木を垂木組付金具に【1-9】で取付けてください。
- ②妻側の垂木と桁の接する上面にシーリングをしてください。(図6-8参照)

ポイント

- 【1-9】を取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。
- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

6. (つづき)

6-4 積雪仕様の場合の取付け

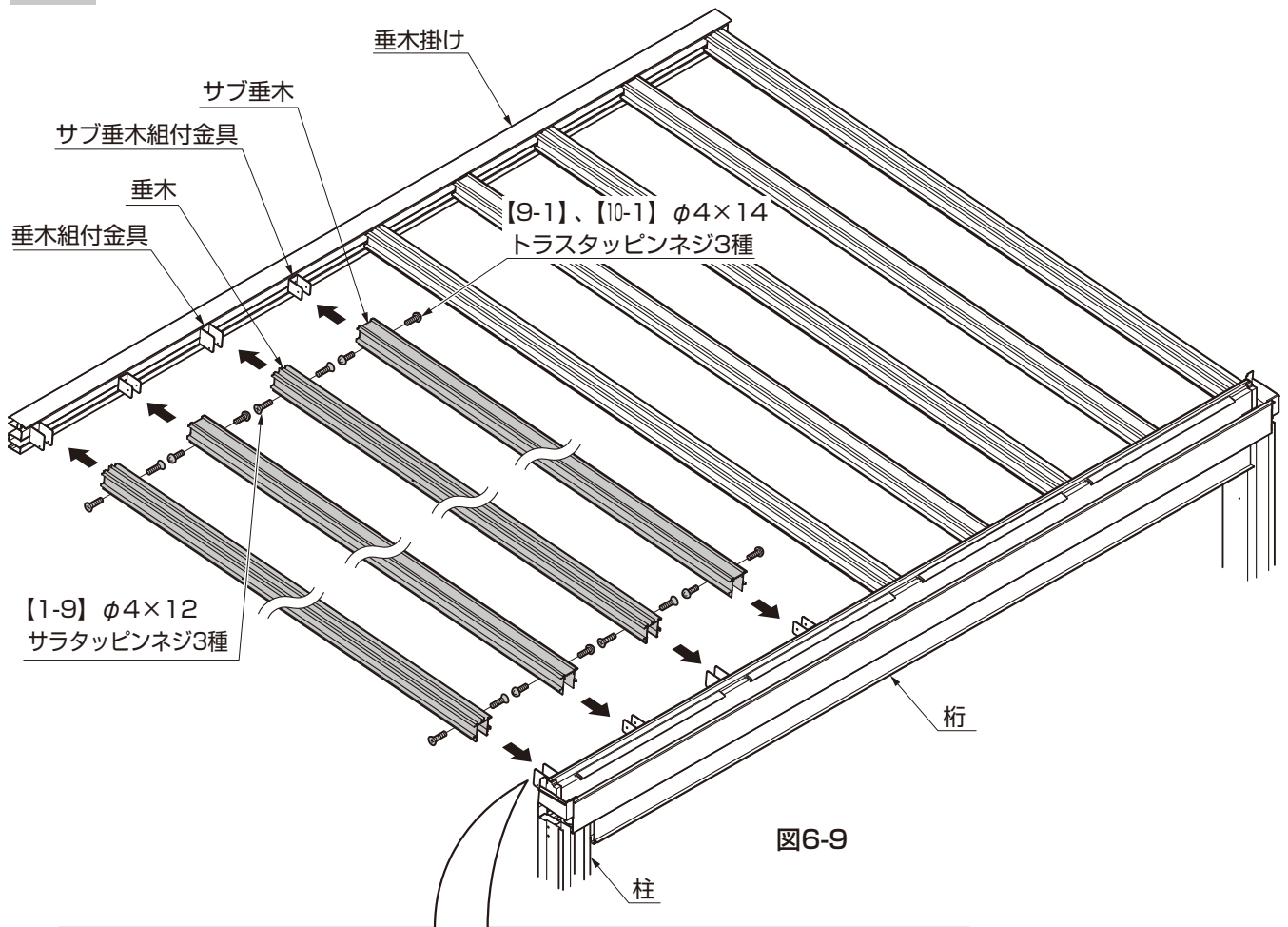


図6-9

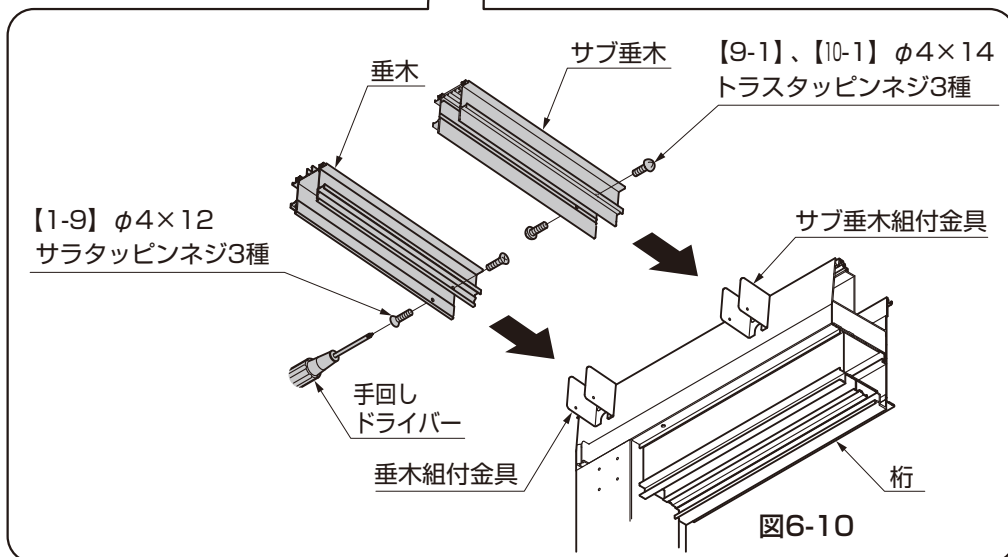


図6-10

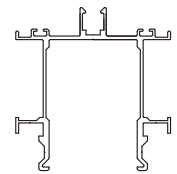


図6-11 垂木

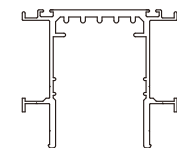


図6-12 サブ垂木

- ①垂木を垂木組付金具に【1-9】で取付けてください。
- ②サブ垂木をサブ垂木組付金具に【9-1】、【10-1】で取付けてください。

ポイント

- 【1-9】、【9-1】、【10-1】を取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

6-5 入隅仕様の場合の取付け

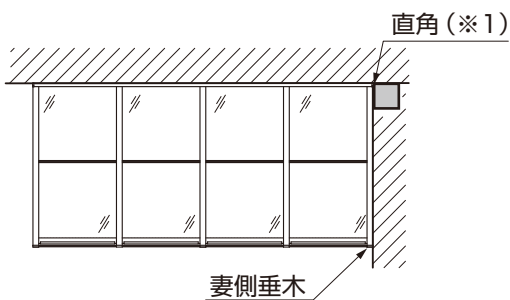


図6-13 上面図

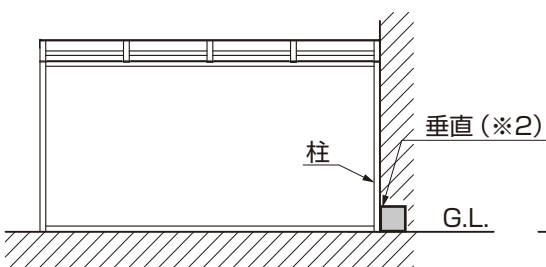


図6-14 正面図

表6-1

加工穴n	
6R	4
8R	5
10R	6

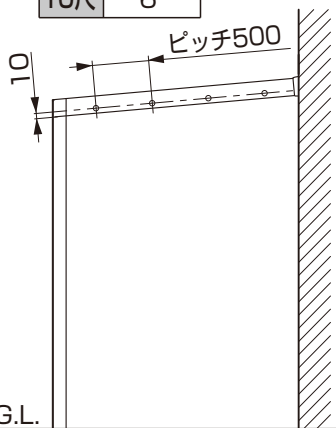


図6-15 側面図

ポイント

- 躯体外壁の直角度(※1)、垂直度(※2)に狂いが生じている場合は、取付けることができませんので、修正してください。修正時の部材については、現場で手配してください。(図6-13、図6-14参照)

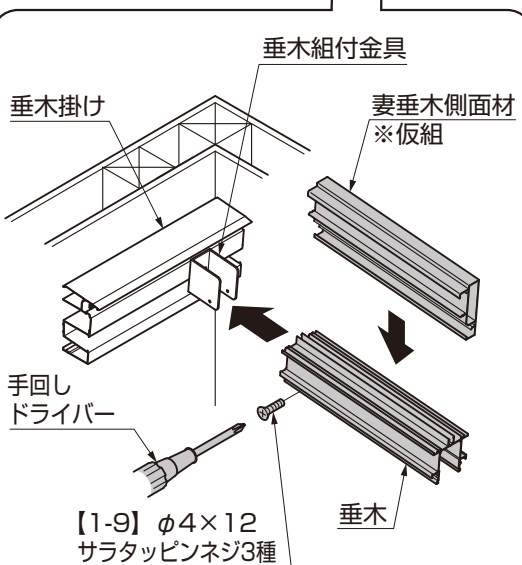
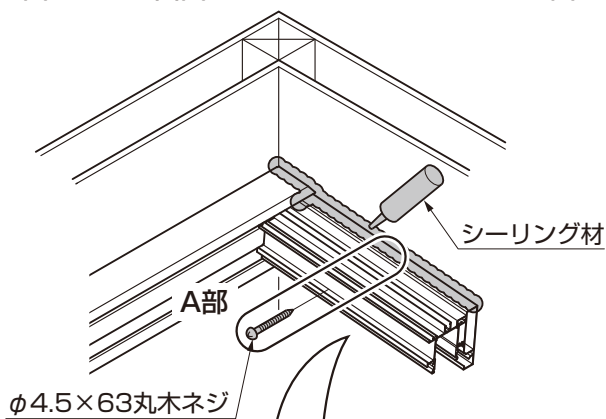


図6-16

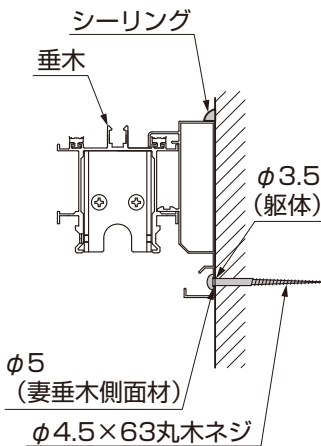


図6-17 A部詳細図

ポイント

- φ4.5×63丸木ネジは現場で手配してください。
- 指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- シーリング材は現場で手配してください。
- 【1-9】で取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

- ① 妻垂木側面材を垂木に固定しない仮組状態にして垂木を垂木組付金具に、【1-9】で取付けてください。(図6-16参照)
- ② 入隅側妻垂木側面材にφ5の穴をあけてください。(図6-17参照)
- ③ 躯体に妻垂木側面材取付用のφ3.5の下穴をあけてください。(図6-17参照)
- ④ 妻垂木側面材と躯体を、「φ4.5×63丸木ネジ」で取付けてください。
- ⑤ 妻垂木側面材と躯体の組み合わせ部に、シーリングをしてください。

6. (つづき)

6-6 出幅違い仕様の場合の取付け

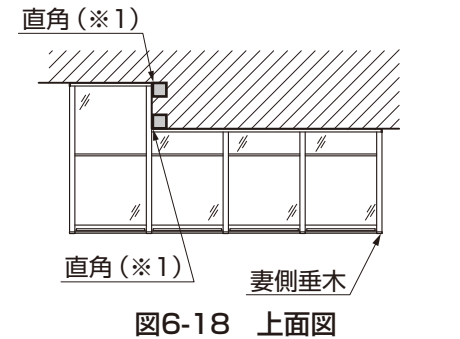


図6-18 上面図

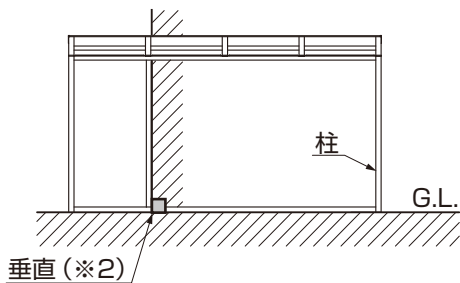


図6-19 正面図

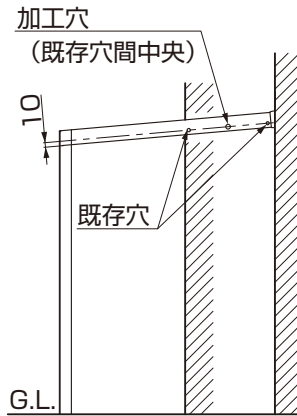


図6-20 側面図

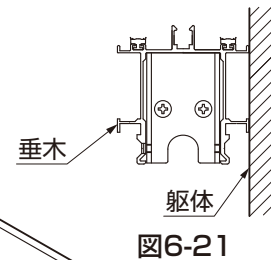


図6-21

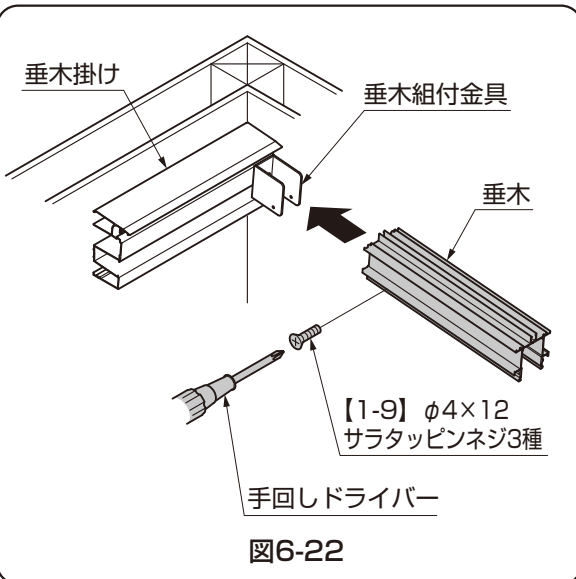
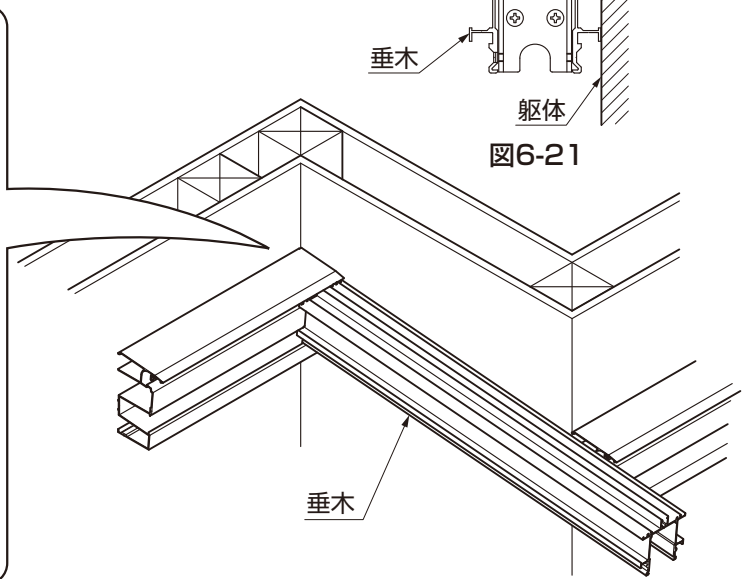


図6-22



ポイント

●躯体外壁の直角度(※1)、垂直度(※2)に狂いが生じている場合は、取付けることができませんので、修正してください。修正時の部材については、現場で手配してください。(図6-18、図6-19参照)

①垂木を垂木組付金具に、【1-9】で取付けてください。(図6-22参照)

ポイント

●出幅違いの垂木は、垂木化粧材取付け時に躯体に固定します。
●【1-9】で取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

7. 中骨の取付け

表7-1
1スパン当りの中骨本数

6尺	8尺	10尺
1	2	3

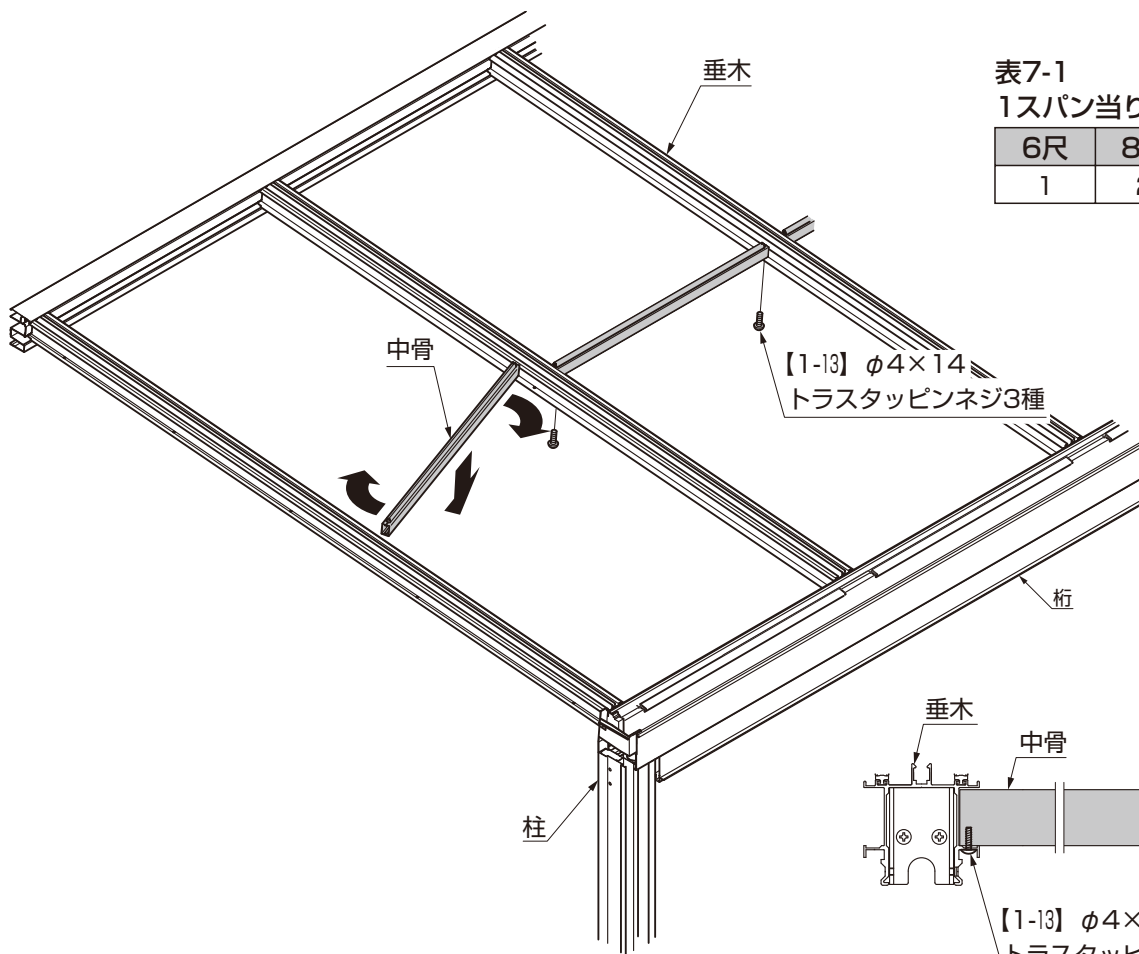


図7-1

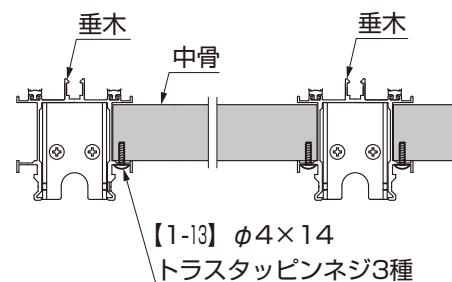


図7-2

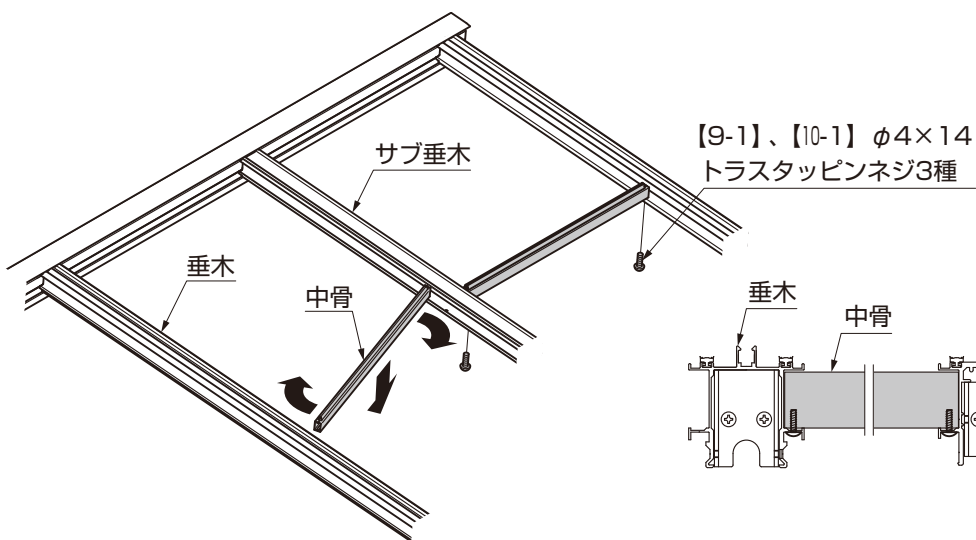


図7-3 積雪仕様の場合

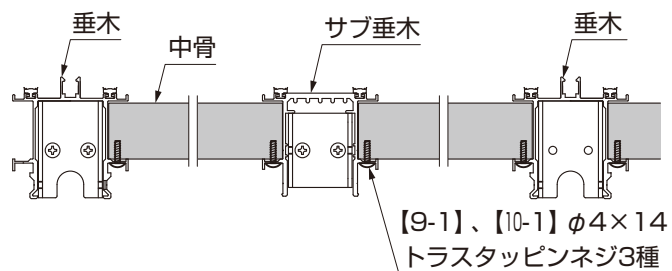


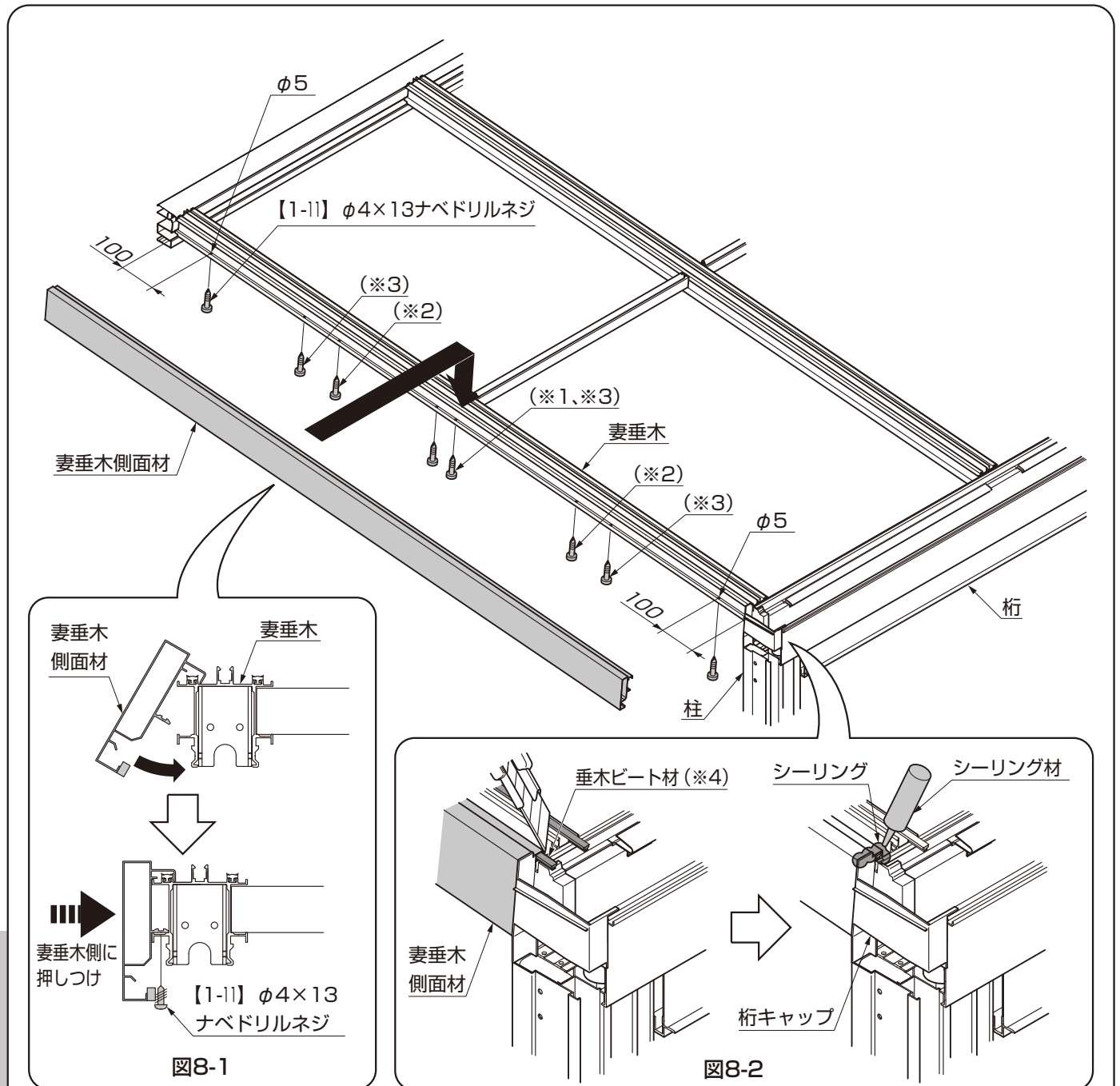
図7-4 積雪仕様の場合

①中骨を回転させながら設置し、垂木に【1-13】、【9-1】、【10-1】で取付けてください。

ポイント

●中骨の本数は、出幅によって異なります。(表7-1参照)

8. 妻垂木側面材の取付け



- ① 妻垂木の両端から100mmの箇所にφ5の穴をあけてください。
- ② 妻垂木側面材を垂木掛けにつき当て、妻垂木側に押しつけながら【1-11】で取付けてください。
- ③ 妻垂木側面材と桁キャップのすき間にシーリングしてください。(図8-2参照)

ポイント

- 妻垂木側面材を固定後に*4の部分の垂木ビート材をカッターなどで切断してください。(図8-2参照)
- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

補足

- (*1) は6尺の場合、中骨取付け穴を利用して妻垂木側面材を取付けます。
- (*2) は8尺の場合、中骨取付け穴を利用して妻垂木側面材を取付けます。
- (*3) は10尺の場合、中骨取付け穴を利用して妻垂木側面材を取付けます。

9. 屋根材の取付け

9-1 取付け前準備

(1) 屋根の対角出し

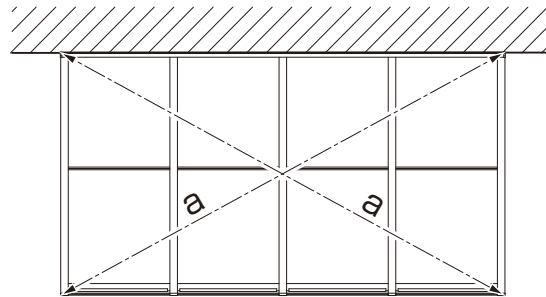


図9-1

①屋根の対角を出してください。

(2) 垂木カバー先端キャップの取付け

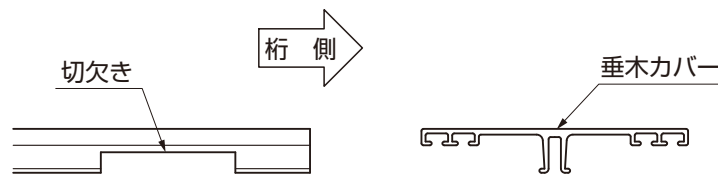
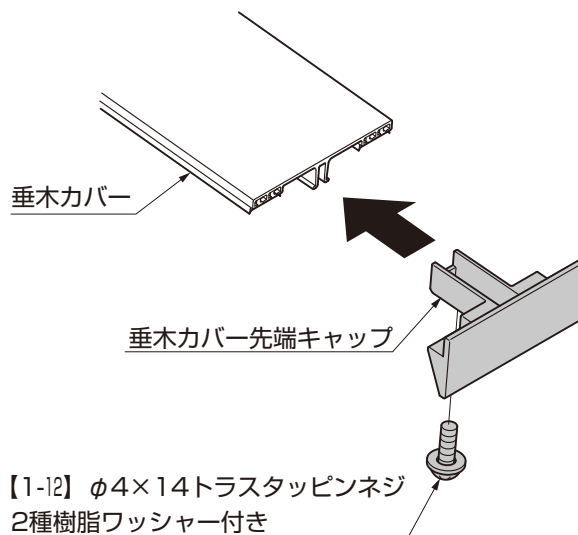


図9-2



【1-12】φ4×14トラスタッピンネジ
2種樹脂ワッシャー付き

図9-3

①垂木カバー先端キャップを垂木カバーにはめ込んで【1-12】で取付けてください。

ポイント

●垂木カバーは切欠きがある方が桁側になります。桁側に垂木カバー先端キャップをはめ込んでください。

9. (つづき)

9-2 屋根材の取付け

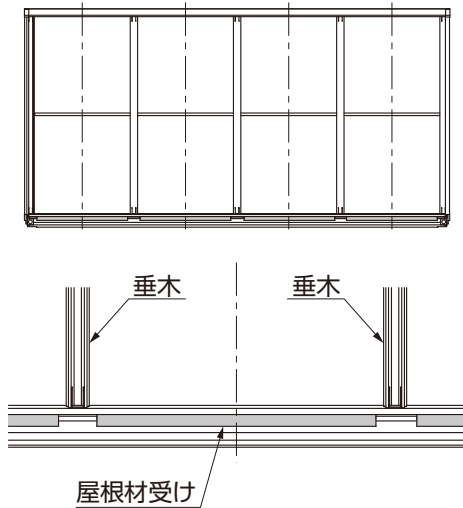


図9-4

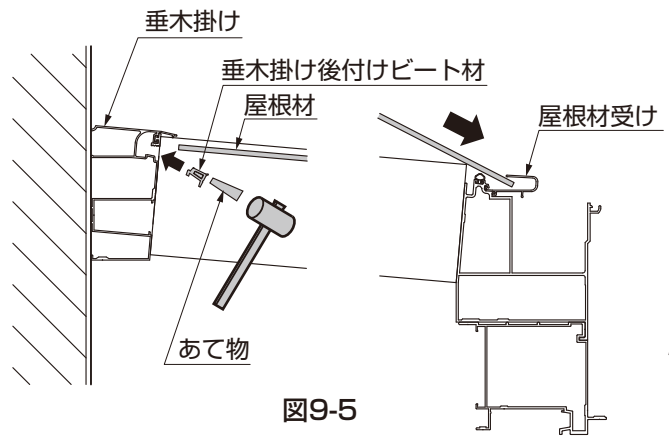


図9-5

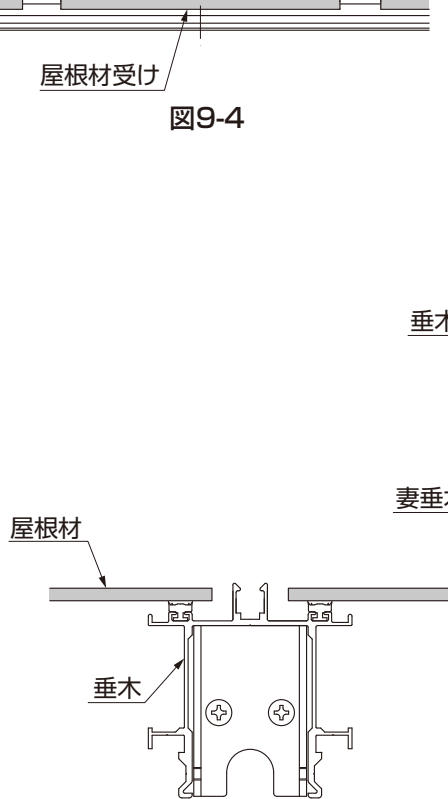


図9-6

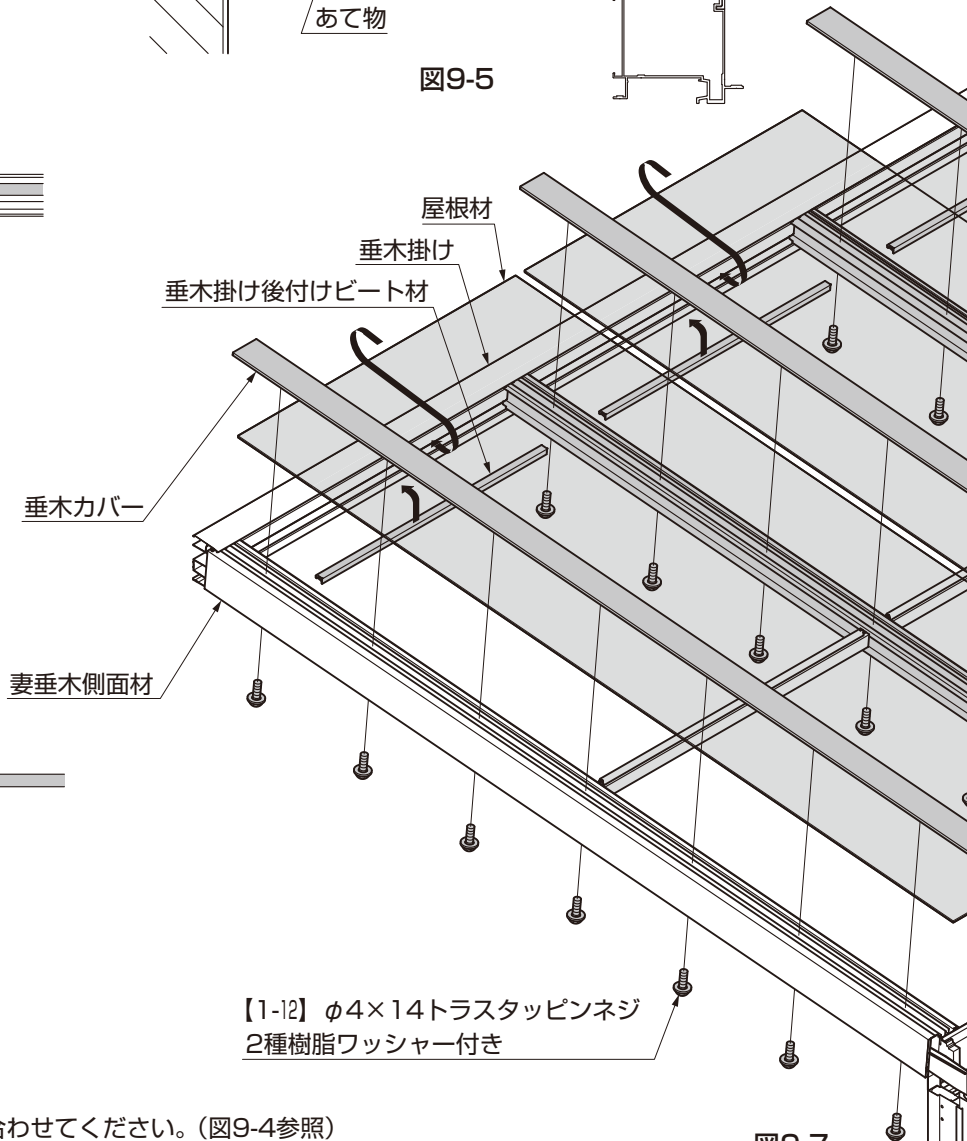


図9-7

(1) 屋根材の取付け

- ① 屋根材受けを垂木と垂木の間位置に合わせてください。(図9-4参照)
- ② 屋根材を屋根材受けに差込んでください。(図9-5参照)
- ③ 垂木掛け後付けビートをあて物をあてて、垂木掛けの奥まで叩き込んでください。(図9-5参照)

ポイント

- 屋根材に表裏はありません。
- 屋根材は、のみこみが左右均等になるようにしてください。(図9-6参照)
- 垂木掛け後付けビートは奥まで入っていないと外れてしまう場合があります。
- 積雪地仕様の場合は垂木掛け後付けビートをカッターで390mmに切断して取付けてください。

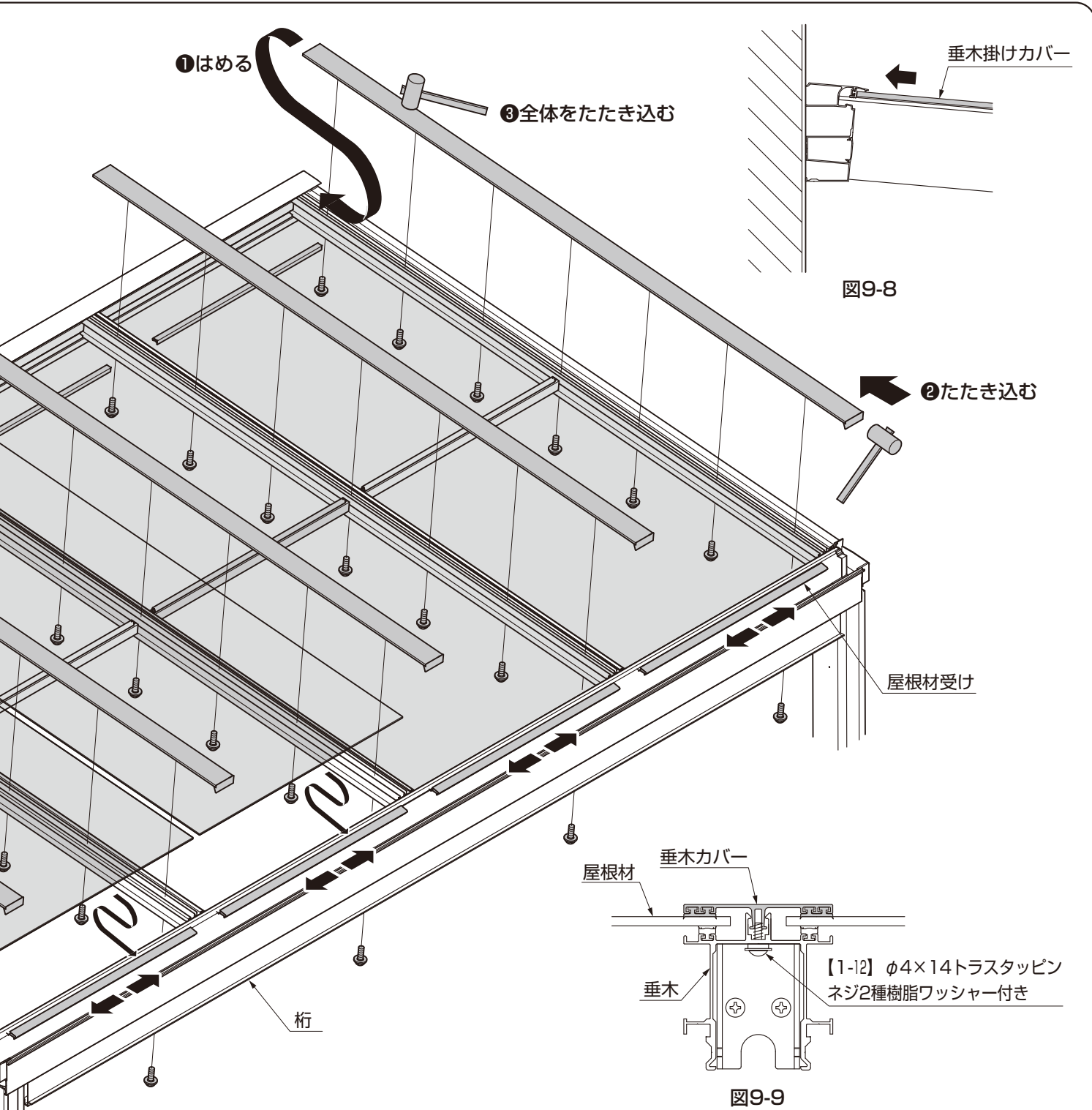


図9-8

図9-9

(2) 垂木カバーの取付け

①垂木カバーを垂木掛けに差込み【1-12】で取付けてください。

ポイント

- 垂木カバーは垂木掛けに突き当てて、取付けてください。(図9-8参照)
- 垂木カバーは部材が凹まないように注意しながらプラスチックハンマー等で押し込んでください。

9. (つづき)

9-3 垂木カバーのシーリング

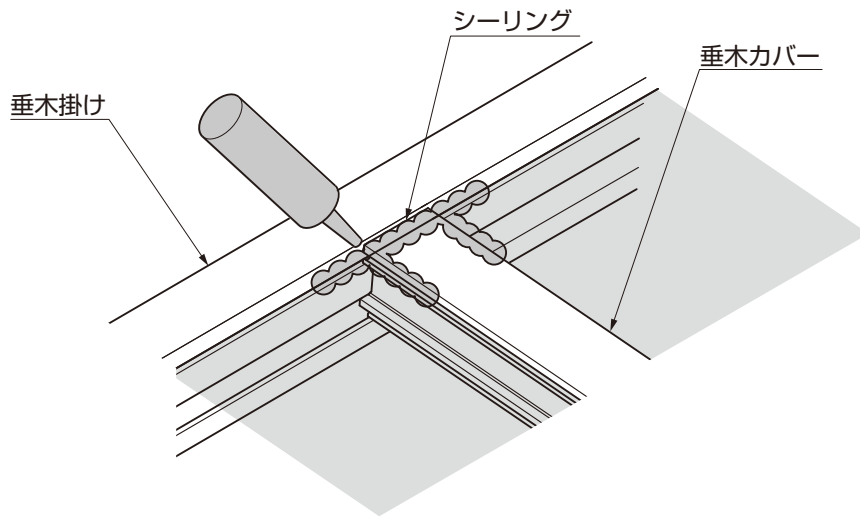


図9-10

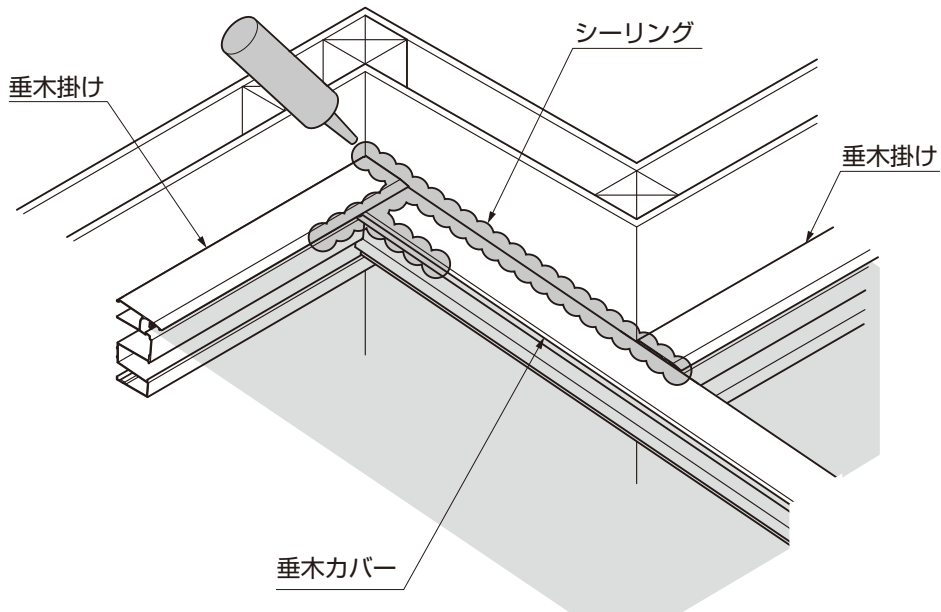


図9-11 出幅違い仕様、入隅仕様の場合

表9-1

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業 (株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン (合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコーン (株)	SE960

①垂木カバーにシーリングをしてください。

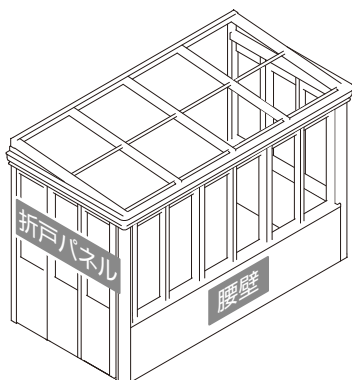
ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- ポリカーボネート板へシーリングする場合は、当社指定のアルコール系シーリング材を使用してください。
(表9-1参照) それ以外のシーリング材では、ポリカーボネート板にひび割れ等のおそれがあります。

10. ベース材の取付け

ポイント

- 折戸パネルの箇所のみ取付けてください。



10-1 出幅違い仕様の場合の加工

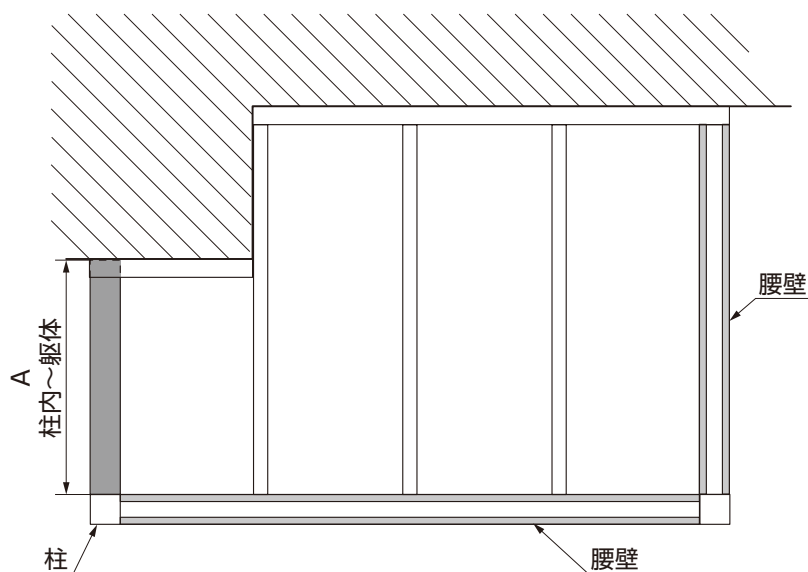


図10-1

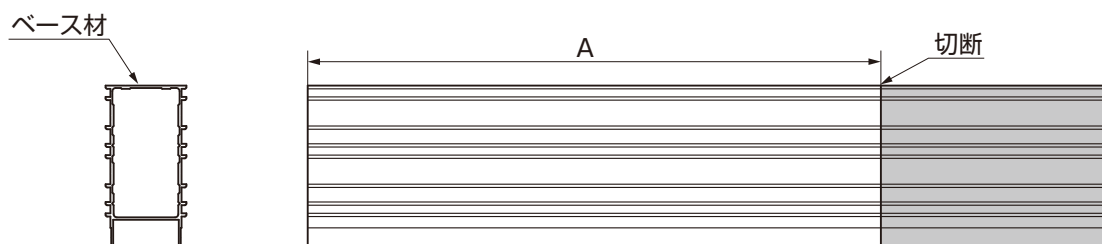


図10-2

- ①出幅違い側の躯体~柱内までの A 寸法を実測してください。
- ②ベース材を A 寸法に切断してください。

10. (つづき)

10-2 束柱の建込み

(1) 束柱の加工

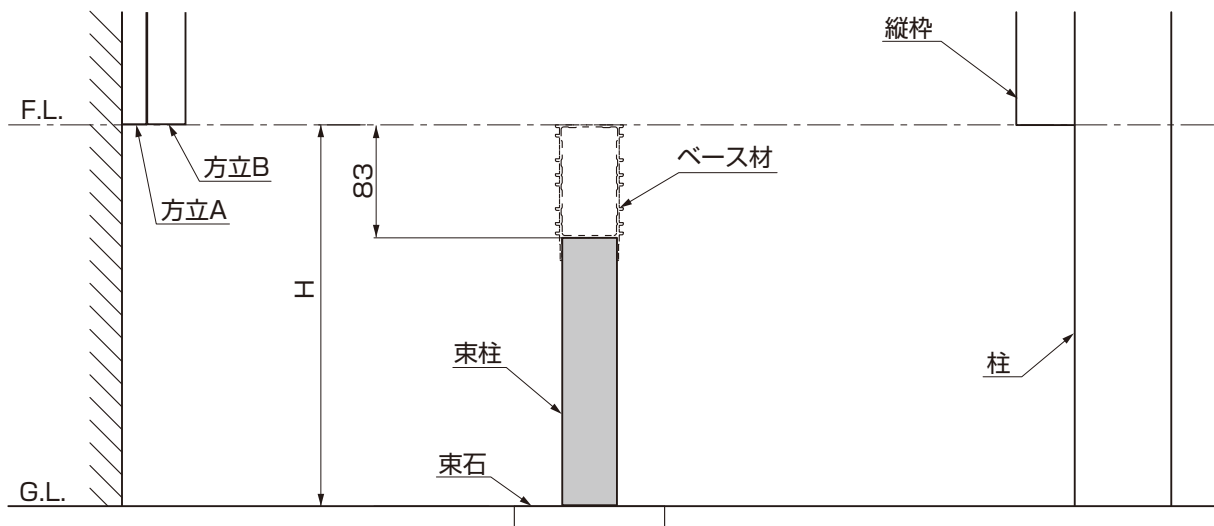


図10-3

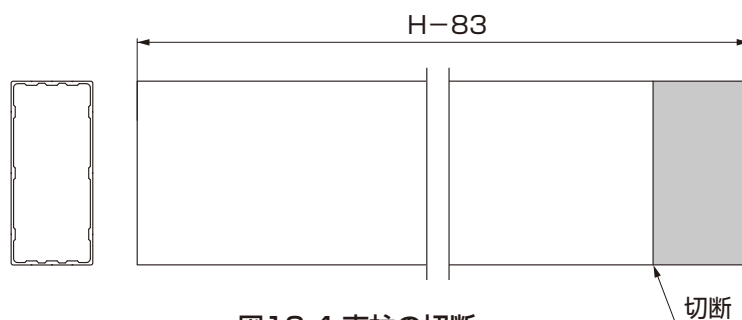
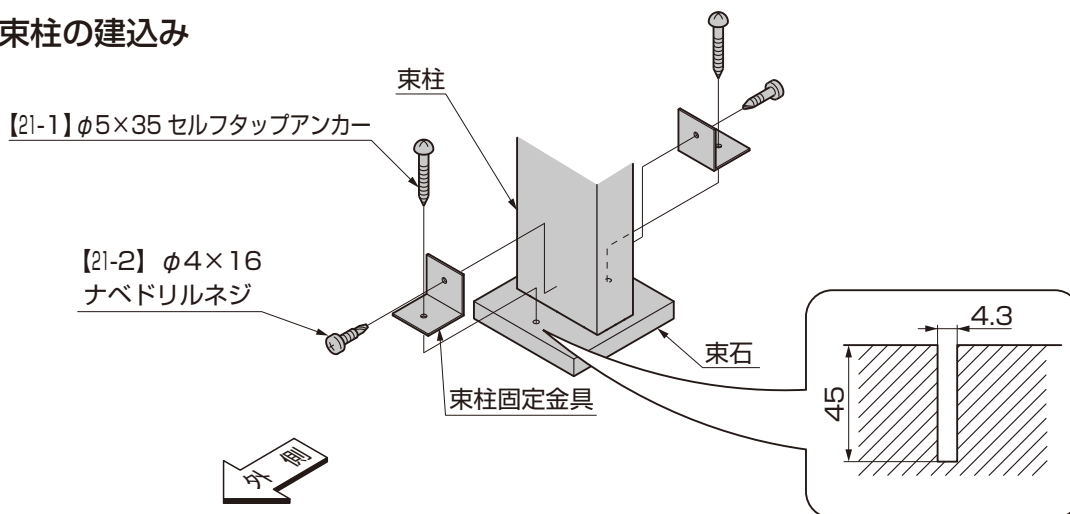


図10-4 束柱の切断

- ① G.L. から方立の下端までのH寸法を実測してください。
- ② 束柱をH寸法-83mmに加工してください。

(2) 束柱の建込み



- ① 束柱固定金具を束柱に【21-2】で取付けてください。
- ② 束石にφ4.3の穴加工をしてください。
- ③ 束柱を土間に【21-1】で取付けてください。

10-3 ベース材取付部品の取付け

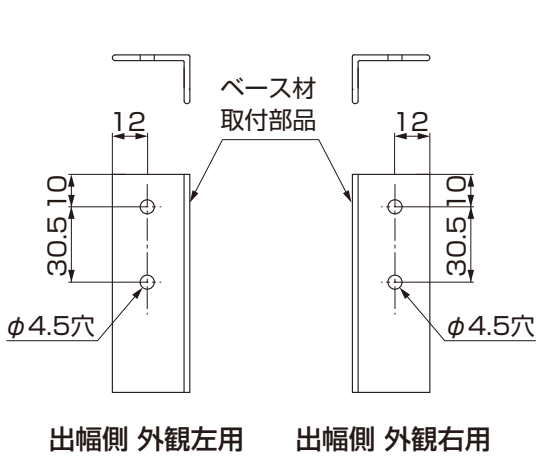


図10-5 ベース材取付部品躯体側の加工
※柱側および間口側の現場加工はありません。

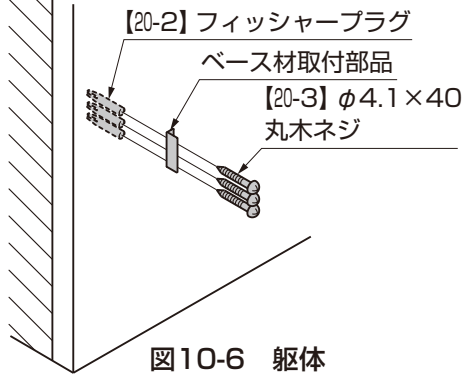
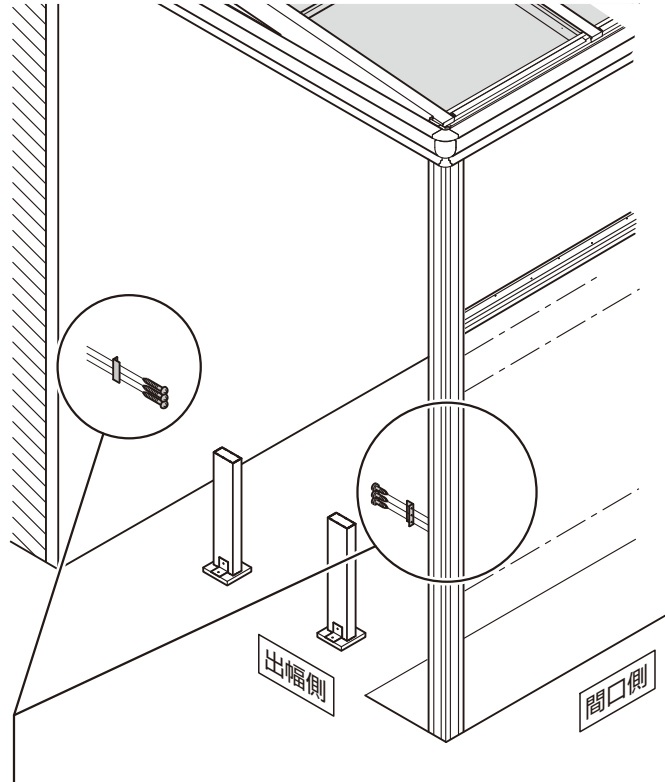


図10-6 躯体

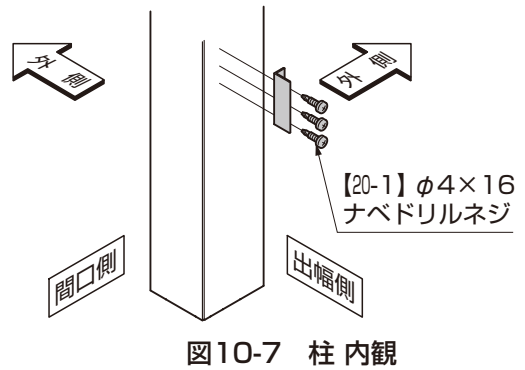


図10-7 柱内観

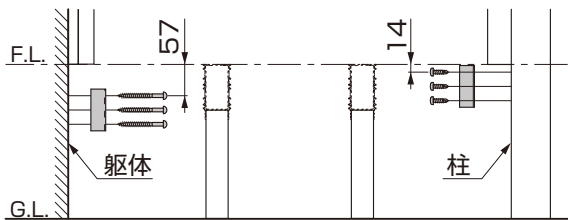


図10-8 側面図

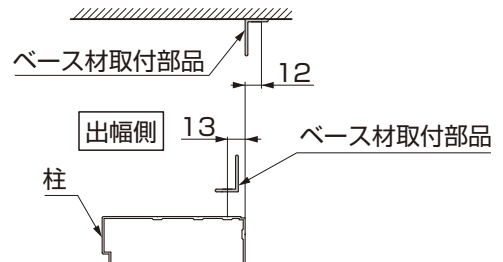


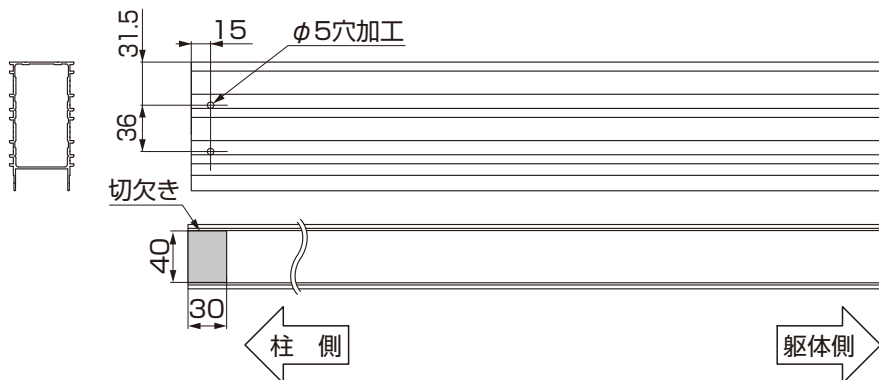
図10-9 上面図

- ①ベース材取付部品にφ4.5の穴加工をしてください。(図10-5参照)
- ②ベース材取付部品を躯体に【20-2】、【20-3】、柱に【20-1】で取付けてください。

10. (つづき)

10-4 ベース材の取付け

(1) ベース材の加工



①ベース材に加工をしてください。

(2) ベース材の取付け

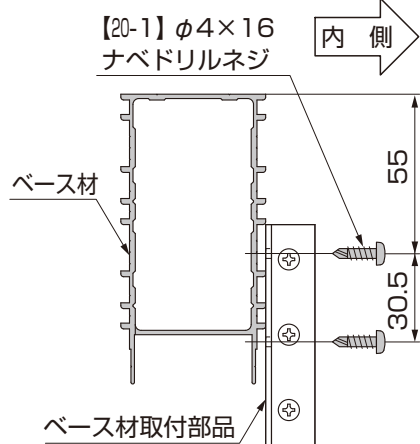


図10-10 出幅側 躯体

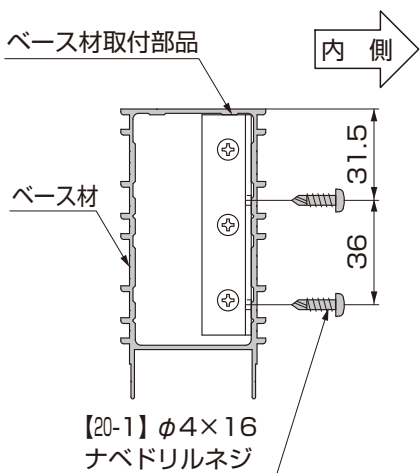
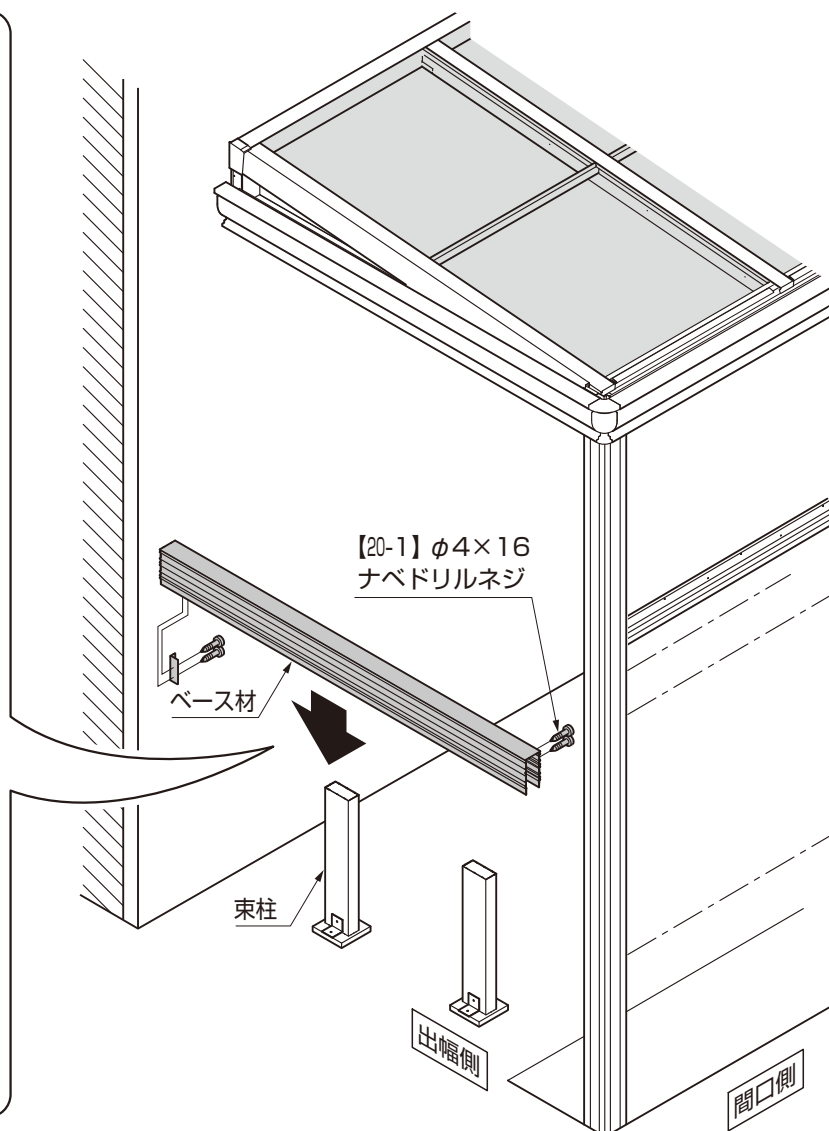


図10-11 出幅側 柱



①ベース材を束柱の上に置き、ベース材取付部品に【20-1】で取付けてください。

11. 方立の取付け

11-1 出幅違い仕様の場合

(1) 部材の加工

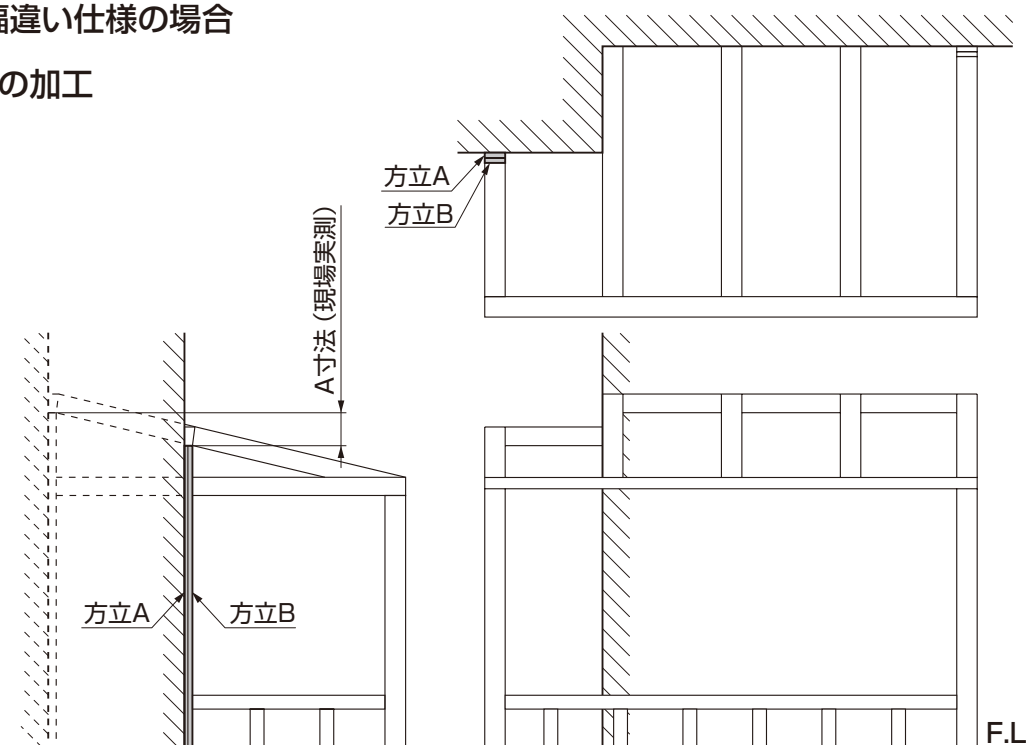


図11-1 出幅違い仕様

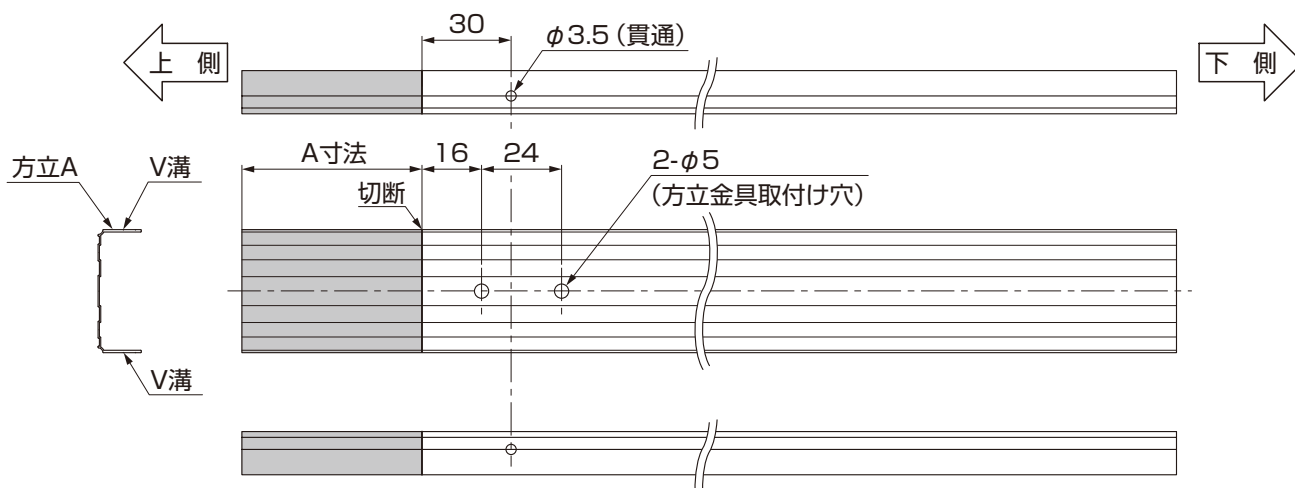


図11-2

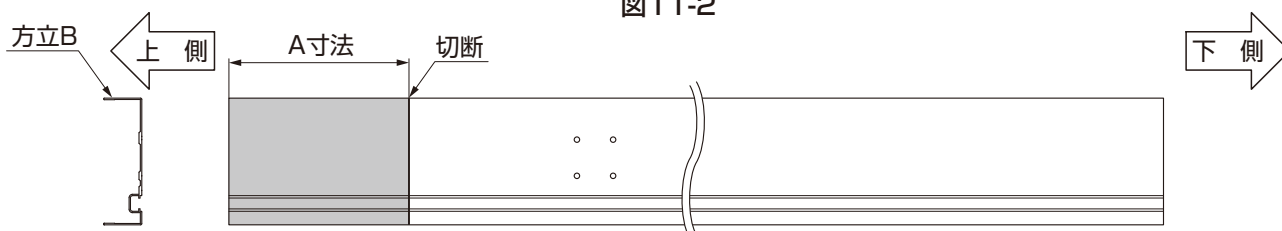


図11-3

- ① A寸法を実測してください。
- ② 図11-2、図11-3を参照して方立A、方立Bを加工してください。

ポイント

- 方立Bは必ず上側を切断してください。

11. (つづき)

11-2 方立の取付け

(1) 方立Aの取付け

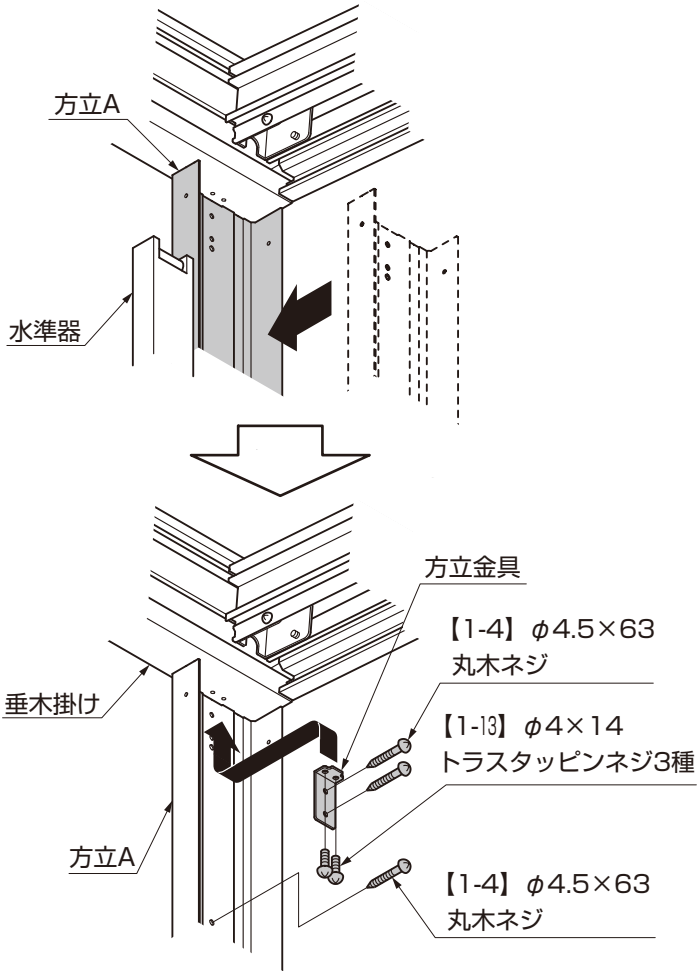


図11-4

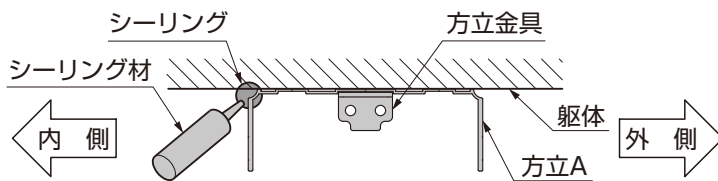


図11-5

①方立Aを取付ける位置に当てがってください。

ポイント

●方立Aを取付ける際は水準器などで水平・垂直を確認してください。

②方立金具を垂木掛けと躯体に【1-4】、【1-13】で取付けてください。

③方立Aを躯体に【1-4】で固定してください。

④方立Aの内側にシーリングをしてください。(図11-5、図11-6)

ポイント

●指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングしてください。

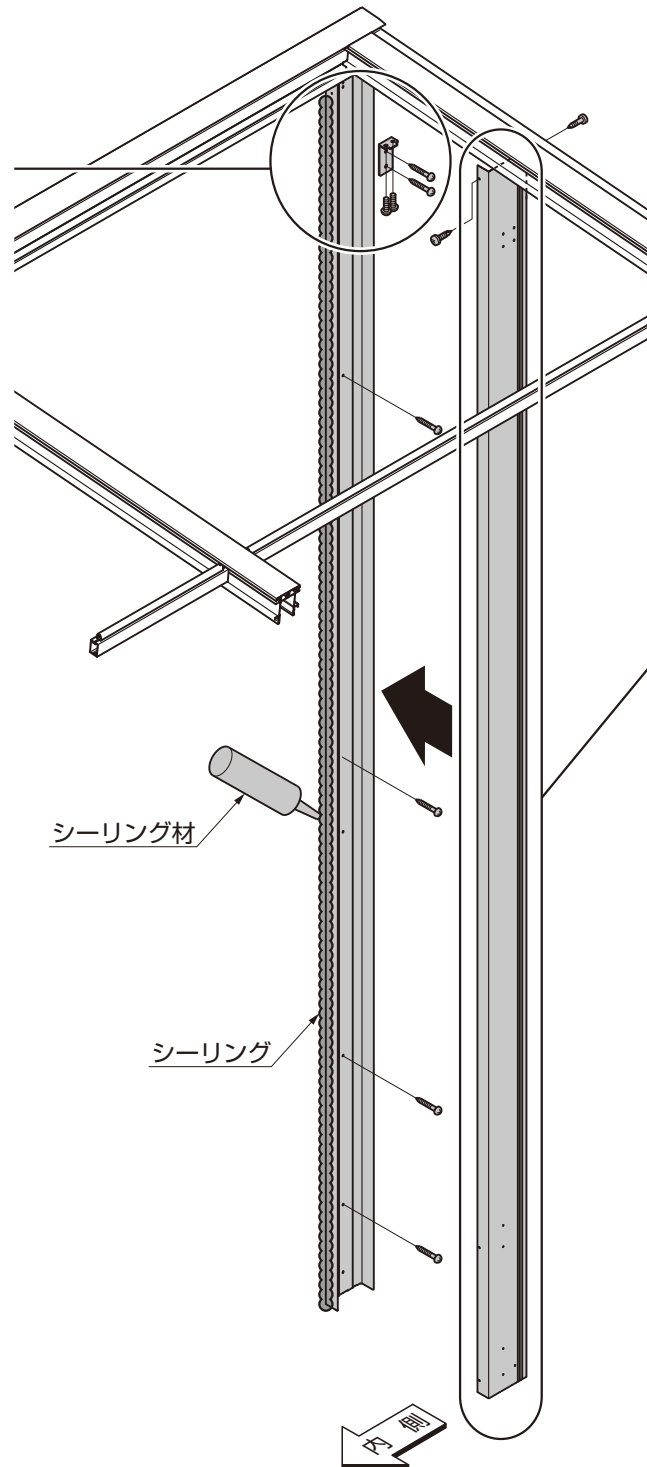
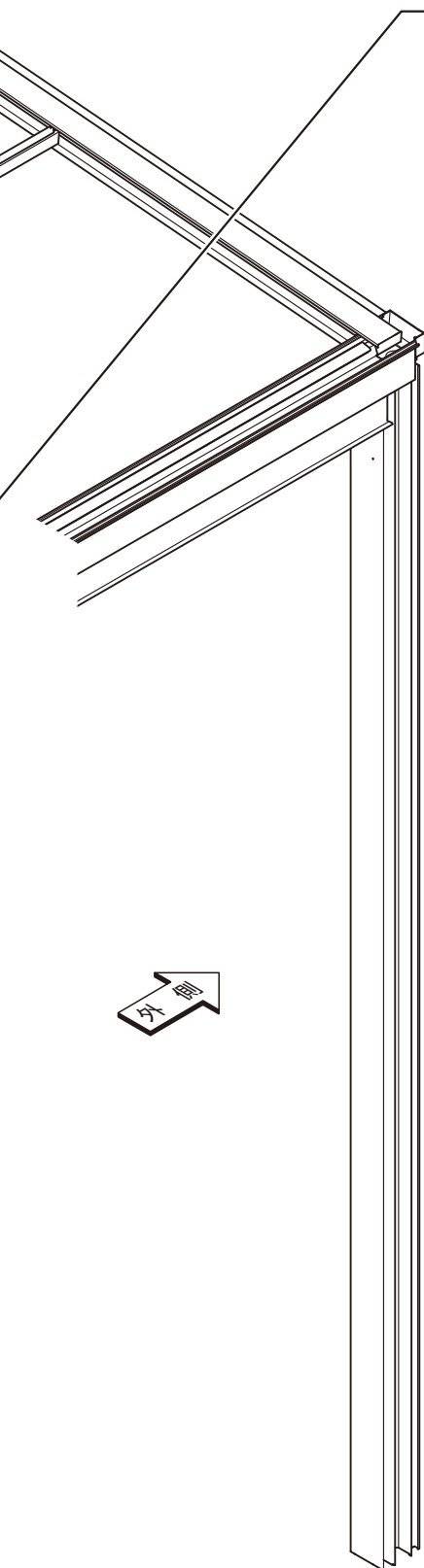


図11-6



(2) 方立Bの取付け

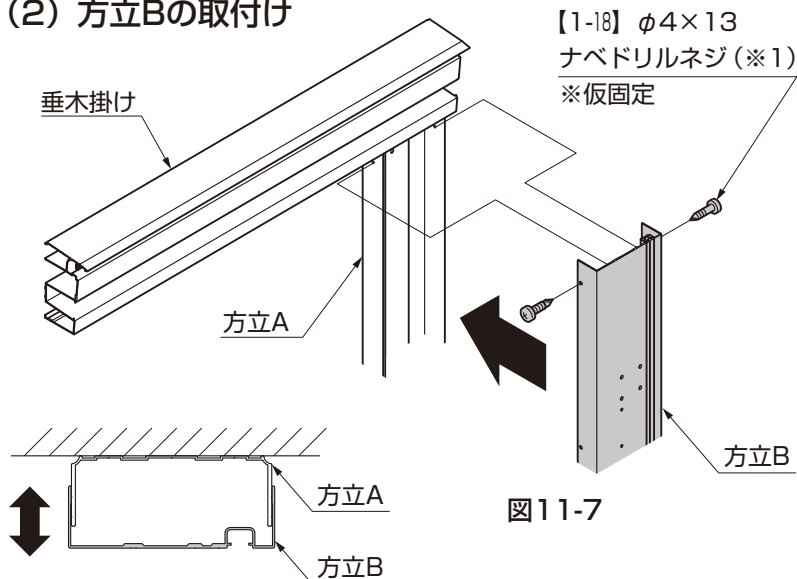


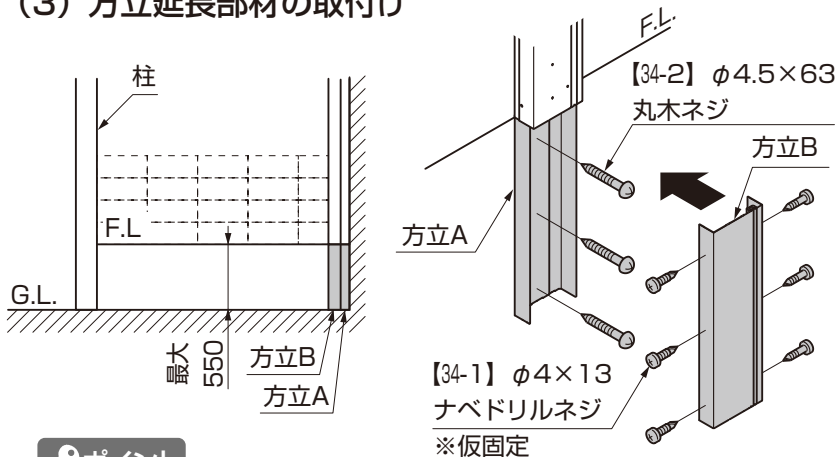
図11-7

①方立Bを方立Aにはめ込んで、【1-18】で仮固定してください。

ポイント

- 方立Bは妻梁取付けの際に調整を行う為、上側のみ仮固定し、ネジなどで固定しないでください。
- 本体色によって【1-18】のネジ色が異なるので注意してください。シャイングレーは生地色、アイボリーホワイトは白色、マイルドブラックは黒色のネジを使用してください。(※1)

(3) 方立延長部材の取付け



ポイント

- 側面部の腰壁をロング柱でG.L.から立ち上げる（腰壁から外側には土間を打たない）場合、F.L.から下の躯体に方立延長部材を取付けます。
- F.L.から下の布基礎および表面仕上げを躯体まで伸ばす場合は不要です。

①方立Aを躯体に【34-2】で取付けてください。

②方立Bを方立Aにはめ込んで、【34-1】で仮固定してください。

12. 妻梁の取付け

12-1 妻梁の加工 ※出幅違い仕様の場合の作業です。

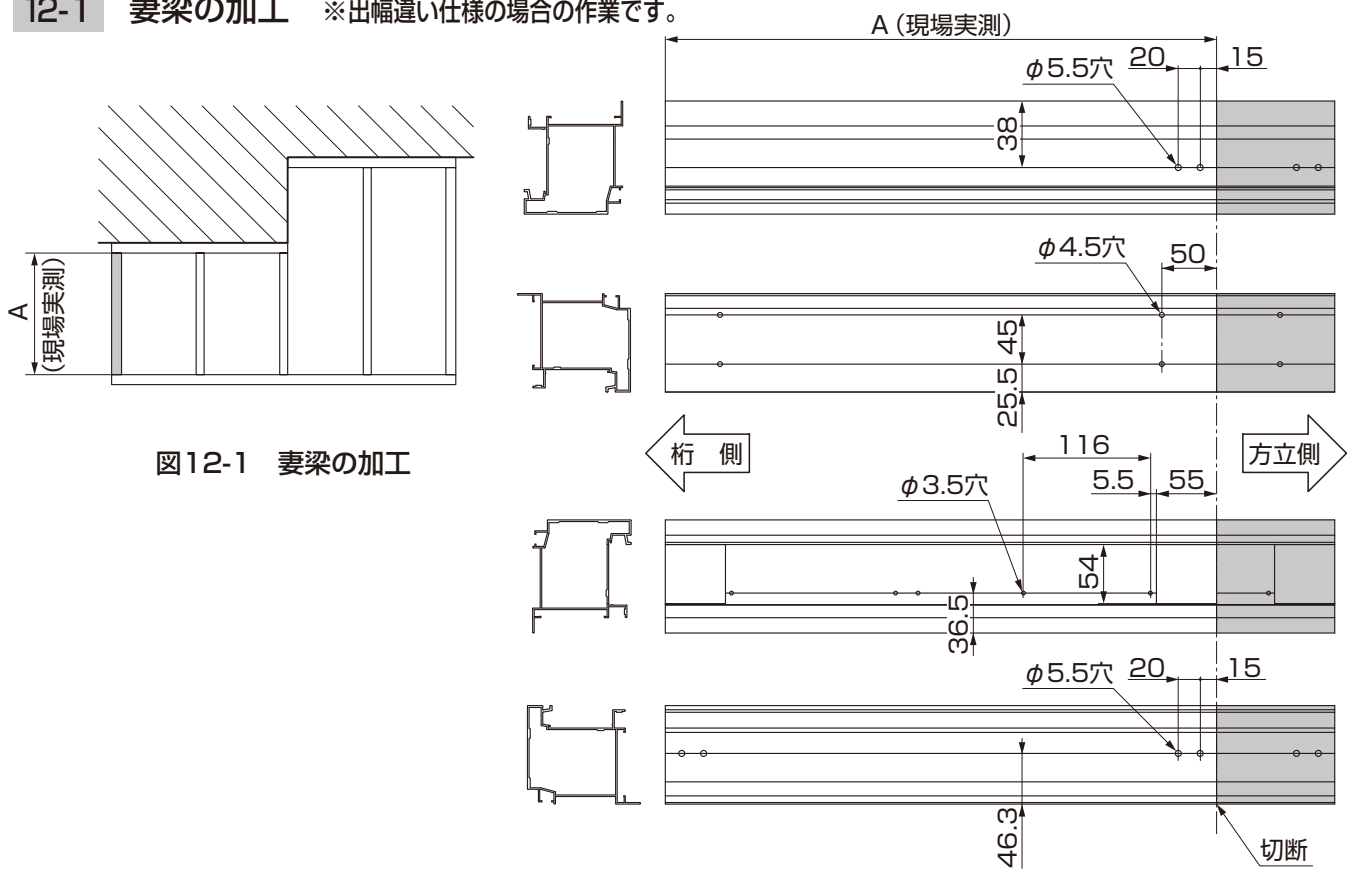
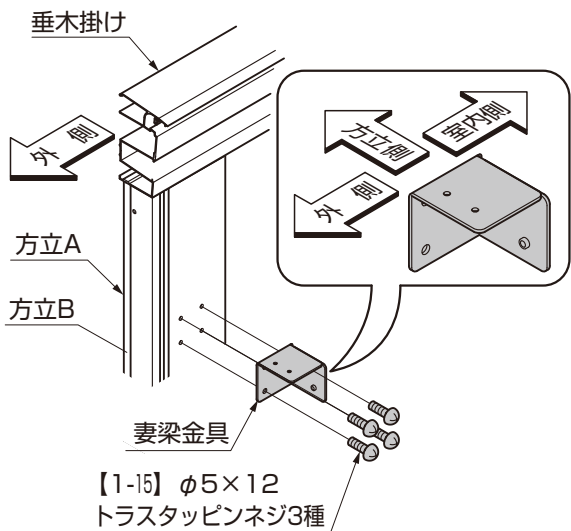


図12-1 妻梁の加工

- ①出幅違い側の方立B～柱内の寸法Aを実測してください。
- ②妻梁を加工してください。

12-2 躯体側妻梁金具の取付け

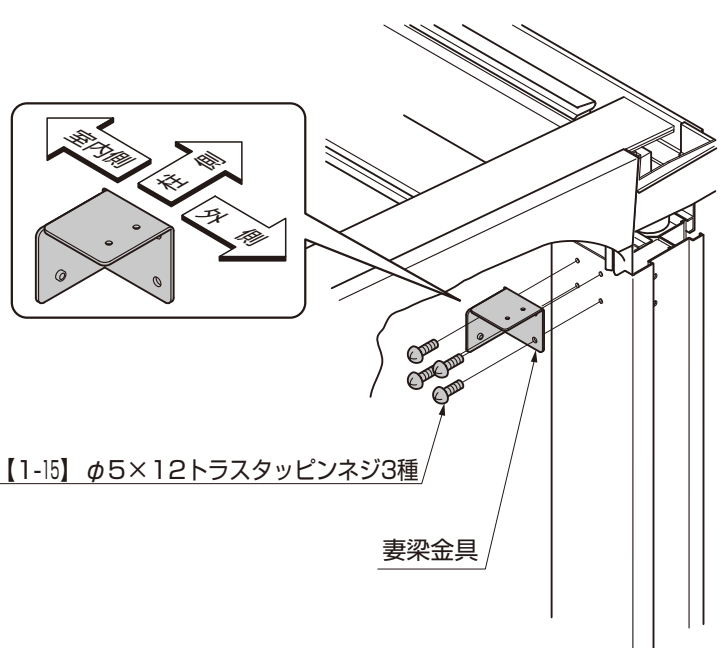


- ①妻梁金具を方立Bに【1-15】で取付けてください。

ポイント

- 妻梁金具は必ず図の向きで取付けてください。

12-3 柱側妻梁金具の取付け



- ①妻梁金具を柱に【1-15】で取付けてください。

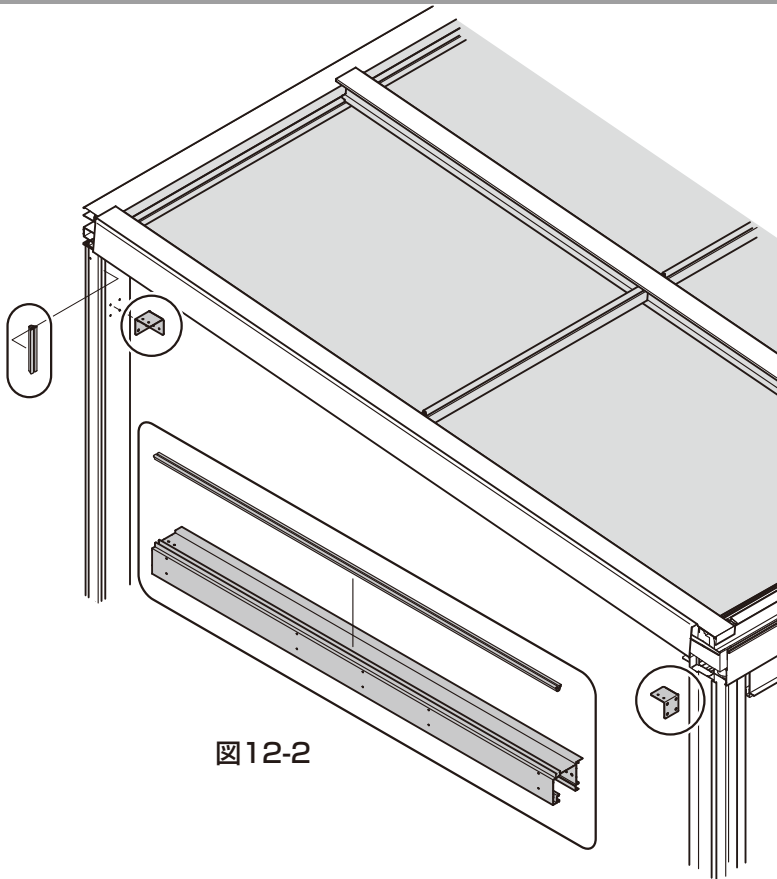
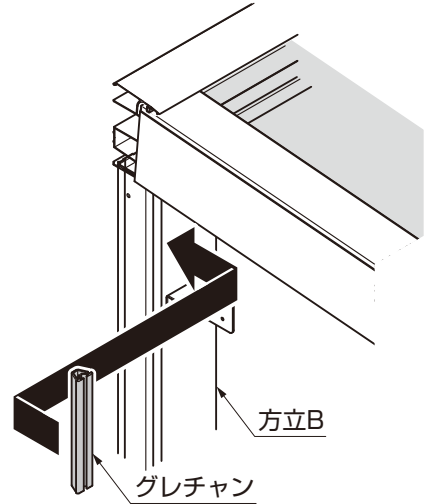


図12-2

12-4 グレチャンの取付け



① グレチャンを方立Bにはめ込んでください。

ポイント

- 出幅違い仕様の場合は、グレチャンを妻梁の長さにあわせて切断してください。

12-5 妻梁の取付け

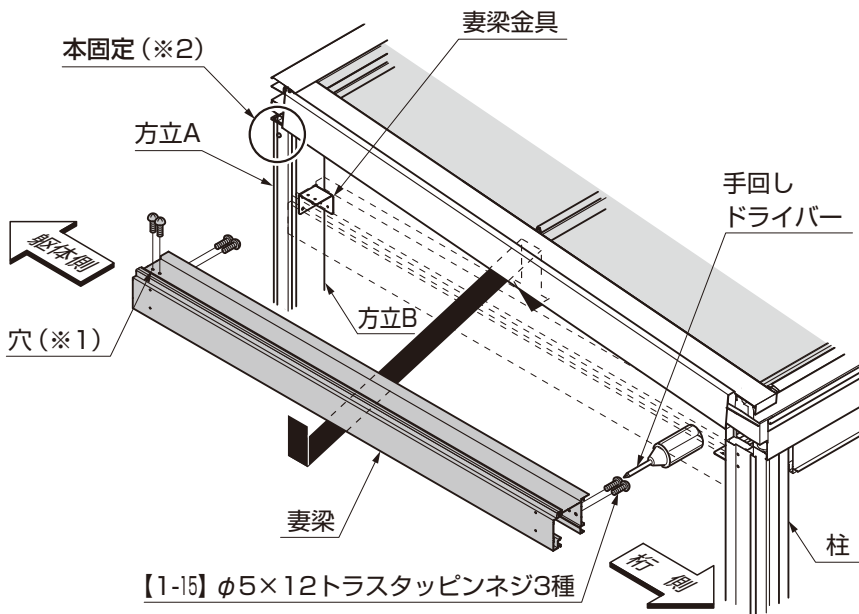


図12-3

① 妻梁を妻梁金具に【1-15】で取付けてください。

ポイント

- 妻梁には左右があり、妻梁上面に穴加工がある方を躯体側にしてください。(※1) (図12-3参照)
- 【1-15】を取付ける際は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。(図12-3参照)
- 妻梁が妻梁金具間で入りにくい場合は、方立Bを躯体側に押し込んで調整してください。(図12-4参照)

② 方立AとBの固定穴の一番上のネジを本固定してください。(※2) (図12-3参照)

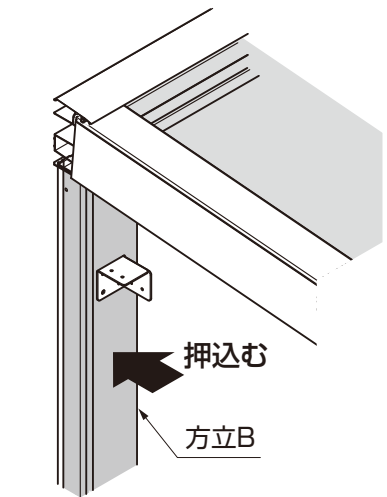


図12-4 妻梁が入りにくい場合

12. (つづき)

12-6 妻梁・桁室内側カバー（妻梁側）の取付け

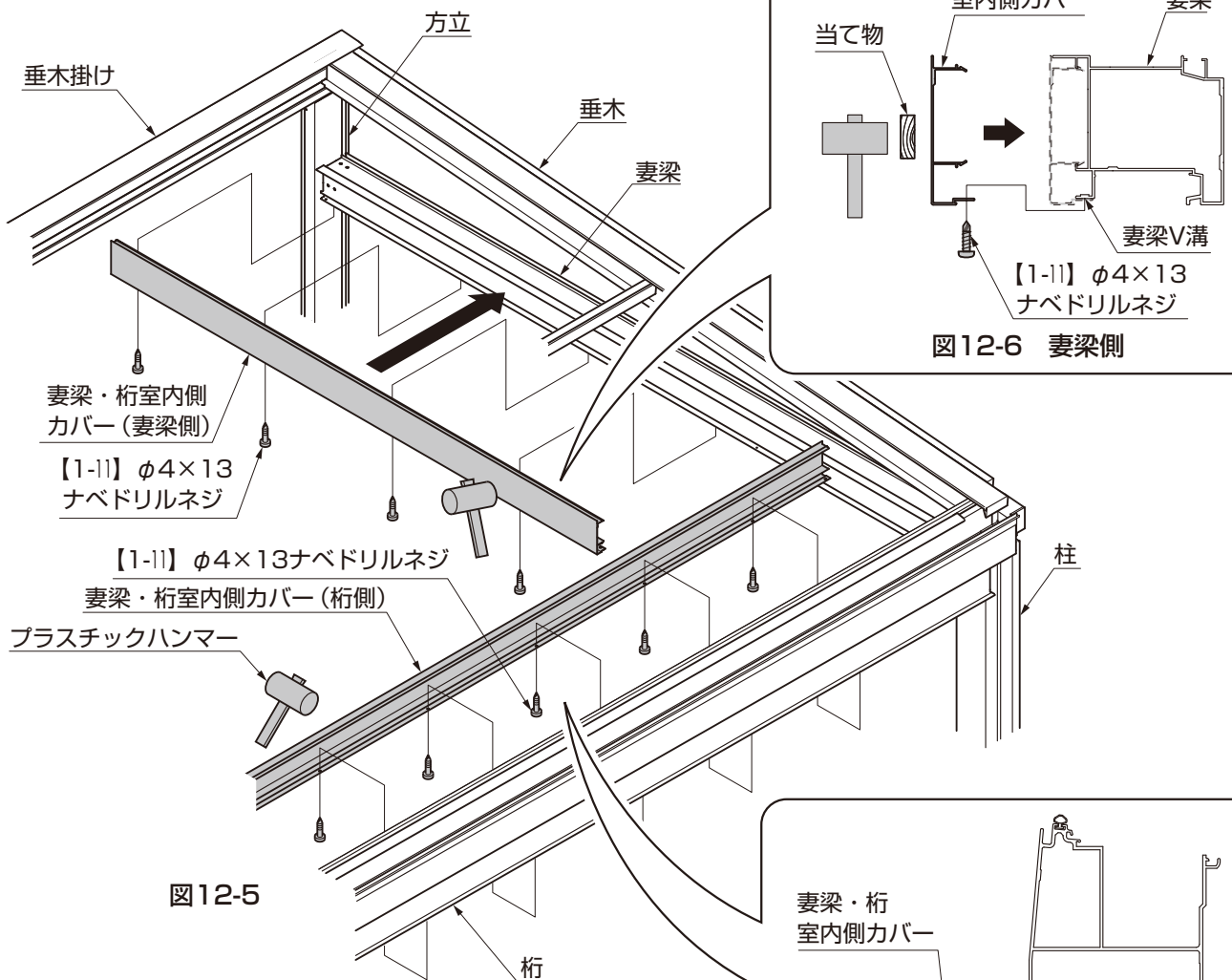


図12-5

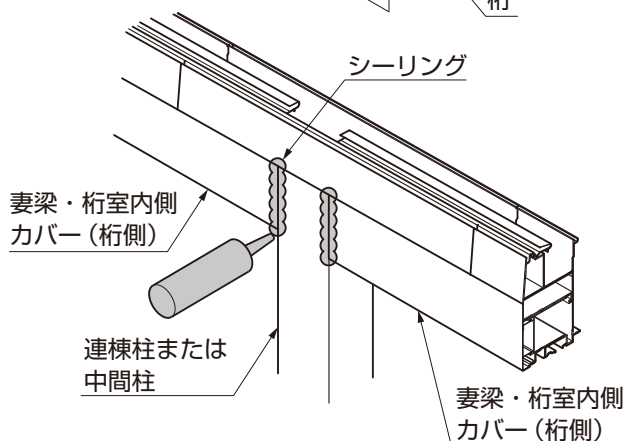


図12-8 連棟仕様・中間柱仕様

- ①妻梁・桁室内側カバーを妻梁と桁外レールにはめ込んで、【1-11】で取付けてください。
- ②連棟仕様または中間柱仕様の場合、柱と妻梁・桁室内側カバーの継ぎ目にシーリングしてください。（図12-8参照）

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

13. 垂木掛けキャップの取付け

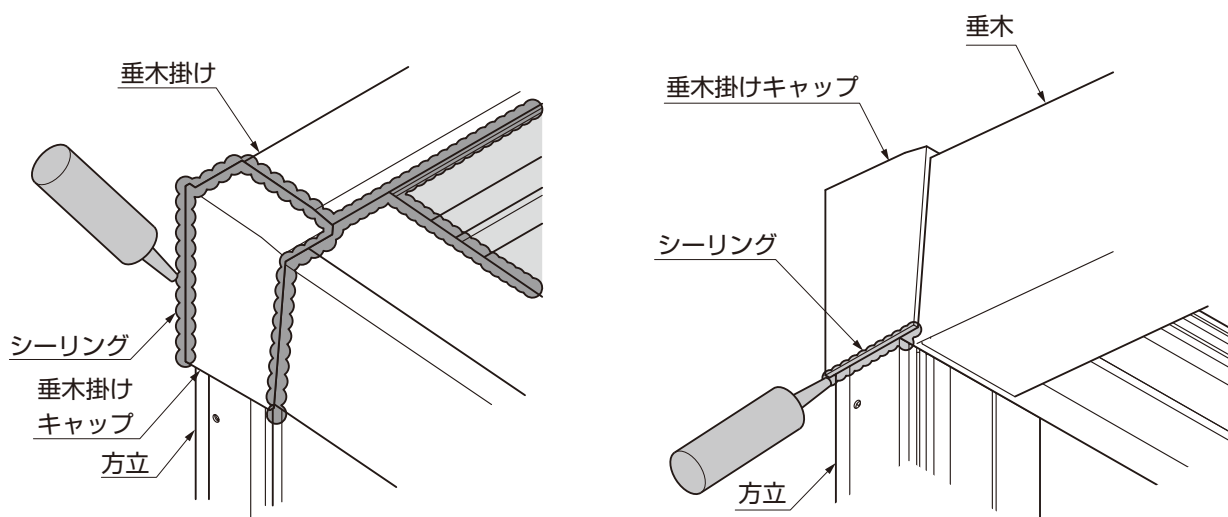
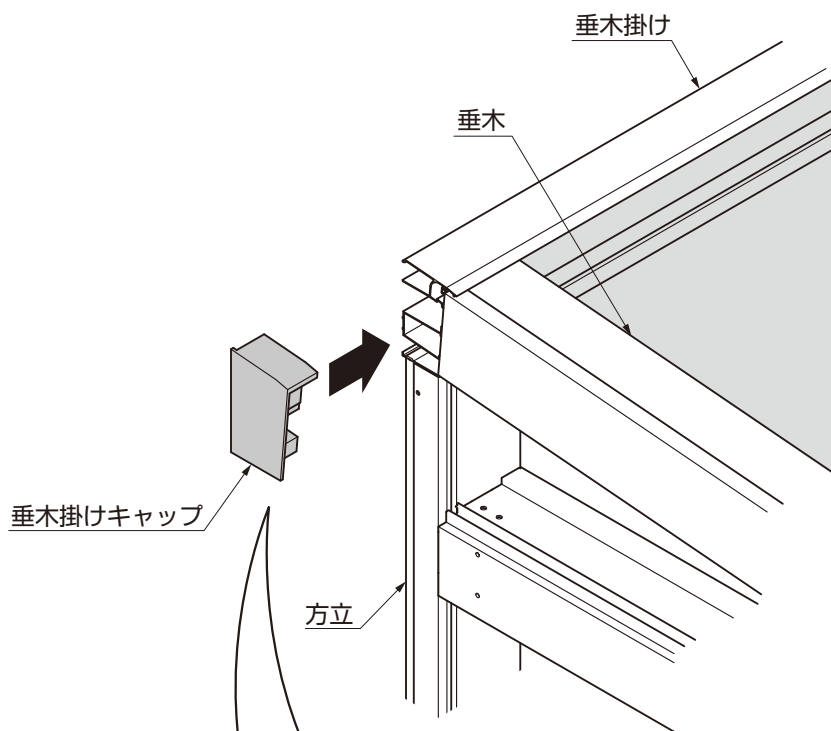


図13-1 垂木掛けキャップ シーリング箇所

- ①垂木掛けキャップを垂木掛けにはめ込んでください。
- ②垂木掛けキャップにシーリングをしてください。

ポイント

- 入隅仕様の場合は入隅側の垂木掛けキャップは取付けません。
- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

14. 妻梁上部フィックスパネルの取付け

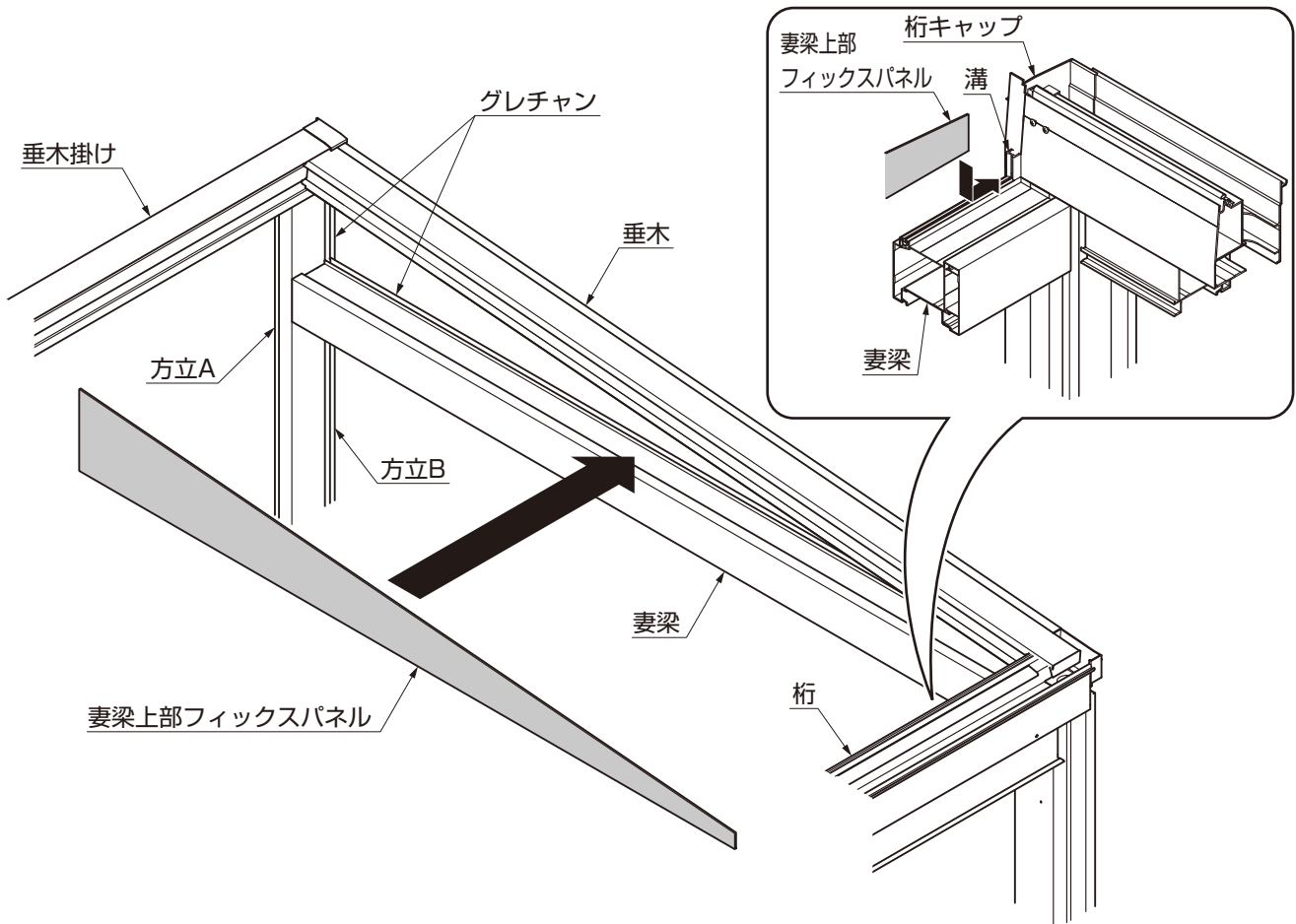


図14-1

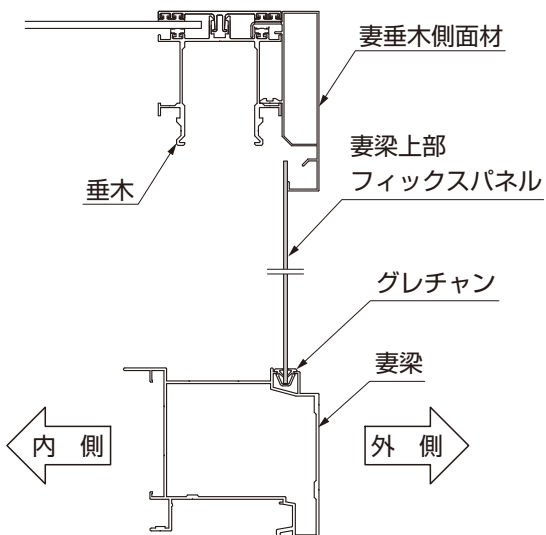


図14-2

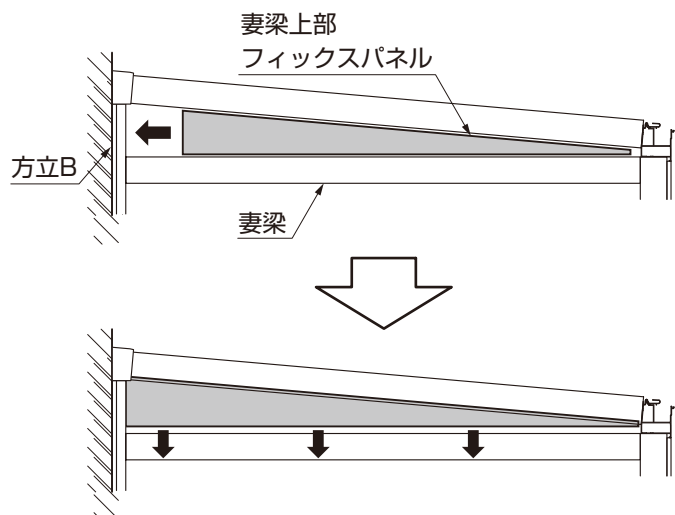


図14-3

- ① 妻梁上部フィックスを桁キャップの溝にはめ込んでください。
- ② 妻梁上部フィックスパネルを妻梁、方立Bのグレチャンにはめ込んでください。

ポイント

- 妻梁上部フィックスパネルは、方立Bのグレチャンにはめ込んだ後、妻梁のグレチャンにはめ込んでください。
- 妻梁上部フィックスパネルには左右があります。「この面が太陽側です」と書かれている側が外側です。

15. 垂木化粧材の取付け

15-1 妻垂木化粧材の取付け

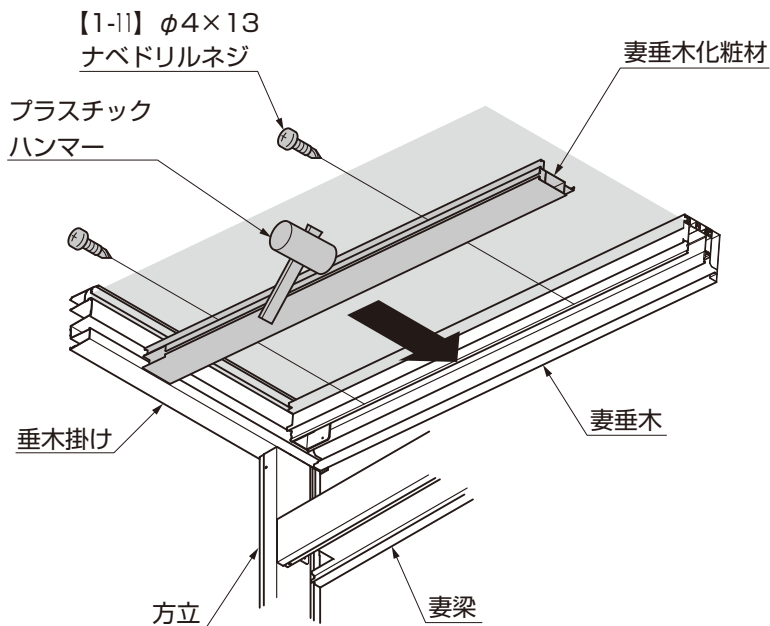


図15-1

①妻垂木化粧材を妻垂木に【1-11】で取付けてください。

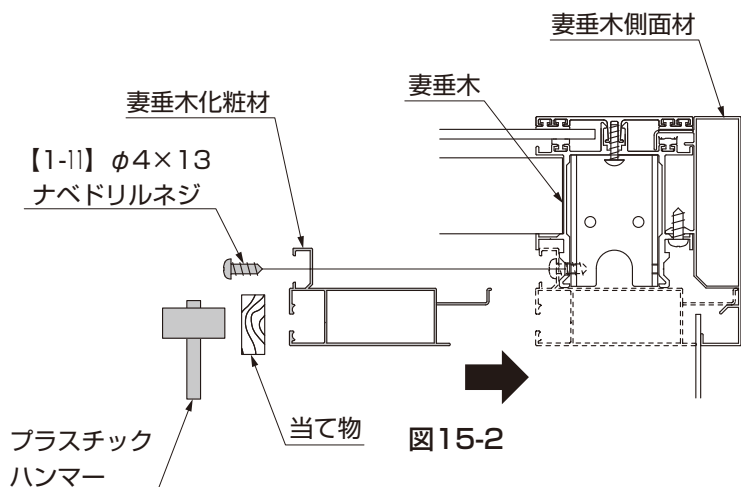


図15-2

②内部日除けレールエンドピースを妻垂木化粧材に【1-13】で取付けてください。

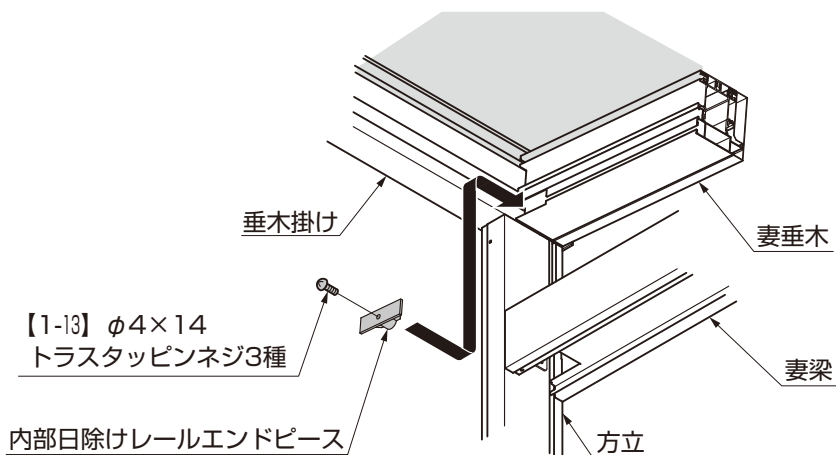


図15-3 内部日除けレールエンドピース

15. (つづき)

15-2 垂木化粧材の取付け

(1) 基本仕様の場合

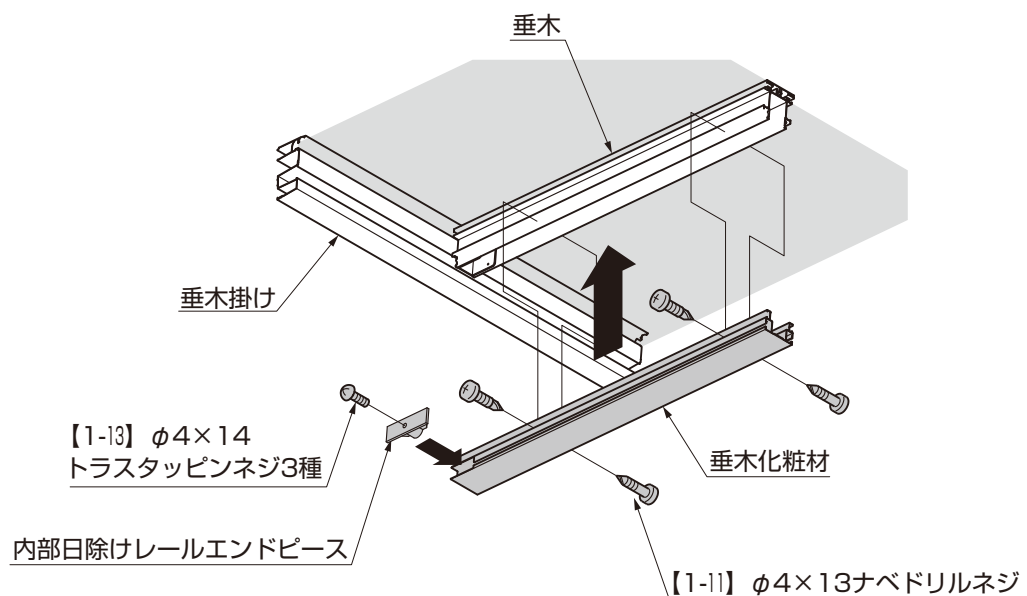


図15-4

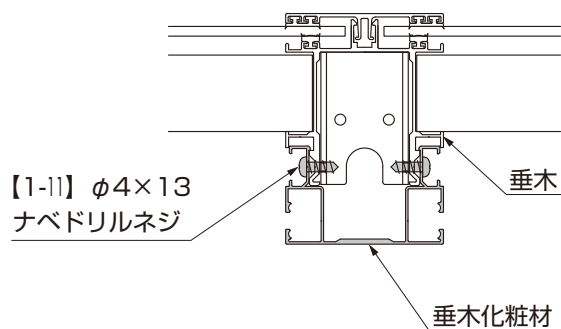


図15-5

- ① 垂木化粧材を垂木に【1-11】で取付けてください。
- ② 内部日除けレールエンドピースを垂木化粧材に【1-13】で取付けてください。

ポイント

- 【1-13】は強く締めすぎないでください。

(2) 出幅違い仕様の場合

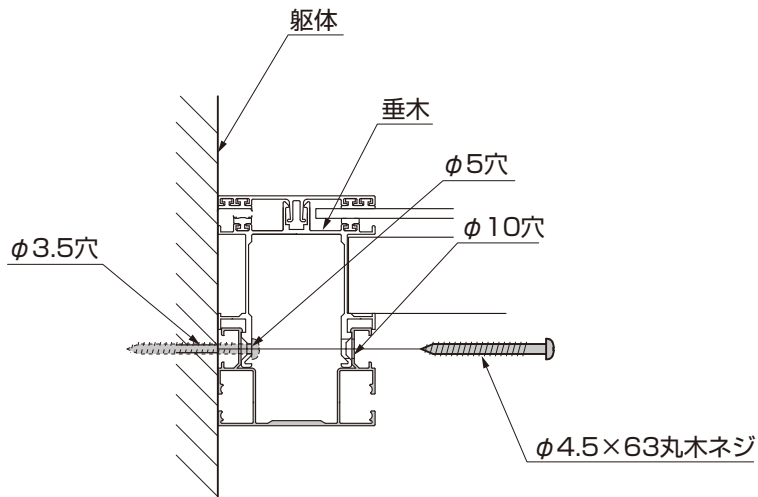


図15-6

- ① 躯体隣接部分の垂木と垂木化粧材はφ10、φ5の穴をあけてください。
- ② 躯体にはφ3.5の穴をあけてください。
- ③ 垂木と垂木化粧材を躯体に「φ4.5×63丸木ネジ」で取付けてください。

ポイント

- φ4.5×63丸木ネジは、現場で手配してください。

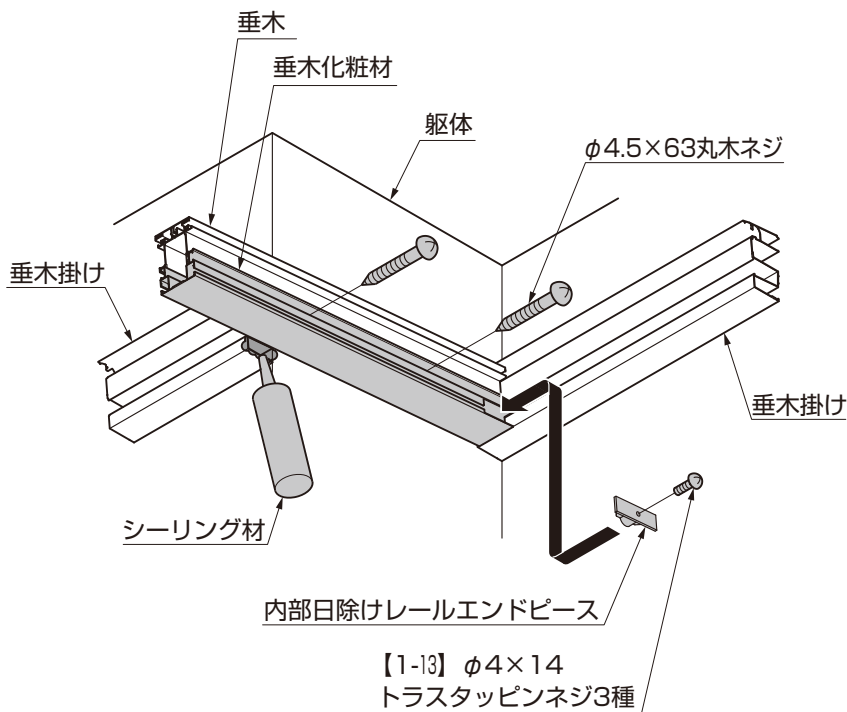


図15-7

- ④ 内部日除けレールエンドピースを垂木化粧材に【1-13】で取付けてください。
- ⑤ 垂木掛けの断面をシーリングで埋めてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- 【1-13】は強く締めすぎないでください。

15. (つづき)

15-3 積雪仕様の場合

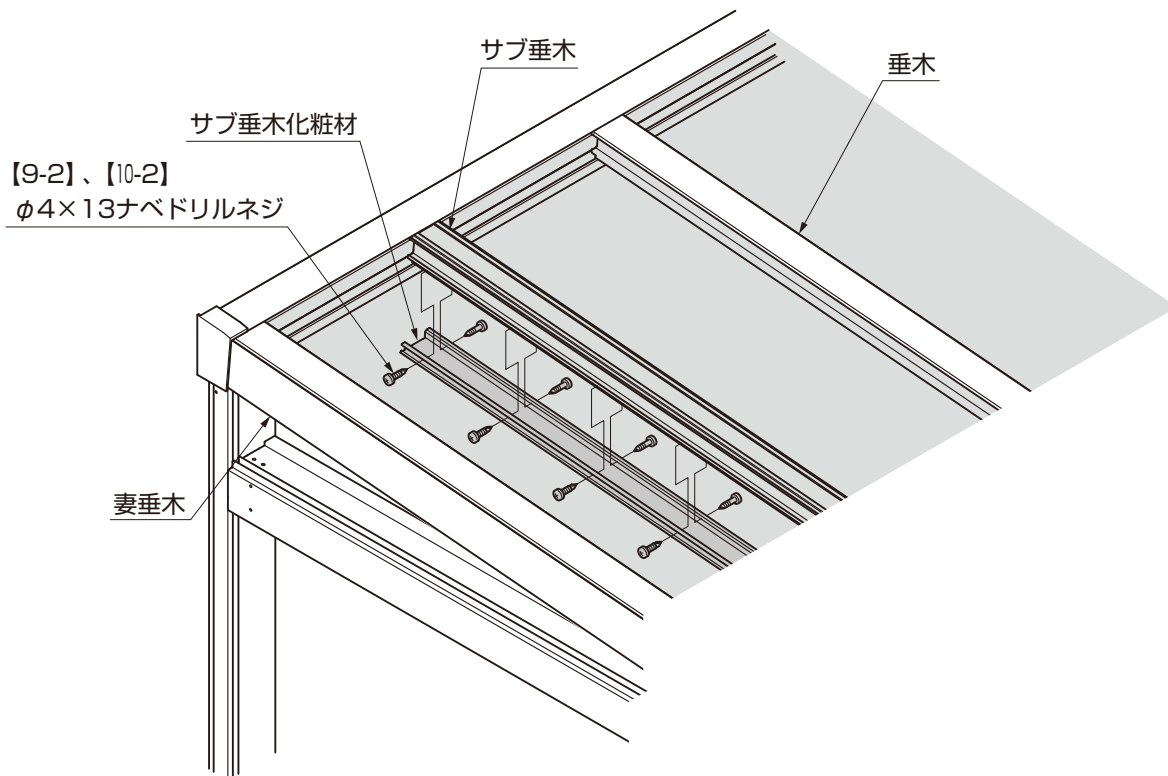


図15-8

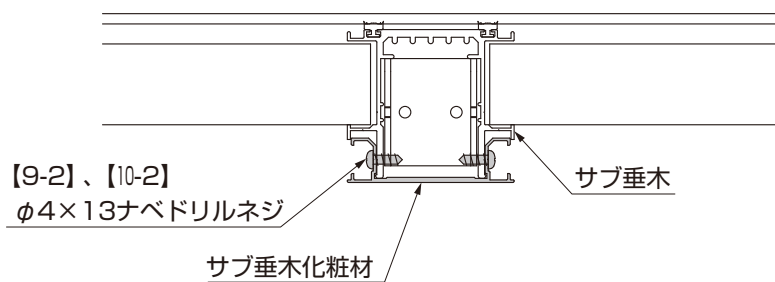
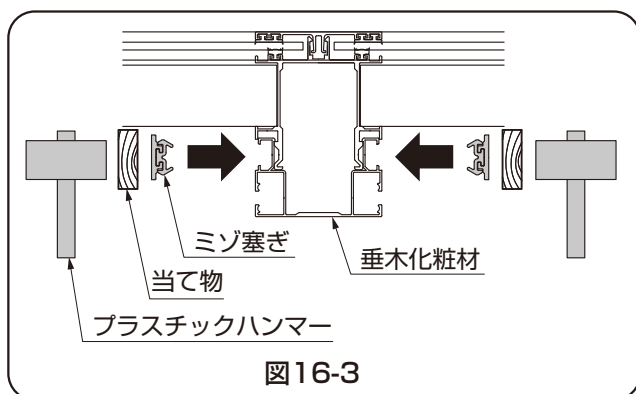
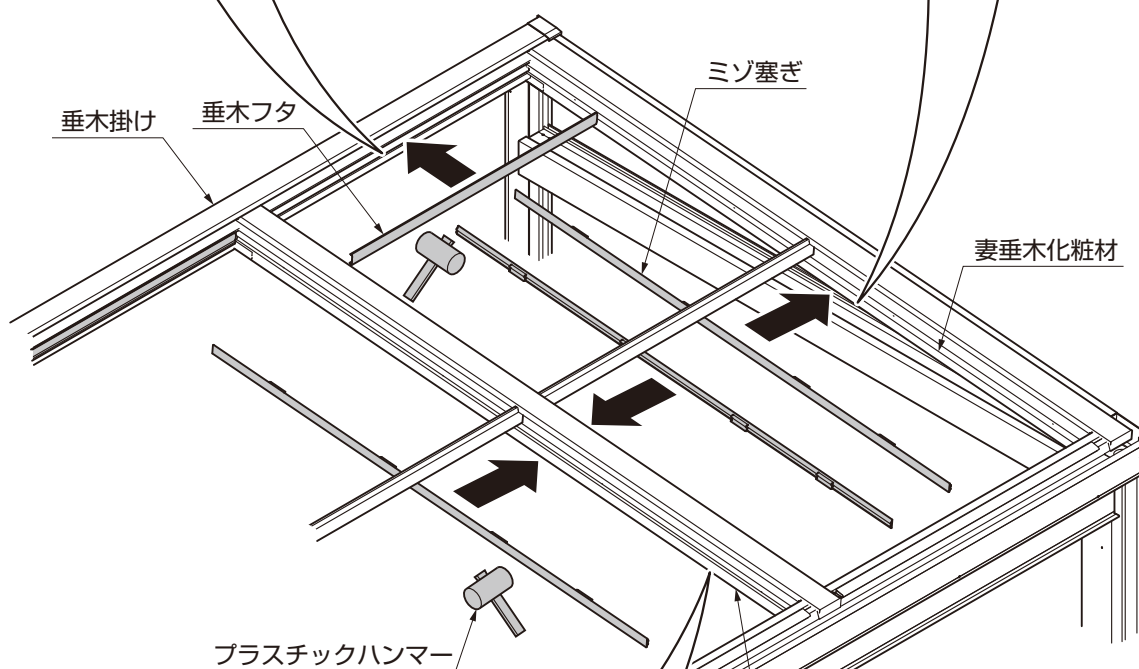
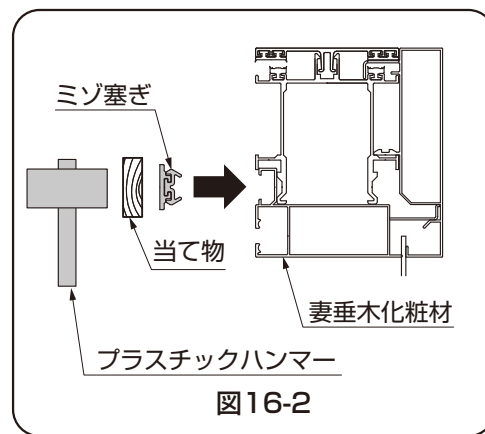
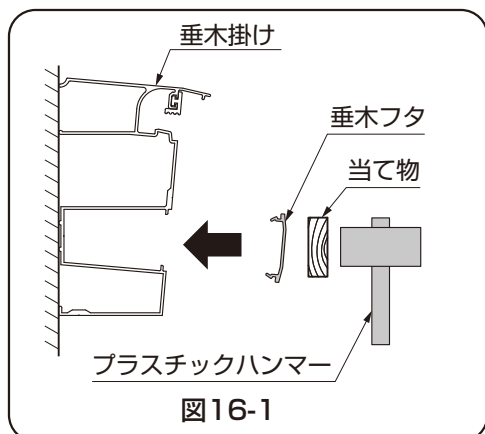


図15-9

①サブ垂木化粧材をサブ垂木に【9-2】、【10-2】で取付けてください。

16. 垂木フタ、ミゾ塞ぎの取付け



- ①垂木フタを垂木掛けにはめ込んでください。
- ②垂木フタを垂木化粧材、妻垂木化粧材にそれぞれはめ込んでください。

ポイント

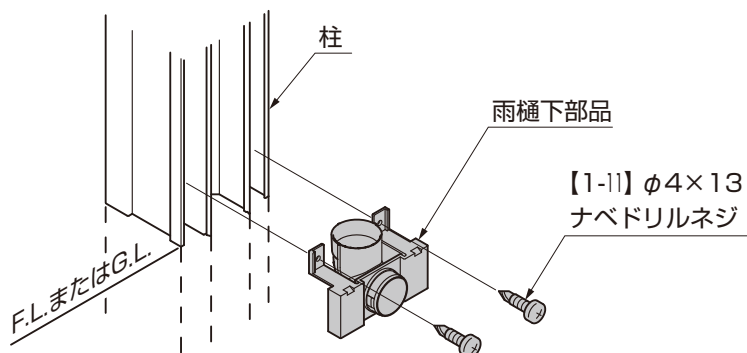
- はめ込みにくい場合は、当て物をあててプラスチックハンマーでたたいて入れてください。

17. 雨樋の取付け

※連棟柱も同様に取付けてください。

※中間柱の場合は「17-5 雨樋柱カバーの取付け」のみを行なってください。

17-1 雨樋下部品の取付け



①雨樋下部品を柱に【1-11】で取付けてください。

ポイント

●柱の施工方法によって雨樋下部品を取付ける位置が異なります。

補足

●ロング柱を使用している場合、G.L.に雨樋下部品下端を設置することで排水をデッキの下にすることができます。この場合雨樋の清掃がしにくくなるおそれがあります。

17-2 丸樋の加工

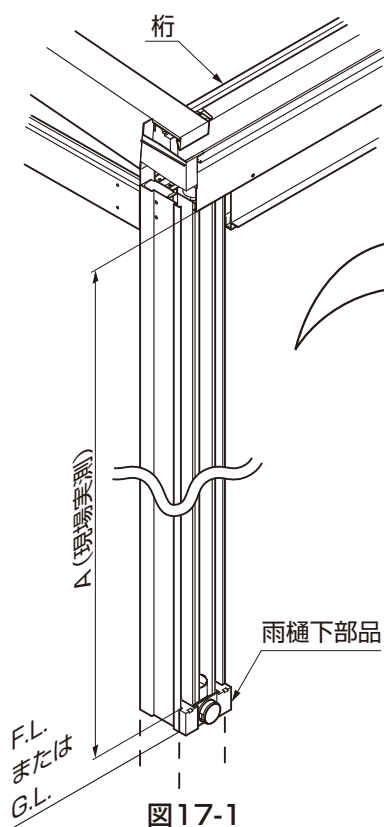


図17-1

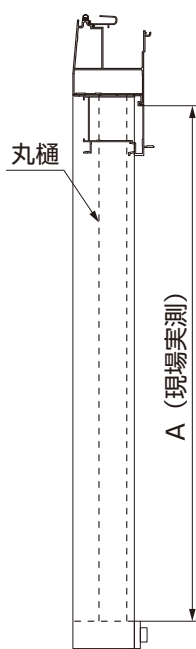


図17-2
実測寸法

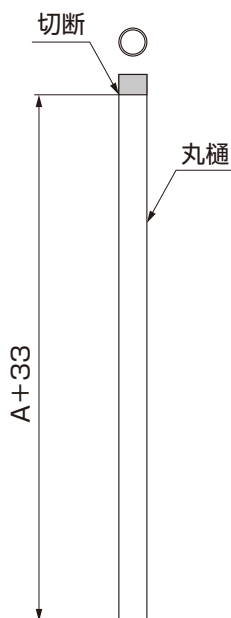


図17-3
加工寸法

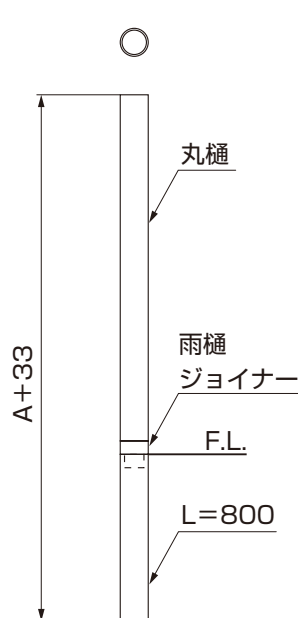
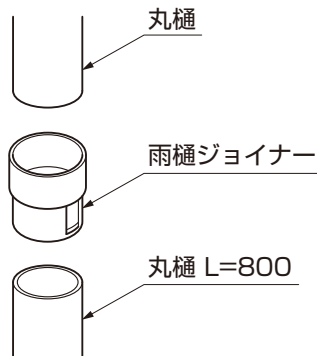


図17-4
加工寸法 (連結時)

①桁の下から雨樋下部品までを実測 (A寸法) してください。

②丸樋をA+33mm寸法になるように切断してください。

17-3 丸樋の連結



ポイント

- ロング柱の場合で縦樋の長さが足りない場合は、同梱の雨樋ジョイナーとL=800の丸樋を切断して使用してください。
- 雨樋ジョイナーは接着しないでください。

17-4 丸樋の取付け

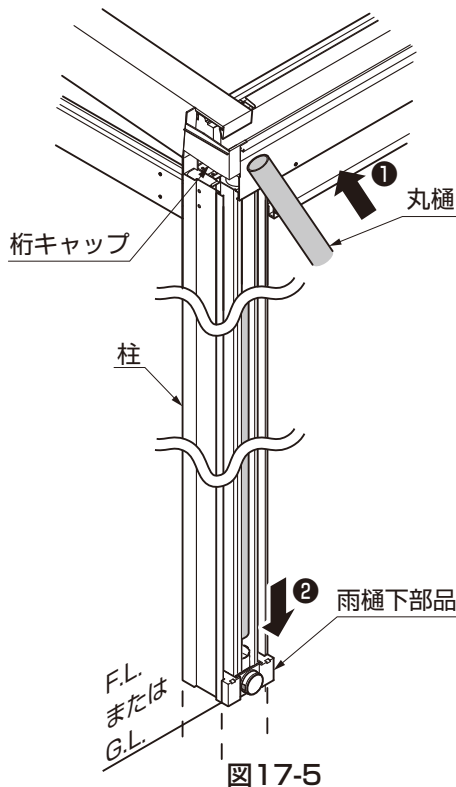


図17-5

- ①丸樋を桁キャップと雨樋下部品にはめ込んでください。

ポイント

- 丸樋がはめずらい時には雨樋下部品をいったん外し、雨樋下部品に丸樋をはめ込んだ状態で取付けてください。

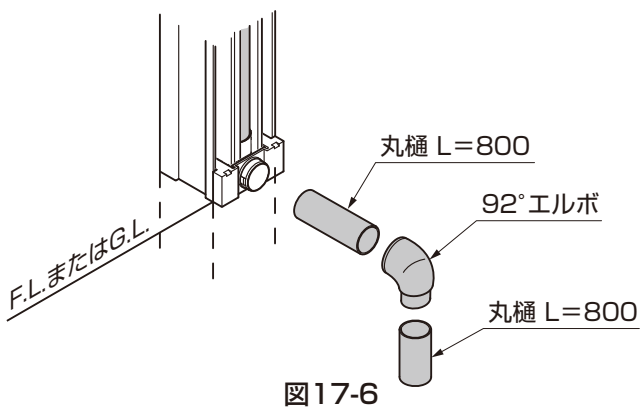


図17-6

ポイント

- 主柱、連棟柱セットに同梱のL=800の丸樋とエルボを使用して床下に排水することが可能です。

17. (つづき)

17-5 雨樋柱カバーの取付け

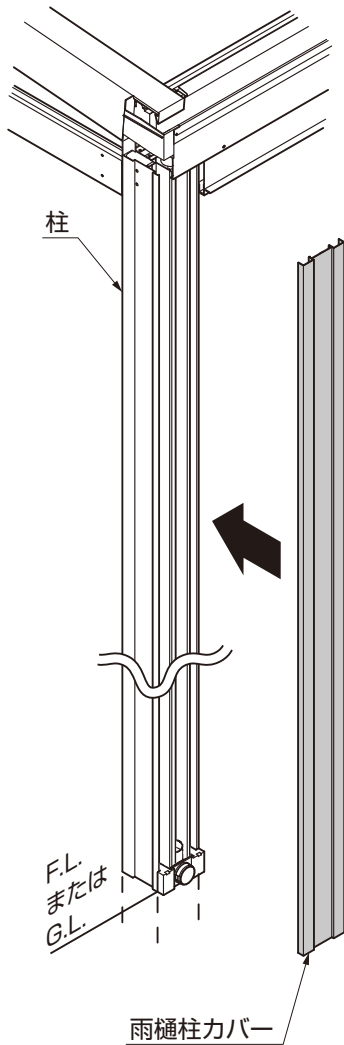


図17-7 主柱の場合

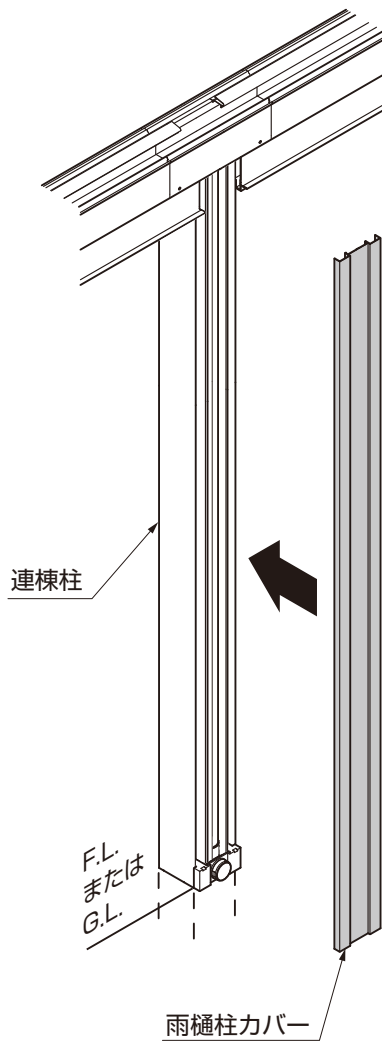


図17-8 連棟柱の場合

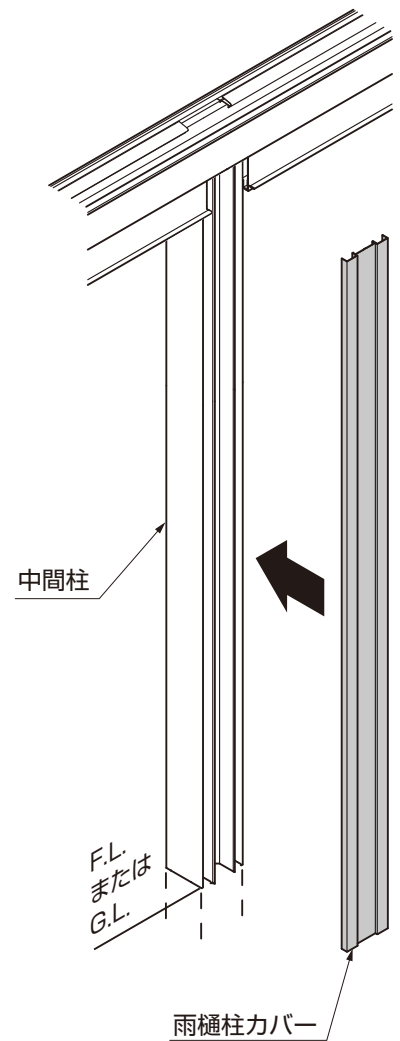


図17-9 中間柱の場合

①雨樋柱カバーを柱にはめ込んでください。

補足

●中間柱には雨樋下部品はありません。

18. 屋根幕板の取付け

※図は、スタイルAの場合を示します。スタイルBも同様に取付けてください。

18-1 部材の加工

(1) 出幅違い仕様の場合

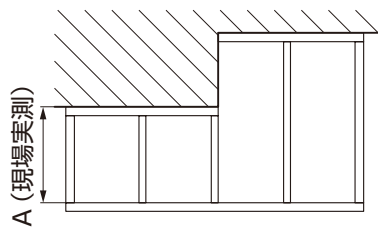


図18-1

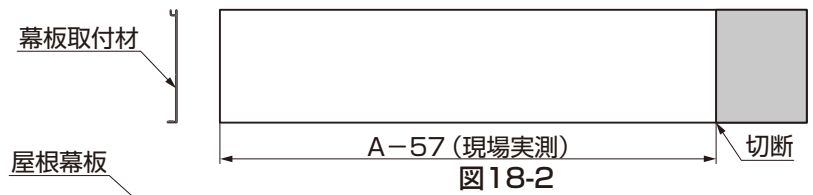


図18-2

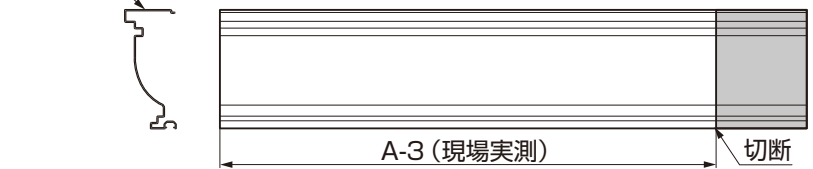
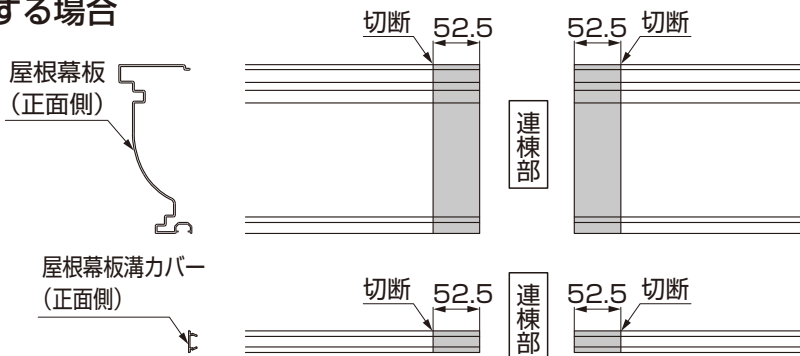


図18-3

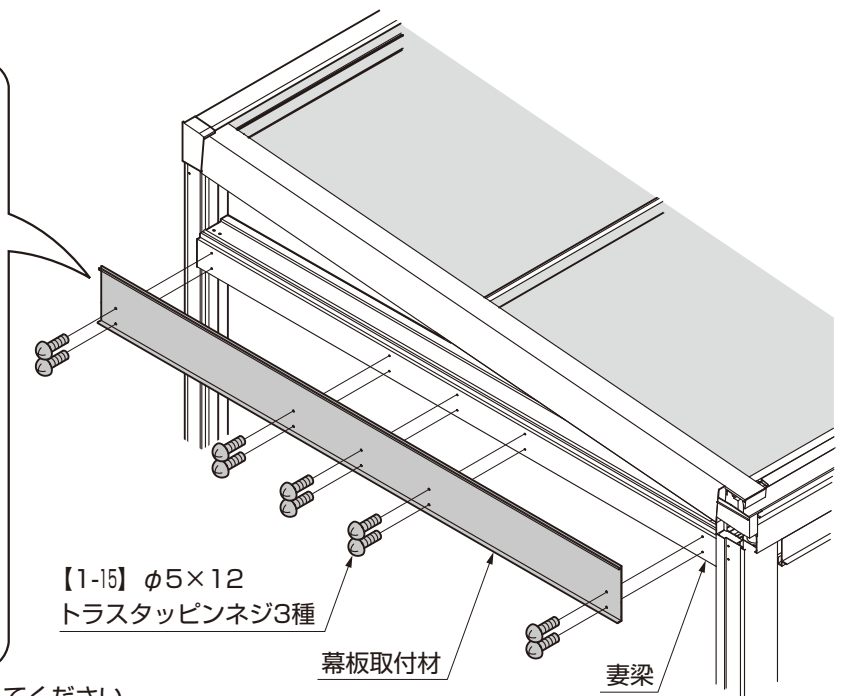
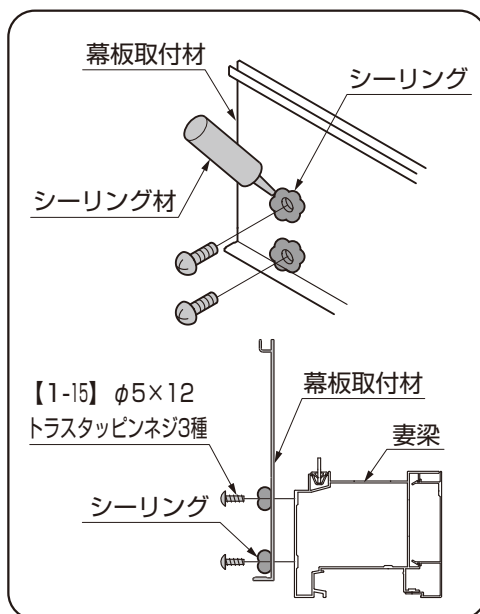
- ①出幅違い側の躯体から柱内までのA寸法を実測してください。
- ②屋根幕板をA-3に、幕板取付材をA-57に切断してください。

(2) 連棟する場合



- ①屋根幕板と屋根幕板満カバーの連棟する側を加工してください。

18-2 幕板取付材の取付け



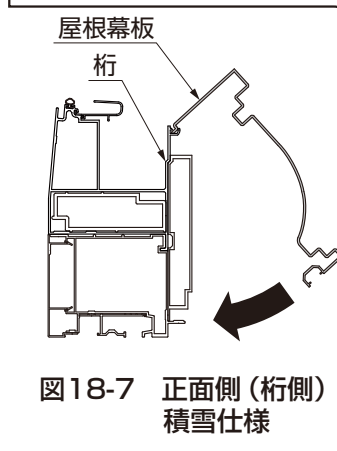
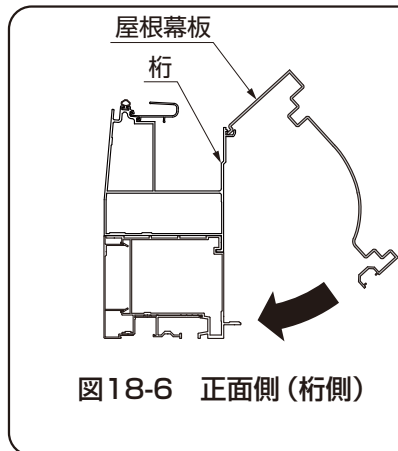
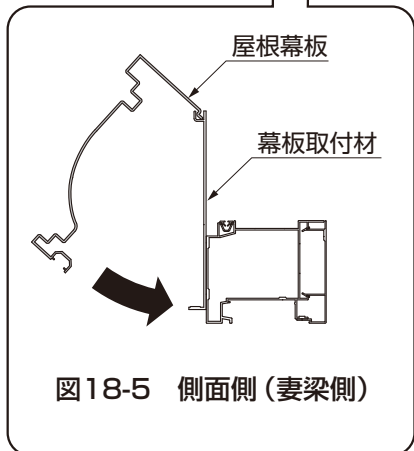
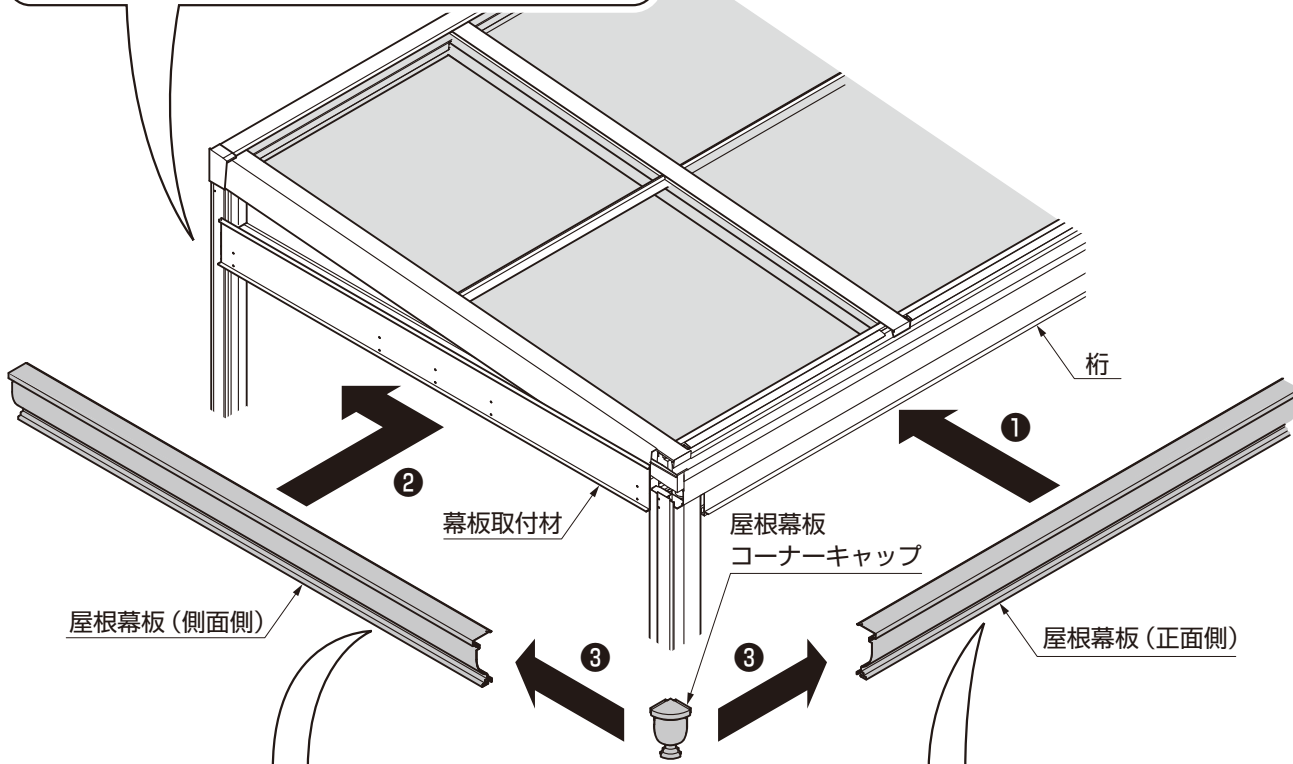
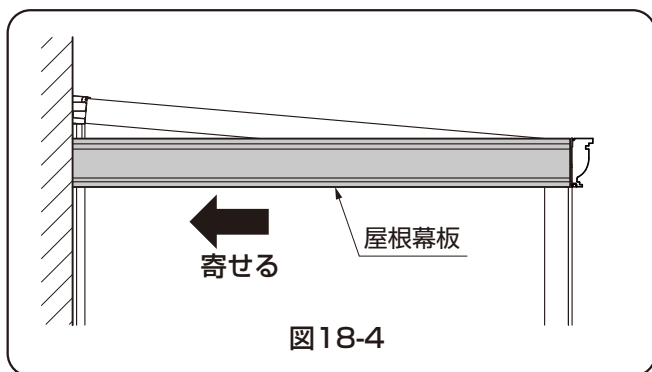
- ①幕板取付材の取付穴にシーリングをしてください。
- ②幕板取付材を妻梁に【1-15】で取付けてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

18. (つづき)

18-3 屋根幕板の取付け



- ①正面側の屋根幕板を桁に引っ掛け、屋根幕板端部を主柱外側面を同じ位置にしてください。(図18-6、図18-7参照)
- ②側面側の屋根幕板を幕板取付材に引っ掛け、躯体側に寄せてください。(図18-4、図18-5参照)
- ③屋根幕板コーナーキャップを屋根幕板にはめ込んでください。

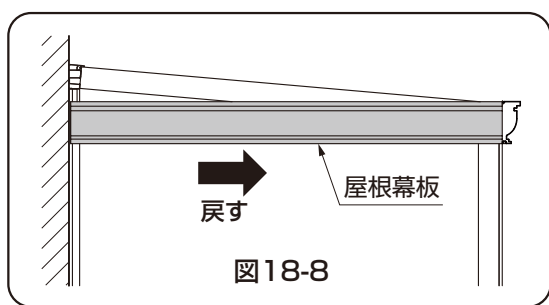


図18-8

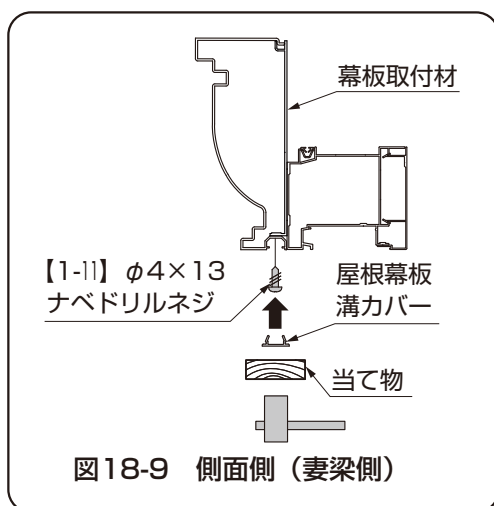
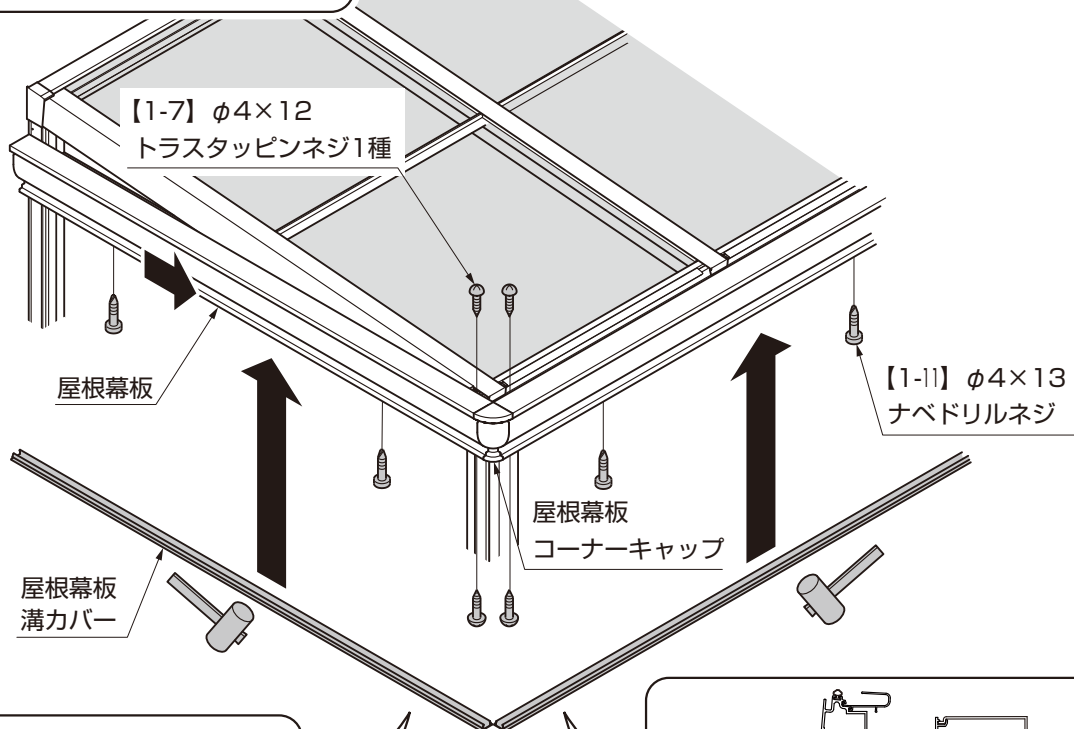


図18-9 側面側(妻梁側)

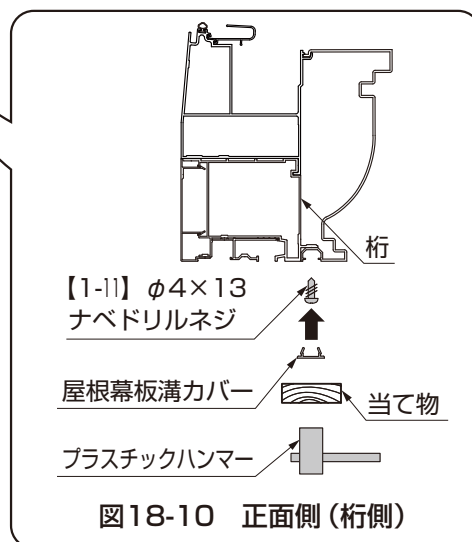


図18-10 正面側(桁側)

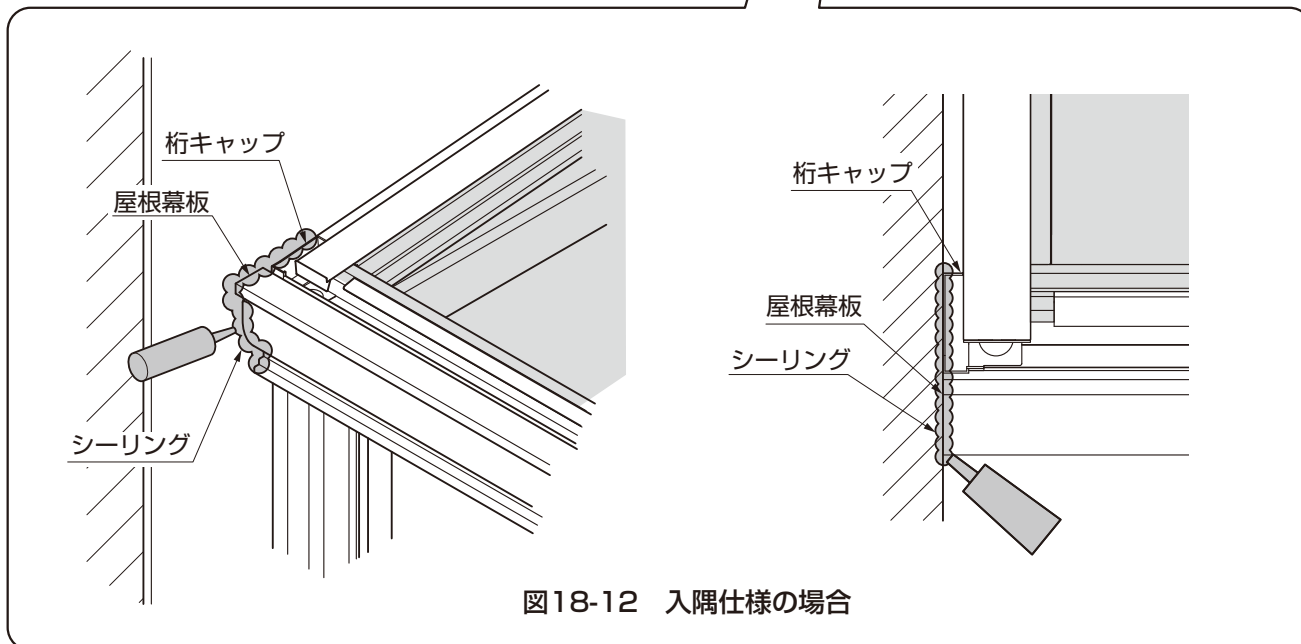
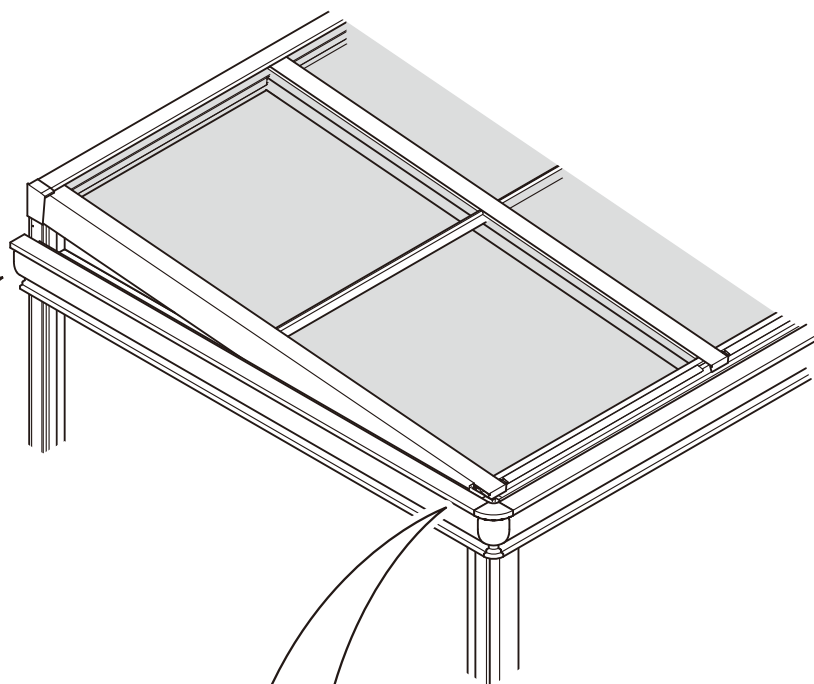
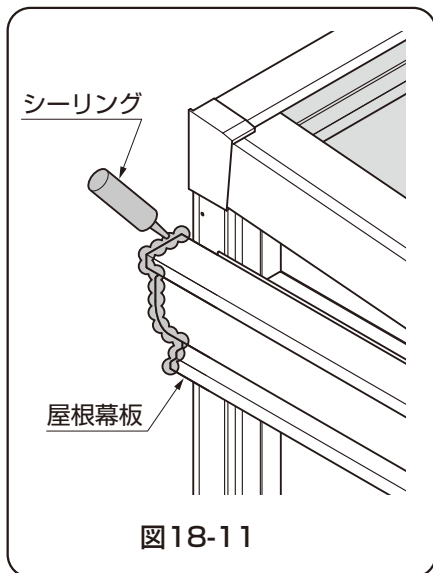
- ④側面側の屋根幕板を屋根幕板コーナーキャップに寄せて、しっかりとめ込んでください。(図18-8参照)
- ⑤屋根幕板コーナーキャップと屋根幕板を【1-7】で固定してください。
- ⑥屋根幕板を幕板取付材、桁に【1-11】で固定し、屋根幕板溝カバーをはめ込んでください。(図18-9、図18-10参照)

ポイント

- 屋根幕板溝カバーがはめ込みにくい場合は、当て物をあててプラスチックハンマーでたたいてはめ込んでください。
- 屋根幕板コーナーキャップを取付ける際は、ネジを仮固定して屋根幕板とのすき間をなくすように微調整してからネジを本固定してください。

18. (つづき)

18-4 シーリング



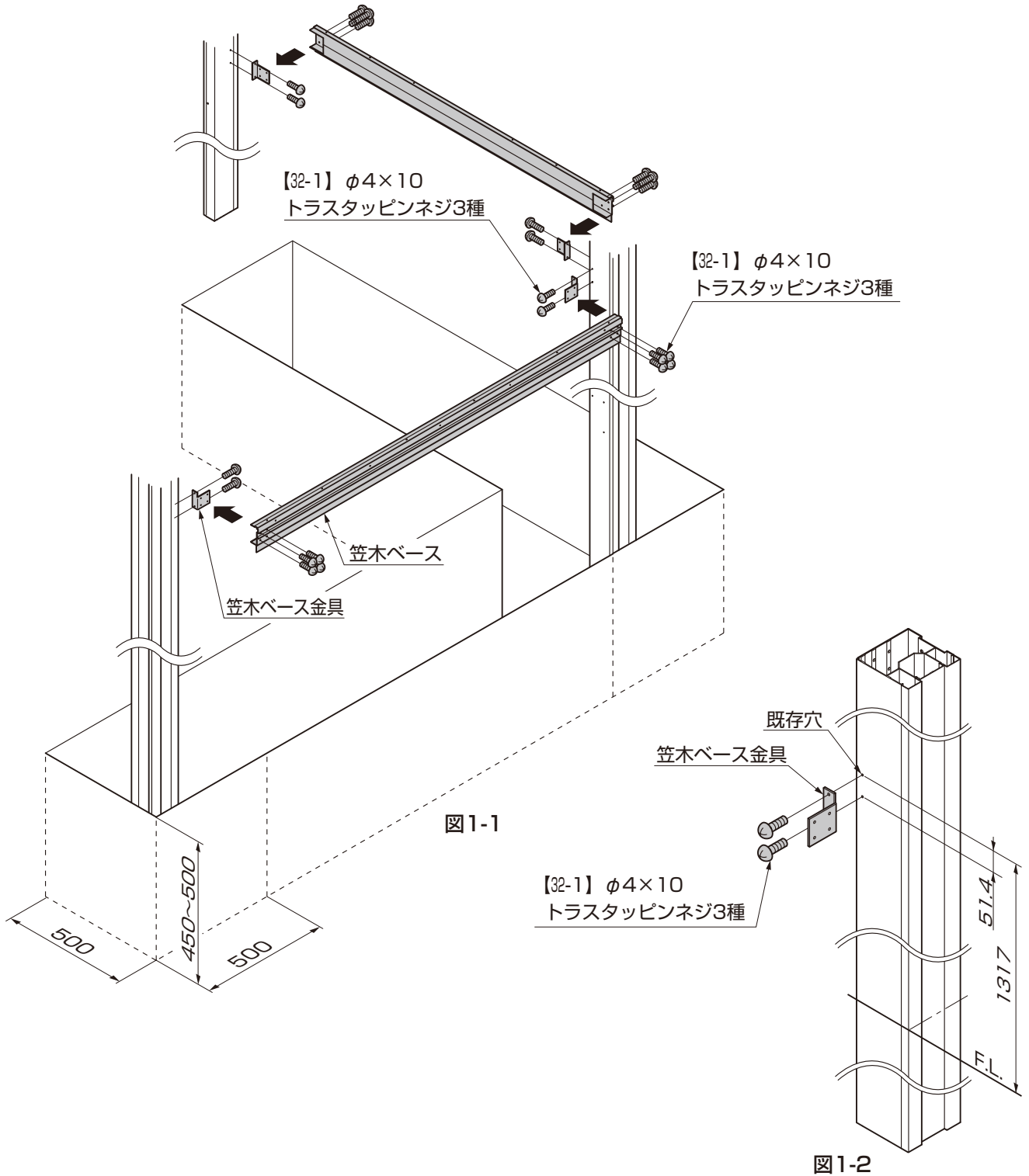
- ①側面側の屋根幕板と躯体のすき間をシーリングで埋めてください。
- ②入隅仕様の場合、屋根幕板、桁キャップと躯体の継ぎ目にシーリングしてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

7 レールの取付け

1. 柱の仮固定 ※図はL字腰壁仕様の場合を示します。



- ①柱に笠木ベース金具を【32-1】で仮止めしてください。
- ②笠木ベースを笠木ベース金具に、【32-1】で仮止めしてください。

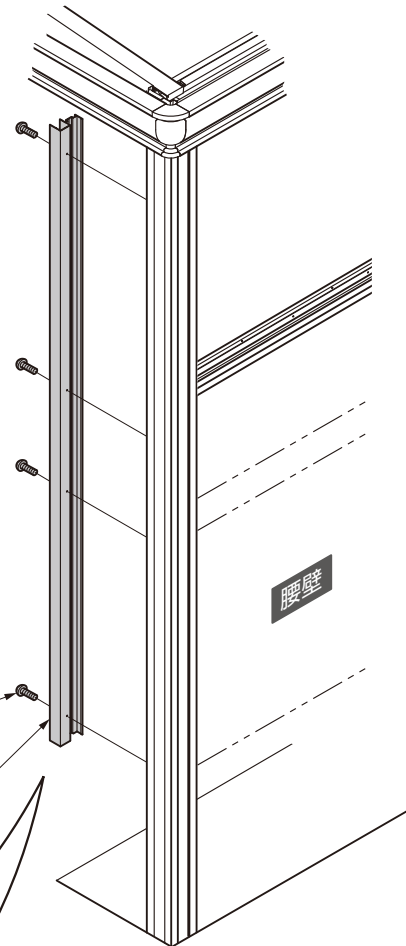
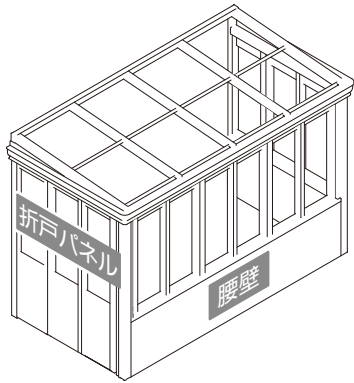
ポイント

- 笠木ベースは基礎の施工が終了するまで柱の位置をずれないようにするための部材です。

2. 縦枠受けの取付け（折戸パネル箇所）

ポイント

●折戸パネルの箇所のみ取付けてください。



【1-8】φ4×12トラスタッピンネジ3種

縦枠受けB

【1-8】φ4×12
トラスタッピンネジ3種

縦枠受けB

柱

縦枠受けA

V溝3本

縦枠受けB

V溝1本

ポイント

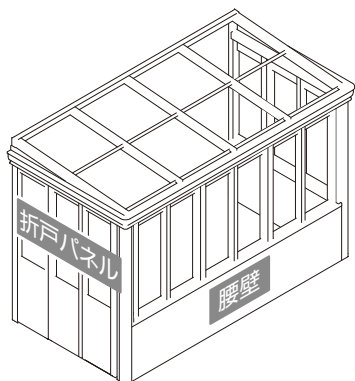
●縦枠受けには「側面用」、「間口用」また「右用」、「左用」があります。V溝が3本が縦枠受けA「間口用」、V溝が1本が縦枠受けB「出幅用」です。取付ける際には柱の穴と縦枠受けAの穴が合うことを確認して取付けてください。

①縦枠受けBを柱に【1-8】で取付けてください。

3. レールの取付け（折戸パネル箇所）

ポイント

●折戸パネルの箇所のみ取付けてください。



3-1 レールの加工 ※出幅違い仕様の場合の作業です。

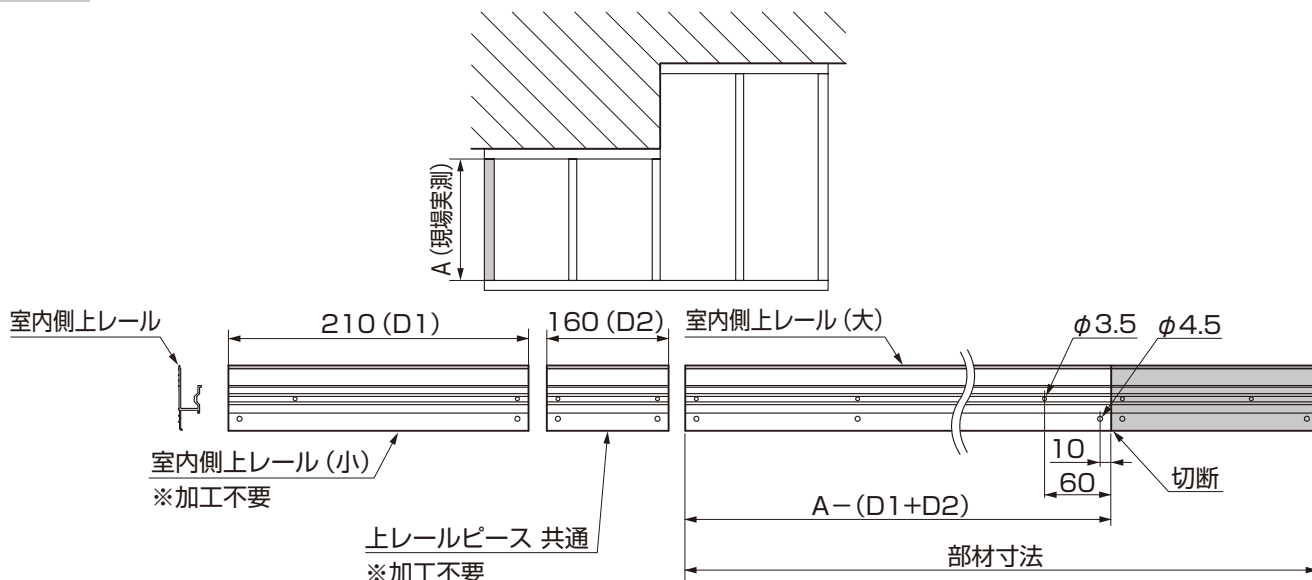


図 3-1

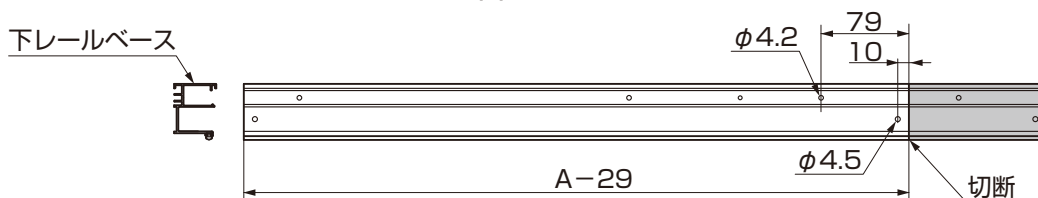


図 3-2

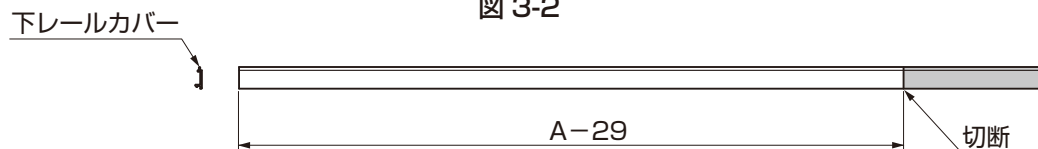


図 3-3

- ① 出幅違い側の方立 B～柱内寸法を実測してください。
- ② 図 3-1、図 3-2、図 3-3 を参照して、各部材をそれぞれ加工してください。

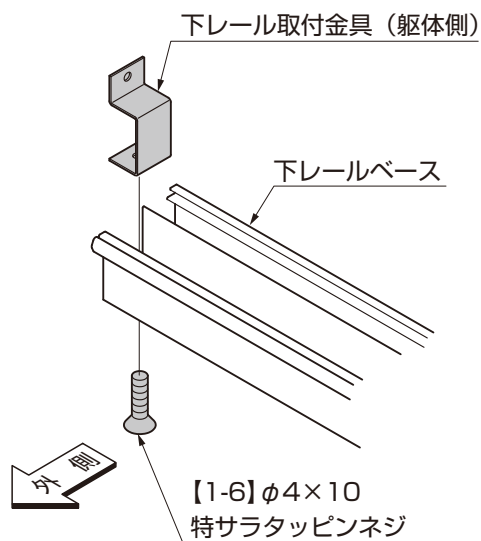
ポイント

●室内側上レールは 3 種類あります。「室内側上レール (大)」のみ加工してください。

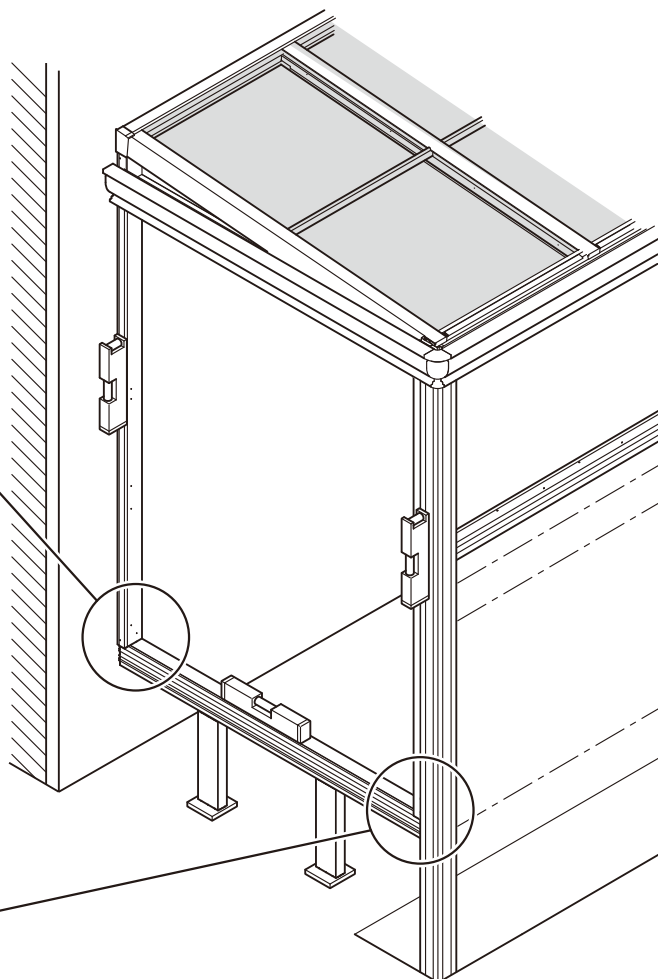
3. (つづき)

3-2 下レール取付金具の取付け

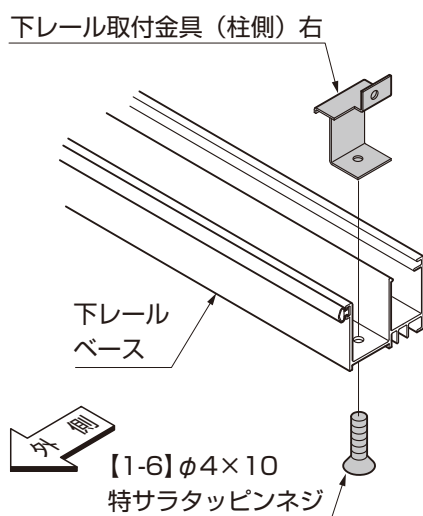
(1) 躯体側の取付け



①下レール取付金具 (躯体側) を下レールベースに【1-6】で取付けてください。

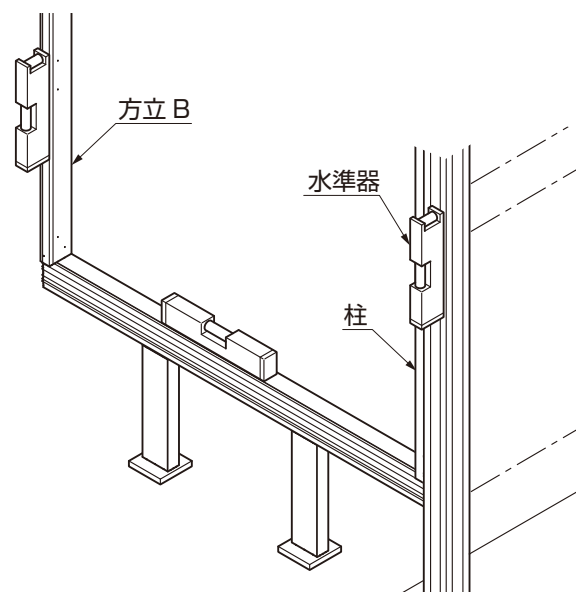


(2) 柱側の取付け



①下レール取付金具 (柱側) 右を下レールに【1-6】で取付けてください。

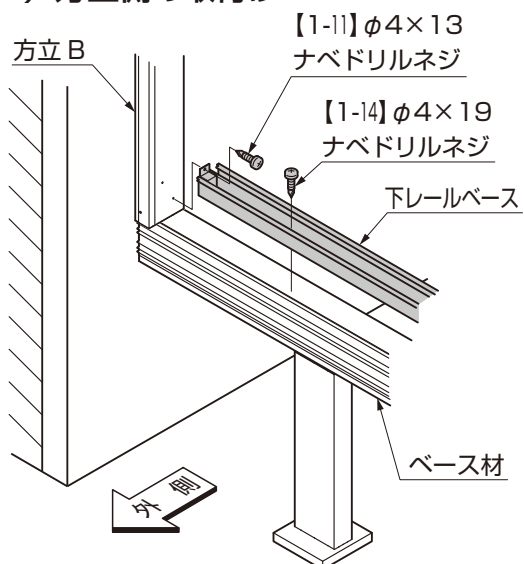
(3) 水平・垂直の確認



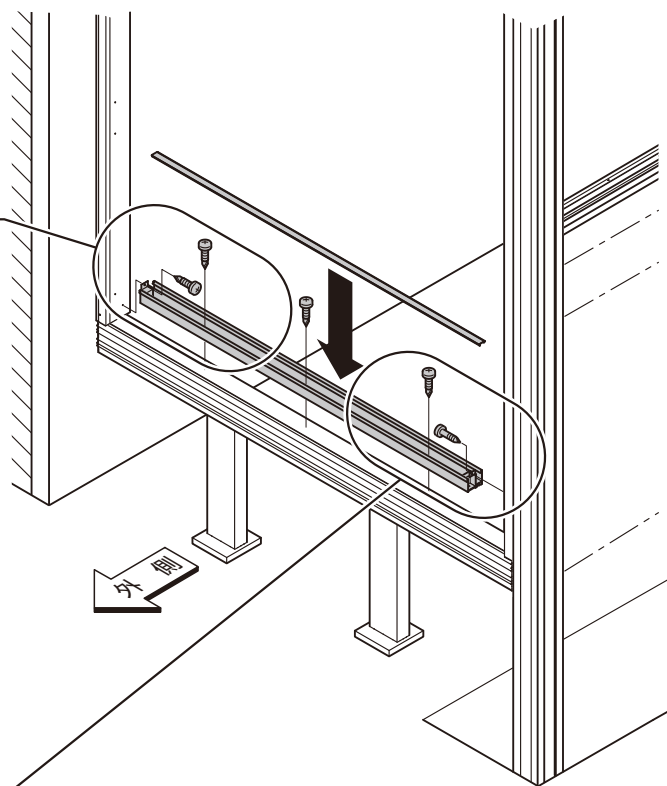
①下レールベースをベース材に固定する前に水準器などで方立Bと柱の水平・垂直を確認してください。

3-3 下レールベースの取付け

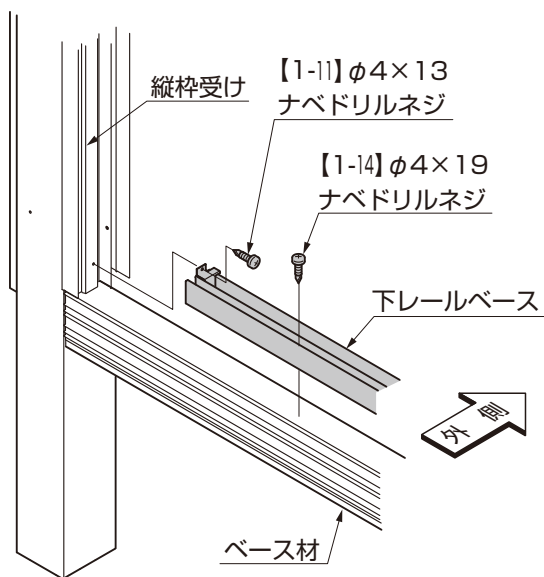
(1) 方立側の取付け



- ①下レールベースを方立 B に【1-11】で取付けてください。
- ②下レールベースをベース材に【1-14】で取付けてください。

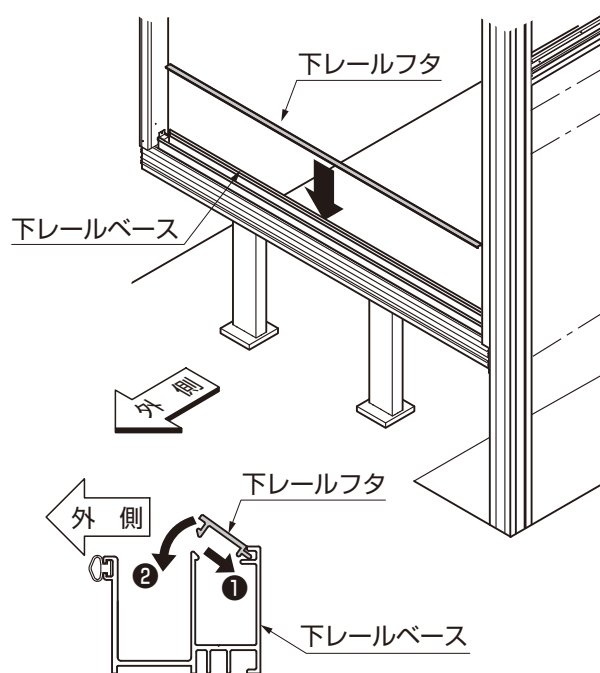


(2) 柱側の取付け



- ①下レールベースを方立 B に【1-11】で取付けてください。
- ②下レールベースをベース材に【1-14】で取付けてください。

(3) 下レールフタの取付け



- ①下レールフタを下レールベースにはめ込んでください。

3. (つづき)

3-4 方立の固定

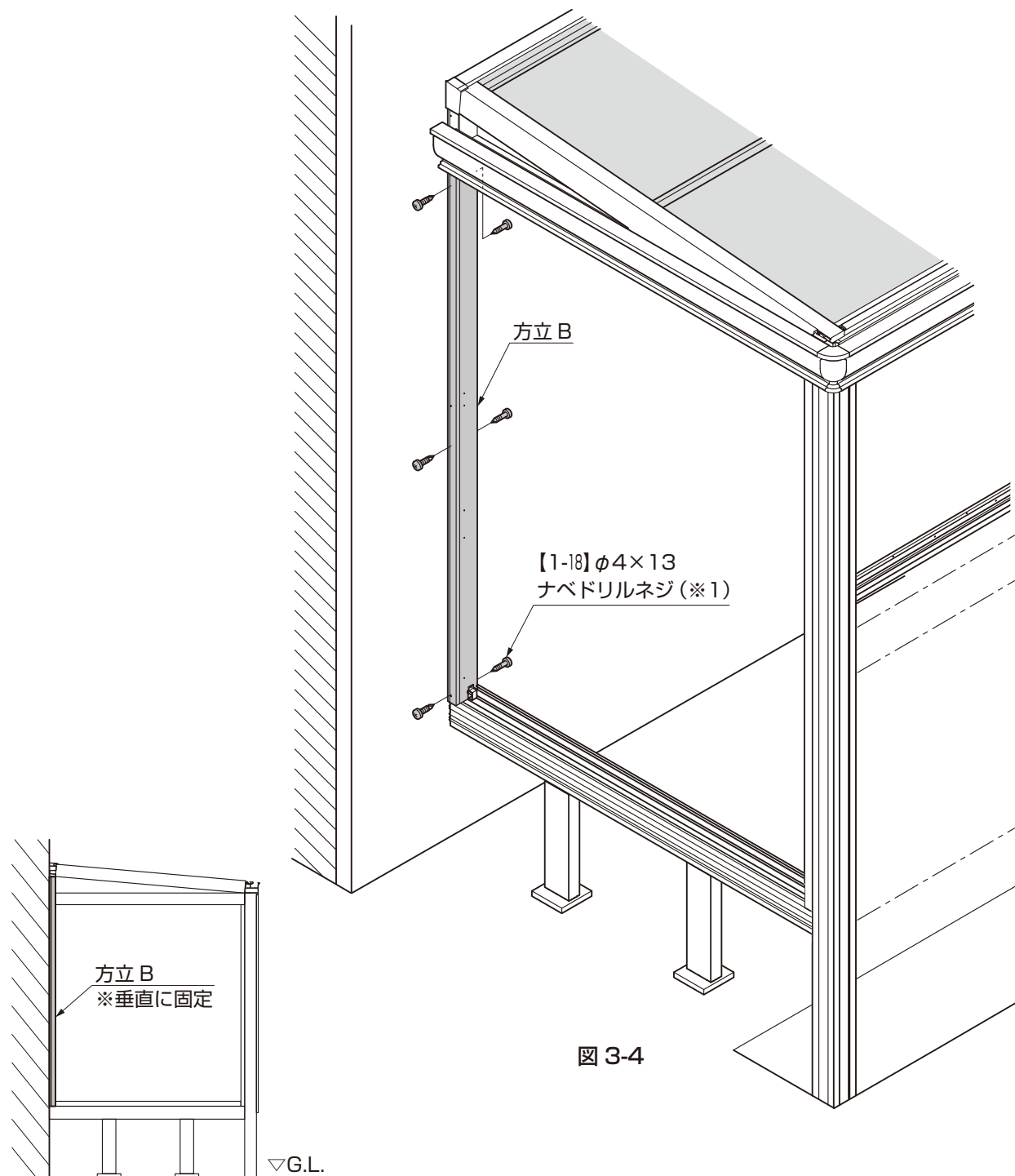


図 3-4

図 3-5

①方立 B を【1-18】で固定してください。

ポイント

- 方立 B は必ず垂直になるように固定してください。
- 本体色によって【1-18】のネジ色が異なるので注意してください。シャイングレーは生地色、アイボリーホワイトは白色、マイルドブラックは黒色のネジを使用してください。(※1)

4. 土間見切り材の取付け ※ベース材仕様で土間施工する場合の作業です。

4-1 土間見切り材の加工 ※腰壁部には不要です。

(1) 切断

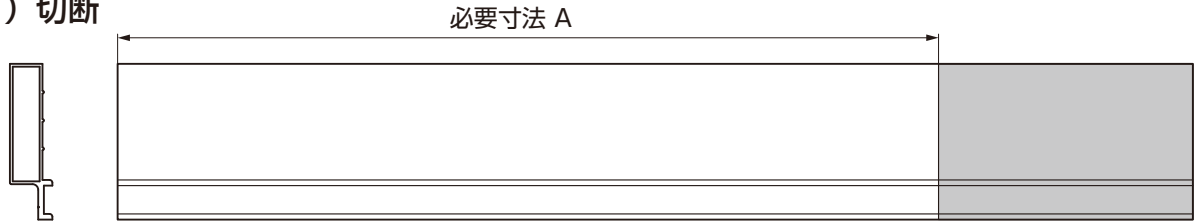


図4-1

表4-1 間口切断寸法
(前面部分腰壁の場合)

間口	必要寸法A	必要本数
2.5間	2275	1
3.0間	2730	1

表4-2 間口切断寸法
入隅の場合 (前面部分腰壁の場合)

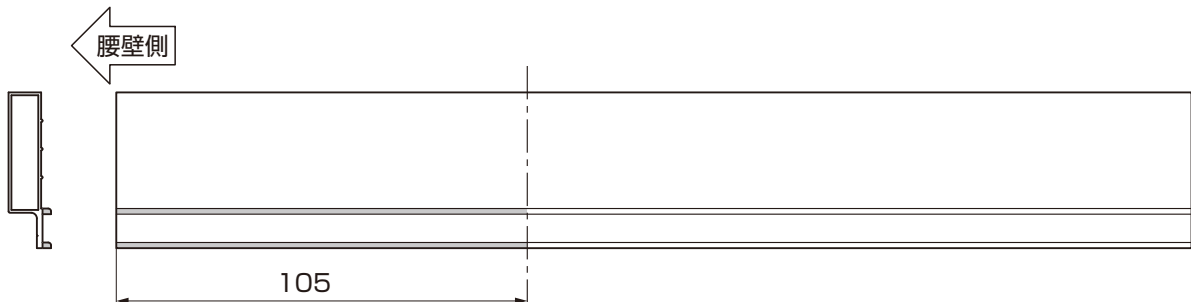
間口	必要寸法A	必要本数
2.5間基本側	2275	1
2.5間入隅側	2380	1
3.0間基本側	2730	1
3.0間入隅側	2830	1

表4-3 出幅切断寸法

出幅	必要寸法A	
	前面：基本	前面：腰壁
6尺	1793	1759
8尺	2393	2359
10尺	2993	2959

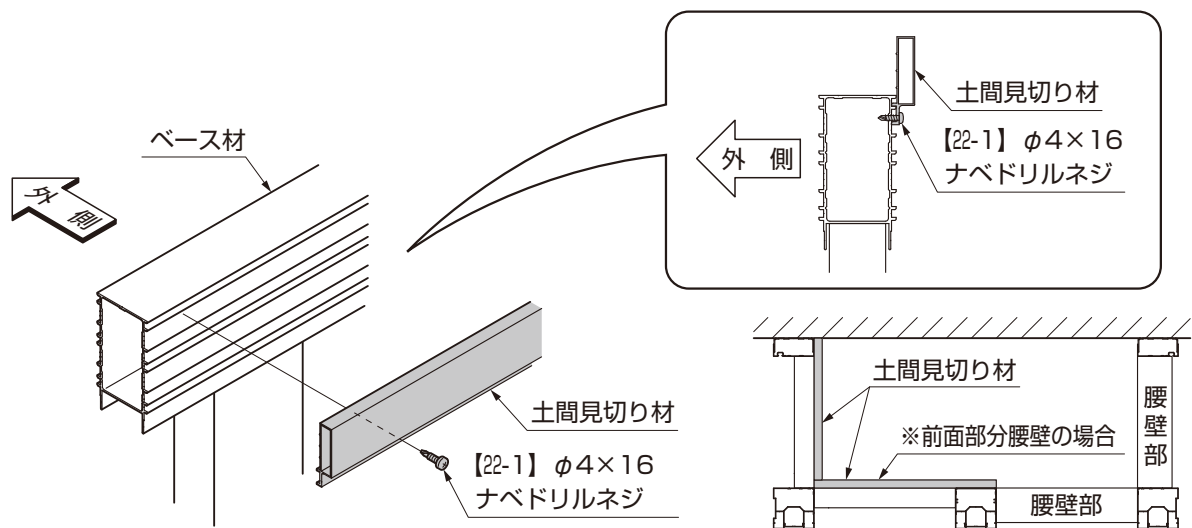
①土間見切り材を加工してください。

(2) 加工 ※2.5間、3.0間の間口方向部分腰壁部のみ加工してください。



①土間見切り材のリブ部分を加工してください。

4-2 土間見切り材の取付け ※腰壁部には不要です。



①土間見切り材を、ベース材に【22-1】で間口勝ちになるように取付けてください。

5. 外デッキスペーサーの取付け

5-1 外デッキスペーサーの加工

※腰壁部には不要です。
※間口2.5間 施工時の作業です。

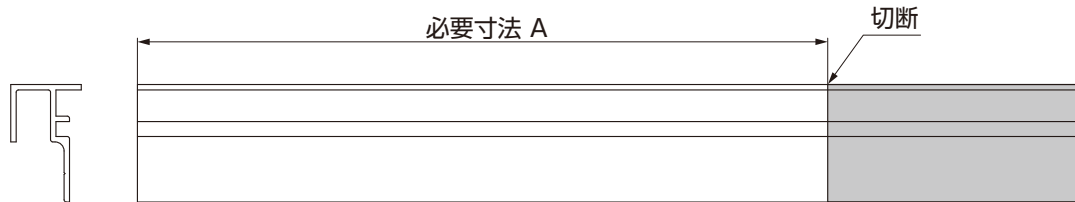


図5-1

表5-1 間口切断寸法(前面部分腰壁の場合)

間口	必要寸法A	必要枚数
2.5間	2078	1

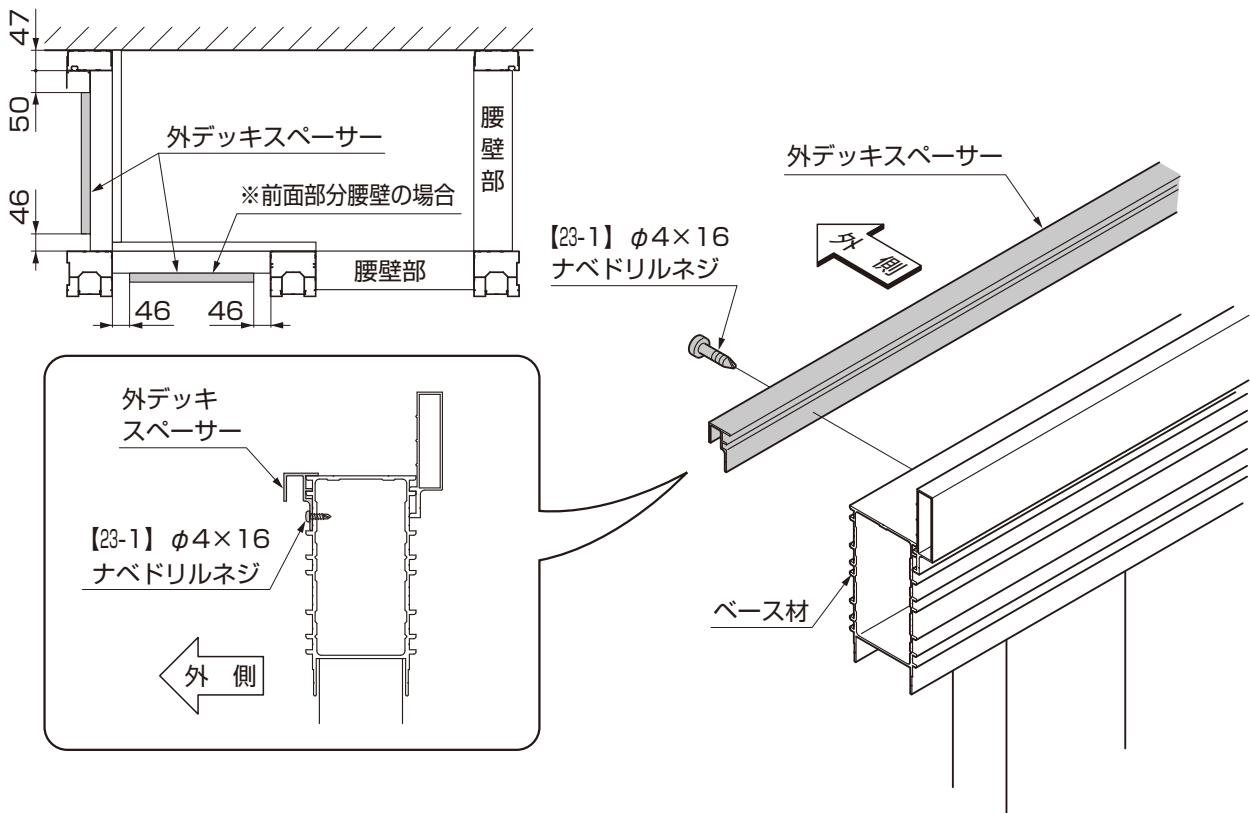
①外デッキスペーサーを加工してください。

ポイント

●外デッキスペーサーは1.5間用を加工して、ご使用ください。

5-2 外デッキスペーサーの取付け

※腰壁部には不要です。



①外デッキスペーサーを、ベース材に【23-1】で取付けてください。

6. 室内側上レールの取付け

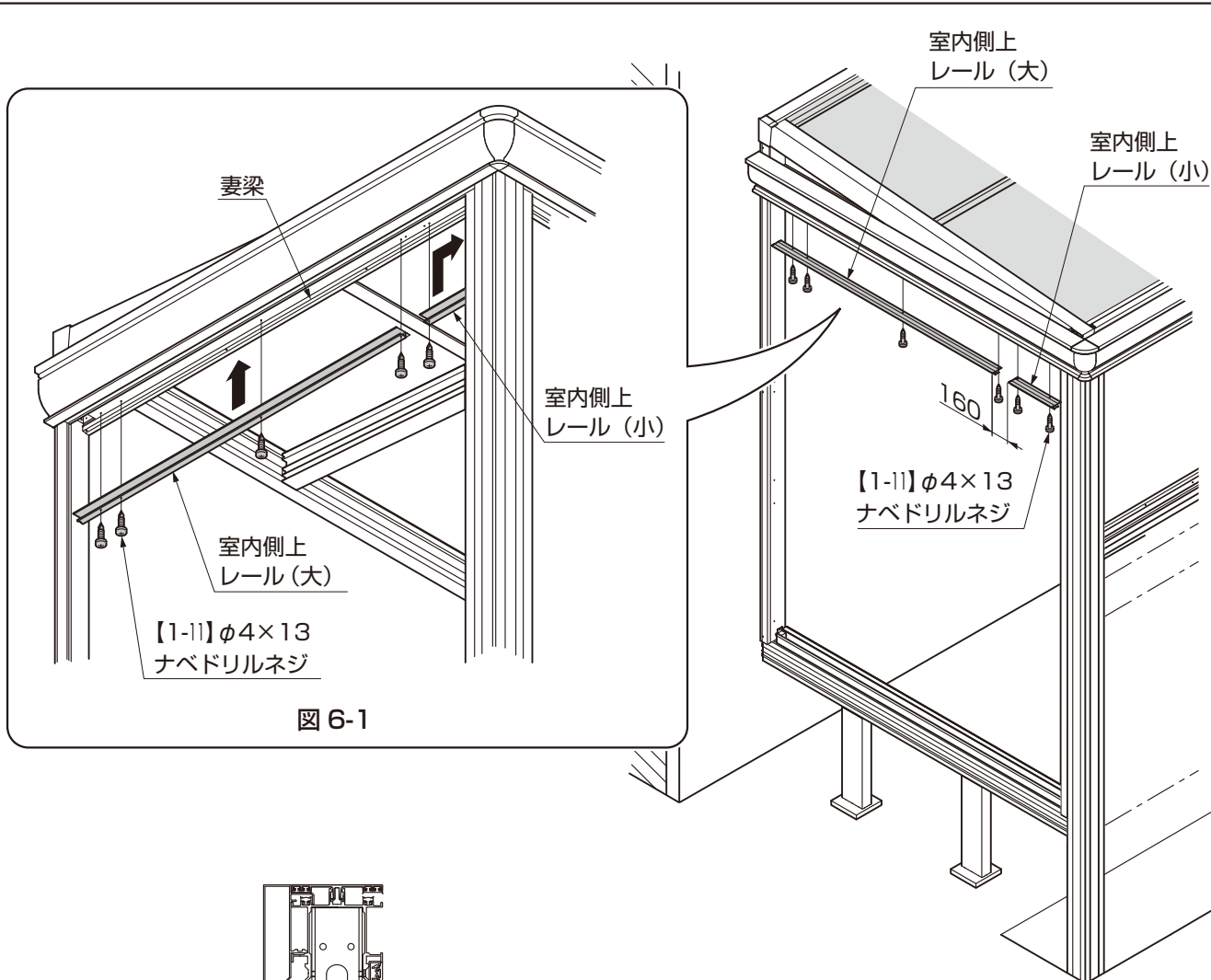


図 6-1

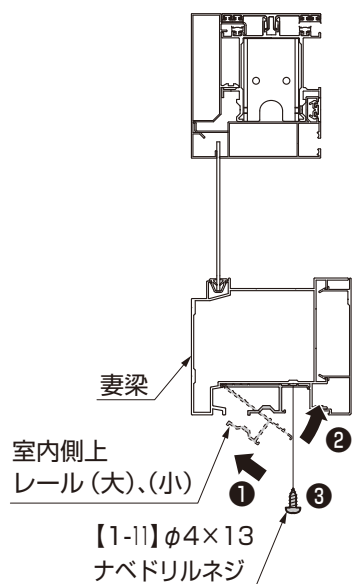


図 6-2

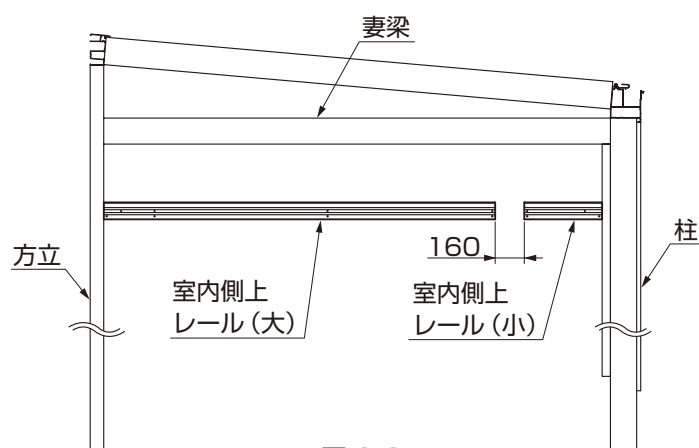


図 6-3

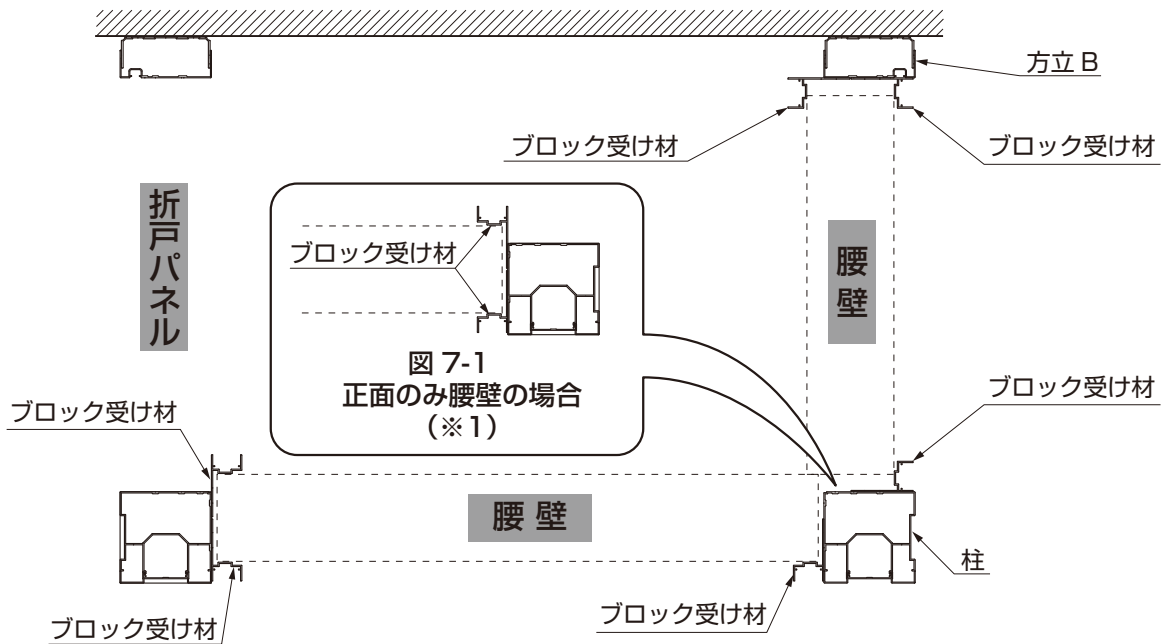
①室内側上レール (小)、室内側上レール (大) を桁外レールに【1-11】で取付けてください。

ポイント

- 室内側上レール (大)、(小) は柱または、方立の内面に沿うように取付けてください。
室内側上レール (大) と室内側上レール (小) の間は160mmすき間があきます。

7. ブロック受け材の取付け ※腰壁を施工する箇所の作業です。

7-1 取付け位置の確認



①ブロック受け材を取付ける位置を確認してください。

ポイント

- ブロック受け材はコンクリートブロックを囲むように取付けます。側面と正面にコンクリートブロックを施工する場合は柱内側には取付きません。
- 側面に腰壁を施工する場合は、方立Bにもブロック受け材を取付けます。
- 正面のみ腰壁の場合(※1)ブロック受け材の取付けは左 右同じです。(図 7-1 参照)

7-2 ブロック受け材の加工

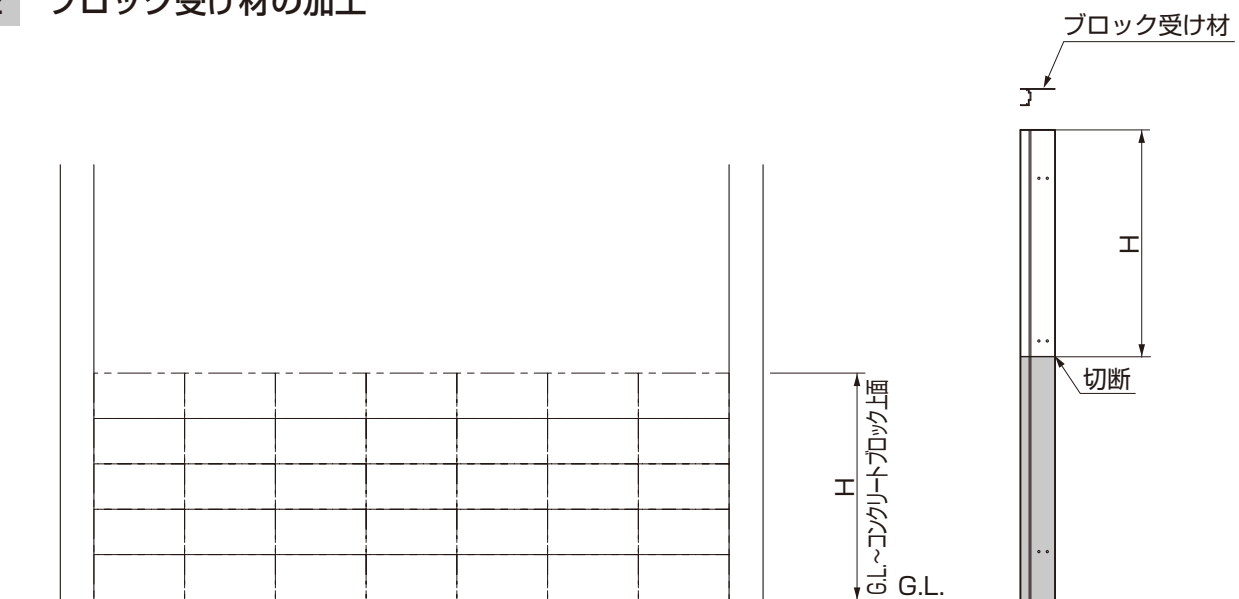


図 7-2

図 7-3

- ①G.L. ~コンクリートブロック上面になる位置 (H寸法) を測定してください。
- ②ブロック受け材をH寸法に加工してください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

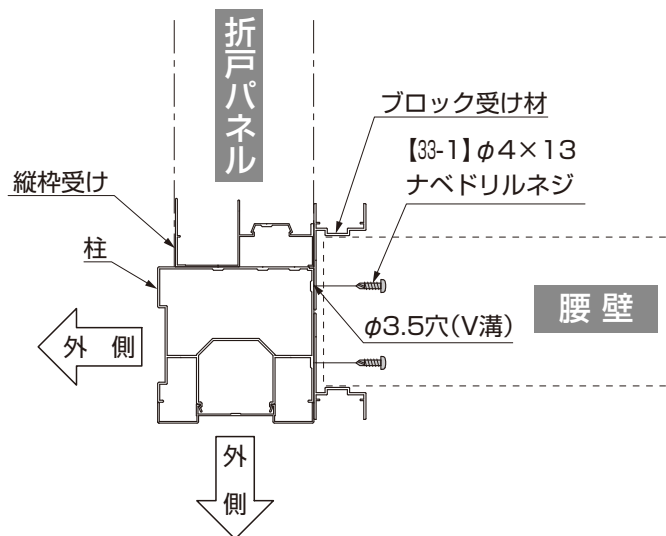
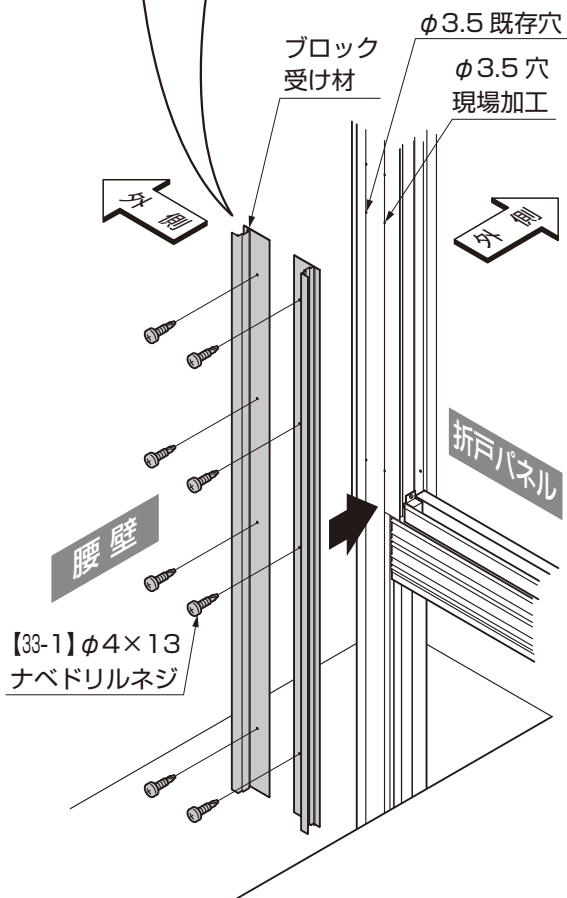
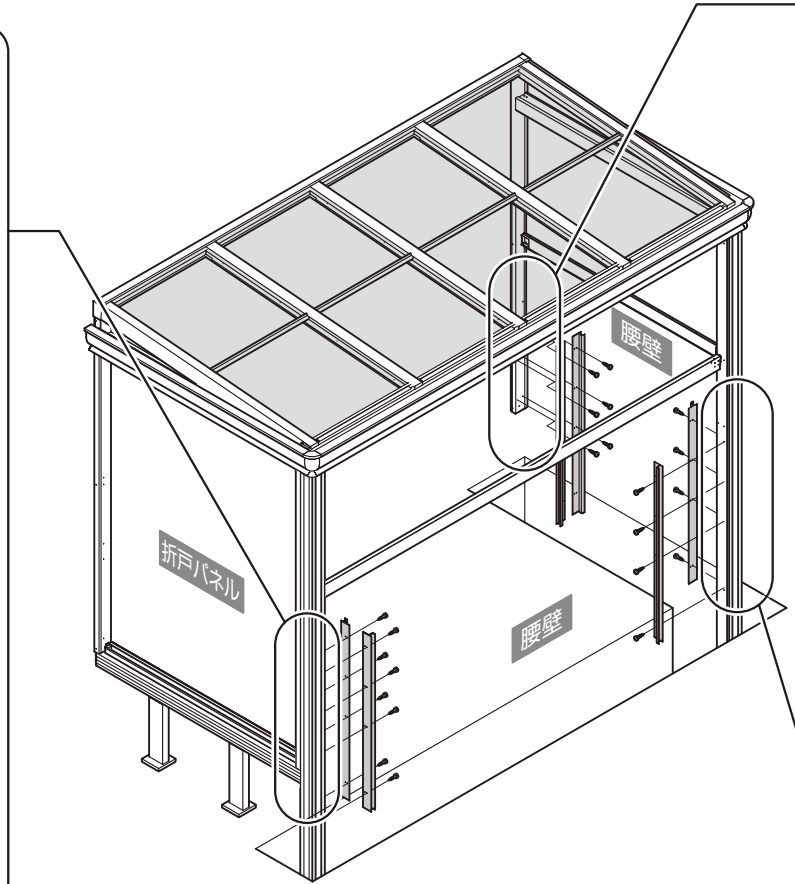
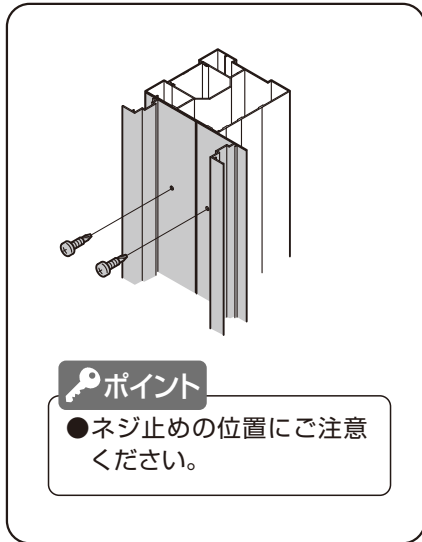
.....

.....

7. (つづき)

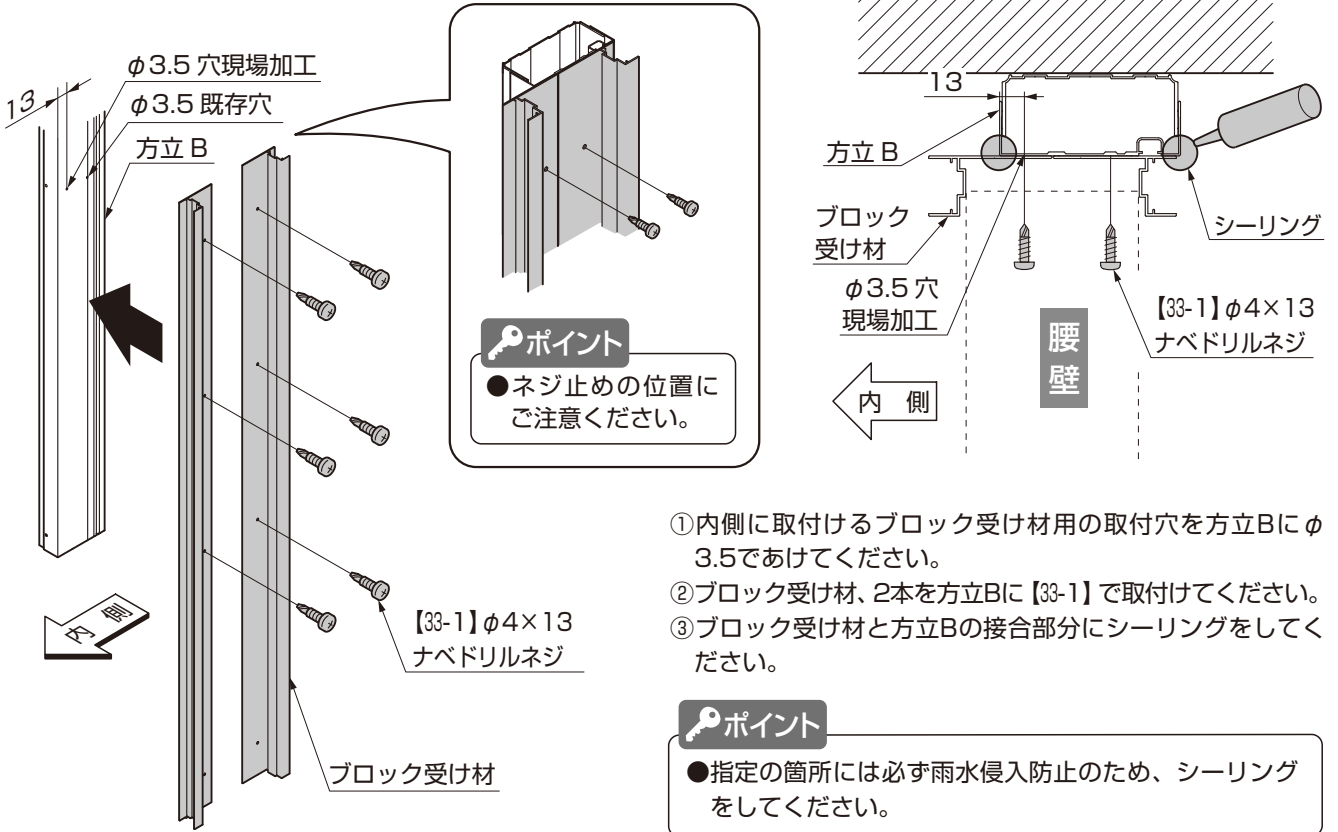
7-3 ブロック受け材の取付け ※取付けは、内外指示のシールを見て取付けてください。

(1) 正面：腰壁 側面：腰パネル場合

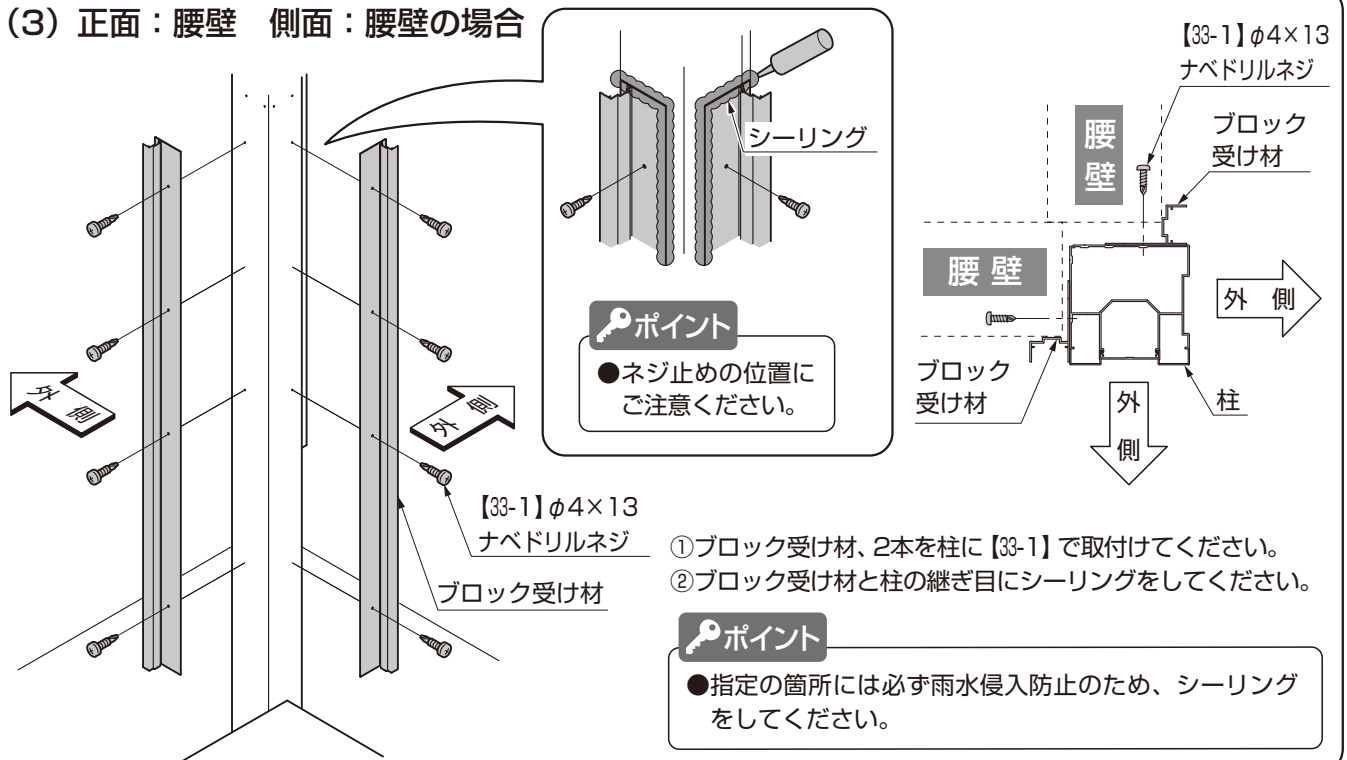


- ①内側に取付けるブロック受け材用の取付穴を柱にφ3.5であけてください。
- ②ブロック受け材、2本を柱に【33-1】で取付けてください。

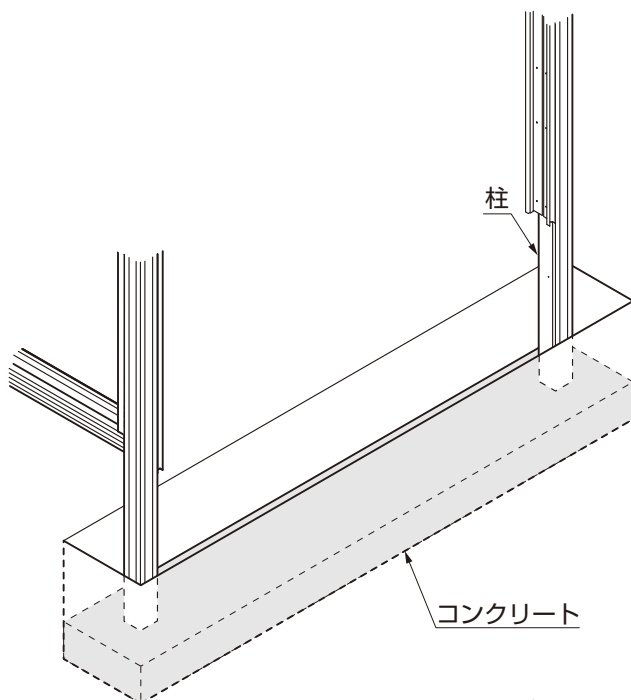
(2) 側面：腰壁の場合



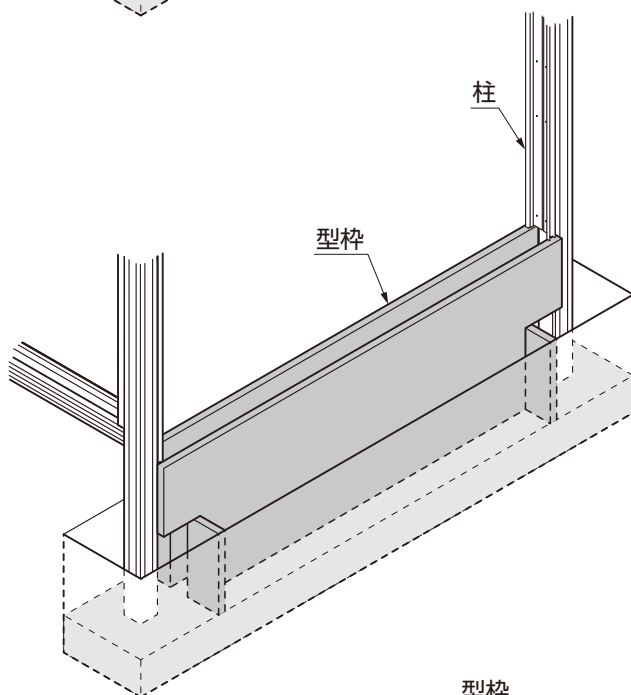
(3) 正面：腰壁 側面：腰壁の場合



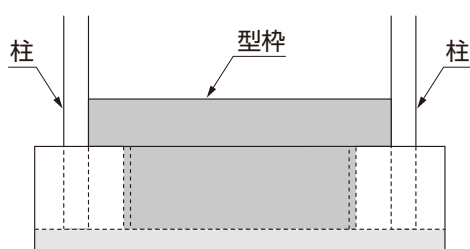
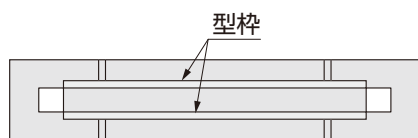
8. 基礎の打設、コンクリートブロックの建て込み

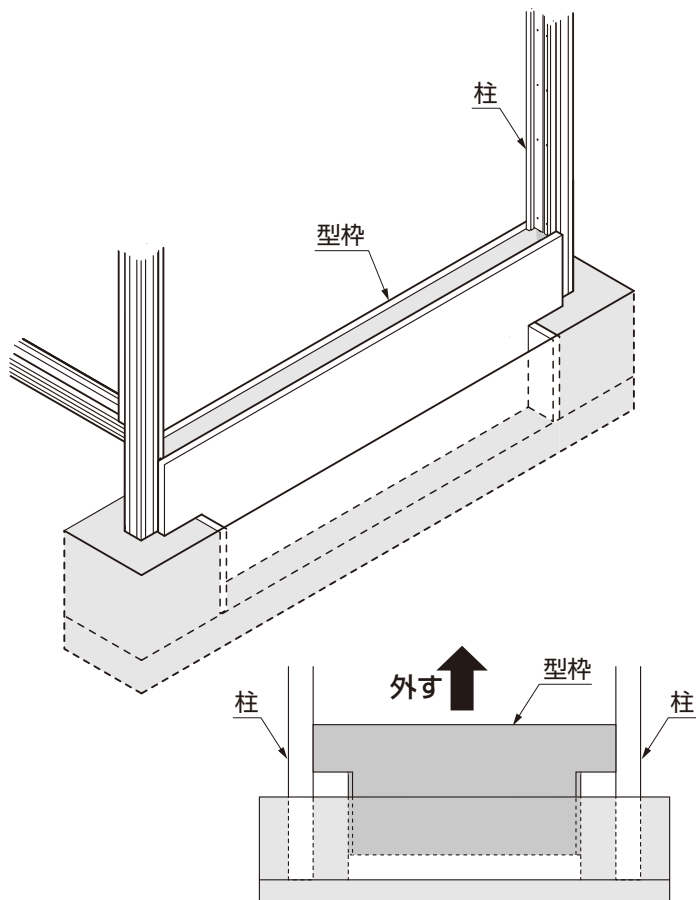


① 底版部へコンクリートを打設してください。

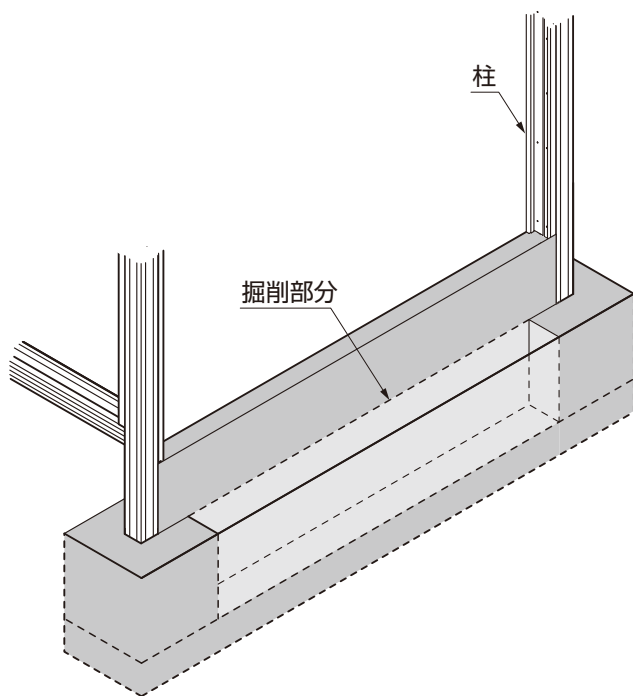


② 立ち上がり部柱基礎内側へ型枠を取付けてください。





- ③立ち上がり部柱基礎内側へコンクリートを打設し、養生してください。
- ④型枠を外してください。



- ⑤型枠を外した残りの掘削部分を埋め戻し、ブロック積み、表面仕上げ工事を行なってください。

8. (つづき)

ポイント

- コンクリートブロックの表面は適切な防水処理を行なってください。
- 暖蘭物語の「腰壁タイプ」に使用する腰壁部は、現場にてブロック（またはコンクリート）施工となります。柱内の寸法優先のため、現場にてブロック切断が必要です。腰壁施工に必要な資材は、別途現場にて調達して下さるようお願いいたします。

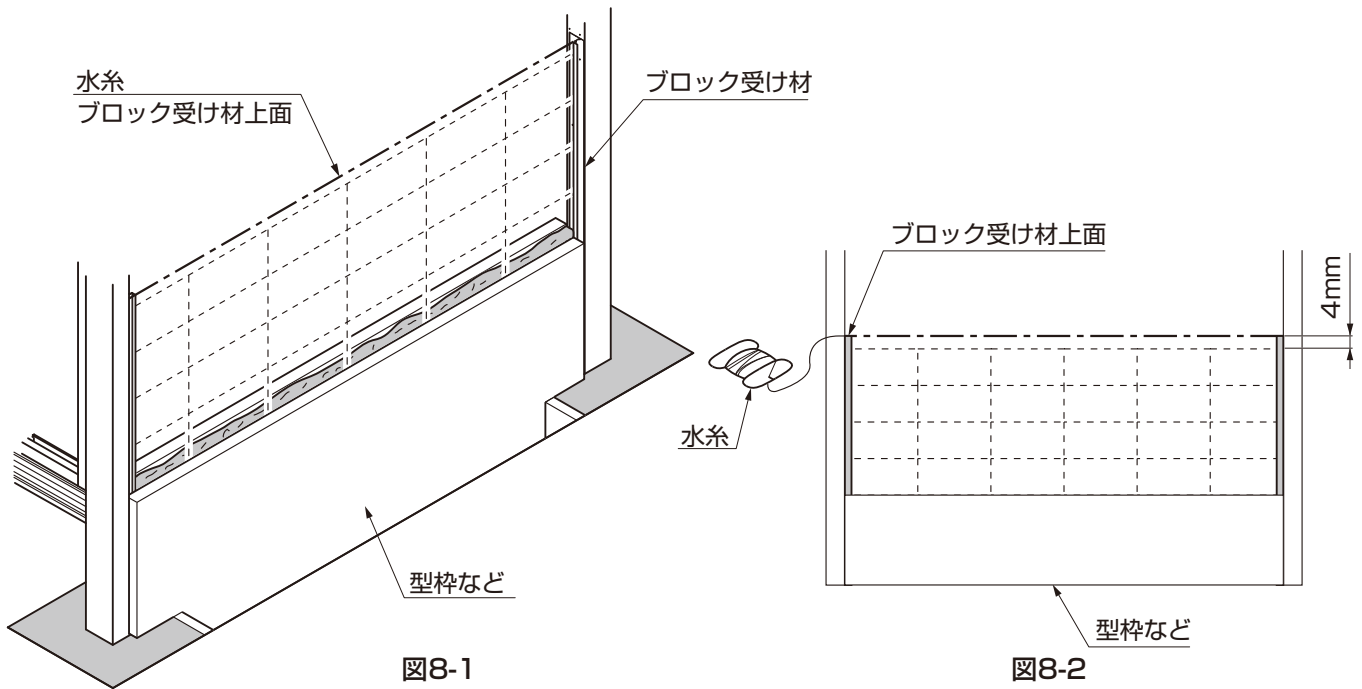


図8-1

図8-2

表8-1 使用材料

コンクリート	普通コンクリート $F_c=18\text{N}/\text{mm}^2$
鉄筋	SD295A JIS規格品
コンクリートブロック	空洞ブロック JIS規格品 A種以上

表8-2 寸法表(単位=mm)

※2.5間、3.0間は中間柱が入るため、2スパン分になります。

サイズ	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	6R	8R	10R
ブロック列 n(個)	7	9	6×2	7×2	5	6	8
ブロック幅	2612	3522	2157×2	2612×2	1732	2332	2932

- ⑥ブロック受け材の上面に水糸を張り、コンクリートブロックの高さを決めてください。
- ⑦コンクリートブロックを建て込んでください。

ポイント

- 水糸からコンクリートブロックのすき間は、4mm以内に納まるようにコンクリートブロックを建て込んでください。
- 基礎部分のコンクリートは、「設計基準強度」が確保できるように、コンクリート打設時の気温に合わせて、湿度補正等により、十分な「呼び強度」にて打設してください。
 - ・呼び強度
 - コンクリート打ち込みから28日後までの平均気温
 - 10度以上： $24\text{N}/\text{mm}^2$
 - 2～10度未満： $27\text{N}/\text{mm}^2$
- 暖蘭物語 本体の所定寸法は、F.L.+0mm (=G.L.+50mm) が必要です。
- 寒冷地で凍上するおそれがある地域で施工する場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。

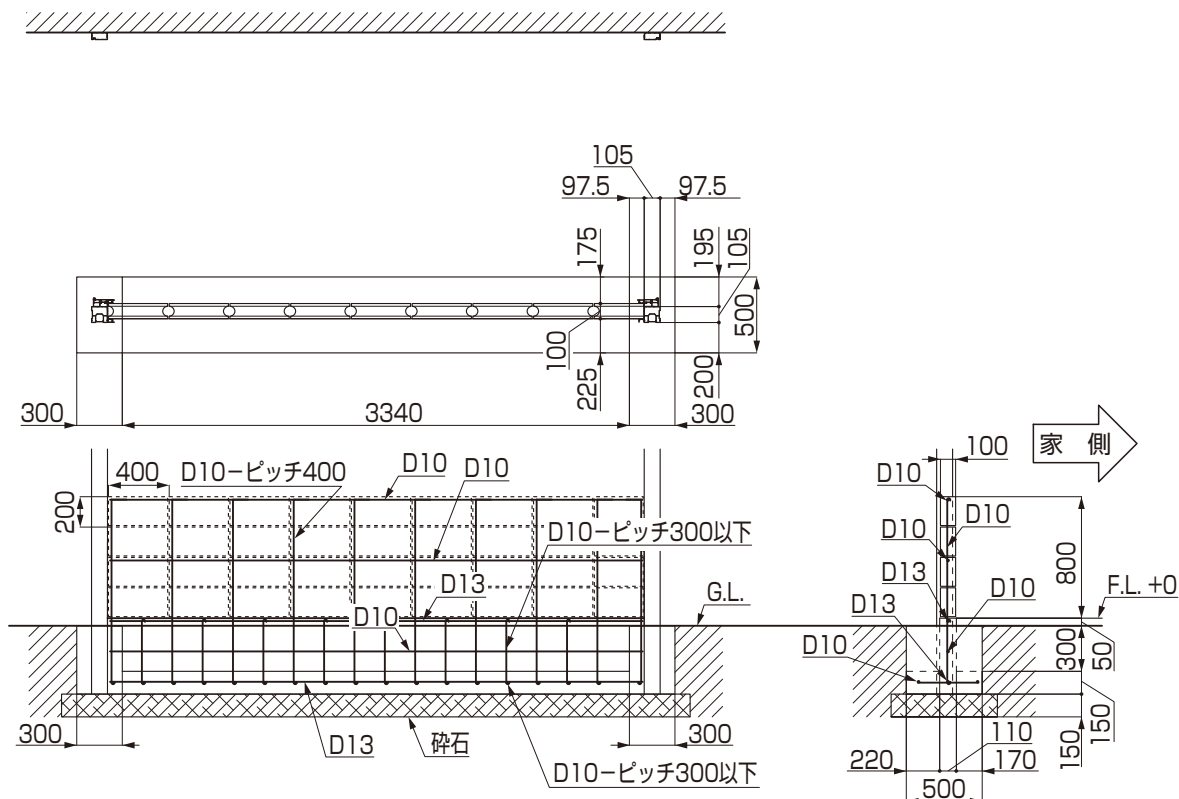


図8-3 前面腰壁仕様

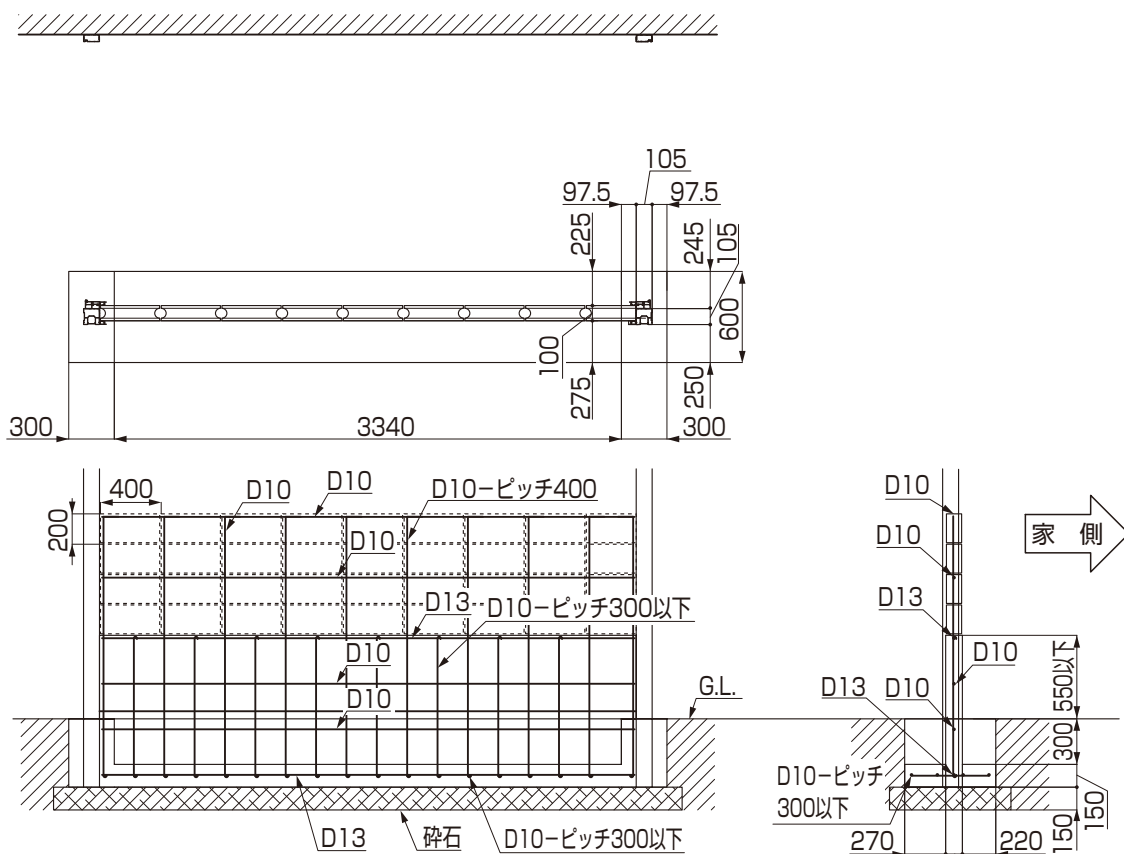


図8-4 前面腰壁 高基礎仕様

8. (つづき)

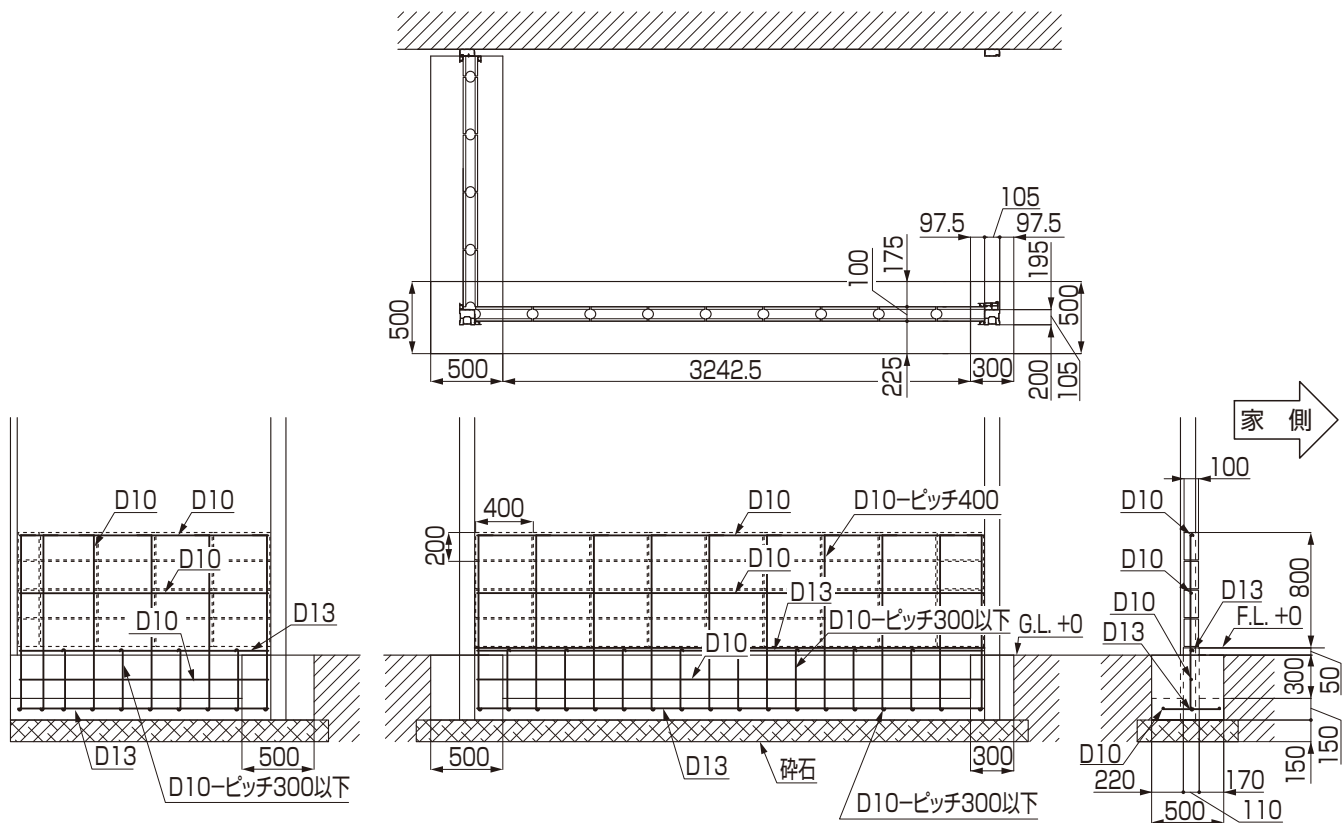


図8-5 L字腰壁仕様

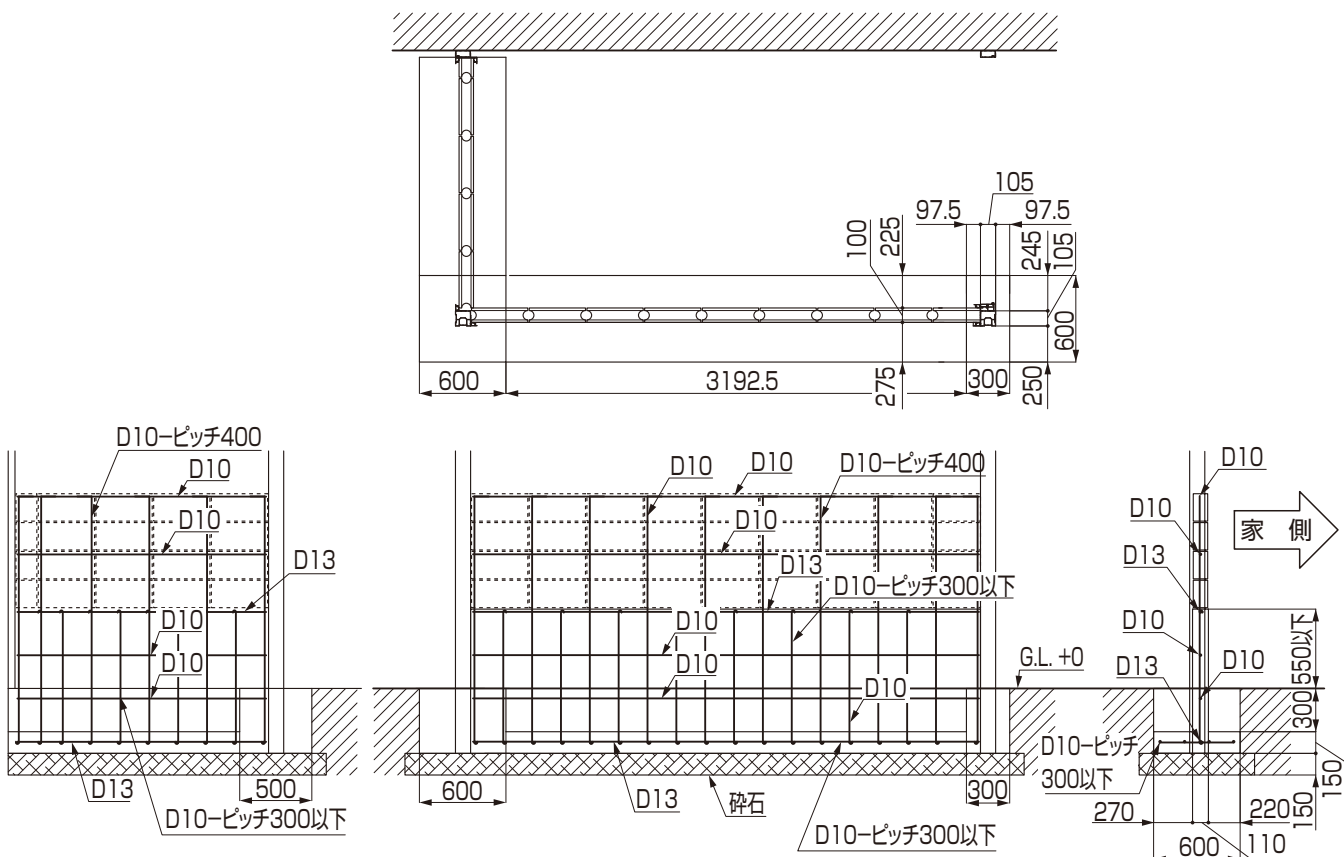
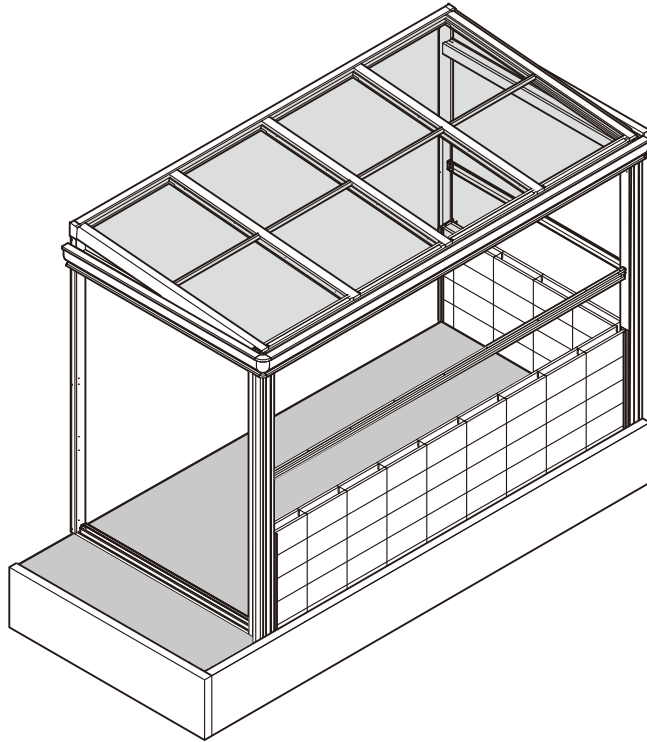


図8-6 L字腰壁 高基礎仕様

9. F.L.まで土間を立ち上げる場合の基礎の打設



①基礎穴、コンクリートブロックのコンクリートが養生できたのを確認し、型枠を固定した後 F.L. までコンクリートを打設してください。

10. 腰壁の化粧処理

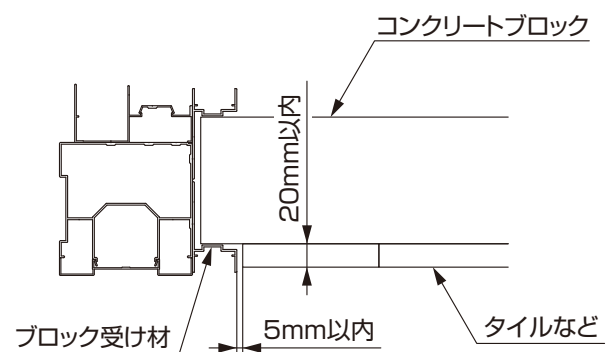
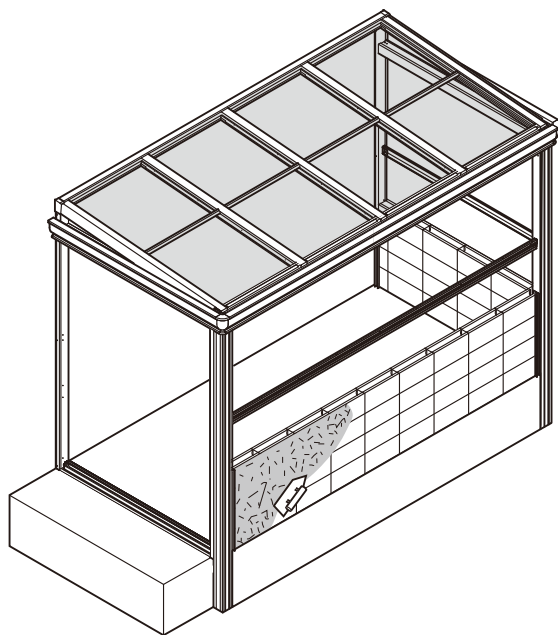


図10-1

①コンクリートブロックにタイルなどの化粧処理をしてください。

ポイント

- ブロック受け材とタイルなどの外装材のすき間は5mm以内にしてください。(図10-1参照)
- ブロックの仕上げ材は下地を含め20mm以内にしてください。(図10-1参照)

11. 腰壁仕上げ面カバーの取付け

11-1 腰壁仕上げ面カバーの加工

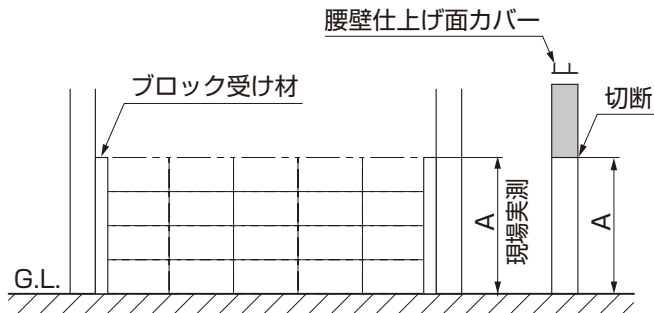


図11-1 外側

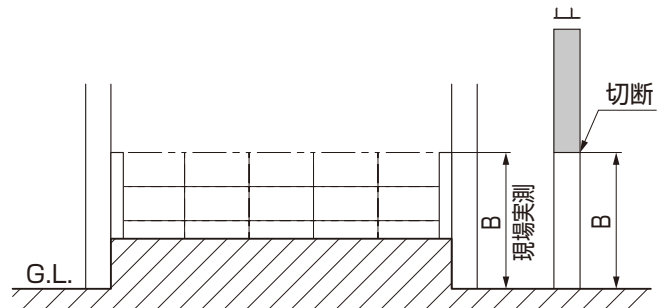
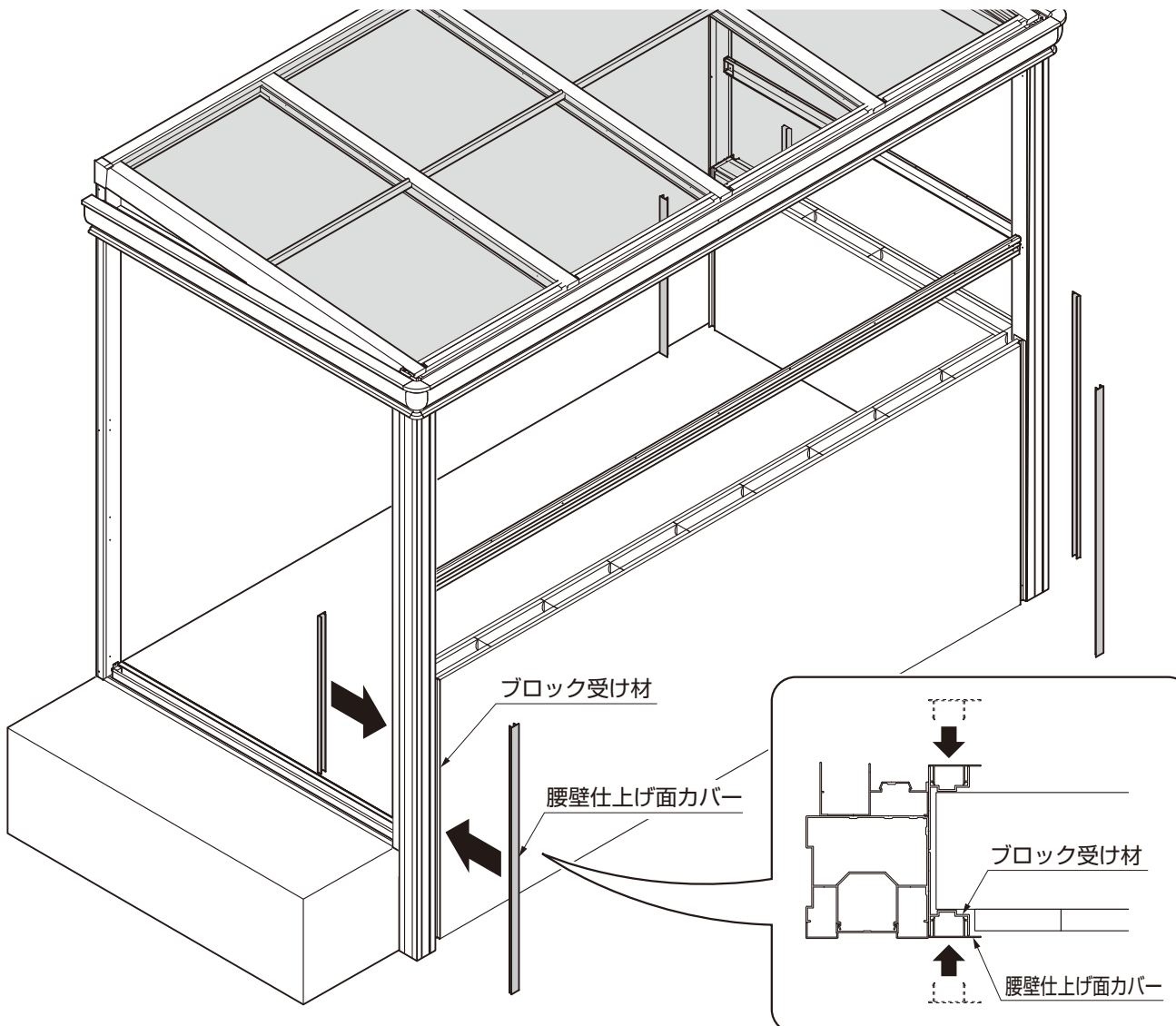


図11-2 内側

- ①A寸法、B寸法を現場実測してください。
- ②腰壁仕上げ面カバーをA寸法に切断してください。

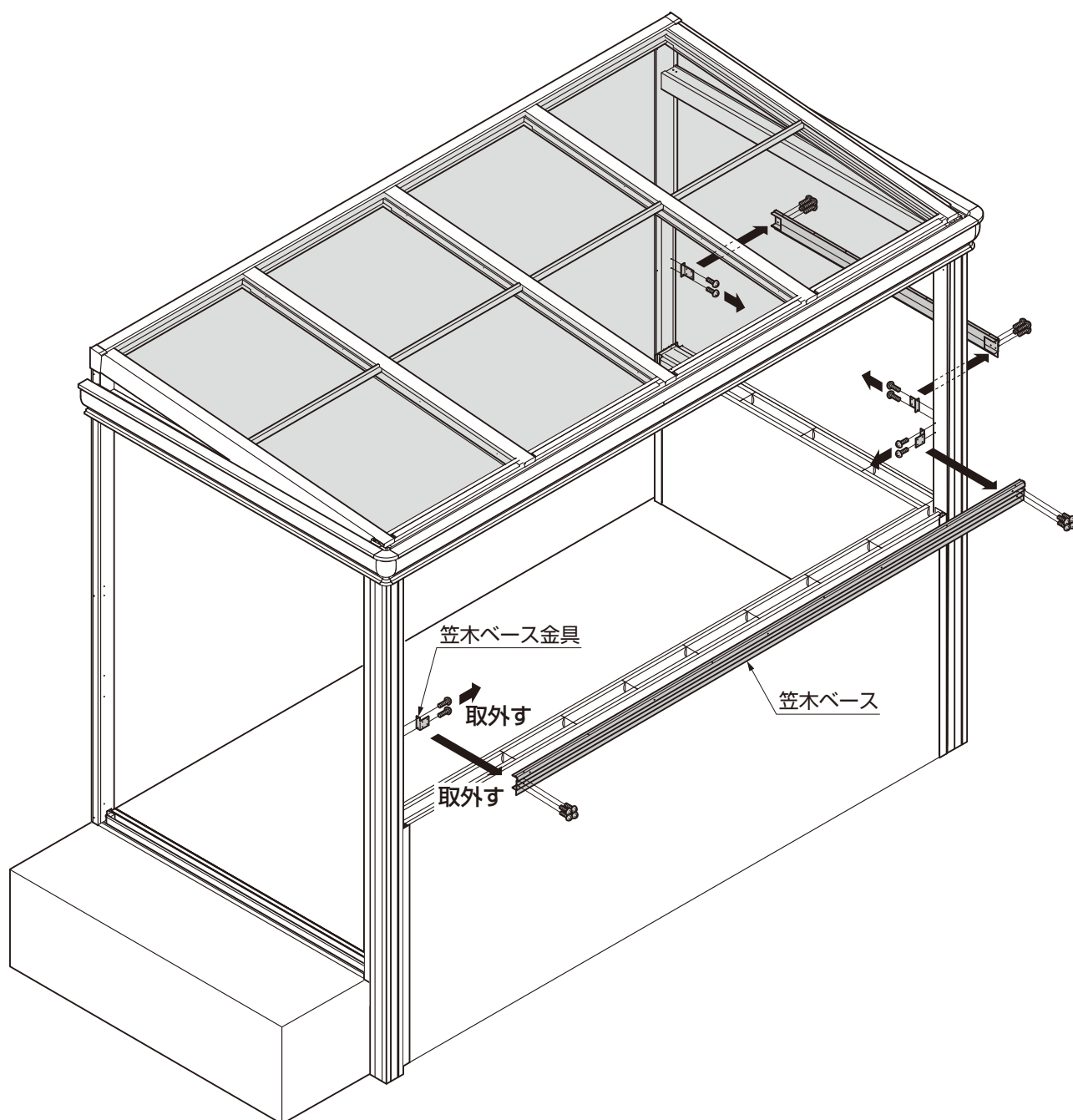
11-2 腰壁仕上げ面カバーの取付け



- ①腰壁仕上げ面カバーをブロック受け材に取付けてください。

12. 笠木の取付け ※腰壁を施工する箇所の場合の作業です。

12-1 笠木ベースの取外し

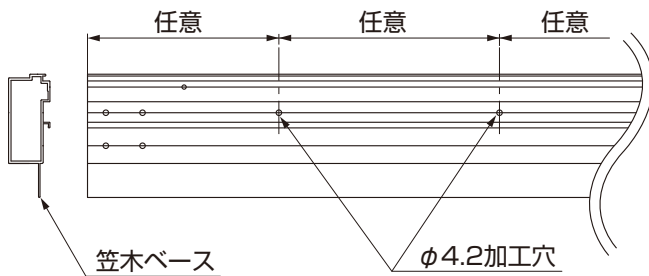


①仮止めしていた笠木ベースと笠木ベース金具を取外してください。

12. (つづき)

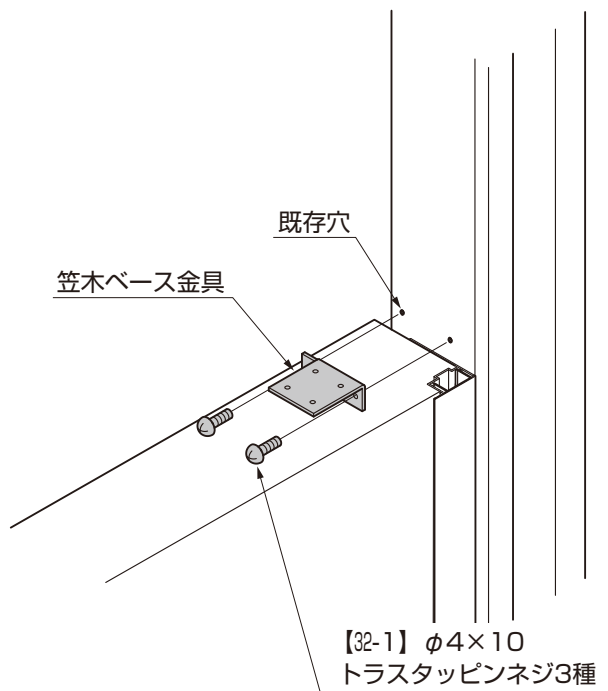
12-2 笠木の取付け

(1) 笠木ベースの加工



- ① コンクリートブロックの上の笠木ベースが取付く位置に、穴加工してください。

(2) 笠木ベース金具の取付け



- ① 笠木ベース金具を柱に【32-1】で取付けてください。

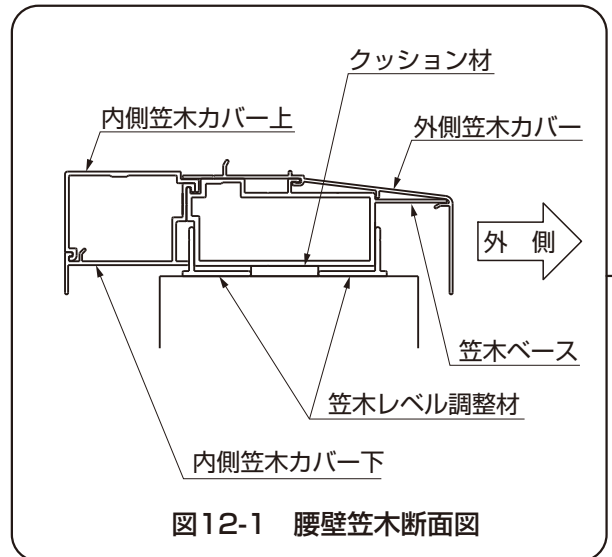
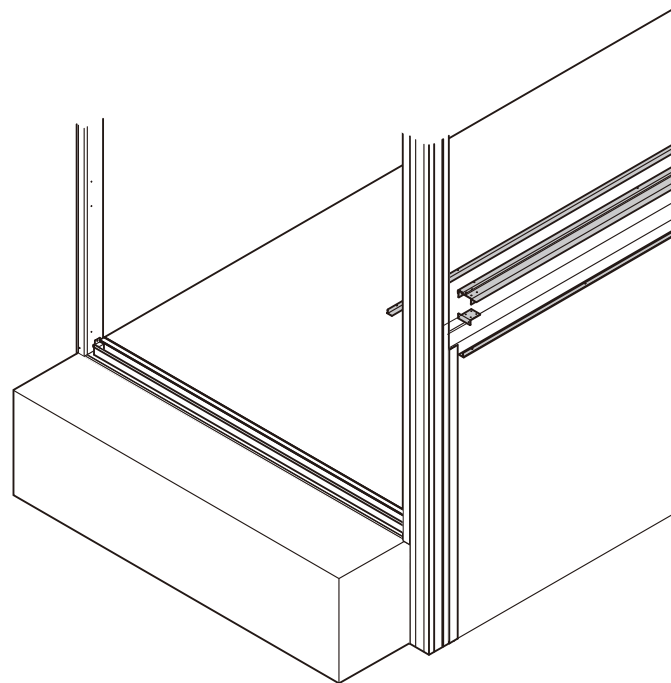
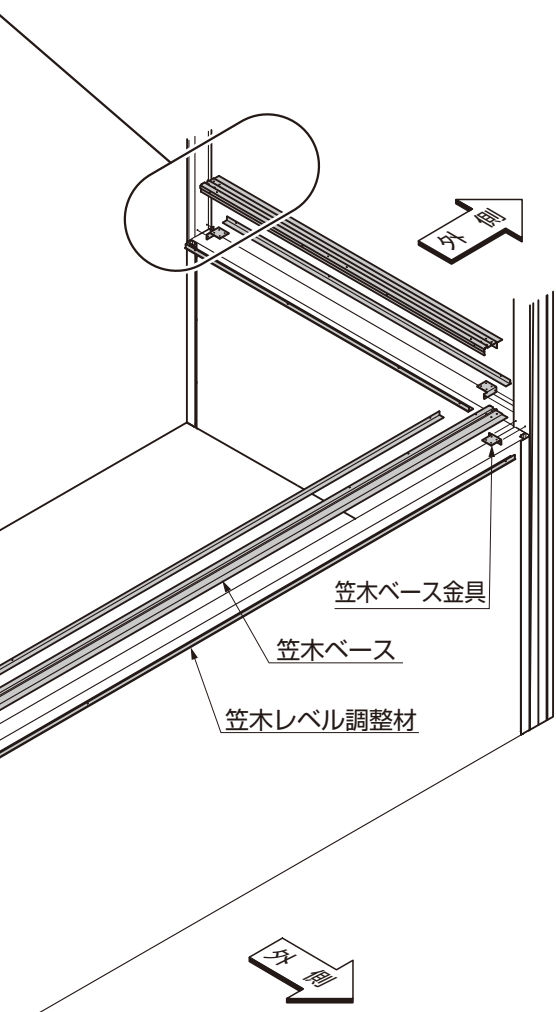
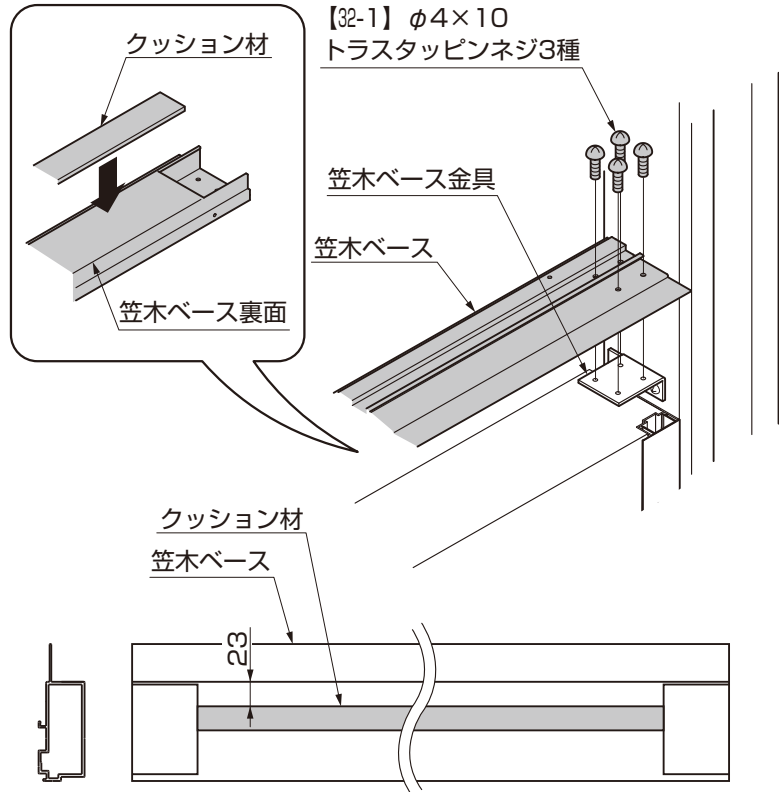


図12-1 腰壁笠木断面図



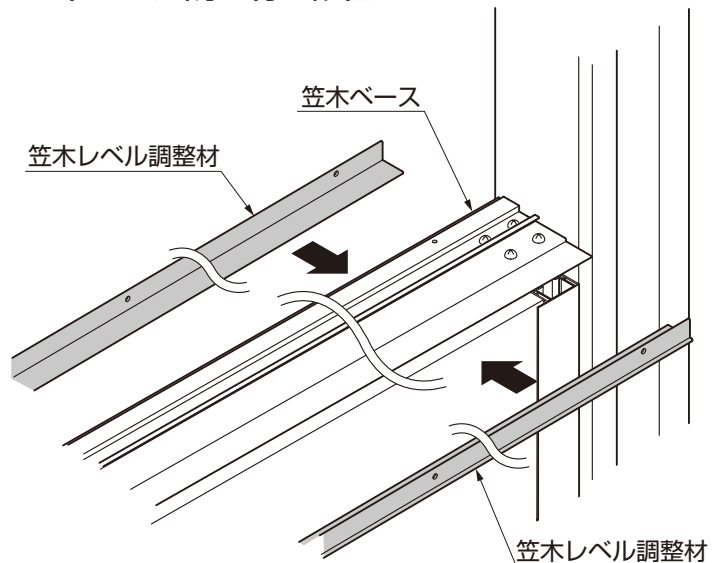


(3) 笠木ベースの取付け



- ① 笠木ベース裏面にクッション材を貼付けてください。
- ② 笠木ベースを笠木固定金具に【32-1】で取付けてください。

(4) 笠木レベル調整材の配置



- ① 笠木レベル調整材をコンクリートブロックと笠木ベース調整材の間に配置してください。

12. (つづき)

12-2 つづき

(5) 笠木ベースの本固定

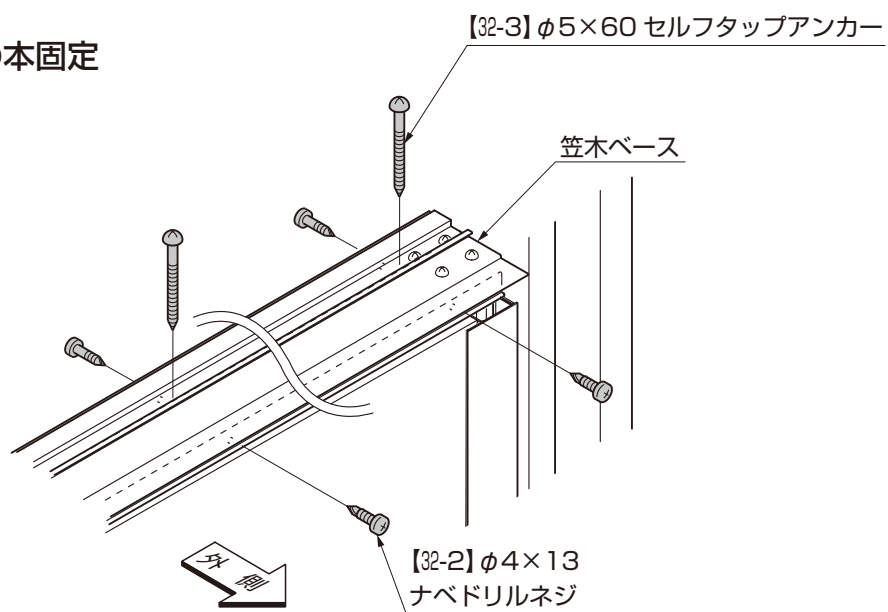


図12-2

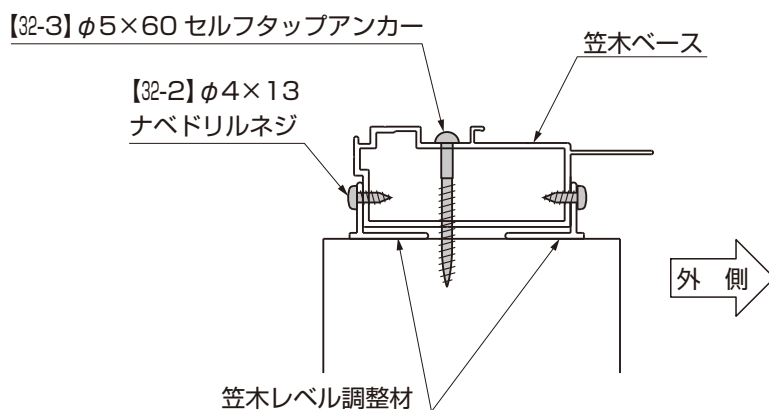


図12-3

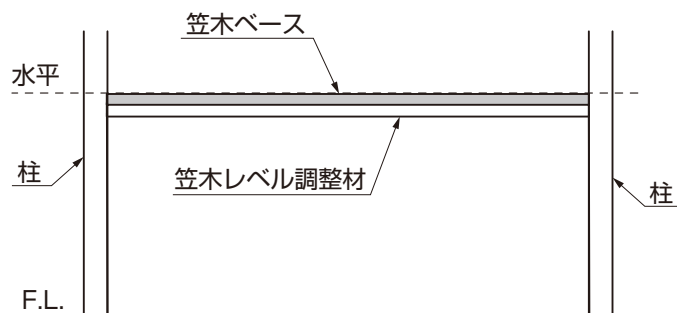


図12-4

- ① 笠木ベースをコンクリートブロックに【32-3】で取付けてください。
- ② 笠木レベル調整材を笠木ベースに【32-2】で取付けてください。

ポイント

- 笠木ベースは必ず水平になるように取付けてください。

(6) 笠木カバーの加工 ※L字腰壁仕様の場合のみの作業です。

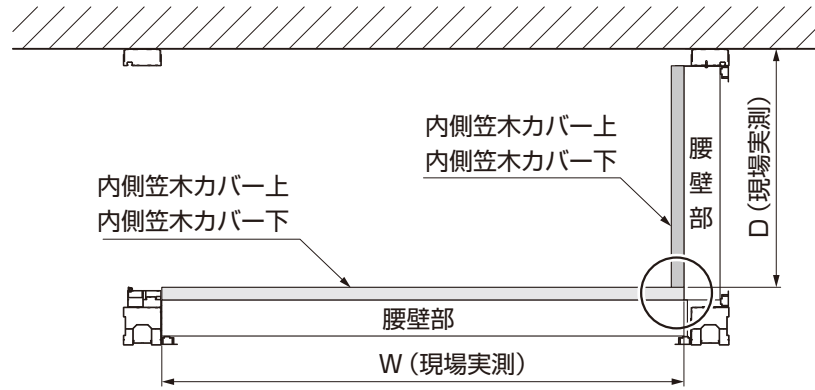


図12-5

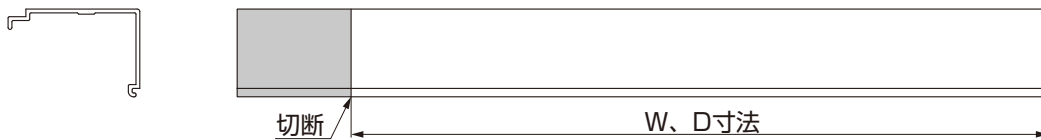


図12-6 内側笠木カバー上（間口・側面共通）加工図

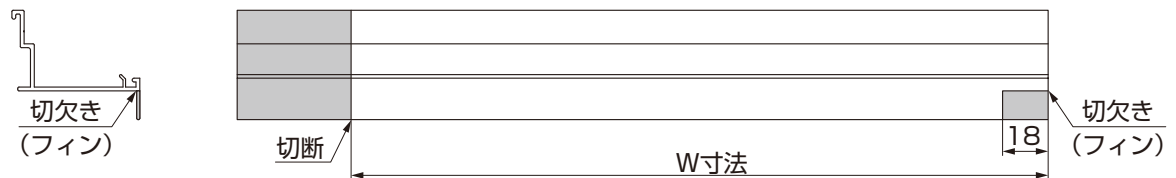


図12-7 内側笠木カバー下（間口側）加工図

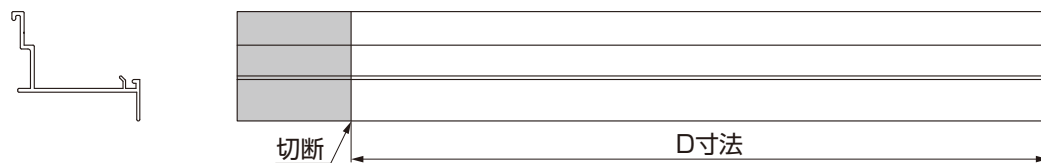


図12-8 内側笠木カバー下（側面側）加工図

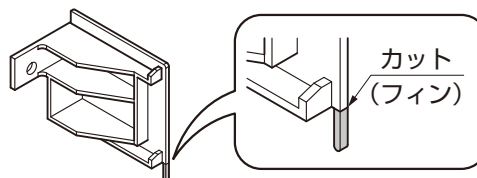


図12-9 腰壁笠木キャップ（間口側）

- ①W寸法、L寸法を現場実測してください。
- ②上図を参照し、内側笠木カバー下と内側笠木カバー上を加工してください。
- ③上図を参照し、間口側に取付ける腰壁笠木キャップを加工してください。

12. (つづき)

12-2 つづき

(7) 笠木カバーの取付け

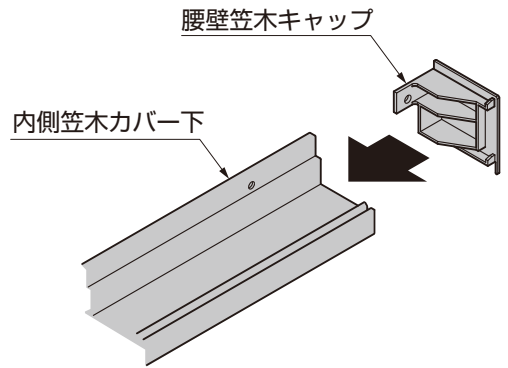
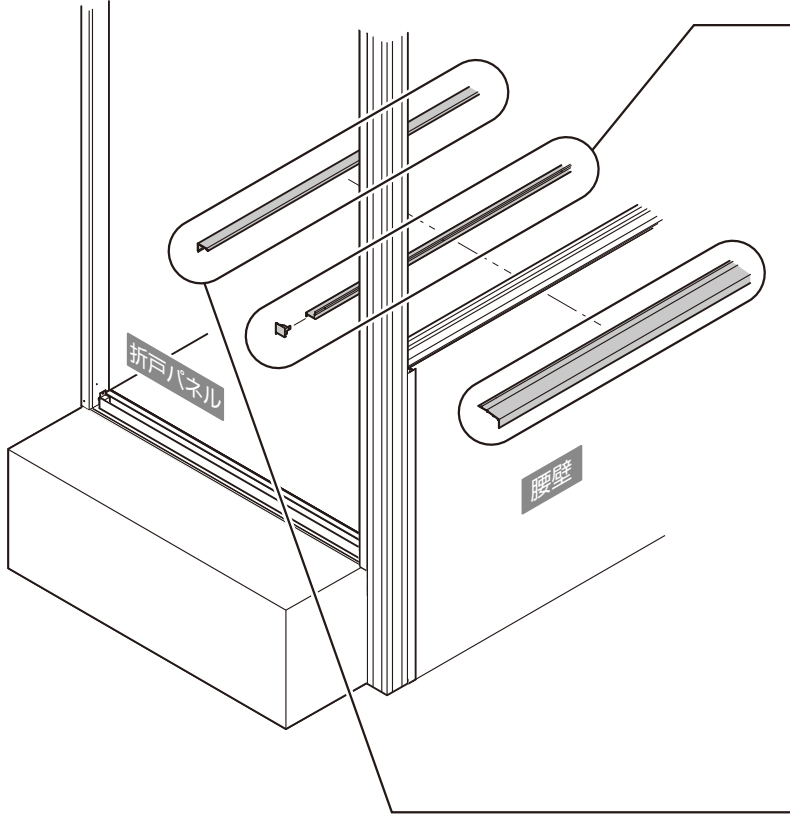


図12-10
腰壁笠木キャップの取付け

①腰壁笠木キャップを内側笠木カバー下の両端にはめてください。(図12-10参照)

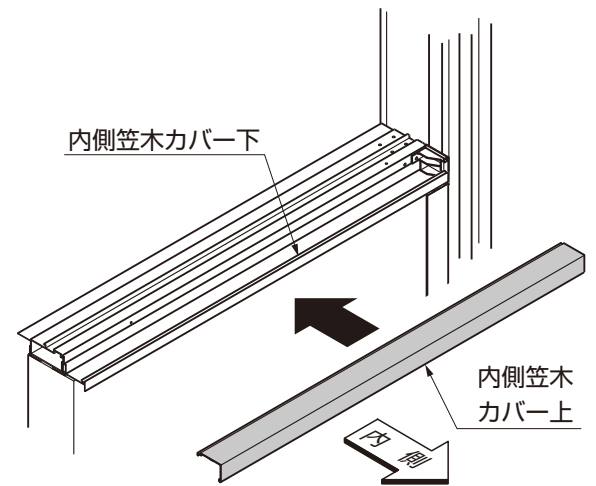


図12-13 内観図

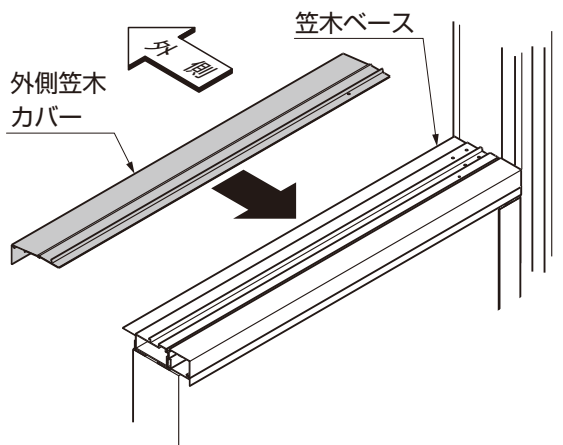


図12-15 内観図

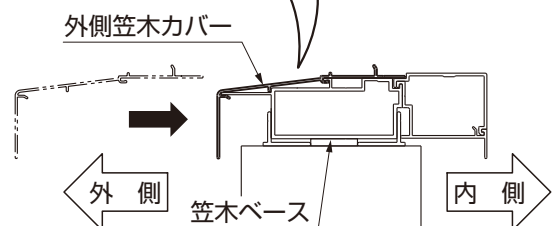
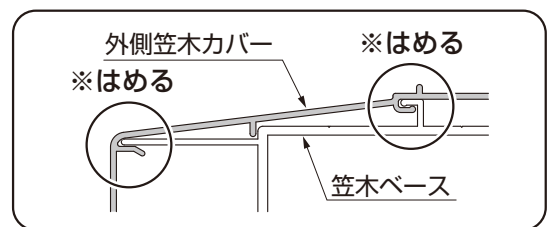


図12-16

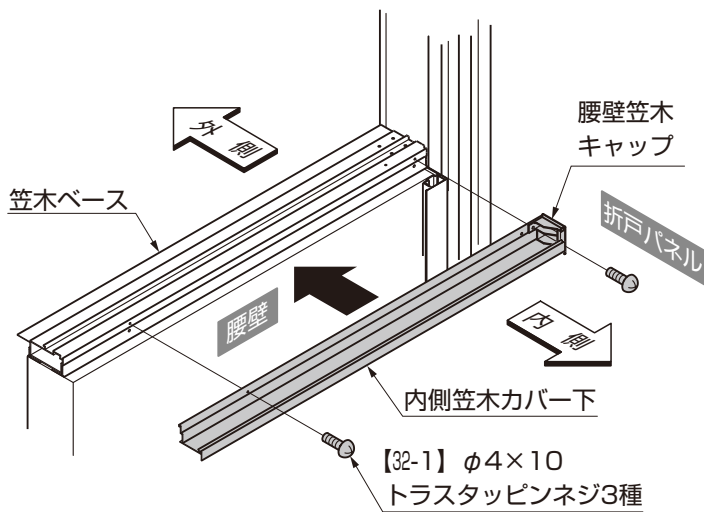


図12-11 内観図

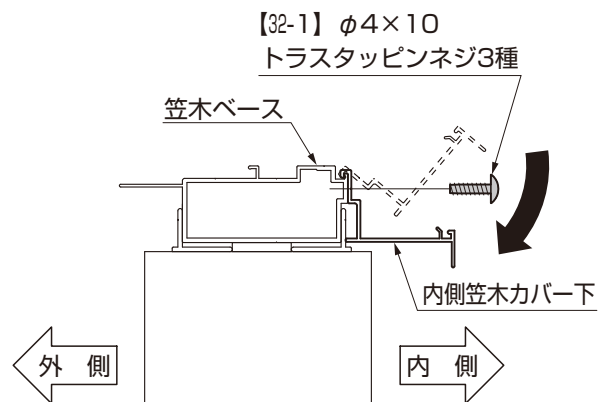


図12-12

- ②内側笠木カバー下・腰壁笠木キャップを笠木ベースに【32-1】で取付けてください。
(図12-11、図12-12参照)

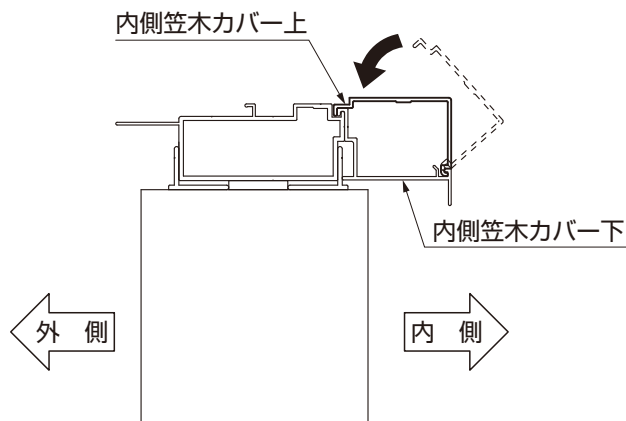


図12-14

- ③内側笠木カバー上を内側笠木カバー下に引っ掛けてください。

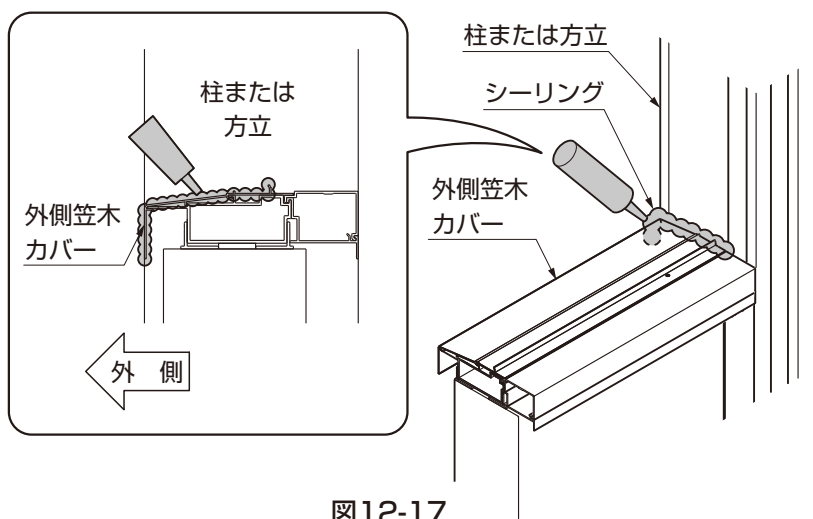


図12-17

- ④外側笠木カバーを笠木ベースに引っ掛けてください。(図12-15、図12-16参照)
⑤外側笠木カバー端部と柱、方立の継ぎ目にシーリングをしてください。(図12-17参照)

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

13. 縦枠受けの取付け（腰壁を施工する箇所）

ポイント

●腰壁の箇所のみ取付けてください。

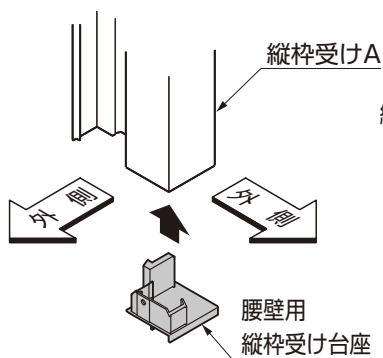
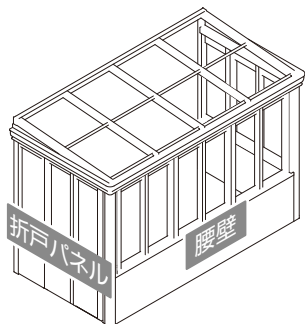


図13-1

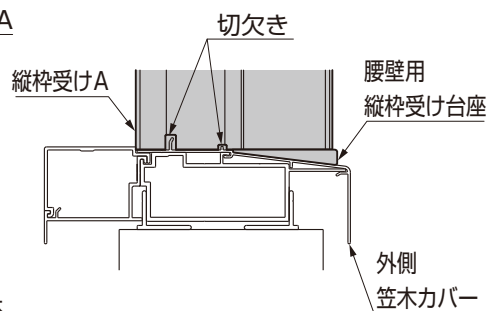


図13-3

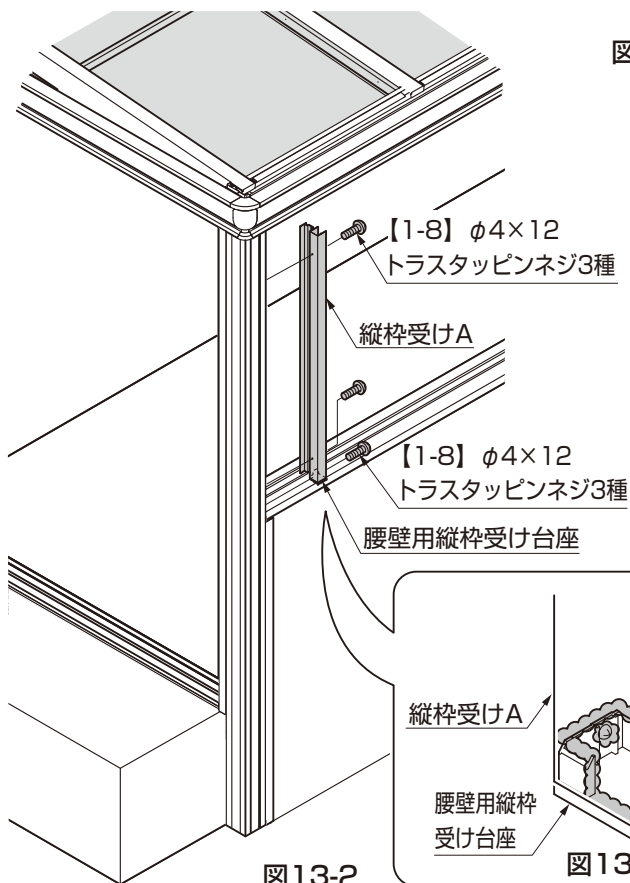


図13-2

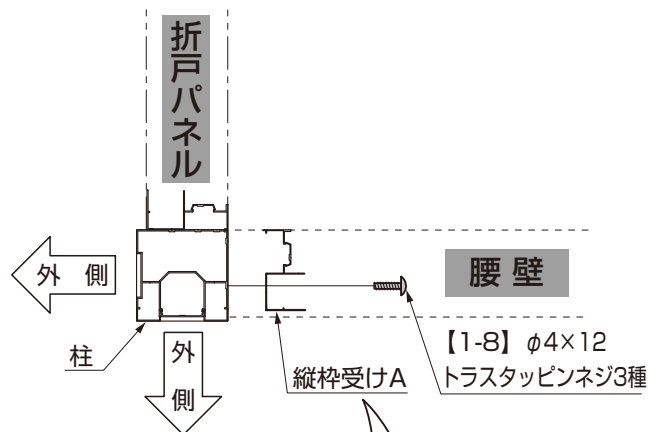


図13-4

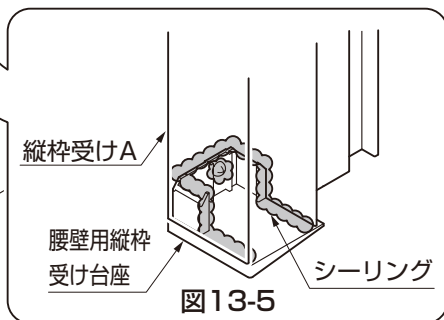
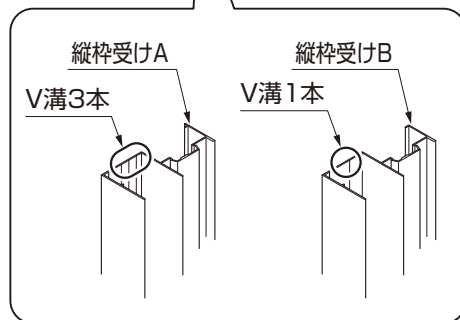


図13-5



ポイント

- 縦枠受けには「側面用」、「間口用」また「右用」、「左用」があります。V溝が3本あるのが縦枠受けA「間口用」、V溝が1本あるのが縦枠受けB「側面用」です。取付ける際は、柱の穴と縦枠受けの穴が合うことを確認して取付けてください。
- 縦枠受けには上下があり、切欠きがある方が下側になります。

- ①腰壁用縦枠受け台座を縦枠受けにはめてください。(図13-1参照)
- ②縦枠受けAを外側笠木にはめ込み、柱に【1-8】で取付けてください。(図13-2、図13-3、図13-4参照)
- ③腰壁用縦枠受け台座を縦枠受けAと柱に【1-8】で固定してください。(図13-2参照)
- ④腰壁用縦枠受け台座と縦枠受けAの継ぎ目とネジ打ち部にシーリングしてください。(図13-5参照)

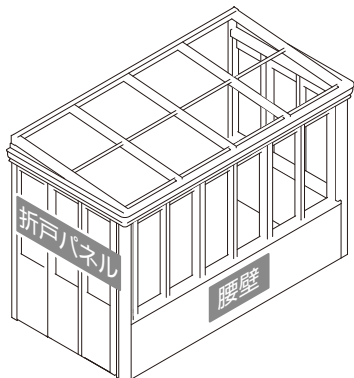
ポイント

- 指定の箇所には雨水侵入防止のため、必ずシーリングしてください。

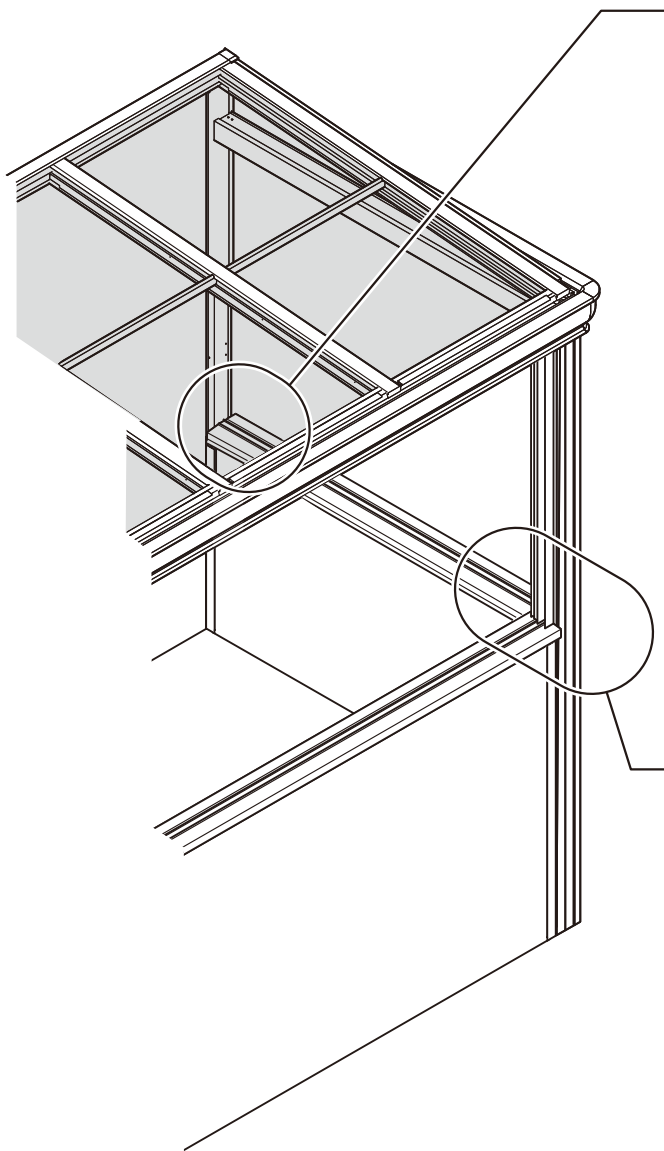
14. 下レールの取付け（腰壁を施工する箇所）

ポイント

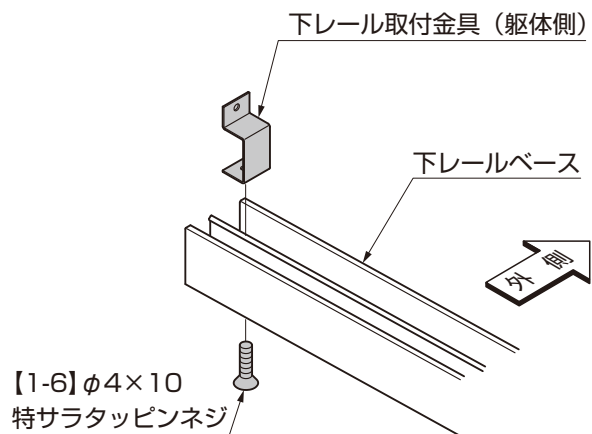
●腰壁の箇所のみ取付けてください。



14-1 下レール取付金具の取付け

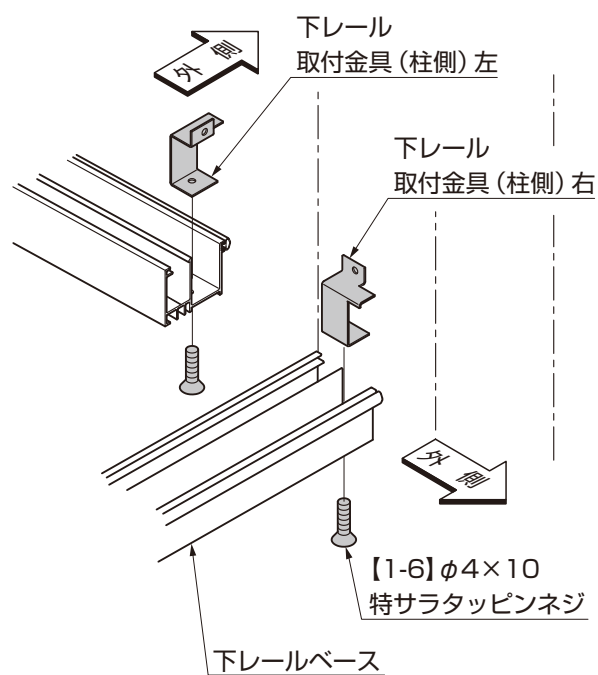


(1) 躯体側の取付け



①下レール取付金具（躯体側）を下レールベースに【1-6】で取付けてください。

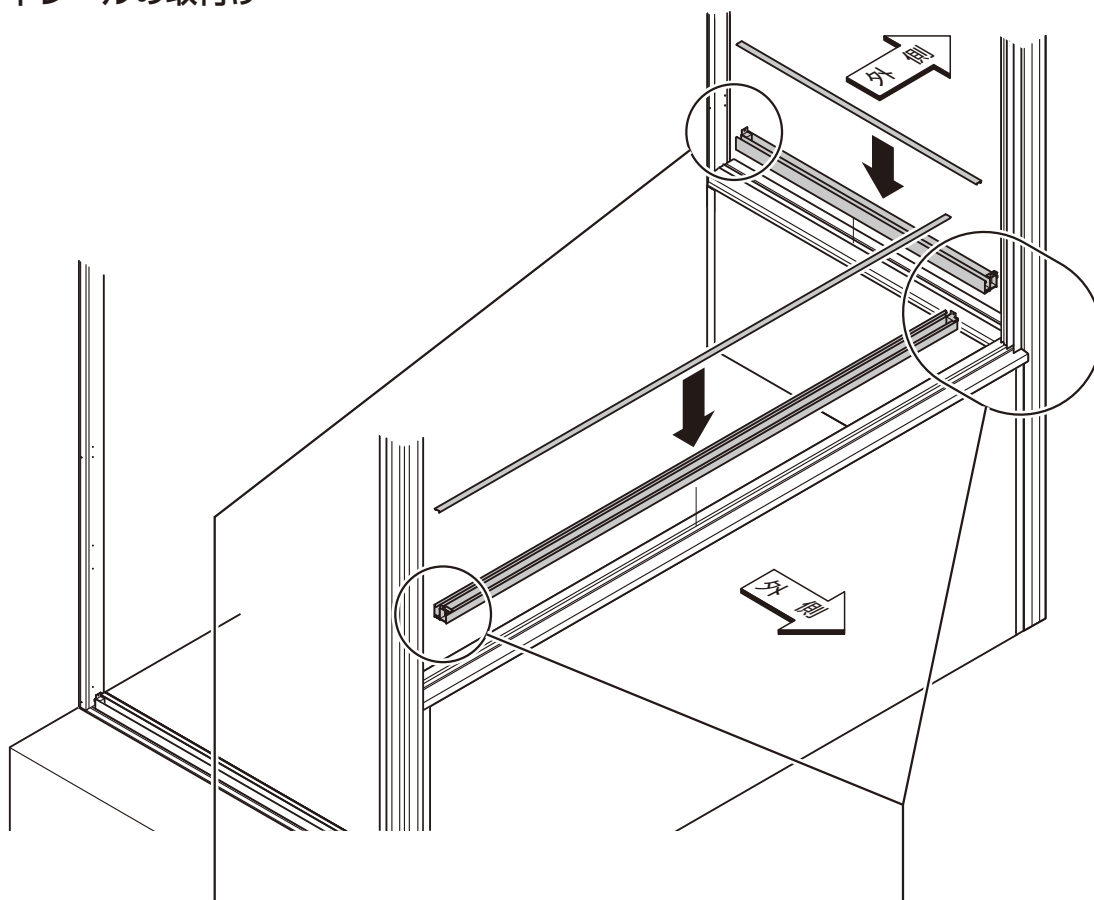
(2) 柱側の取付け



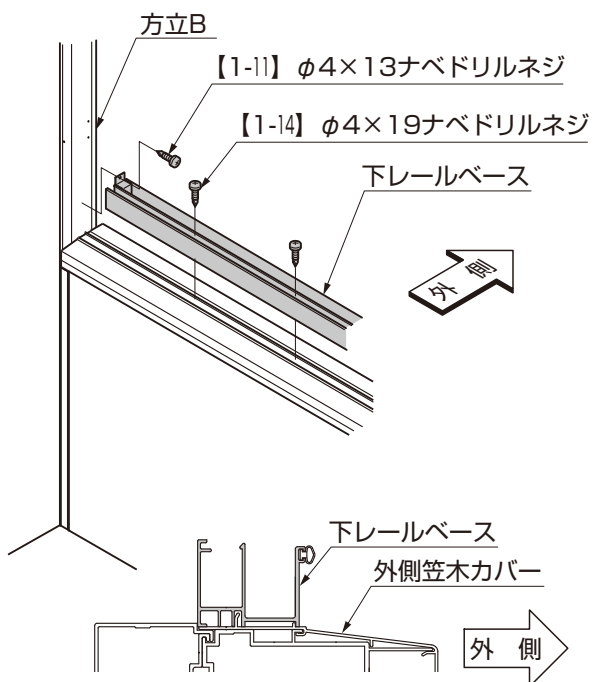
②下レール取付金具（柱側）を下レールベースに【1-6】で取付けてください。

14. (つづき)

14-2 下レールの取付け

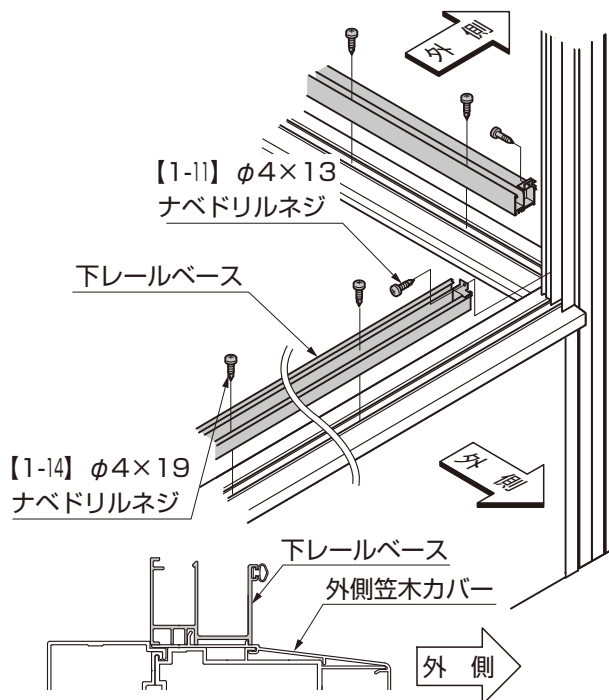


(1) 方立側の取付け



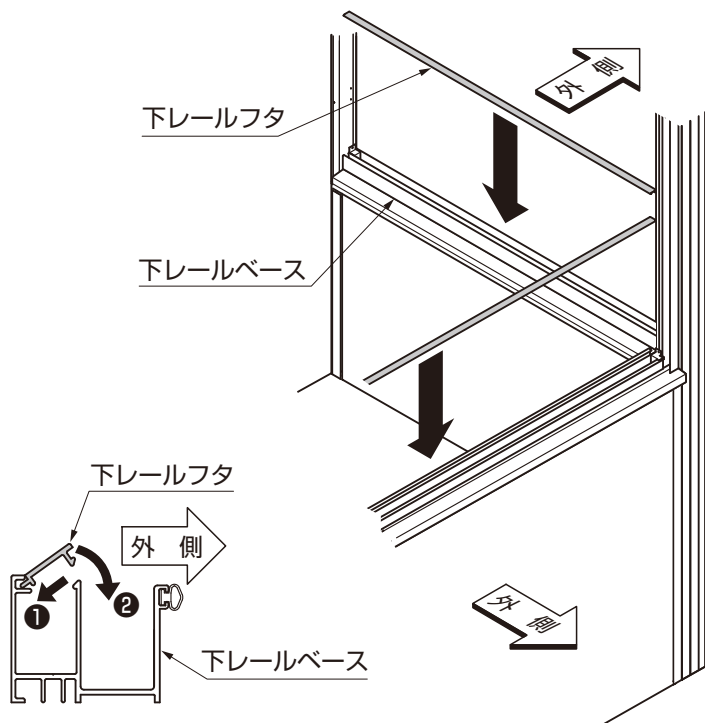
①下レールベースを方立B、笠木ベースに【1-11】、【1-14】で取付けてください。

(2) 柱側の取付け



①下レールを柱、笠木ベースに【1-11】、【1-14】で取付けてください。

(3) 下レールフタの取付け



①下レールフタを下レールベースにはめ込んでください。

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

8 パネルの取付け

1. 折戸パネルの建込み

1-1 吊込み枚数の確認

(1) 間口側

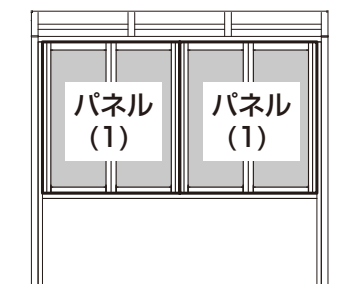


図1-1 1.5間

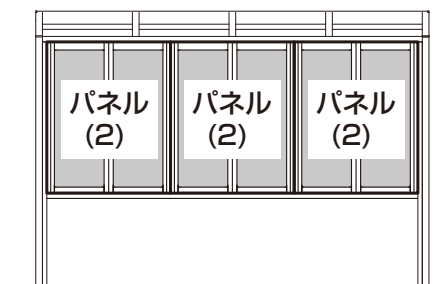


図1-2 2.0間

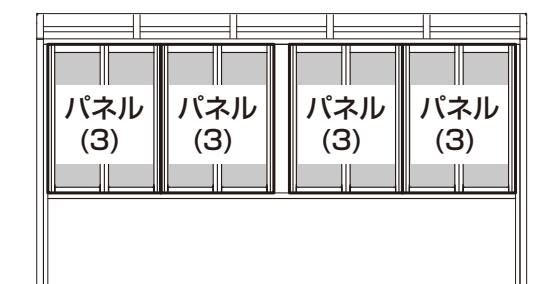


図1-3 2.5間

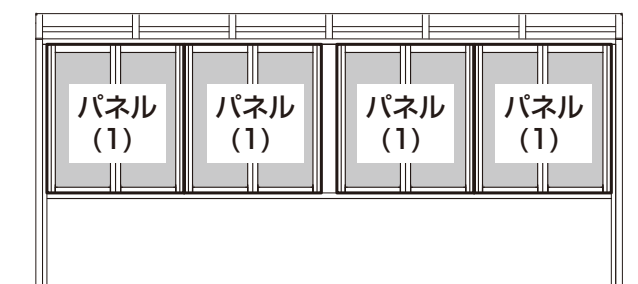


図1-4 3.0間

(2) 出幅側

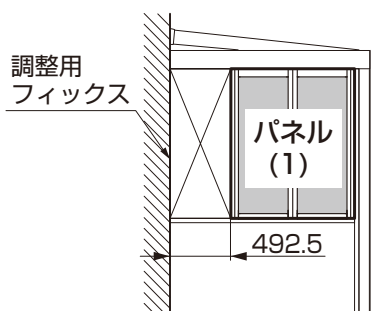


図1-5 6尺

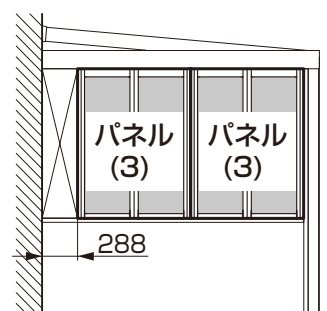


図1-6 8尺

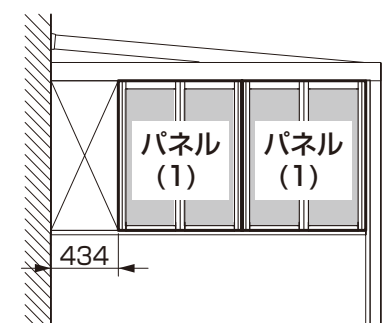


図1-7 10尺

表1-1

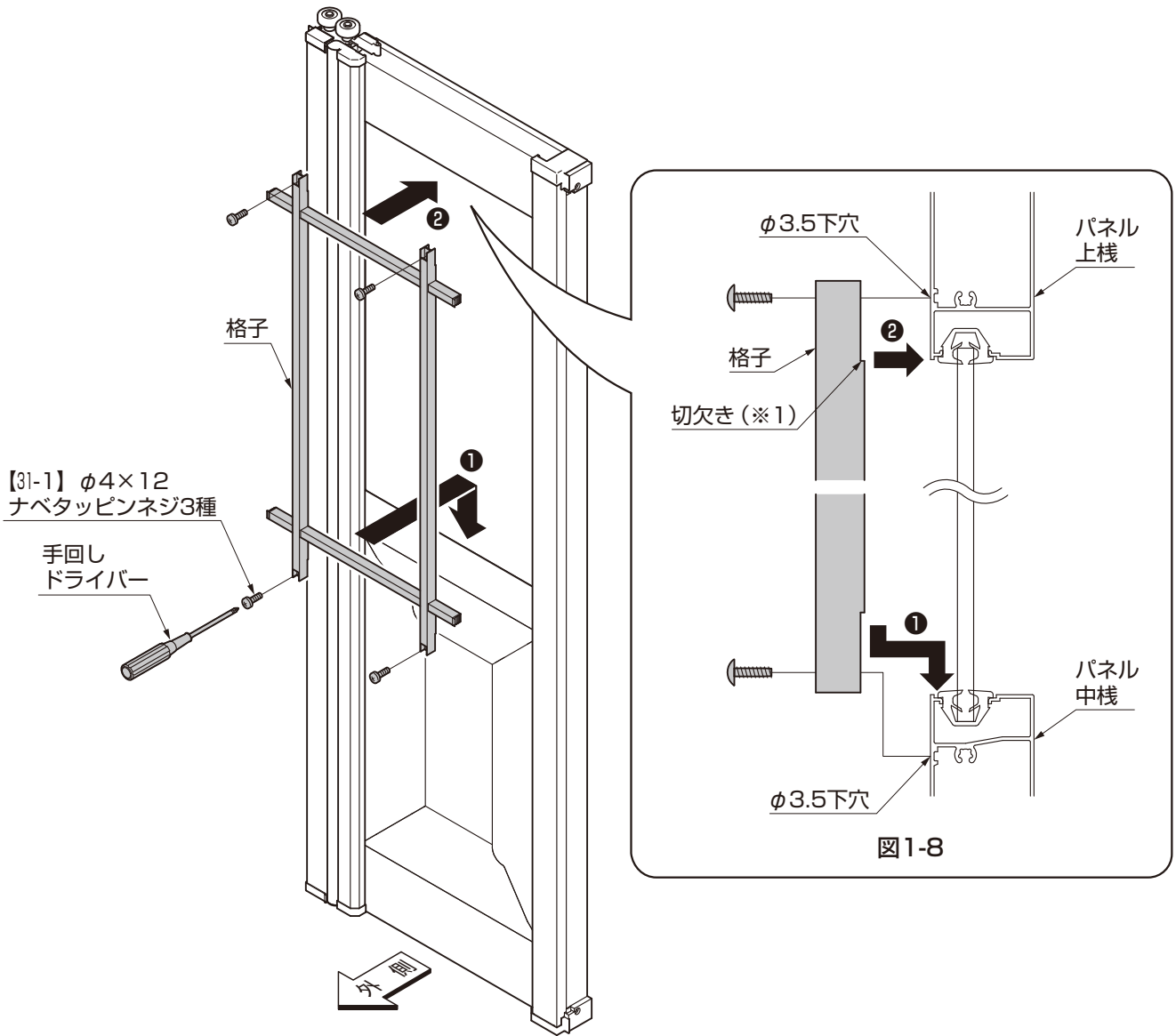
施工 間口サイズ	パネルパターン
3.5間	1.5間+連棟柱+2.0間
4.0間	2.0間+連棟柱+2.0間
4.5間	2.0間+連棟柱+2.5間
5.0間	2.5間+連棟柱+2.5間
5.5間	2.5間+連棟柱+3.0間
6.0間	3.0間+連棟柱+3.0間

ポイント

●連棟の場合は表1-1を参照して吊り込むパターンを確認してください。

①上図を参照してパネルの種類と吊り込み枚数を確認してください。

1-2 格子の取付け



①格子を①、②の順にパネルにはめ、φ3.5の下穴をあけて【3I-1】で取付けてください。

ポイント

- 格子をパネルに取付ける際は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、締め付け過ぎて格子が変形し、キャップがうまく取付かない場合があります。
- 格子の切欠き(※1)とパネルの上棧が図1-8の位置になるようにはめてください。
- 上段の格子は中棧側に、下段の格子は、下棧側に押し当てて取付けてください。

1. (つづき)

1-3 格子キャップの取付け

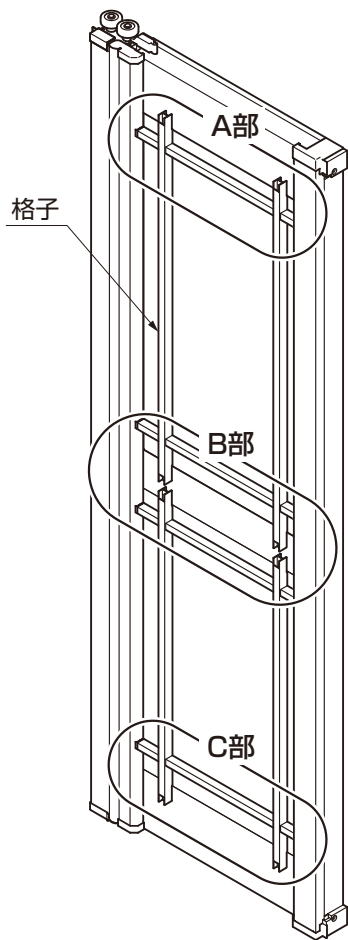


図1-9
フルガラスパネル仕様

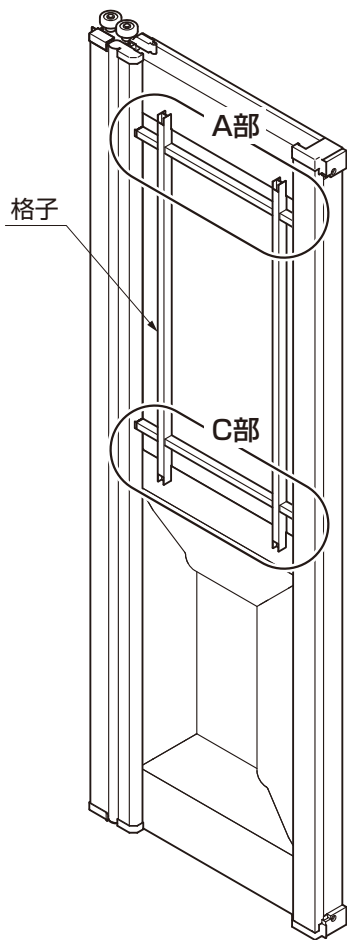


図1-10
デザインパネル仕様

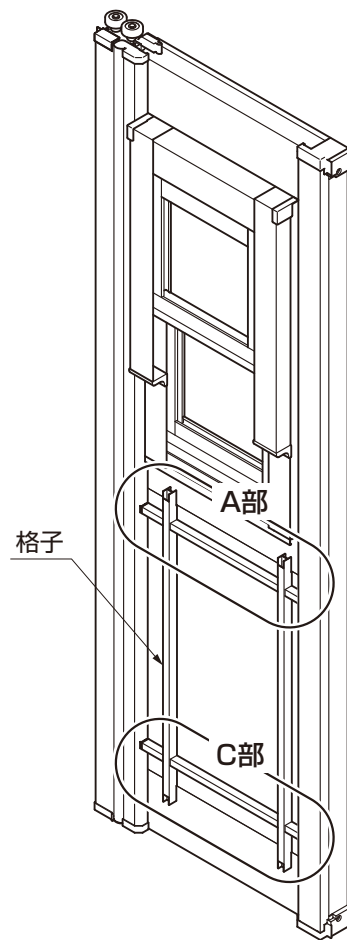
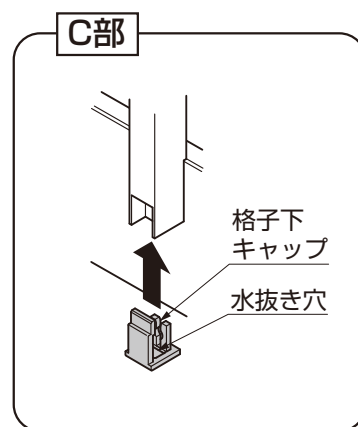
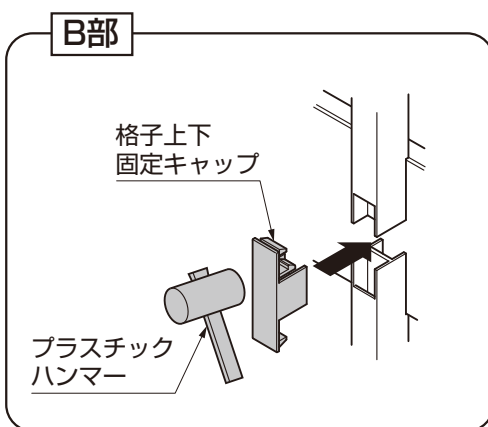
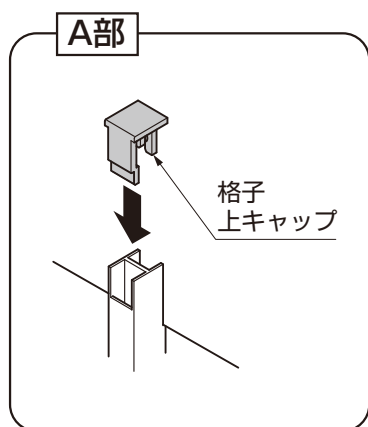


図1-11
上げ下げ窓仕様

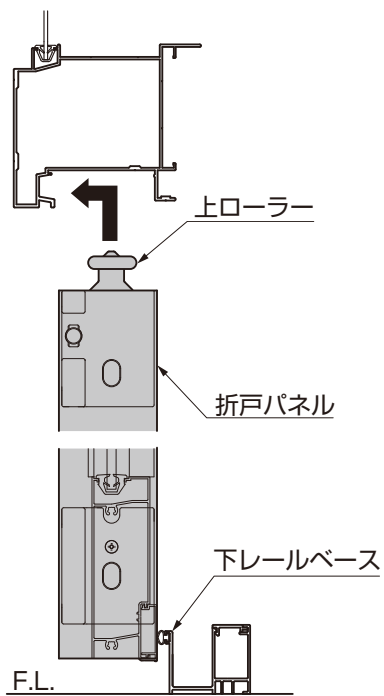
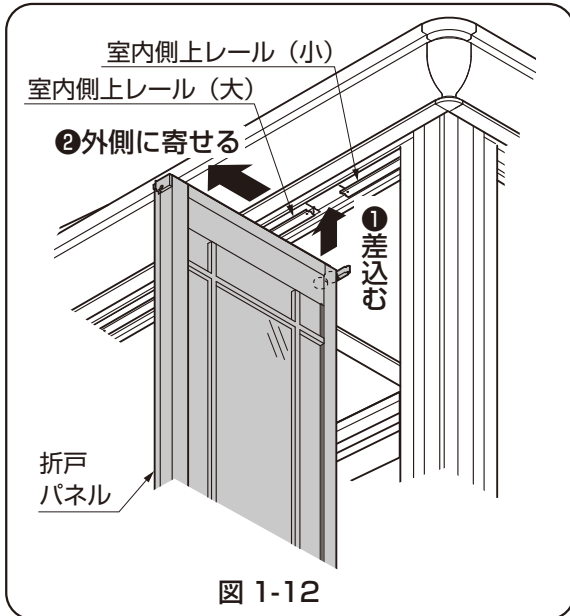


② 格子上、下キャップを格子にはめ込んでください。

ポイント

- 下側に取付ける格子キャップは格子の取付け箇所によって取付ける部品が異なります。
- 格子上下固定キャップが入りづらい場合はプラスチックハンマー等でたたき込んでください。

1-4 折戸パネルの吊込み



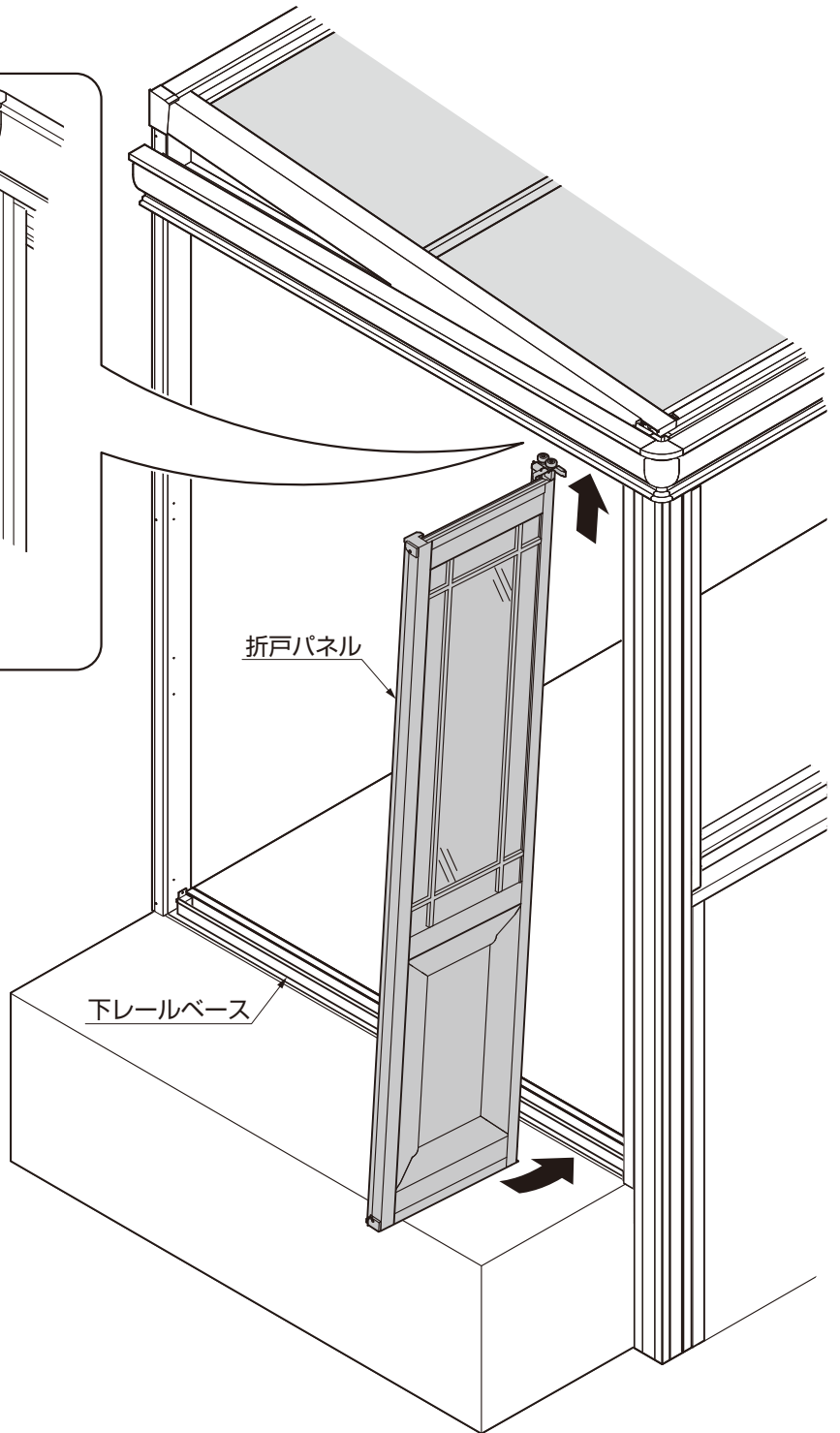
🔑 ポイント

- 折戸パネルは必要枚数吊込んでください。
- 折戸パネルの吊込みは躯体側のパネルから吊込んでください。

① 折戸パネルを室内側上レール (大) と室内側上レール (小) の間から吊込んでください。

🔑 ポイント

- 折戸パネルを吊り込む際、上ローラーをレールで傷付けないでください。



1. (つづき)

1-5 折戸パネルの組立て

(1) 蝶番の取付け

【29-1】φ4×10
サラタッピンネジ3種

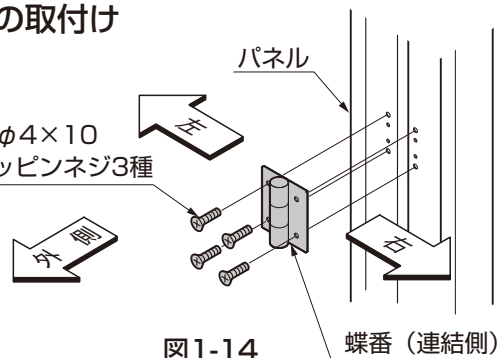


図1-14

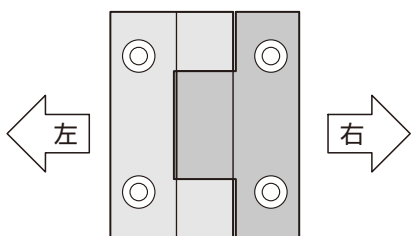


図1-15 蝶番の取付け向き

①パネルを折りたたんだ状態にして、外側からパネルの縦横連結側に蝶番（連結側）を【29-1】で取付けてください。

ポイント

●蝶番には取付けの向きがあります。図1-15の向きで取付けてください。

(2) 下ローラーの取付け

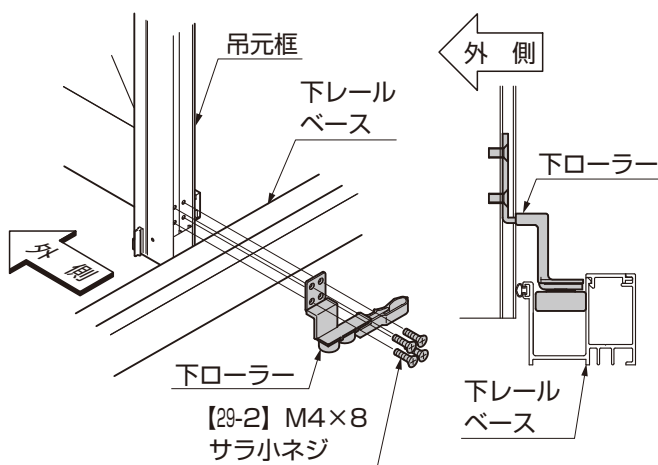
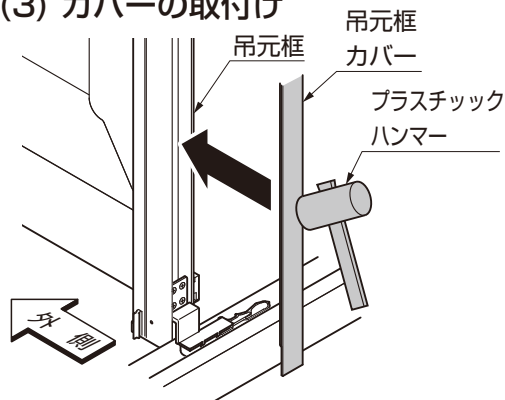


図1-16

図1-17

①パネルを折りたたんだ状態にして、内側からパネルの吊元框下部に下ローラーを【29-2】で取付けてください。

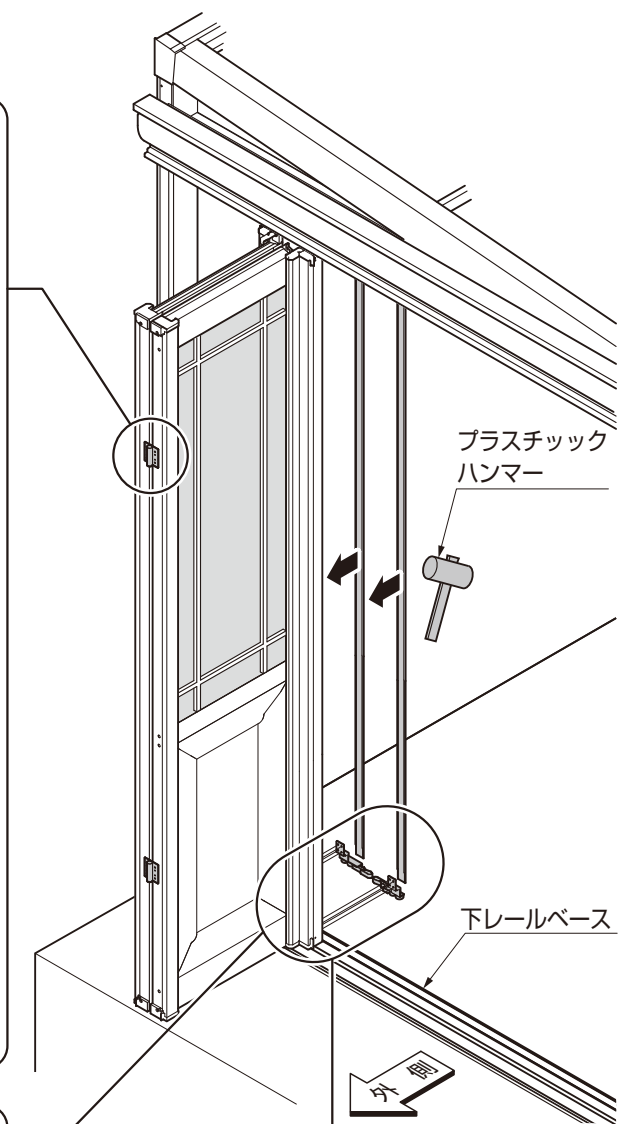
(3) カバーの取付け

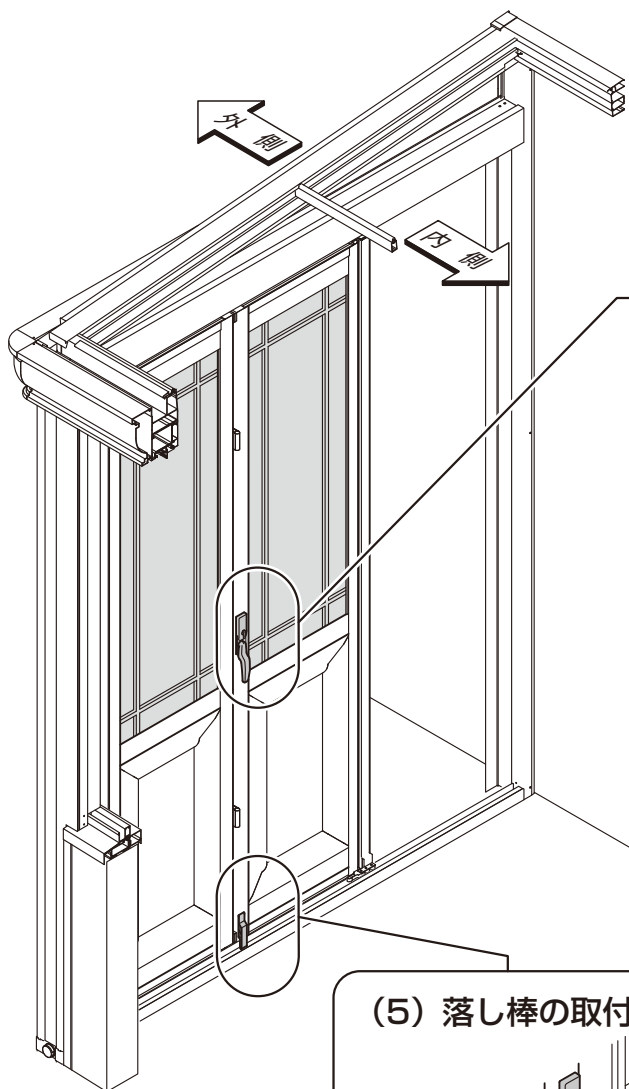


①吊元框カバーを吊元框の上側からはめこんでください。

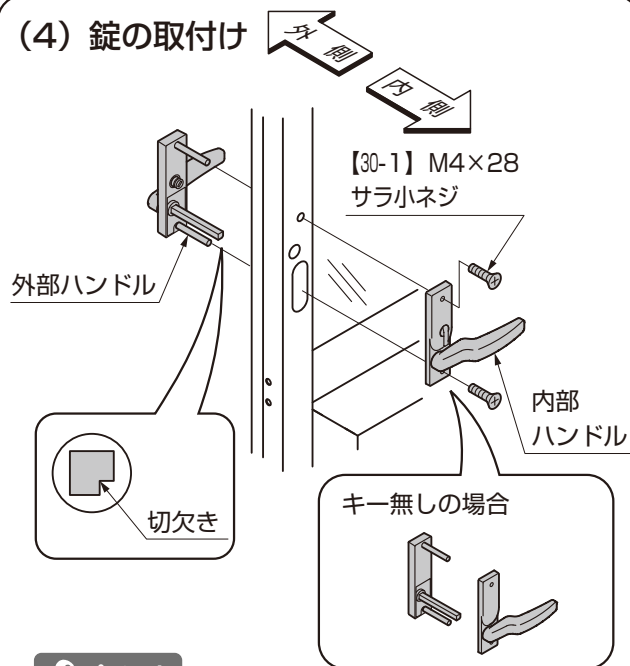
ポイント

●吊元框カバーは切欠きがある方が下側です。





(4) 錠の取付け

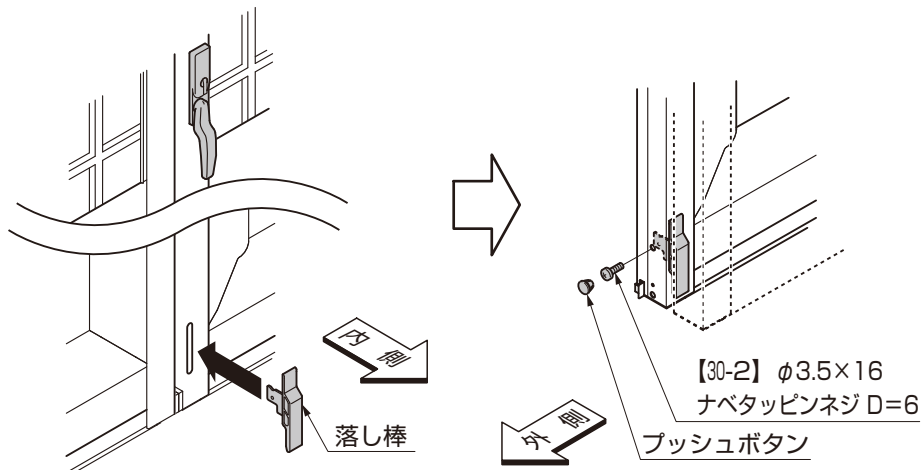


ポイント

- 錠のハンドルが横を向いている状態で取付けてください。
- 外部ハンドルの軸の切欠きと内部ハンドルの角穴の切欠きがあうように取付けてください。

①外部ハンドルと内部ハンドルを框の穴に差込み【30-1】で取付けてください。

(5) 落とし棒の取付け



ポイント

- 錠のハンドルが下を向いている状態で取付けてください。

- ①落とし棒を框の穴に差込んでください。
- ②パネルを折りたたんで、外側から【30-2】で取付けてください。
- ③ハンドルと落とし棒が連動するのを確認してからプッシュボタンを取付けてください。

1. (つづき)

1-6 上レールピース 共通の取付け

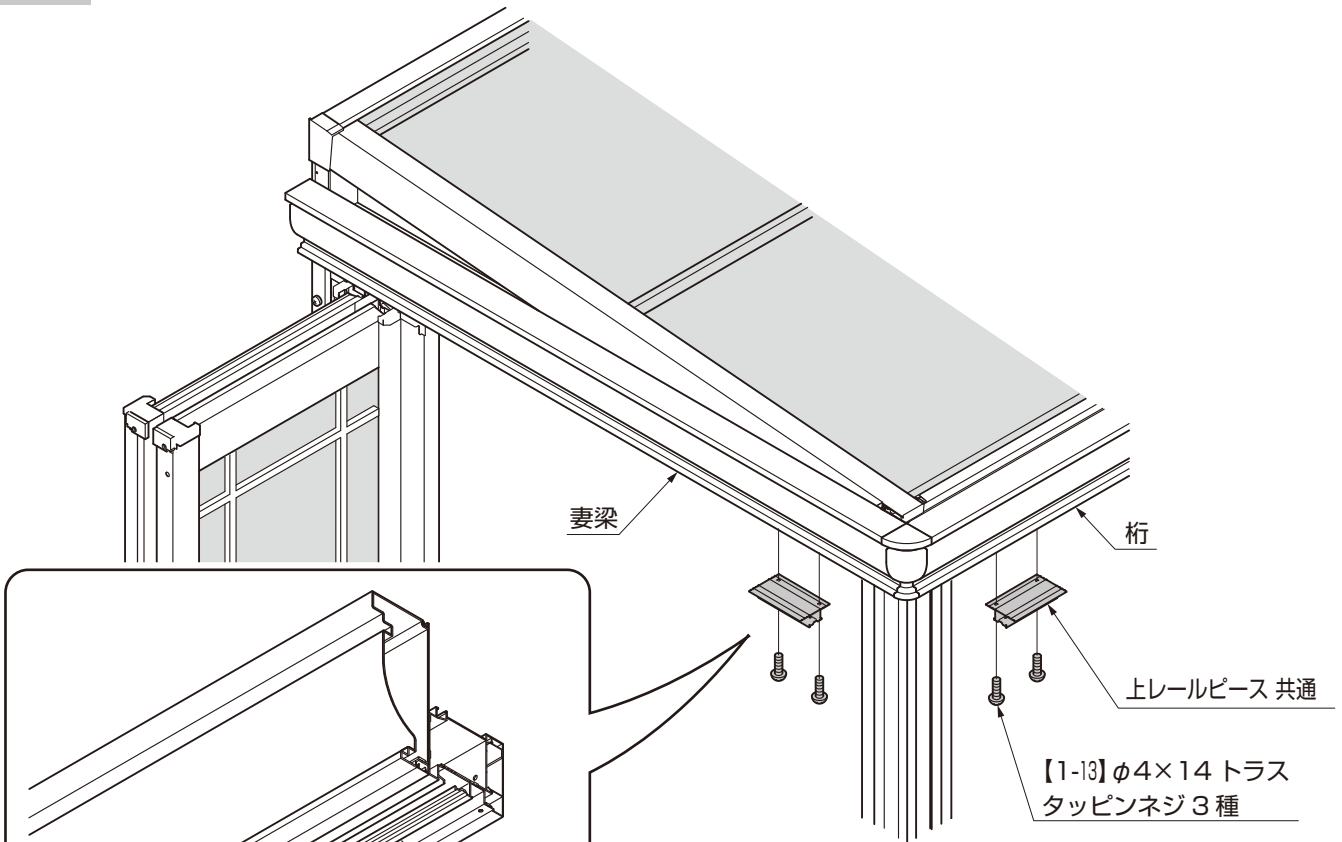


図 1-18

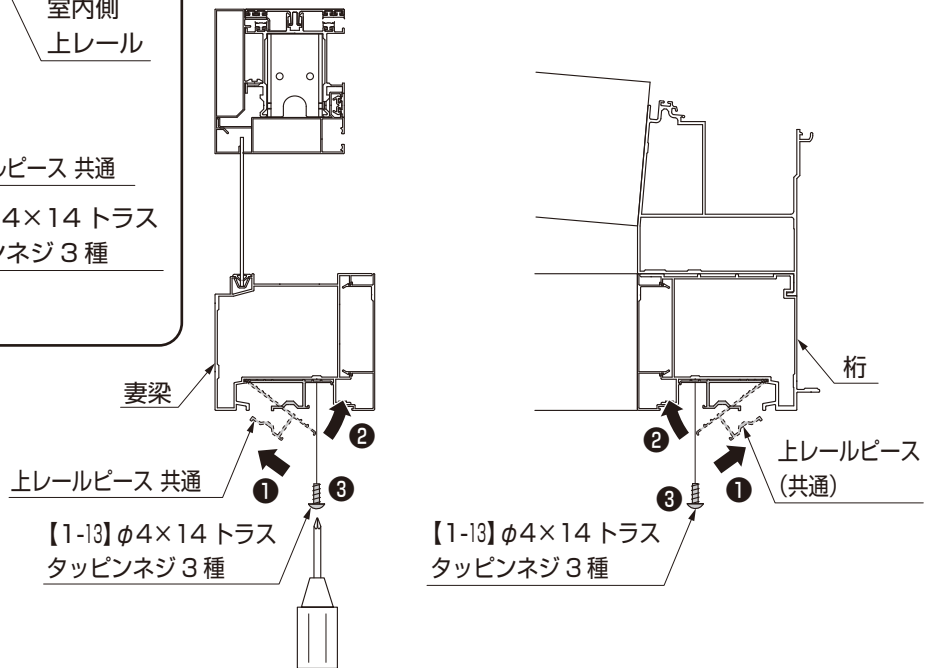


図 1-19 側面図(妻梁側)

図 1-20 正面図(桁側)

①上レールピース 共通を桁、妻梁に【1-13】で手廻しドライバーを使用して取付けてください。

ポイント

●上レールピースは左右の室内側上レールと段差が無い様に確認して固定してください。

1-7 上レール水切りの取付け

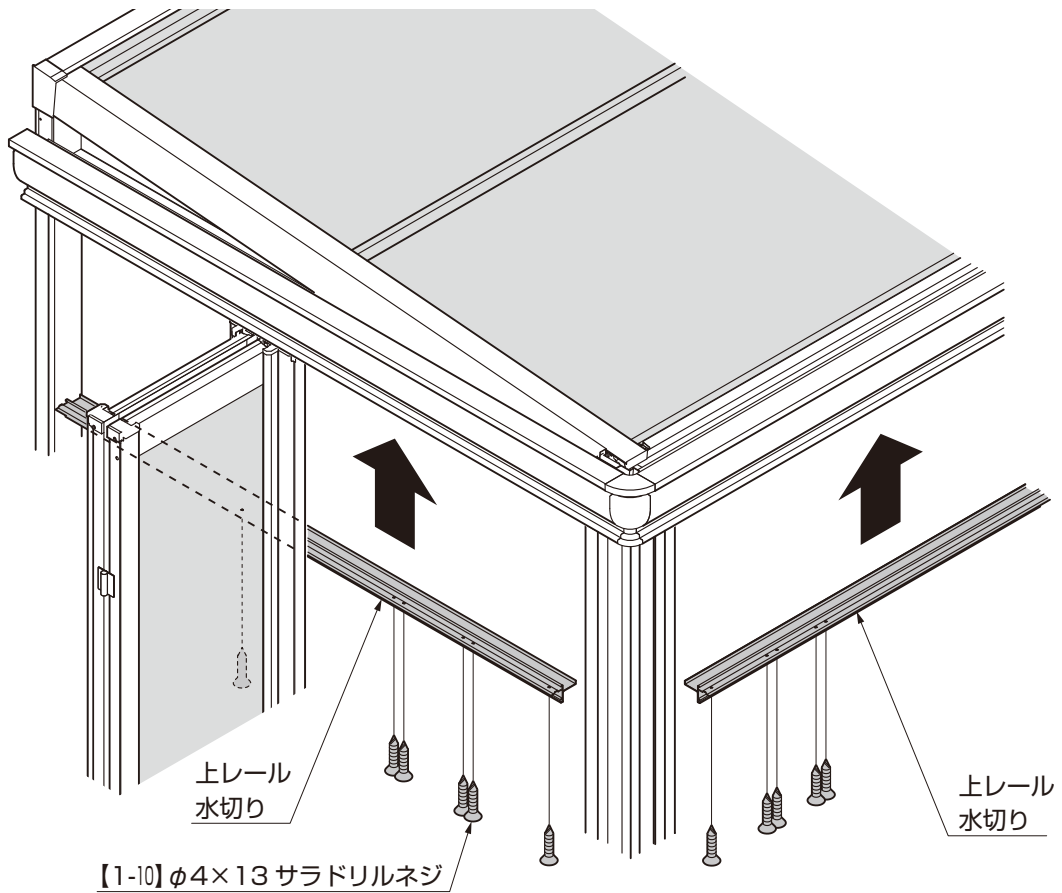


図 1-21

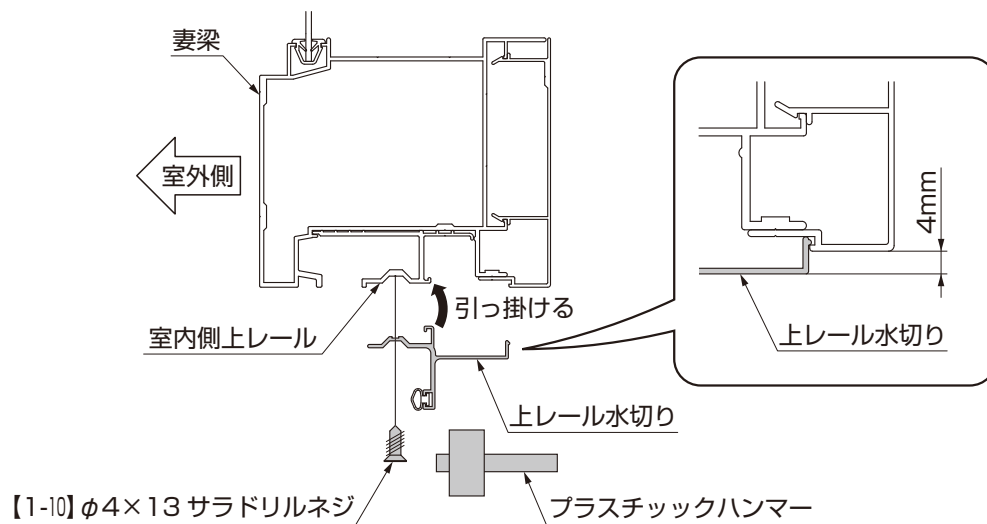


図 1-22

①上レール水切りを室内側上レールの下穴に合わせて【1-10】で取付けてください。

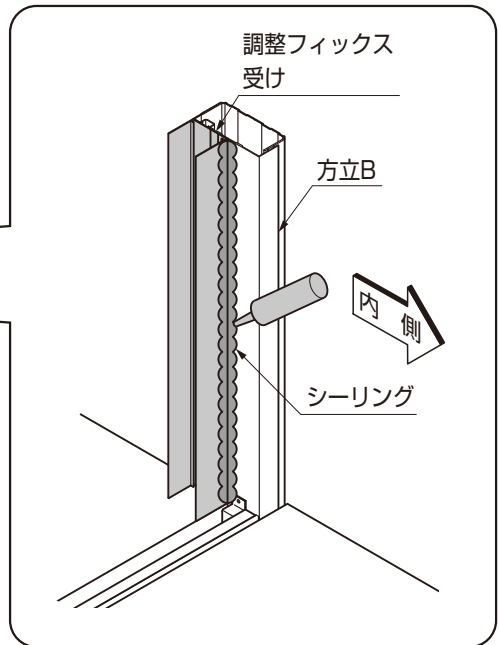
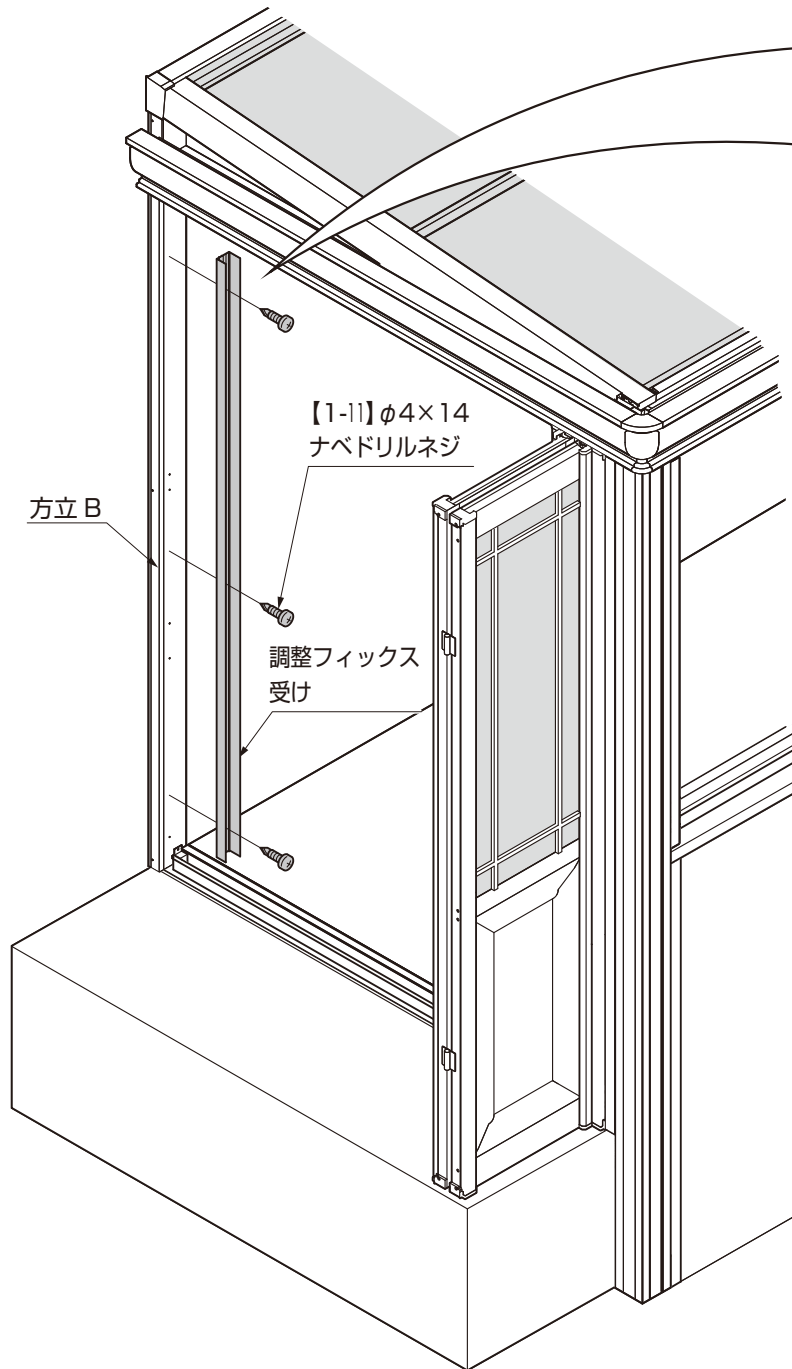
ポイント

- 上レール水切りが入りづらい場合はプラスチックハンマーでたたき込んでください。
- 妻梁下～上レール水切り下が4mmになる事を確認してください。この寸法が出ていない場合、パネルの開閉に支障をきたす場合があります。

2. フィックスパネルの建込み

2-1 調整フィックス受けの取付け

(1) 側面側 折戸パネル施工の場合



- ①調整フィックス受けを方立Bに【1-11】で取付けてください。
- ②内側の調整フィックス受けと方立Bのすき間にシーリングしてください。

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のためシーリングをしてください。

(2) 側面側 腰壁施工の場合

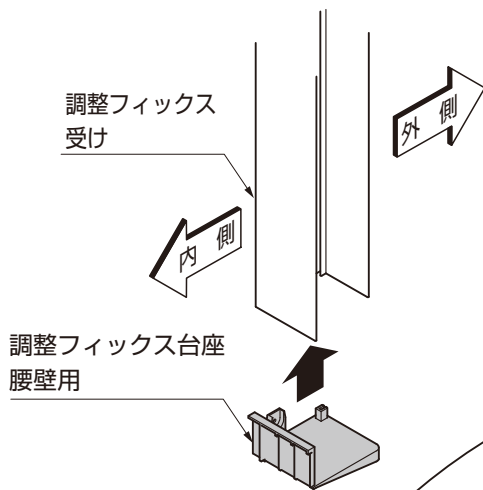


図2-1

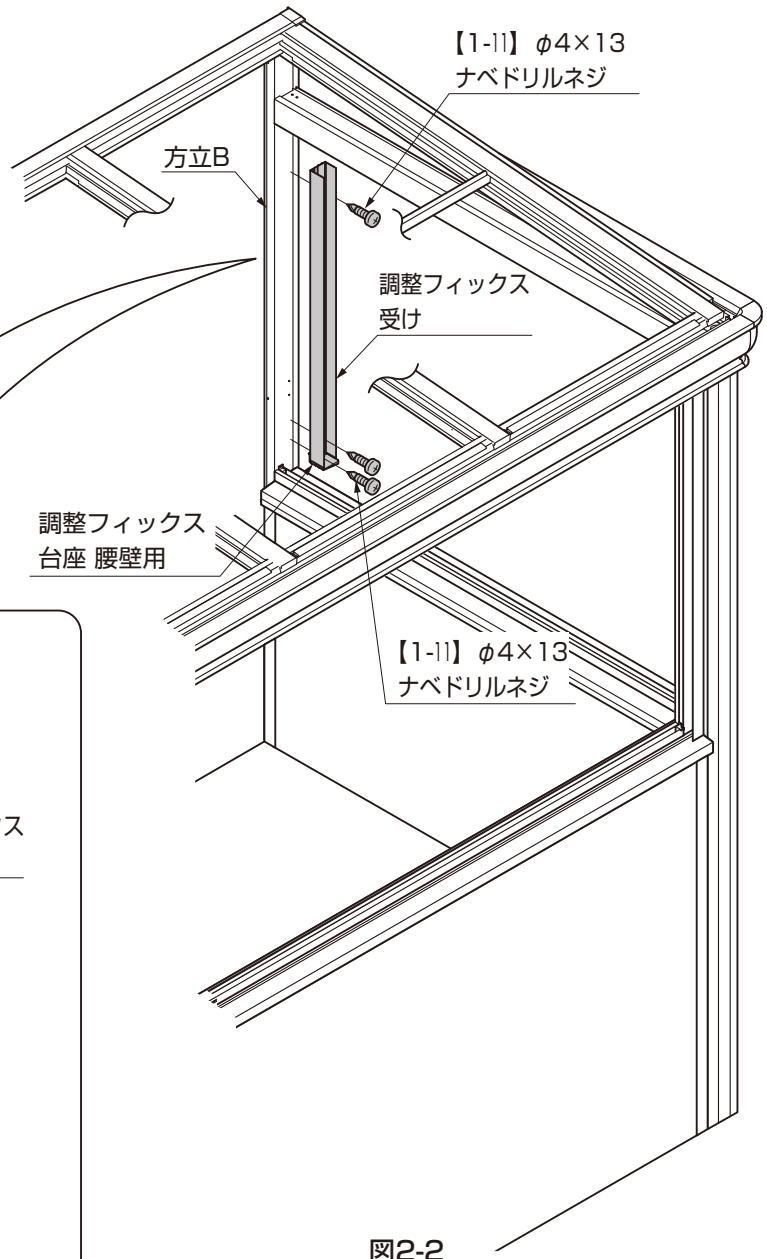


図2-2

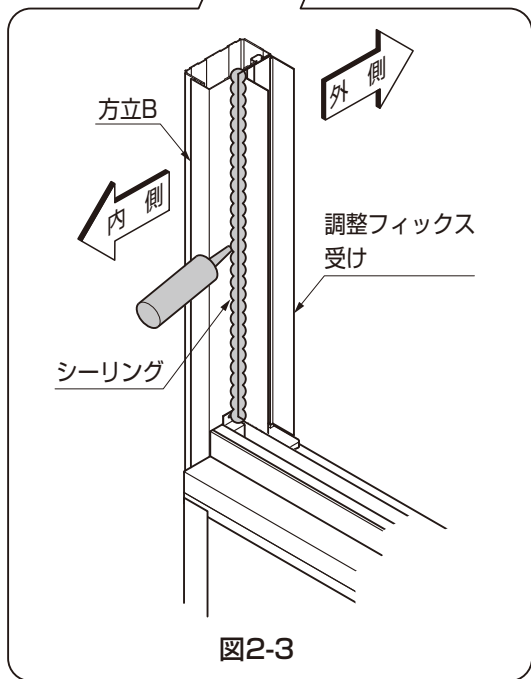


図2-3

- ①調整フィックス台座 腰壁用を調整フィックス受けにはめてください。(図2-1参照)
- ②調整フィックス受けを方立Bに【1-11】で取付けてください。(図2-2参照)
- ③調整フィックス台座 腰壁用を調整フィックス受けと方立Bに【1-11】で固定してください。(図2-2参照)
- ④内側の調整フィックス受けと方立Bのすき間をシーリングしてください。(図2-3参照)

🔑ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のためシーリングをしてください。

2. (つづき)

2-2 調整フィックスパネルの組立て

※本図は外観左の調整フィックスパネルを示します。外観右の調整フィックスパネルはフィックス上下カバーキャップ1とフィックス上下カバーキャップ2を逆に取付けます。

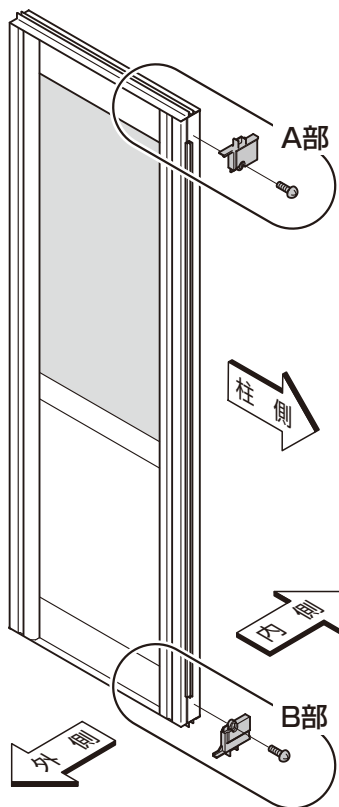


図 2-4 基本

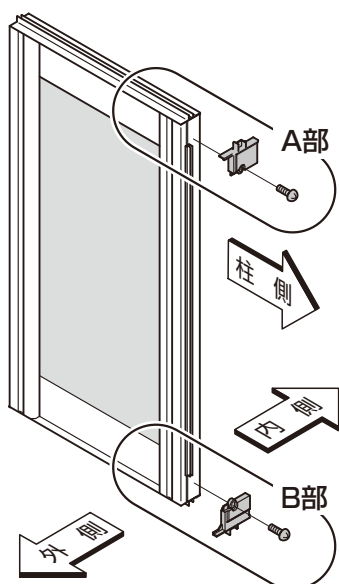


図 2-5 腰壁

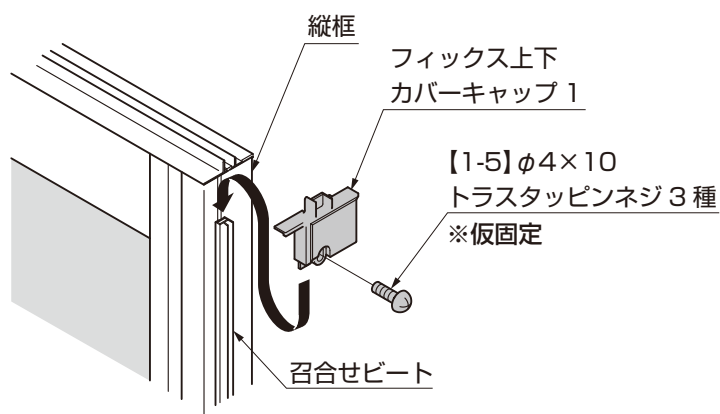


図 2-6 A部詳細図

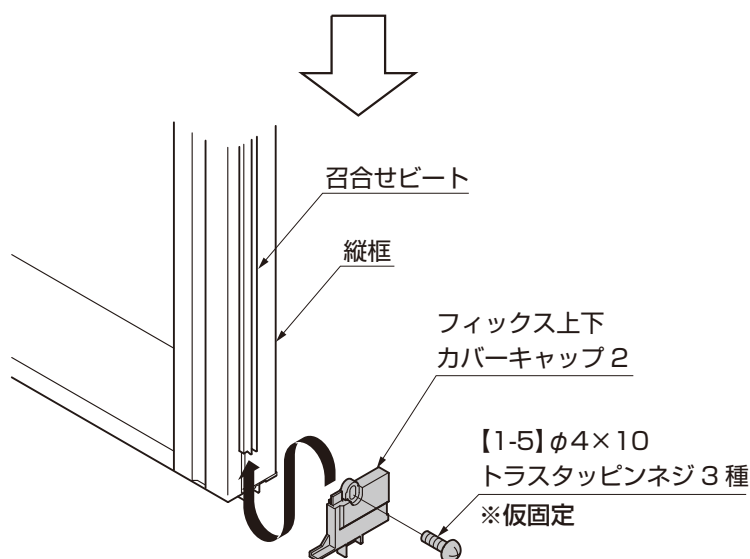


図 2-7 B部詳細図

- ①カバーキャップ1を召合せビートにはめ込み、調整フィックスパネル用の縦框上側(柱側)に【1-5】で仮固定してください。
- ②カバーキャップ2を召合せビートにはめ込み、調整フィックスパネル用の縦框下側(柱側)に【1-5】で仮固定してください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2. (つづき)

2-3 フィックスパネルの吊り込み

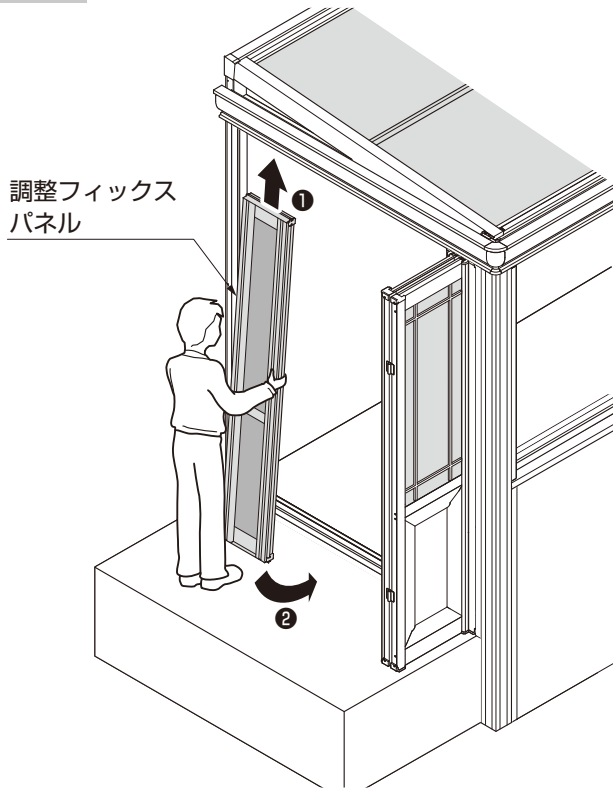


図2-8 調整フィックスパネル 基本

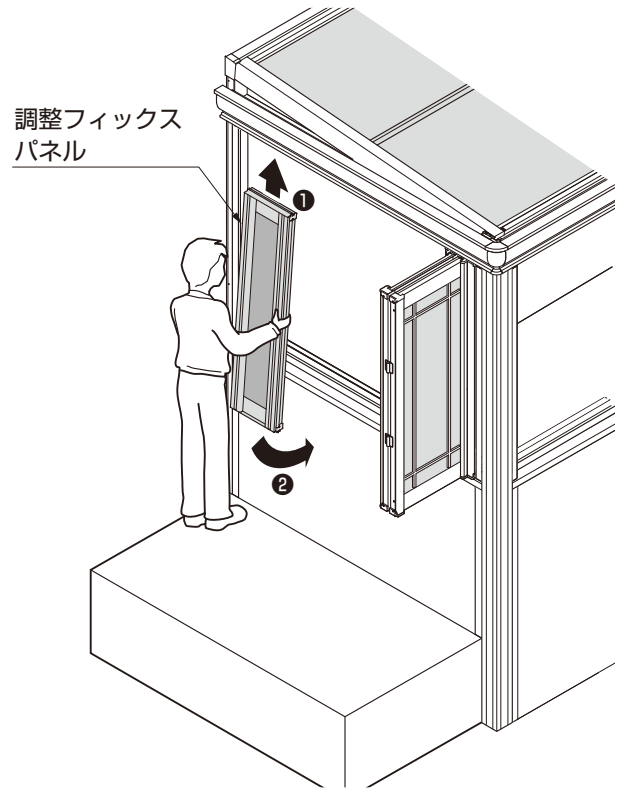
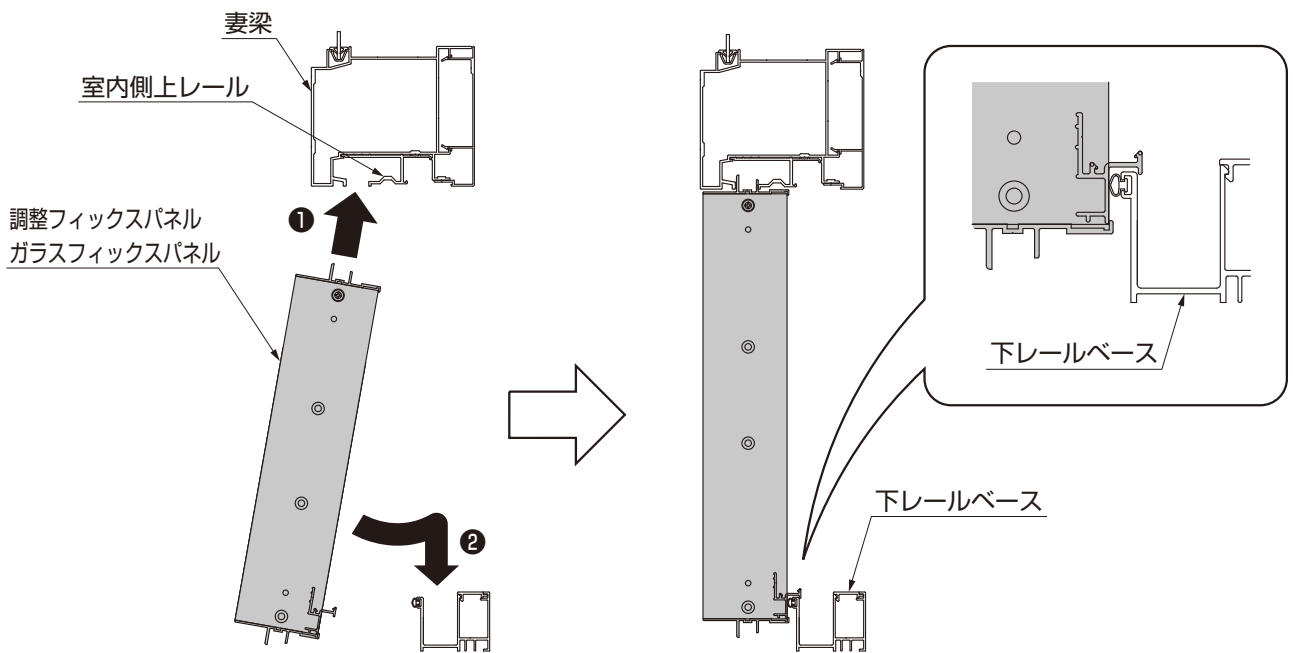
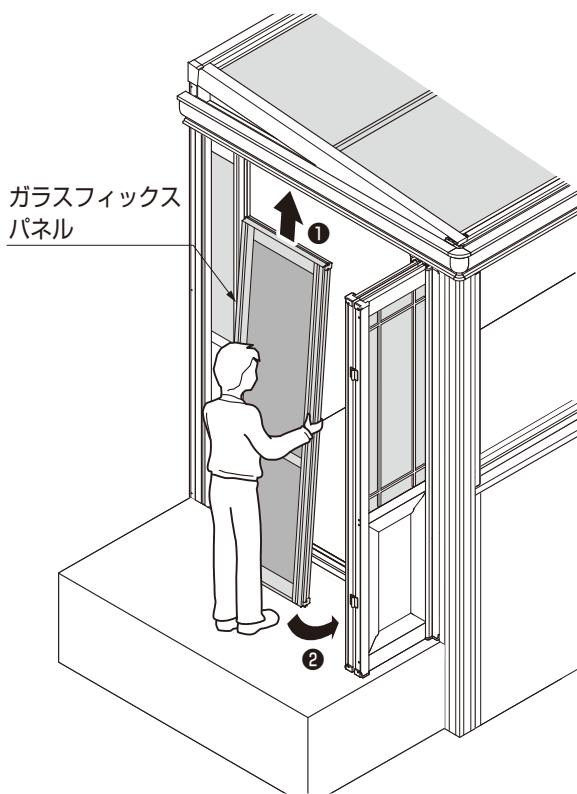


図2-9 調整フィックスパネル 腰壁

(1) フィックスパネルの吊り込み

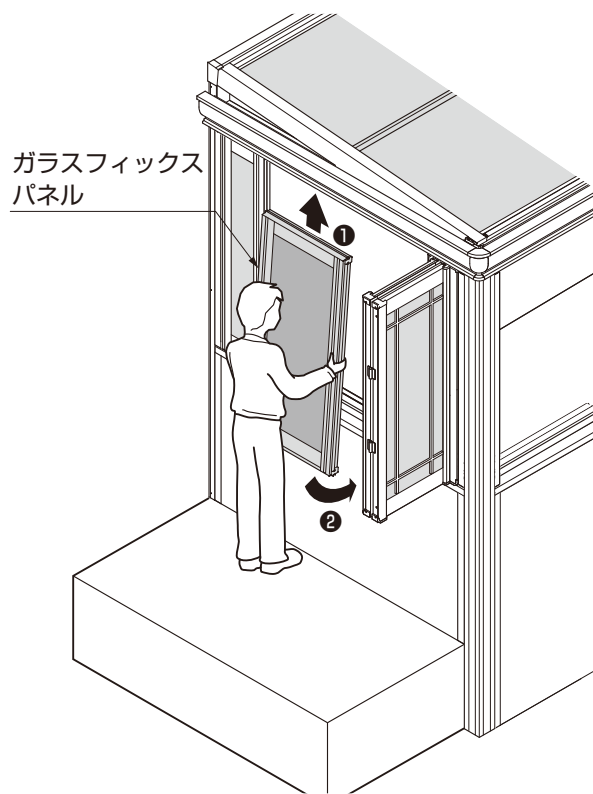


①調整フィックスパネル(またはガラスフィックスパネル)をけんどんではめ込んでください。



ガラスフィックス
パネル

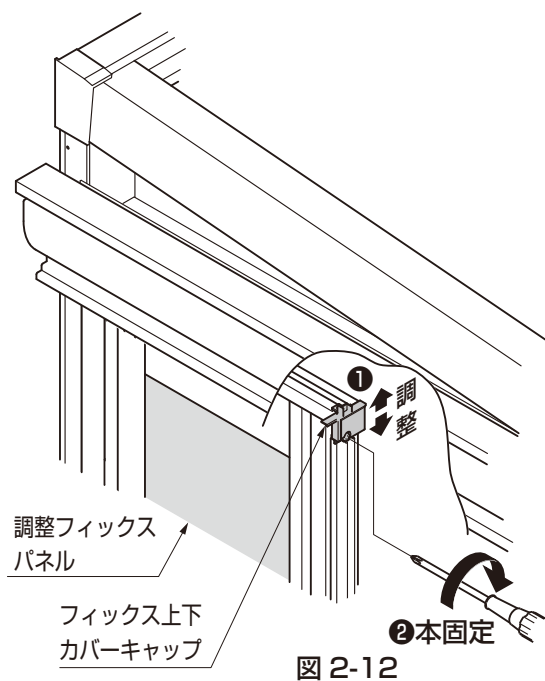
図2-10 ガラスフィックスパネル 基本



ガラスフィックス
パネル

図2-11 ガラスフィックスパネル 腰壁

(2) フィックス上下カバーキャップの固定



調整フィックス
パネル

フィックス上下
カバーキャップ

②本固定

図 2-12

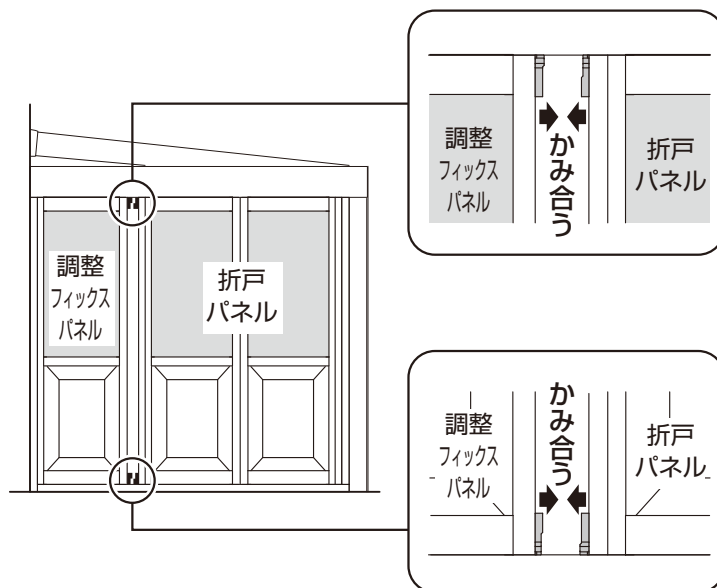


図 2-13

①フィックス上下カバーキャップ1、2と折戸パネル上下のパネルスペーサー大1、2がきちんとかみ合う位置で【1-5】を本固定してください。(図2-12、図2-13参照)

3. パネルの位置決め

3-1 縦枠の組付け

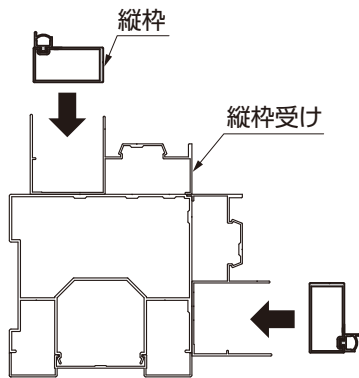


図 3-2

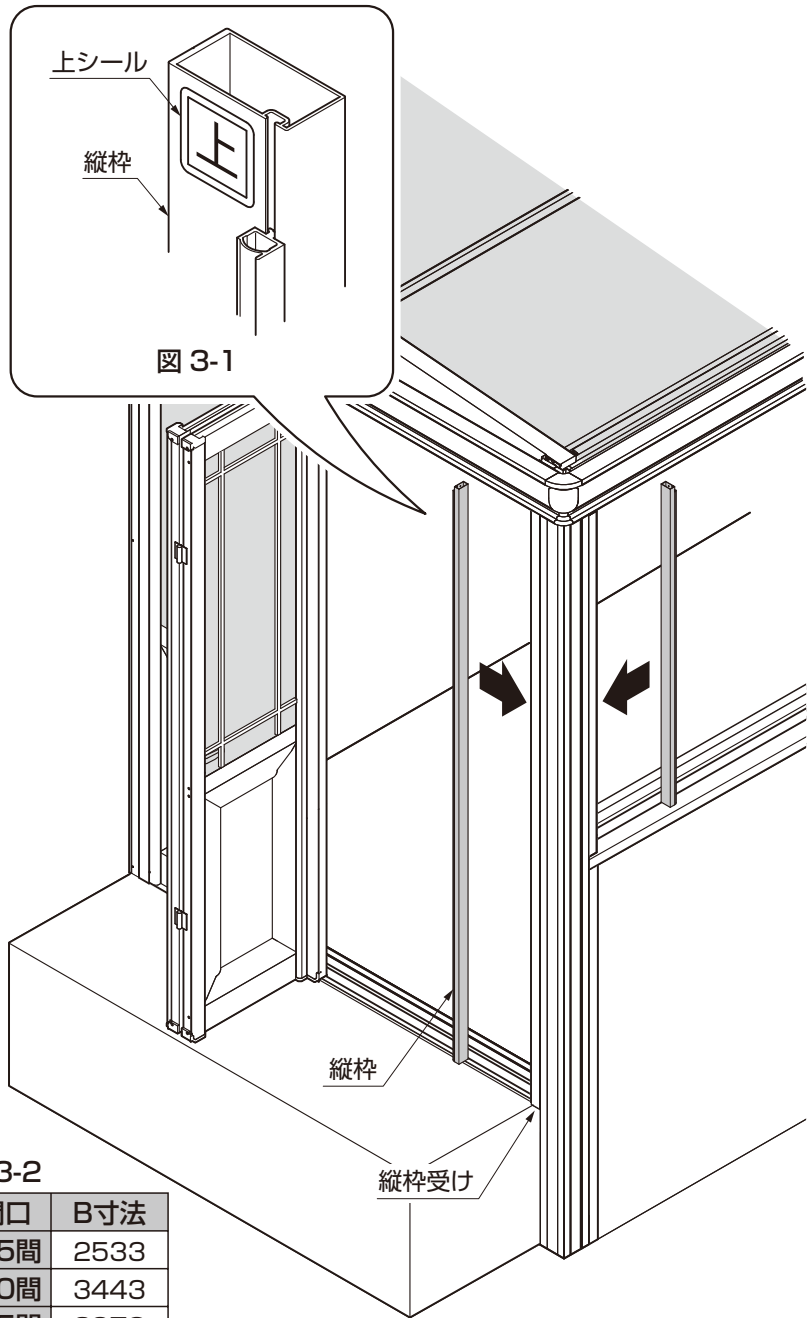


図 3-1

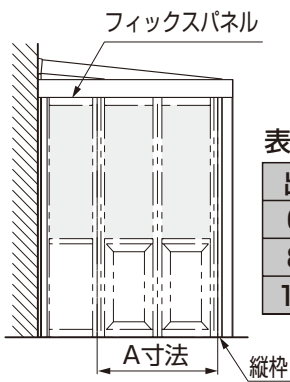


図 3-3 側面側

表 3-1

出幅	A寸法
6尺	1274
8尺	2079
10尺	2533

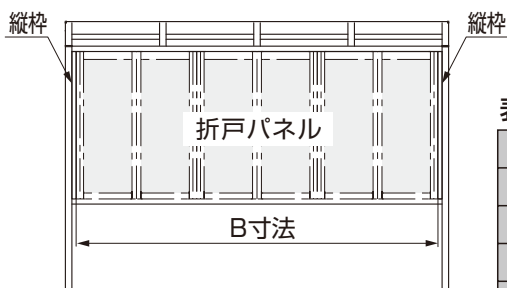


図 3-4 正面側

表 3-2

間口	B寸法
1.5間	2533
2.0間	3443
2.5間	2078
3.0間	2533

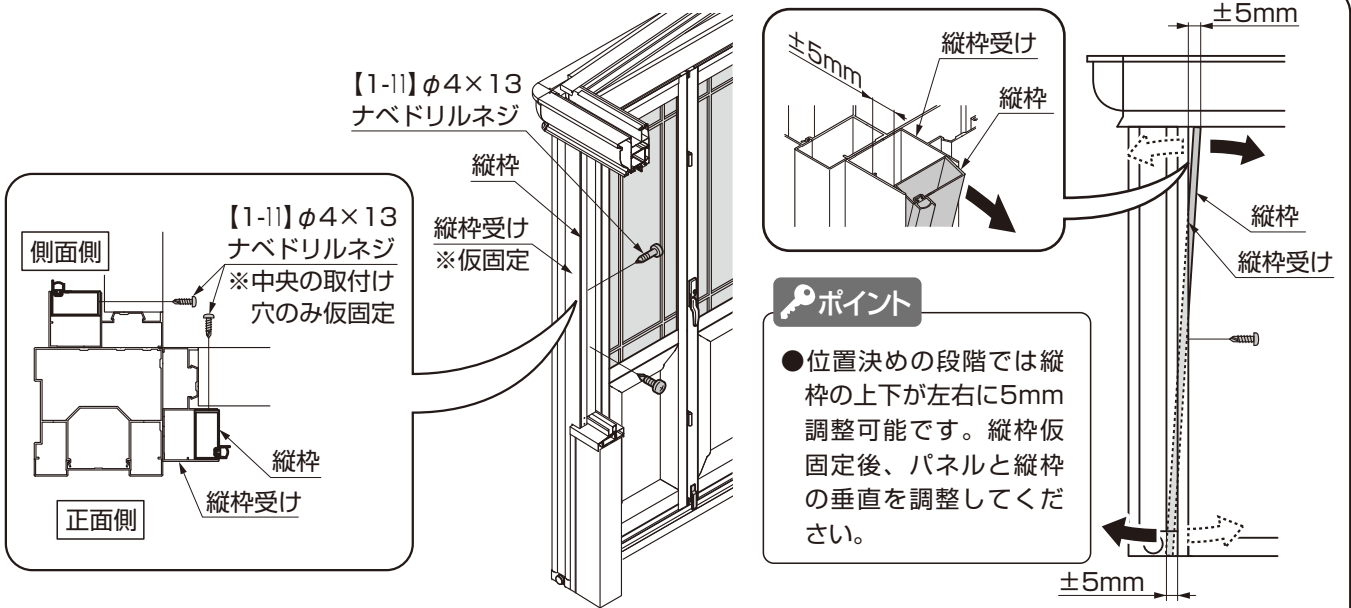
ポイント

- 縦枠には上下があります。「上」シールが貼ってある方を上にして取付けてください。(図3-1参照)
- 図3-2を参照して向きを確認して縦枠を取付けてください。

- ①縦枠を縦枠受けに組付けてください。
- ②側面側は縦枠とフィックスパネル間がA寸法であることを確認してください。(図3-3、表3-1参照)
- ③正面側は縦枠と縦枠間がB寸法であることを確認してください。(図3-4、表3-2参照)

ポイント

- A・B寸法でない場合は縦枠を縦枠受けに、フィックスパネルを調整フィックスパネル受けに押込むなどしてA・B寸法にしてください。



④縦枠受け 中央の取付け穴(長穴部)のみネジ止めし、縦枠を仮固定してください。

3-2 縦枠スペーサーの取付け

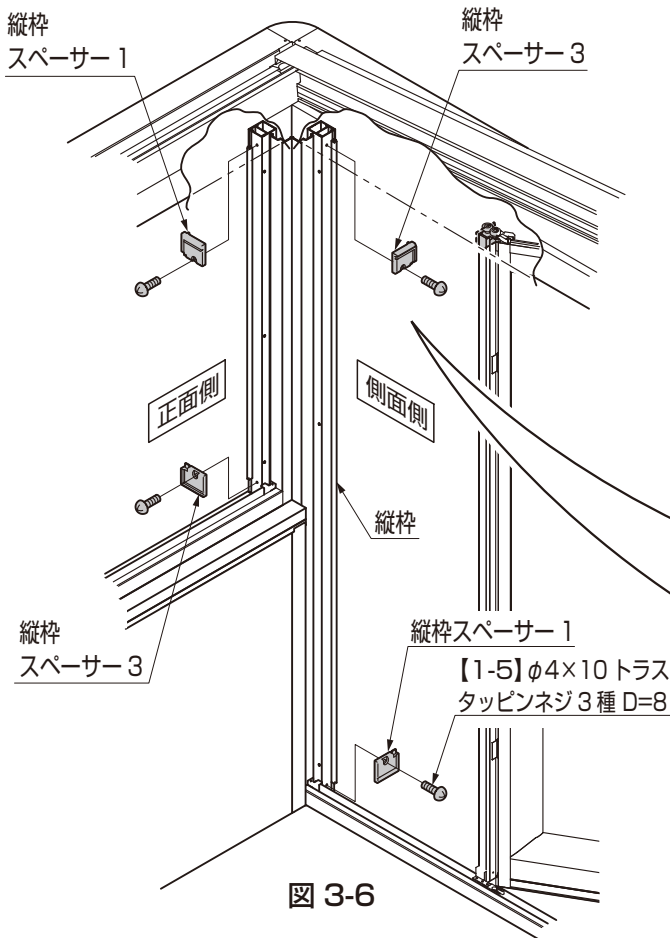


図 3-6

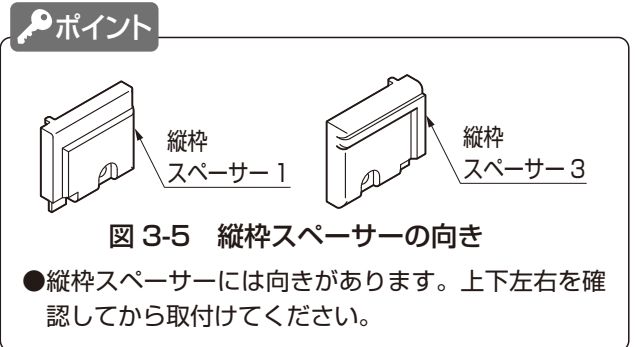
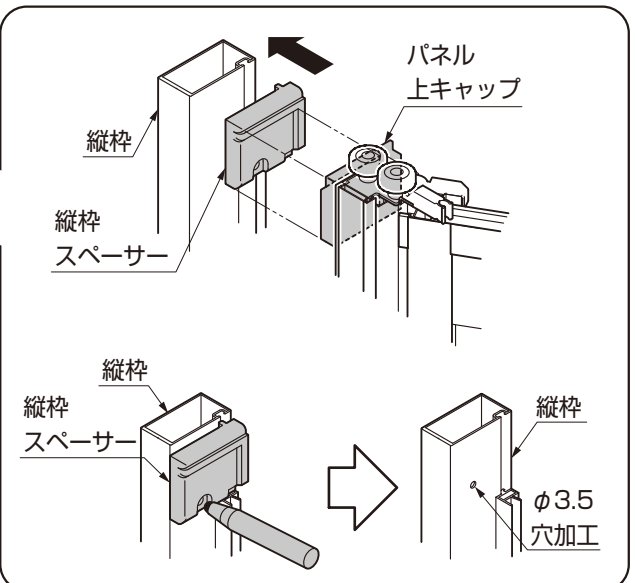


図 3-5 縦枠スペーサーの向き



- ①縦枠スペーサーを縦枠にあてがい、写し穴位置をけがいてください。
- ②縦枠にφ3.5の穴をあけてください。
- ③縦枠の上下に【1-5】で縦枠スペーサーを取付けてください。

3. (つづき)

3-3 縦枠、フィックスパネルの固定

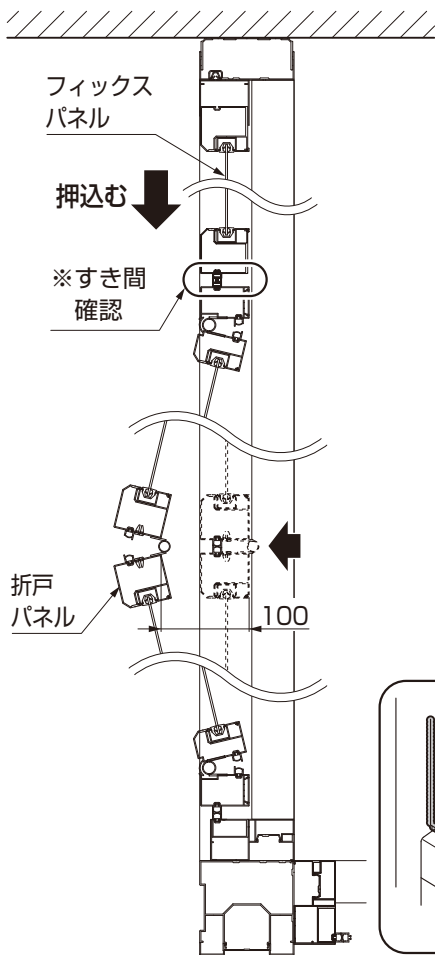


図3-7 すき間確認

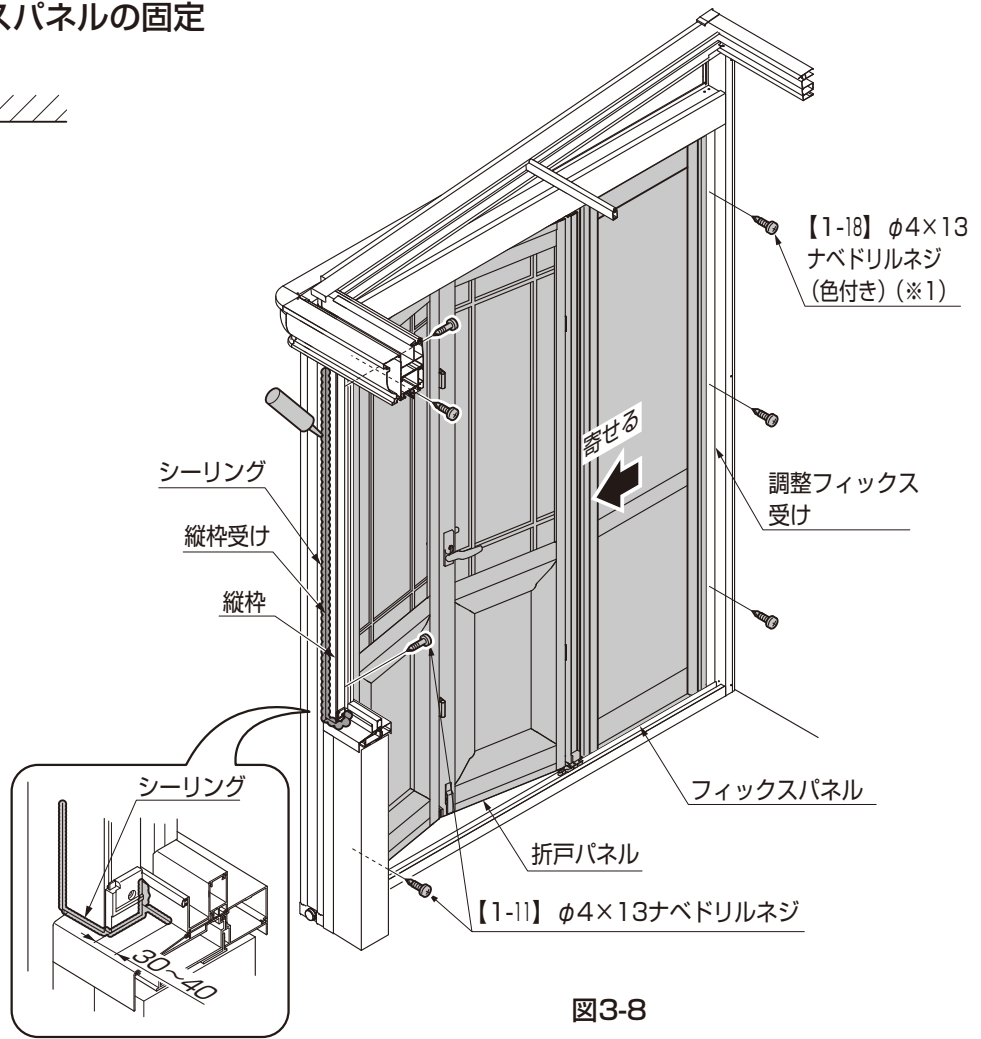


図3-8

- ① 折戸パネルを外側に100mm折りたたんでください。(図3-7参照)
- ② フィックスパネルと折戸パネルの間にすき間がないことを確認してください。(図3-7参照)

ポイント

- すき間がある場合は、フィックスパネルを柱側に寄せて、すき間をなくしてください。(図3-8参照)
- 縦枠スペーサーとパネル下キャップの高さが合うように縦枠の高さを調整してください。(図3-10参照)

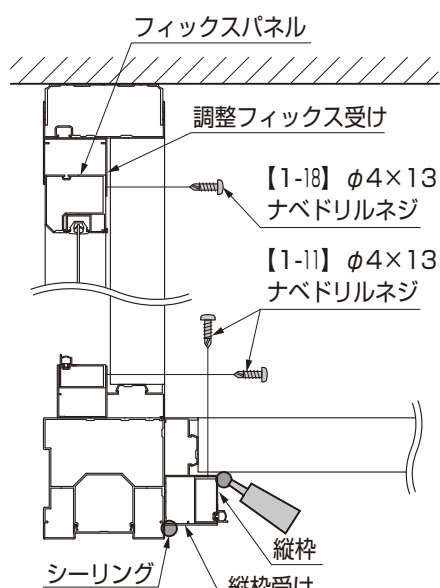


図3-9

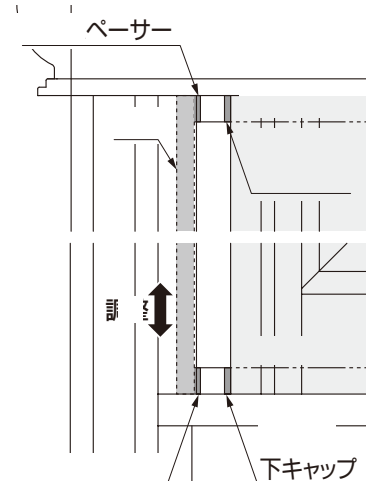
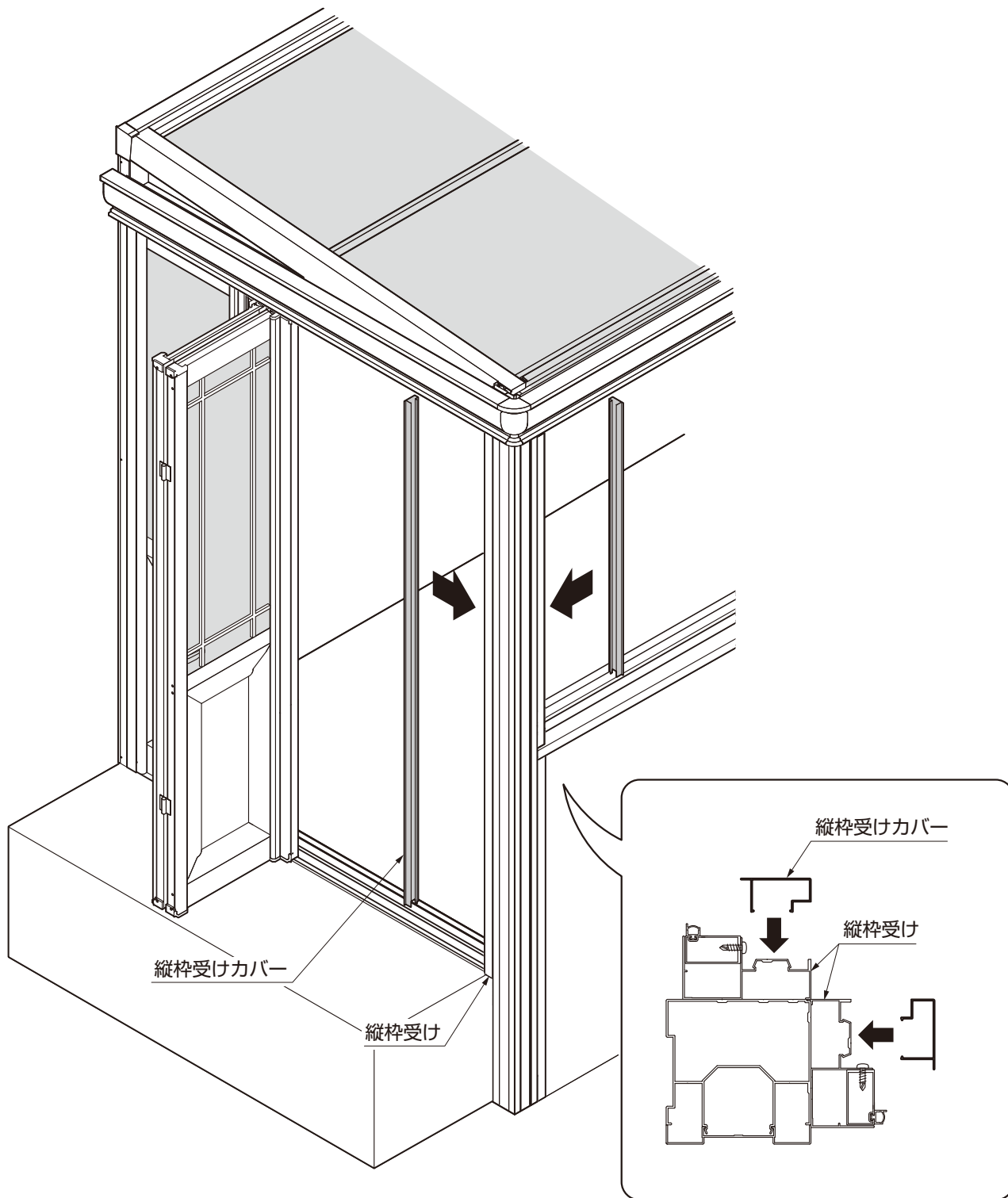


図3-10 縦枠の高さ調整

ポイント

- 本体色によって【1-18】のネジ色が異なるので注意してください。シャイングレーは生地色、アイボリーホワイトは白色、マイルドブラックは黒色のネジを使用してください。(※1)

3-4 縦枠受けカバーの取付け



① 縦枠受けカバーを縦枠受けに取付けてください。

3. (つづき)

3-5 下棧カバーの取付け

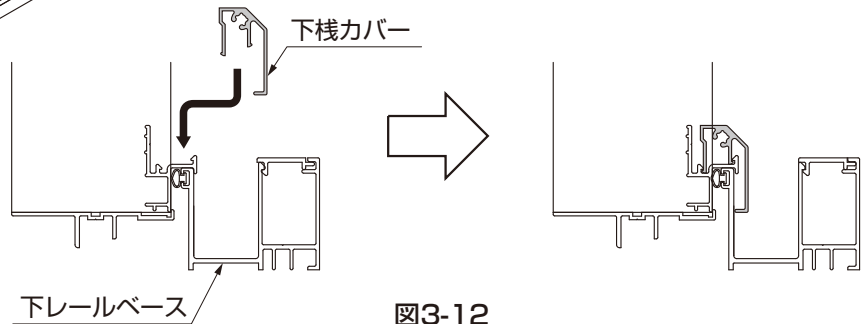
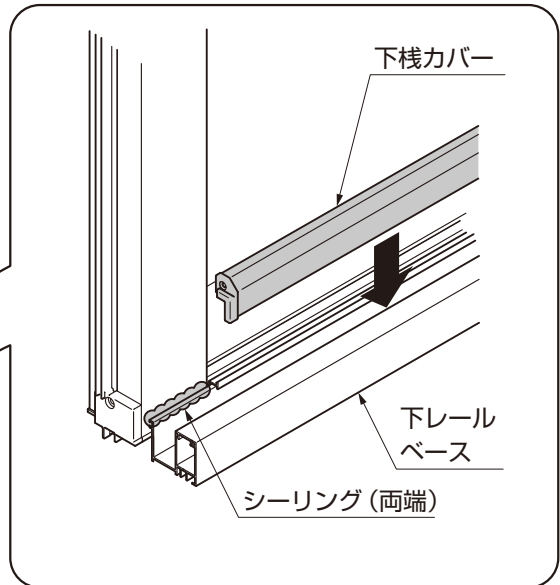
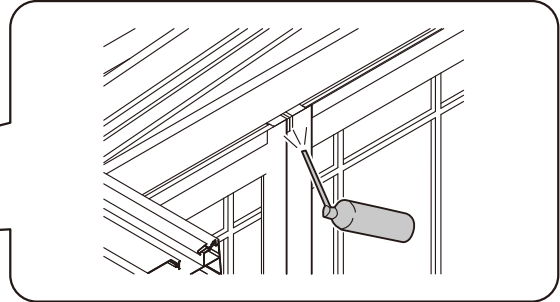
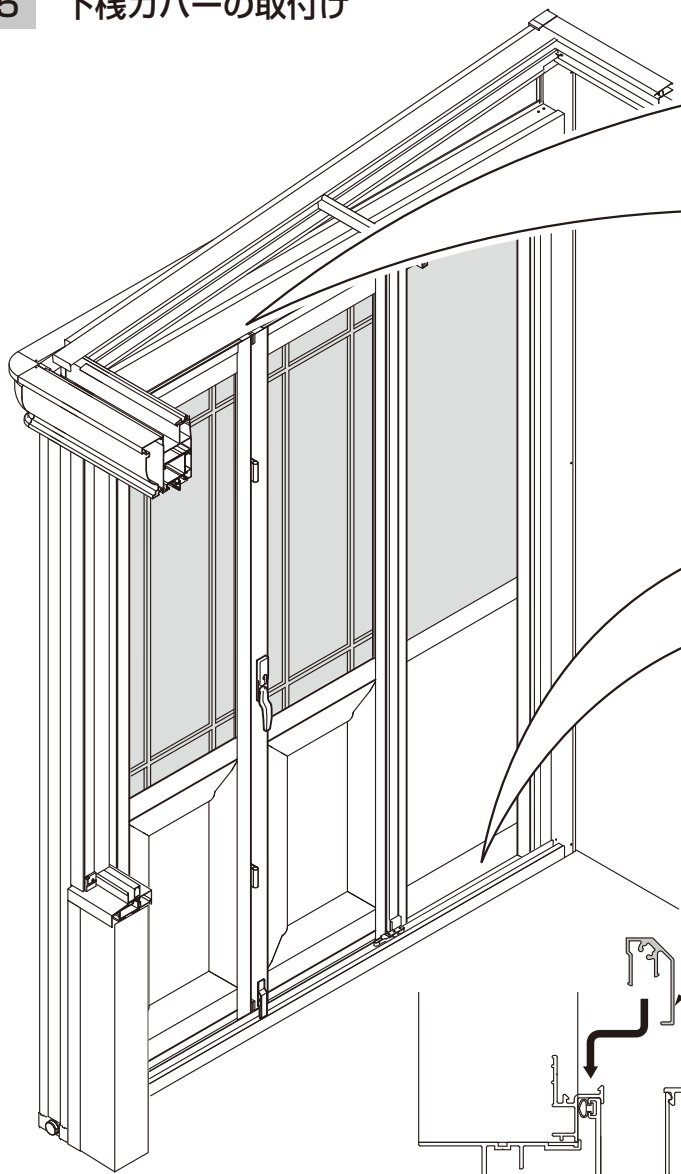


図3-12

- ①下棧カバーを下レールベースにパチッと音がするまではめ込んでください。(調整フィックス、ガラスフィックスの場合)
- ②下レールベースと調整フィックス縦枠のすき間をシーリングしてください。(調整フィックスのみ)

ポイント

- 指定の箇所には必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

補足

- 雪下ろし指示シールはお客様の了承を得て、見やすい場所に貼ってください。
- 図の位置にある落とし棒上部品にシリコンプレーを吹きつけてください。